

四街道市鳴越遺跡(2)

旧石器時代～弥生時代編

— 物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書XX —

平成28年3月

独立行政法人 都市再生機構

公益財団法人 千葉県教育振興財団

よつ かい どう し しま こし い せき
四街道市嶋越遺跡(2)

旧石器時代～弥生時代編

— 物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書XX —



序 文

公益財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第749集として、独立行政法人都市再生機構の物井地区土地区画整理事業に伴って実施した四街道市嶋越遺跡の2冊目の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、縄文時代後期～晩期にかけての多量の土器が発見されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

この報告書が、学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願ってやみません。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成28年3月

公益財団法人 千葉県教育振興財団
理 事 長 堀 田 弘 文

凡 例

- 1 本書は、独立行政法人都市再生機構による物井地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県四街道市物井字嶋越 464 ほかにある嶋越遺跡（遺跡コード 228 - 023）である。
- 3 発掘調査から報告書刊行に至る業務は、独立行政法人都市再生機構の委託を受け、公益財団法人千葉県教育振興財団が実施した。
- 4 発掘調査および整理作業の組織、担当者及び実施期間は、第 1 章に記載した。
- 5 本書の執筆は上席文化財主事 池田大助が第 1 章、第 3 章 第 1 節・第 2 節を、上席文化財主事（平成 26 年度）宮 重行が第 2 章、第 3 章 第 3 節・第 4 節、第 5 章（2）（3）と行った。編集は池田が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、四街道市教育委員会、独立行政法人都市再生機構の御協力・御指導を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
第 1 図 国土地理院発行「佐倉」1/25,000 (NI-54-19-9-2)
- 8 本書で使用した航空写真は京葉測量株式会社による昭和 44 年撮影のものを使用した。
- 9 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北であり、日本測地系に基づいている。

本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査の概要	1
1 調査の経緯	1
2 調査の方法	8
第2節 遺跡の位置と周辺の遺跡	8
第3節 遺跡の概要	10
第2章 旧石器時代	20
第1節 概要	20
第2節 遺物	20
第3章 縄文時代	26
第1節 竪穴住居跡	26
第2節 その他の遺構と遺物	26
第3節 縄文土器	29
第4節 土偶及び土製品	135
1 土偶	135
2 土版	137
3 土製品	149
第5節 縄文時代の石器	163
第4章 弥生時代	190
第1節 竪穴住居跡	190
第2節 その他の遺構と遺物	190
第3節 遺構外出土遺物	192
第5章 まとめ	194
第1節 縄文時代	194
第2節 弥生時代	197

報告書抄録

挿図目次

第1図 遺跡の位置と周辺の地形	3	第4図 嶋越遺跡グリッド・トレンチ配置図	6
第2図 物井地区遺跡分布図	4	第5図 周辺の遺跡分布図	7
第3図 嶋越遺跡年度別調査区域図	5	第6図 遺構検出状況部分図（遺跡北半部）	11

第7図	遺構検出状況部分図(遺跡南半部)……12	第42図	縄文土器(24)……60
第8図	縄文土器(大洞系)出土状況図……13	第43図	縄文土器(25)……61
第9図	ミニチュア土器、特殊土器、 耳飾り出土状況図……14	第44図	縄文土器(26)……62
第10図	土偶出土状況図……15	第45図	縄文土器(27)……63
第11図	土器片錘、土製門板 出土状況図……16	第46図	縄文土器(28)……64
第12図	遺物集中区土層……17	第47図	縄文土器(29)……65
第13図	下層確認調査区・出土石器……20	第48図	縄文土器(30)……66
第14図	旧石器時代石器(1)……22	第49図	縄文土器(31)……67
第15図	旧石器時代石器(2)……23	第50図	縄文土器(32)……68
第16図	旧石器時代石器(3)……24	第51図	縄文土器(33)……69
第17図	SI-026・出土遺物(1)……27	第52図	縄文土器(34)……70
第18図	SI-026出土遺物(2)……28	第53図	縄文土器(35)……72
第19図	縄文土器(1)……30	第54図	縄文土器(36)……73
第20図	縄文土器(2)……31	第55図	縄文土器(37)……75
第21図	縄文土器(3)……32	第56図	縄文土器(38)……76
第22図	縄文土器(4)……33	第57図	縄文土器(39)……77
第23図	縄文土器(5)……35	第58図	縄文土器(40)……78
第24図	縄文土器(6)……36	第59図	縄文土器(41)……79
第25図	縄文土器(7)……37	第60図	縄文土器(42)……80
第26図	縄文土器(8)……39	第61図	縄文土器(43)……81
第27図	縄文土器(9)……40	第62図	縄文土器(44)……82
第28図	縄文土器(10)……41	第63図	縄文土器(45)……84
第29図	縄文土器(11)……42	第64図	縄文土器(46)……85
第30図	縄文土器(12)……44	第65図	縄文土器(47)……86
第31図	縄文土器(13)……46	第66図	縄文土器(48)……87
第32図	縄文土器(14)……47	第67図	縄文土器(49)……90
第33図	縄文土器(15)……48	第68図	縄文土器(50)……91
第34図	縄文土器(16)……49	第69図	縄文土器(51)……92
第35図	縄文土器(17)……50	第70図	縄文土器(52)……93
第36図	縄文土器(18)……51	第71図	縄文土器(53)……94
第37図	縄文土器(19)……55	第72図	縄文土器(54)……95
第38図	縄文土器(20)……56	第73図	縄文土器(55)……96
第39図	縄文土器(21)……57	第74図	縄文土器(56)……97
第40図	縄文土器(22)……58	第75図	縄文土器(57)……98
第41図	縄文土器(23)……59	第76図	縄文土器(58)……99
		第77図	縄文土器(59)……100
		第78図	縄文土器(60)……101

第79図	ミニチュア土器 (1) ……………	103	第102図	土製円板 (2) ……………	157
第80図	ミニチュア土器 (2) ……………	104	第103図	縄文時代石器 (1) 石鏃……………	165
第81図	ミニチュア土器 (3) ……………	105	第104図	縄文時代石器 (2) 石匙、搔器、尖頭状石器、剥片類……	166
第82図	ミニチュア土器 (4) ……………	106	第105図	縄文時代石器 (3) 石核、楔形石器……………	167
第83図	特殊土器 (1) ……………	108	第106図	縄文時代石器 (4) 石斧……………	169
第84図	特殊土器 (2) ……………	109	第107図	縄文時代石器 (5) 石斧……………	170
第85図	特殊土器 (3) ……………	110	第108図	縄文時代石器 (6) 石斧……………	171
第86図	土偶 (1) ……………	138	第109図	縄文時代石器 (7) 磨石類……………	176
第87図	土偶 (2) ……………	139	第110図	縄文時代石器 (8) 磨石類……………	177
第88図	土偶 (3) ……………	140	第111図	縄文時代石器 (9) 磨石類……………	178
第89図	土偶 (4) ……………	141	第112図	縄文時代石器 (10) 磨石類……………	179
第90図	土偶 (5) ……………	142	第113図	縄文時代石器 (11) 磨石類……………	180
第91図	土偶 (6) ……………	143	第114図	縄文時代石器 (12) 砥石……………	181
第92図	土偶 (7) ……………	144	第115図	縄文時代石器 (13) 砥石……………	182
第93図	土偶 (8) ……………	145	第116図	縄文時代石器 (14) 石皿……………	183
第94図	土偶 (9) 土版……………	146	第117図	縄文時代石器 (15) 石皿、台石……………	184
第95図	耳飾り (1) ……………	150	第118図	縄文時代石器石製品 (1) 独鈷石、石棒、玉、石鏢……………	185
第96図	耳飾り (2) ……………	151	第119図	縄文時代石器石製品 (2) 板状石製品、浮子、軽石……………	186
第97図	耳飾り (3) 耳栓、スタンプ形 土製品……………	152	第120図	弥生時代SI-004・出土遺物、SI-005…	191
第98図	土器片鏢 (1) ……………	153	第121図	弥生時代遺構外出土遺物……………	193
第99図	土器片鏢 (2) ……………	154			
第100図	土器片鏢 (3) ……………	155			
第101図	土製円板 (1) ……………	156			

表目次

第1表	周辺の遺跡一覧……………	9	第10表	土器片鏢・土製円板観察表……………	159
第2表	旧石器時代石器観察表……………	25	第11表	縄文時代石器 (1) 石鏃類観察表……………	168
第3表	SI-026遺構内出土縄文土器観察表……………	25	第12表	縄文時代石器 (2) 石斧観察表……………	172
第4表	縄文土器観察表……………	111	第13表	縄文時代石器 (3) 磨石類観察表……………	187
第5表	ミニチュア土器観察表……………	133	第14表	縄文時代石器 (4) 砥石観察表……………	188
第6表	特殊土器観察表……………	134	第15表	縄文時代石器 (5) 石皿類観察表……………	188
第7表	土偶・土版観察表……………	147	第16表	縄文時代石器 (6) 石製品観察表……………	189
第8表	土製品・耳飾り観察表……………	158	第17表	弥生土器観察表……………	192
第9表	土器片鏢・土製円板平均値……………	158			

図版目次

- 図版1 遺跡周辺航空写真
図版2 調査区近景、調査状況
図版3 調査状況、出土石器
図版4 調査状況、SI-026
図版5 SI-004・005
図版6 旧石器時代石器
図版7 SI-026 出土遺物
図版8 縄文土器 (1)・(2)
図版9 縄文土器 (3)・(4)
図版10 縄文土器 (5)・(6)
図版11 縄文土器 (7)・(8)
図版12 縄文土器 (9)・(10)
図版13 縄文土器 (11)・(12)
図版14 縄文土器 (13)・(14)
図版15 縄文土器 (15)・(16)
図版16 縄文土器 (17)
図版17 縄文土器 (18)・(19)
図版18 縄文土器 (20)・(21)
図版19 縄文土器 (22)・(23)
図版20 縄文土器 (24)
図版21 縄文土器 (25)
図版22 縄文土器 (26)
図版23 縄文土器 (27)
図版24 縄文土器 (28)
図版25 縄文土器 (29)
図版26 縄文土器 (30)
図版27 縄文土器 (31)
図版28 縄文土器 (32)
図版29 縄文土器 (33)
図版30 縄文土器 (34)
図版31 縄文土器 (35)
図版32 縄文土器 (36)
図版33 縄文土器 (37)・(38)
図版34 縄文土器 (39)・(40)
図版35 縄文土器 (41)・(42)
図版36 縄文土器 (43)・(44)
図版37 縄文土器 (45)・(46)
図版38 縄文土器 (47)・(48)
図版39 ミニチュア土器
図版40 特殊土器
図版41 土偶 (1)
図版42 土偶 (2)
図版43 土偶 (3)
図版44 土偶 (4)
図版45 土偶 (5)
図版46 土偶 (6) 土版
図版47 耳飾り・耳栓・スタンプ形土製品
図版48 土器片錘 (1)
図版49 土器片錘 (2)
図版50 土器片錘 (3)
図版51 土製円板 (1)
図版52 土製円板 (2)
図版53 縄文時代石器 (1)
石鎌・石匙・搔器・尖頭状石器
図版54 縄文時代石器 (2)
石鎌未製品・剝片・石核・楔形石器
図版55 縄文時代石器 (3) 石斧・磨石類
図版56 縄文時代石器 (4) 磨石類
図版57 縄文時代石器 (5) 磨石類
図版58 縄文時代石器 (6) 砥石
図版59 縄文時代石器 (7) 石皿
図版60 縄文時代石器 (8) 石皿・台石
図版61 縄文時代石器 (9) 石製品
図版62 弥生時代SI-004、遺構外出土遺物

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 調査の経緯

物井地区（第2図）では千代田団地と物井駅との間 96ヘクタールという広大な開発が行われ、用地内に所在する 14 遺跡の発掘調査を昭和 59 年度より順次実施した。

これらの開発計画の概要および経緯については、当財団より刊行されている「物井地区埋蔵文化財調査報告書Ⅰ～ⅩⅦ」にそれぞれ詳細に記載されているのでそちらを参照されたい。

また嶋越遺跡に関しては、「嶋越遺跡（1）古墳時代以降編－物井地区埋蔵文化財報告書ⅩⅦ－」において報告されているが、本報告書作成に至るまでを簡単に記述する。

（発掘調査）

調査対象総面積 13,602㎡、上層確認調査面積 789㎡、上層の本調査面積は 7,560㎡、下層確認調査は 25㎡で下層本調査面積は 0㎡であった。

発掘調査は平成 20 年度から平成 22 年度にかけて 4 次にわたり実施（第3図）された。

平成 20 年度 調査区（1）

調査研究部長 大原正義

北部調査事務所 所長 豊田佳樹

調査期間 平成 21 年 2 月 16 日～平成 21 年 3 月 25 日

調査面積 （規模）1,652㎡（確認調査）上層 167㎡／1,652㎡（本調査）上層 260㎡

調査担当者 上席研究員 土屋調一郎

平成 21 年度 調査区（1）

調査研究部長 及川淳一

北部調査事務所 所長 野口行雄

調査期間 平成 21 年 4 月 6 日～平成 22 年 5 月 20 日

調査面積 （規模）990㎡（本調査）上層 990㎡

調査担当者 上席研究員 土屋調一郎

平成 21 年度 調査区（2）

調査研究部長 及川淳一

北部調査事務所 所長 野口行雄

調査期間 平成 21 年 7 月 1 日～平成 22 年 2 月 26 日

調査面積 （規模）5,850㎡（本調査）上層 3,820㎡

調査担当者 上席研究員 土屋調一郎・糸川道行・都 淳一

平成 22 年度 調査区（3）

調査研究部長 及川淳一

北部調査事務所 所長 野口行雄

調査期間	平成 22 年 7 月 1 日～平成 22 年 7 月 30 日 平成 22 年 8 月 31 日～平成 22 年 12 月 8 日
調査面積	(規模) 6,100㎡ (確認調査) 上層 622㎡／6,100㎡・下層 25㎡／920㎡ (本調査) 上層 2,490㎡
調査担当者	上席研究員 田井知二

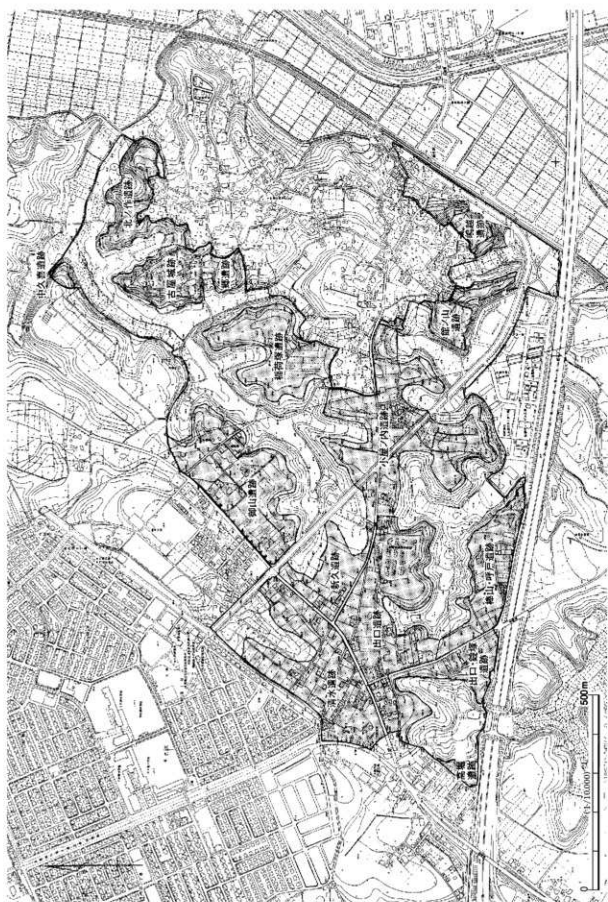
現地での発掘調査終了後、鶴越遺跡の基本的な時代が古墳時代～平安時代にかけての集落跡および縄文時代後・晩期の包含層出土の大量の土器群とに分かれるため、整理作業は旧石器時代～縄文・弥生時代までと古墳時代以降とにわけて実施することとし、平成 23 年度より先行して古墳時代～奈良・平安時代までの報告書作成作業に着手した。

(整理・報告書作成)

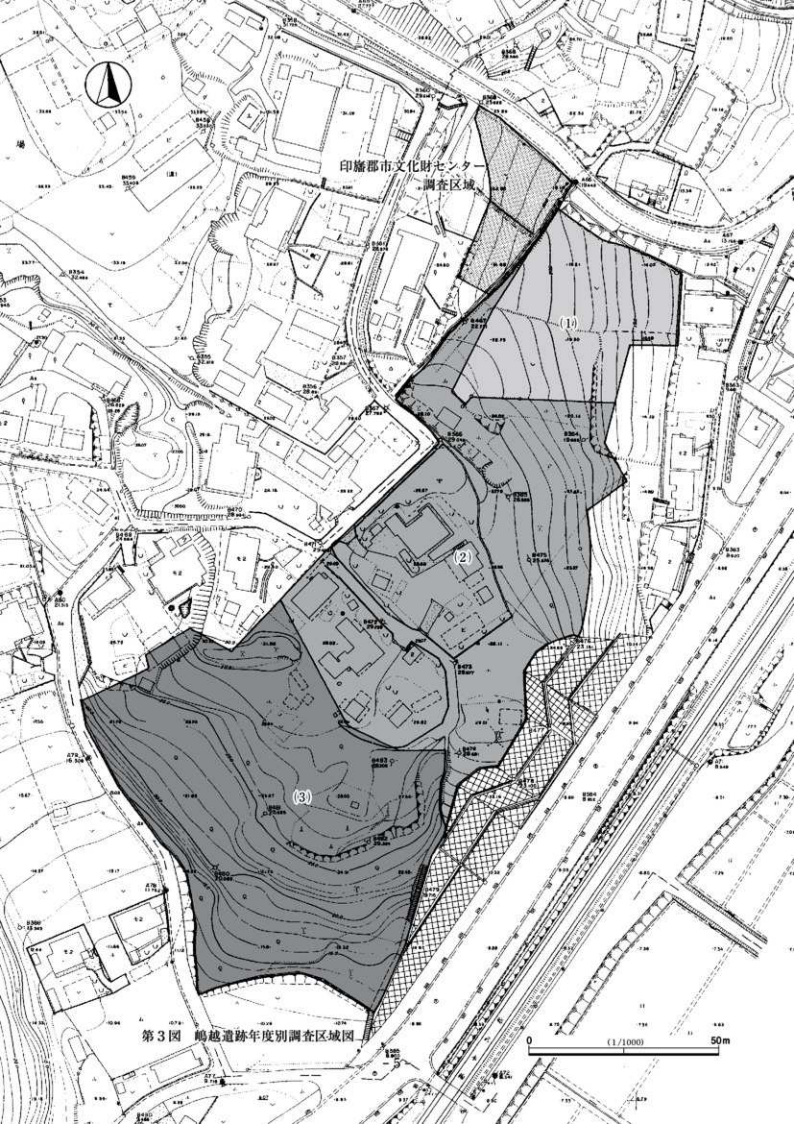
平成 23 年度	調査研究部長 及川淳一 北部調査事務所 所長 野口行雄 整理期間 平成 23 年 9 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日 整理内容 水洗・注記～接合・実測の一部 整理担当者 主任主事 大岩桂子
平成 25 年度	調査研究部長 伊藤智樹 整理課長 今泉 潔 整理期間 平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日 整理内容 接合・実測・トレースの一部 整理担当者 主任上席文化財主事 薮 淳一・森 尚登
平成 26 年度	調査研究部長 伊藤智樹 整理課長 今泉 潔 整理期間 平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日 整理内容 実測・トレースの一部～原稿執筆の一部 整理担当者 上席文化財主事 池田大助・宮 重行
平成 27 年度	文化財センター長 小久貫隆史 整理課長 岸本雅人 整理期間 平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日 整理内容 原稿執筆の一部～報告書印刷・刊行 整理担当者 上席文化財主事 池田大助



第1図 遺跡の位置と周辺の地形



第2図 物井地区遺跡分布図



伊藤都市文化財センター
調査区域

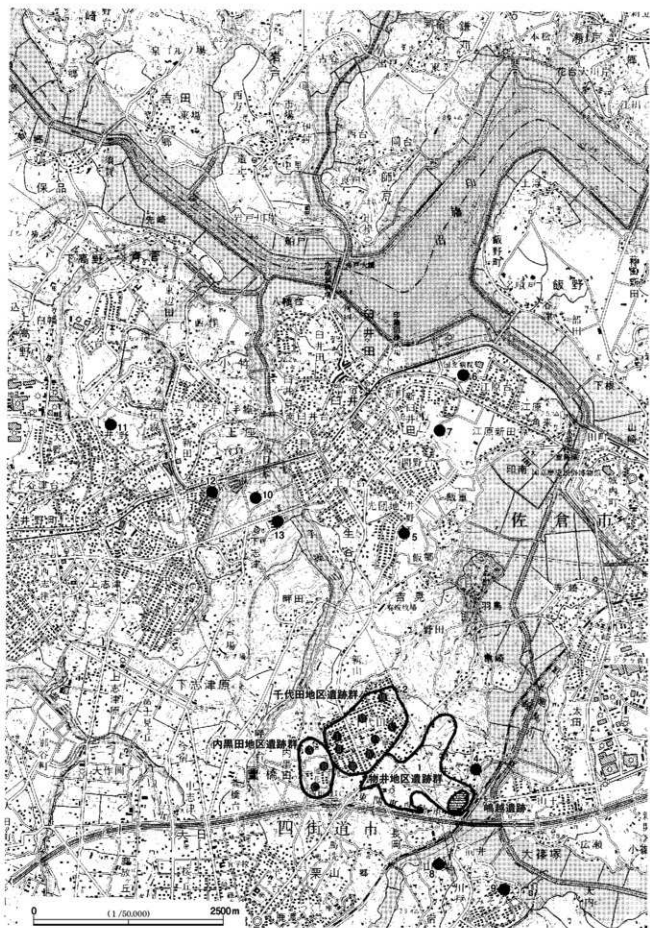
第3図 鶴越遺跡年度別調査区域図

0 (1/1000) 50m



第4図 鶴越遺跡クッド・トレンチ配置図

0 1000 50m
(1/1000)



第5図 周辺の遺跡分布図

2 調査の方法

物井地区における埋蔵文化財調査においては、事業範囲全域を公共座標に基づく方眼網（日本測地系・国家標準直角座標第Ⅳ系）で覆い、全遺跡の遺構・遺物についてその所在を確実なものとしている。方眼は第4図のように50m×50mを大グリッドを設定し西から東へ1・2・3・・・、北から南へA・B・C・・・と名付け両者を組み合わせて使用している。またその中を5m×5mで100分割し、西から東へ00・10・20・・・、北から南へ10・20・30・・・と名付け、両者を組み合わせて名称を付し、遺構・遺物に関する記録はすべてこの方眼網によった。記録類に表示した標高は東京湾平均海面（TP）による海拔である。

第2節 遺跡の位置と周辺の遺跡（第1・2図）

遺跡の位置と地理的・歴史的環境は嶋越遺跡（1）第1章第2節において取りまとめており、またすでに周辺において関連する物井地区文化財報告書Ⅰ～ⅩⅩのみならず、隣接台地上において調査を実施した内黒田特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書（1991）に詳しい。

本書においては、その位置（第1図）および今回報告の主体となる縄文時代後期～晩期にかけての周辺遺跡（第5図）の状況と発掘調査の概要を示す。

当遺跡はJR東日本総武本線物井駅の北西に近接し、鹿島川を望む標高28m～29mの台地上に位置する。この台地下はかつては香取の海と呼ばれ、印旛地域の原始から古代文化の醸成に大きくその生産力を養ってきた内海に面する台地上にある。

台地は鹿島川に注ぐ支流により樹枝状に開析され、複雑な地形を示している（第1図）。台地上は図に見るとおり相当の開発が進んでおり、旧来の地形と大きく変更されているものの、台地縁辺は鹿島川にともなう水田として、印旛沼あるいは鹿島川との地形を大きく変えることなくその景観を残している。

嶋越遺跡は北に向かって香取の海に開き、東から南にかけては現千葉・八街方面へ広く広がる内湾に面している。またこの内湾より西に向かう樹枝状の谷を進めば、同時期の遺跡群とも言うべき内黒田地区が存在する。この内黒田遺跡群からすれば谷筋を下って印旛沼へ向かう出口に所在する。

またこれらの遺跡群はもう一本の川、現在の四街道市役所周辺を起点とする手繰川水系と鹿島川水系に挟まれた台地上の南端に位置するエリアでもある。この台地上には数多くの遺跡が存在する（第5図）。

物井地区（1）・千代田地区（2）・内黒田地区（3）の遺跡群は、旧石器時代および縄文時代後期を中心とする遺跡として知られる。特にこれらの遺跡群においては旧石器時代の環状ブロックの特異な集中を示す遺跡群としても知られる。その中でも池花南遺跡の環状ブロック出土遺物は千葉県指定文化財ともなっているほか、本遺跡と隣接する台地上に位置する出口・鐘塚遺跡では、21か所の石器集中地点から2,700点以上の石器が出土し、出口遺跡においても29ブロックの石器集中地点から多数の石器が検出されている。台地縁辺北側には島越台貝塚（4）がある。調査時に周辺確認をした時点においては、薄い貝層の縄文時代では、本遺跡と同一散布する地点が確認できたものの、主体部は消滅した可能性が高い。加曾利B式期のハマグリを主とする主賦貝塚であるとされる。本遺跡から千代田遺跡群を抜け北上すると、佐倉市吉見台遺跡（5）にいたる。直線距離で3kmほどの距離である。600点を超える土偶の出土や中期から後・晩期にかけて集積された土器塚で知られる。鹿島川を印旛沼に下りきった印旛沼（香取海）を望む台地上には、考古学史上著名かつ代表的な遺跡として江原台遺跡群がある。大規模な土器塚で知られる遠部台遺跡（6）、曲輪内貝塚（7）などを代表とする。学史上の初見は1894年（明治27年）である。遠部台遺

跡はその後、大山史前学研究所の発掘（1923年）や東京大学人類学教室の発掘調査（1939年）に基づき堀之内式～加曾利B式～安行式の相対的な相互関係を実証し、また後には山内清男により当遺跡の調査に基づいた加曾利B式および安行1式の標識資料が抽出されるなど、考古学史上重要な遺跡である。

千葉・八街方面に上がって行けば、対面する台地上には相ノ谷遺跡（8）が存在する。主に加曾利B式期～安行3式期までの遺物を出土している。他にも、弥生時代中期の土器も出土しており、縄文晩期～弥生中期という时期的に当遺跡との関係も考えられる。前広遺跡（9）からは堀之内式期～安行2式期の遺物の他、多数の動物遺存体が出土している。貝層自体は薄いとされる。なおこれより鹿島川をさかのぼれば、粘土探掘坑の底面から安行3b式期の土器が出土した南作遺跡や、分布調査の時点で土偶や石棒、玉類のほか、ヤマトシジミを詰めた安行1式期の土器などの遺物の採集で知られる坂戸草刈堀込遺跡などが所在する。現鹿島川流域の谷筋には、東京湾に注ぐ谷筋に比べると、思いのほか貝塚の存在が薄く感じられる。

北に向かう手繰川流域には、吉見台遺跡と川を挟んで対岸の台地上に堀之内式期の柄鏡型住居を検出した神楽場遺跡（10）、さらに台地先端に向かって進めば国指定遺跡でもある井野長割遺跡（11）が存在する。当遺跡からは直線距離で7km～8kmほどである。この遺跡は、後期～晩期中葉にかけての一大集落であり、墓坑と考えられる土坑群、後・晩期の住居の検出のほか、縄文時代後期～晩期にかけての「環状盛土遺構」の存在があげられる。全国でも10数例という遺構であり、この遺跡を特徴付けている。

これらの遺跡のほかに、茅山式期の貝塚として保存された上座貝塚（12）、時期は異なるもの前方後方墳が保存された飯合作遺跡（13）など幾多の遺跡が同じ流域に存在しており、この周辺地域は香取海に育まれていたことが知れる。

第1表 周辺の遺跡一覧（第5回）

No.	遺跡名	主要な時代	概 要	文 献
1	物井地区遺跡群	旧石器～中近世	本遺跡の発する台地に所在する御山遺跡からは厚層文土系の遺構が確認されている。	(財) 千葉県文化財センター 物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書1～13X
2	千代田地区遺跡群	旧石器～中近世	千代田1～Ⅱの各遺跡から縄文時代後期～晩期の遺構遺物が出土。保存された八木原貝塚は加曾利B式期の縄文産の貝類を主とする貝塚。	四街道千代田遺跡調査会 千代田 1972
3	内黒田地区遺跡群	旧石器～中近世	縄文時代晩期中葉～弥生期にかけてを主とする。池花遺跡①・池花南遺跡②・大瀧遺跡③の3遺跡からなり、池花遺跡では縄文式期から弥生時代へと続く可能性のある一帯を検出。池花南遺跡では千瀬式期～須和田式期の急勾壁を検出している。	(財) 千葉県文化財センター 四街道市内黒田遺跡群 1991
4	鳥嶋台貝塚 (馬場No1遺跡)	縄文時代 加曾利B式期	加曾利B式期の貝塚。ハマグリを主として出土。	四街道市教育委員会 四街道市市内遺跡群発掘調査報告書
5	吉見台遺跡	縄文時代 中期末～晩期	大塚住居や香炉形土器、土偶の大量出土など。	吉見台遺跡調査会 吉見台遺跡発掘調査報告書 2011
6	遠部台遺跡	縄文時代 中期～晩期	集落跡、小貝塚群、土器塚など。	自然学雑誌 池上啓介 千葉県印刷部臼井町遠部石器時代遺跡の遺物 1937 佐倉市教育委員会 佐倉市史「考古編」2014
7	玄輪ノ内貝塚	縄文時代 前期～晩期	集落跡、土器塚など。	千葉県印刷部臼井町遠部石器時代遺跡の遺物 1937 佐倉市教育委員会 佐倉市史「考古編」2014
8	相ノ谷遺跡	縄文時代 阿土台式期～ 弥生時代中期	加曾利B式期～安行3式期。5軒の弥生時代中期の集落。	東京電力北総線遺跡調査会 北総線 東京電力北総線設置工事に伴う埋蔵文化財調査報告書 1982
9	前広遺跡	縄文時代 早期～後期・貝塚	茅山式期～安行2式期。安行期住居跡。	中野遺跡調査団 下総国四街道地域地の遺跡調査報告書 1986
10	神楽場遺跡	縄文時代 中期～晩期	堀之内式期柄鏡型住居など。	(財) 印旛郡市文化財センター 神楽場遺跡・五反目遺跡 1991
11	井野長割遺跡	縄文時代 後期～晩期	晩期中葉住居跡・環状盛土遺構・土器塚・縄文時代整地跡。国指定遺跡。	佐倉市教育委員会 佐倉市埋蔵文化財調査報告書 井野長割遺跡 一第17次調査報告書・総括報告書- 2010
12	上座貝塚	縄文時代 早期貝塚	縄文時代早期茅山式期集落、内湾性貝塚。県指定遺跡。	明治大学 畿台安学 森生 優 佐倉市上座貝塚の住居跡と水穴 1959
13	飯合作遺跡	弥生～ 奈良・平安時代	方形環溝墓・前方後方墳。県指定遺跡。	(財) 千葉県文化財センター 佐倉市飯合作遺跡 1978

第3節 遺跡の概要（第3～12図）

今回の調査範囲においては、確認調査に入った時点で最も標高の高い地点（TP30m～25m付近）がほぼ全面にわたり削平されており、ローム層がわずかに残る状態であった。そのなかで古墳時代以降の竪穴住居跡（第6・7図）などの遺構が確認でき、調査はそのわずかに残るローム層中に残された住居の床面あるいはカマドや柱穴など、遺構最下面の痕跡を確認するような状態で調査が進められた。

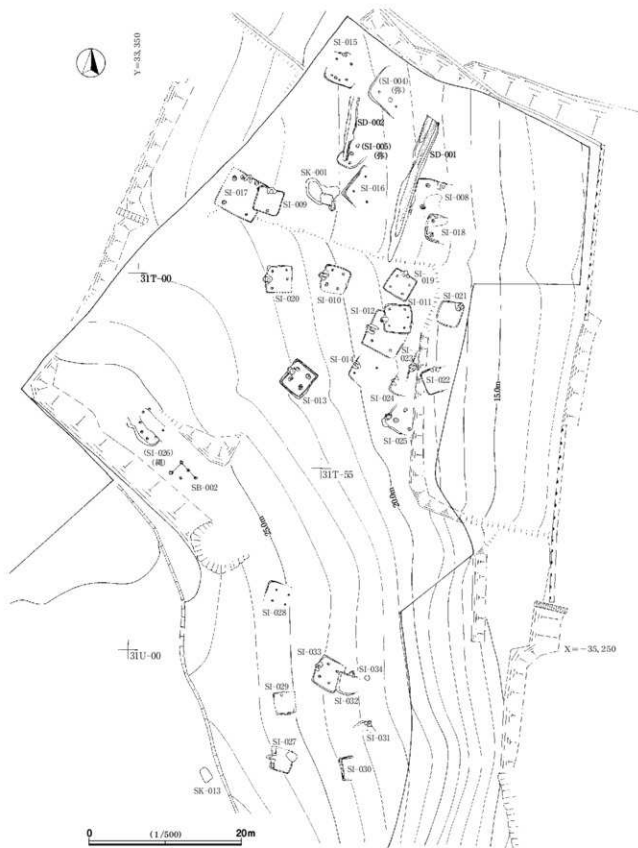
従来より、斜面部には縄文時代後期の土器が散布することが知られており、また斜面部での地形改変の可能性があるため、状況確認のためトレンチ（第4図）を入れたところ、一部段差のある若干の平坦面（25～20m）から奈良・平安時代の竪穴住居跡や中近世の土坑など（第6・7図）が検出されるとともに、南東より入る小支谷の斜面部において縄文時代後・晩期の包含層が検出された。支谷の最大幅は20m、高低差において最上部を約28mとして最下部の標高は平均12mとなり、高低差16m程度の急斜面であった。

これらの斜面流入遺物包含層より出土する遺物類のなかには、平坦部に残される古墳時代～平安時代にかけての土器類はもとより、旧石器時代の石器、縄文時代早期熱糸文系の土器をはじめとして、後期・晩期の土器を中心とした縄文時代全時期の土器群を検出しており、わずかに残る竪穴住居跡のなかには弥生時代中期の住居と想定しうる竪穴住居跡も検出されており（第131図）、本遺跡が旧石器時代～中世に至る大規模な複合遺跡であったことをうかがい知ることができた。残念ながら、今回報告する出土した遺物類のすべてと言える数量が斜面部からの出土であるため、使用後の「投棄」と想定せざるを得ない状況である。また、少量ではあるが、シカ・イノシシの黒色化した焼骨の破片がみられた。

土器群の中では、晩期大洞系の土器、特に東北に直接系譜をもつであろう土器の出土（第8図）も注目される。これらの土器のほか、ミニチュア土器類（第9図）、また126点を数える出土が確認された土偶（第10図）においても、これらの出土状況から特定の位置を目標とした投棄ないしは廃棄の状況を確認することが出来ない。谷の深いところに集中するという内容を報告するのみとなる。土製円板・土錘類（第11図）は概数で1,000点を数え、また土器片錘に至っては確実に分類し得るもののみを抽出してみたが、216点を数えるという状況で、周辺の同時期の遺跡と比べても群を抜いた豊富さである。

先に記載したように、広大な後背・周辺台地上に類似する遺跡を数々見ることができ、本遺跡を鹿島川への出口とすると、遺跡南側を東へ入る谷筋上北側に館ノ山遺跡、小屋ノ内遺跡と連なって存在する。物井地区遺跡群中最大面積となる小屋ノ内遺跡は、旧石器時代の環状ブロックをはじめとする多数の石器出土地点の検出、縄文時代早期熱糸文系土器群と併せ「木の根系」タイプの土偶を出土する遺跡として知られるが、併せて縄文時代後期安行2式期前後を主として、安行3a式期までを主要な時期とする縄文時代後期～晩期の遺跡でもある。報告されている中で、土製品は土偶3点のほか土製円板10点、土器片錘については少数の出土であり、本遺跡における特定遺物の偏在性が目立つものとなる。

なお、隣接地を（財）印旛郡市文化財センターが平成22年度に発掘調査を実施している。調査対象区全域に縄文土器の散布が見られ、また本調査区と同様に、斜面部より縄文時代の包含層および貝の散布が確認されたが、本調査区と同様に、近年の造成により削平が進んでおり、古墳時代中期後半の竪穴住居跡が1軒検出されたものの、縄文時代の遺構などについては検出されなかったことが報告されている。

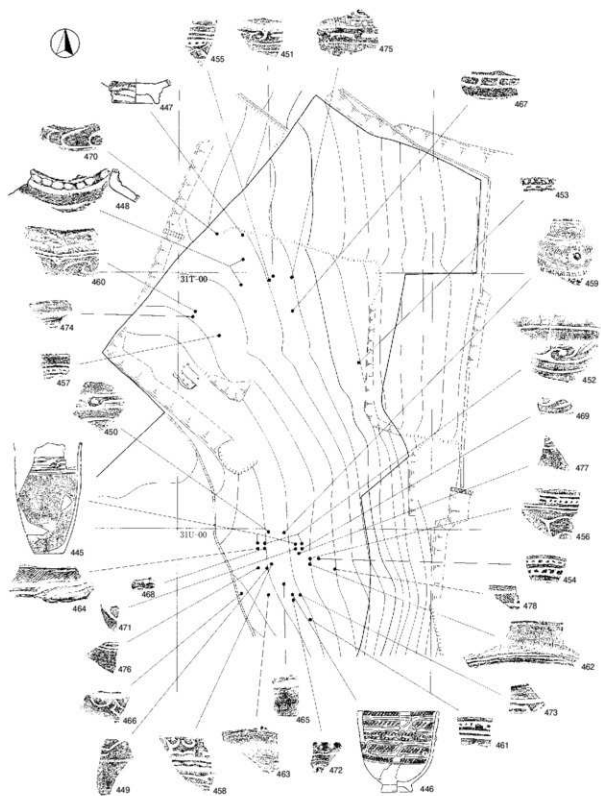


第6図 遺構検出状況部分図（遺跡北半部）

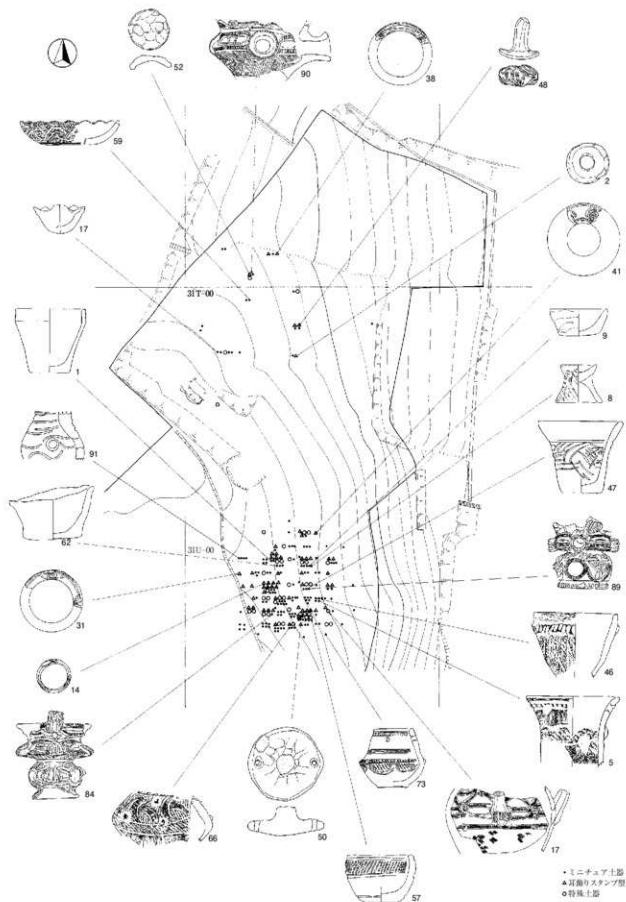
() 付遺構は本書で扱ったものである



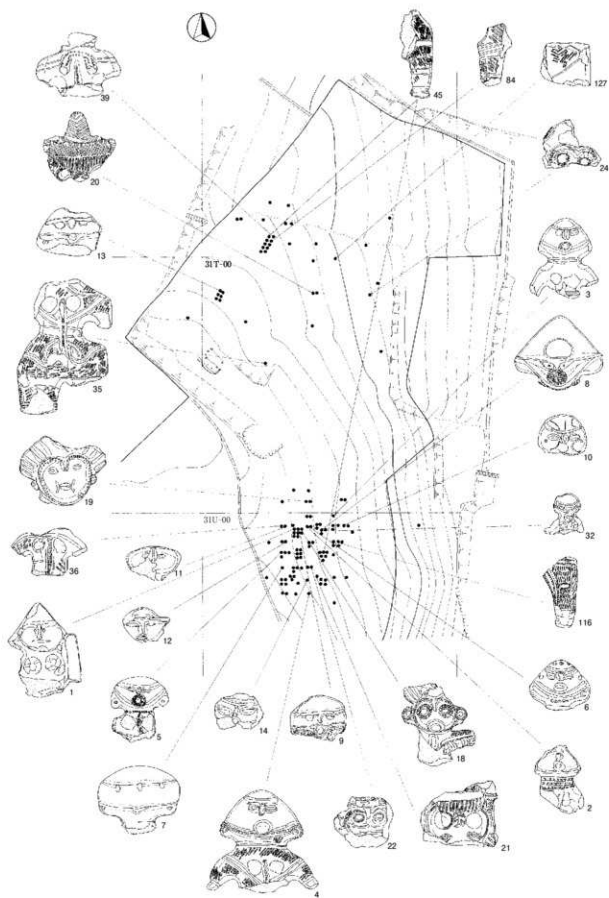
第7図 遺構検出状況部分図(遺跡南半部)



第8図 縄文土器(大洞系)出土状況図



第9図 ミニチュア土器、特殊土器、耳飾り出土状況図



第10图 土偶出土状况图



第11圖 土器片跡, 土製円板出土状況図

縄文時代包含層基本層序 (第12図)

台地上の包含層基本層序を確認しておく。

I層：表土（耕作土）で黒灰褐色を呈する。乾燥してすぐに白っぽくなる。

II層：立川ローム以降に降灰した新規テフラ層である。a層～c層に3分される。

II a層：最上部の層。黒色土

表土攪乱が及んでいることが多く、条件が良い場合にしか残らない。古墳下などに旧表土的に残存する。弥生時代（晩期末も含まれるか）以降の層である。

II b層 褐色土

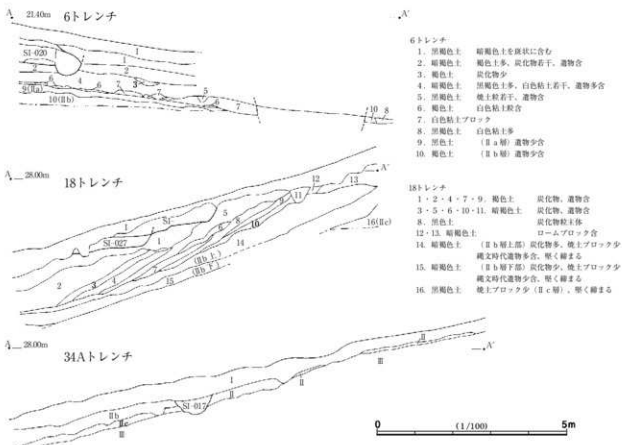
一般に新时期テフラ層といわれるものである。縄文時代後期～晩期頃に降灰し、場所によってはIII層と見間違ってくるくらいであり、厚さが20cmを超すところもある。縄文時代中期（後半頃）から後期・晩期の遺物を主体に包含する。

II c層 暗褐色土

縄文時代中期（前半頃）～早・前期の遺物が包含される。富士黒土層相当である。

III層 黄褐色土

いわゆるソフトローム層である。



第12図 遺物集中区土層

調査区東側の堆積状況

各トレンチの堆積状況を概観する。

1 トレンチ

写真からの判断では、地表下1.5mでⅡa層～Ⅱc層になる。Ⅱa層上面に薄い粘土の層がある。

6 トレンチ 標高20m～21m。東へ緩傾斜する。

上部の土は奈良・平安期の整地だろう。その層から縄文土器の出土が多いが、周辺の縄文期遺構あるいは包含層を壊しているため、標高が低いにもかかわらず、地表下1.4mの深さからⅡa層、その下にⅡb・Ⅱc層がみられる。Ⅱa層上面に薄い粘土層（地滑り痕跡か）がある。土器集中区は西北西から東北東へやや遺物密度が濃い部分があるので、埋没谷が存在するものと思われる。

14 トレンチ

傾斜地中央部分にある。標高は25m～26mと高めで、地山が成田層砂層となっている。

16 トレンチ

平坦地縁辺部、肩に近い部分から斜面部にある。標高27.5m～25.5m。肩近くにはⅡa層～Ⅱc層までであるが、斜面の低い部分は土が削られ、Ⅱc層のみ検出された。Ⅱ層の上は再堆積土である。

17 トレンチ

斜面最下部にあり、標高23.5m～21mである。きれいにⅡ層が残る。斜面の高い部分（西側）に再堆積土がみられる。

18 トレンチ

16トレンチの南隣で、包含層を縦断する東西セクションである。標高は28.5m～26.0mで、傾斜がやや急である。上部から下部へ厚くなる（最深1.3m）。整地跡及び二次堆積土がみられる。Ⅱa層は標高の低い東側は流されている。西側も動いているようで、層の乱れがある。Ⅱb層は堆積が厚く、上面が堅く締まっている（地滑り痕跡か）。更に下位に黒っぽいⅡc層がある。遺物は上部から下部までであるが、混入が多い。ただ下位に行くほど時期の古いものが多くなる。

19 トレンチ

斜面最下部にあたる。17トレンチの南に隣接し、ほぼ同様の堆積を示す。

21 トレンチ

平坦地肩部。標高28m～26.5m。西側は常総粘土層で東側は谷となって褐色土（Ⅱ層ないし再堆積土）が落ち込む。

23 トレンチ

標高28mの平坦地で、地山は常総粘土層まで削平されている。

調査区西側部の堆積状況

平坦部は粘土層まで削られている。斜面はⅡ層以下が残されている。

31 トレンチ

台地縁辺、平坦地。標高29m。地山は粘土層である。

34 トレンチ

北東から南西方向に、標高28m～22mに配置した。Ⅱ層はあるが、上部のⅡa層は消失している。立

川ロームの堆積もある。

29V08 区北西壁 (第13図)

旧石器時代尖頭器出土地点。立川層を含む。基本層序が残されている。

参考文献

- 1 栗本佳弘ほか 1971 東関東自動車道(千葉-成田線)関係埋蔵文化財発掘調査報告書 千葉県文化財保護協会
 - 2 米内邦雄ほか 1972 千代田遺跡-千葉県印旛郡四街道町- 四街道千代田遺跡調査会
 - 3 埼玉県教育委員会 1974 高井東-埼玉県埋蔵文化財調査報告書4集- 埼玉県教育委員会
 - 4 米内邦雄ほか 1978 八木原貝塚調査報告書 四街道遺跡調査会
 - 5 芹沢長介・坪井清足監修 1981・1982 縄文土器大成 講談社
 - 6 渡邊修一 1991 四街道市内黒田遺跡群-内黒田特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書-(財)千葉県文化財センター
 - 7 小林行雄編 1994 縄文土器の研究 小学館
 - 8 林田利之 1999 千葉県佐倉市吉見台遺跡A地点 (財)印旛郡市文化財センター
 - 9 大内千早ほか 2001 主要地方道松戸野田線住宅地関連埋蔵文化財調査報告書-流山市三輪野山貝塚・塚前・道六神・八幡前-(財)千葉県文化財センター
 - 10 飯島伸一ほか 2002 郷野遺跡-四街道市成台中土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書(1)-(財)印旛郡市文化財センター
 - 11 猪股住二ほか 2003~2014 井野長割遺跡-第1次~第17次発掘調査報告書-(財)印旛郡市文化財センター
 - 12 小林信一ほか 2005 印西市西根遺跡-県道船橋印西線埋蔵文化財調査報告書-(財)千葉県文化財センター
 - 13 高田 博ほか 2006 東関東自動車道(木更津-富津線)埋蔵文化財調査報告書7-君津市三直貝塚-(財)千葉県教育振興財団
 - 14 西野雅人ほか 2007 千葉県南部ニュータウン37-千葉市六通貝塚-(財)千葉県教育振興財団
 - 15 小林達雄編 2008 総覧縄文土器 総覧縄文土器刊行委員会
 - 16 栗田剛久ほか 2011 東関東自動車道(木更津-富津線)埋蔵文化財調査報告書13-君津市鹿島台遺跡(B区)-(財)千葉県教育振興財団
 - 17 川島裕哉 2011 千葉県四街道市嶋越遺跡(第2地点)-物井2号線埋蔵文化財発掘調査委託-(財)印旛郡市文化財センター
 - 18 佐倉市史編纂委員会 2014 佐倉市史(考古編) 佐倉市
- 物井地区埋蔵文化財調査報告書
- 19 渡邊修一ほか 1994 四街道市御山遺跡(1)-物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書I-(財)千葉県文化財センター
 - 20 岡田誠造 1999 四街道市出口・鐘塚遺跡-物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書II-(財)千葉県文化財センター
 - 21 古内 茂ほか 2005 四街道市小屋ノ内遺跡(1) 旧石器時代編-物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書III-(財)千葉県文化財センター
 - 22 糸川道行ほか 2006 四街道市小屋ノ内遺跡(2) 縄文時代-中・近世編-物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書IV-(財)千葉県教育振興財団
 - 23 糸川道行ほか 2007 四街道市小屋ノ内遺跡(3)-物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書V-(財)千葉県教育振興財団
 - 24 沼澤 豊 2008 四街道市郷野遺跡・中久喜遺跡-物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書VI-(財)千葉県教育振興財団
 - 25 古内 茂ほか 2009 四街道市稲荷塚遺跡-物井地区埋蔵文化財調査発掘報告書VII-(財)千葉県教育振興財団
 - 26 沼澤 豊 2009 四街道市清水遺跡-物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書VIII-(財)千葉県教育振興財団
 - 27 糸川道行ほか 2011 四街道市館ノ山遺跡-物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書IX-(財)千葉県教育振興財団
 - 28 沼澤 豊 2011 四街道市新久遺跡-物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書X-(財)千葉県教育振興財団
 - 29 落合章雄 2011 四街道市清水遺跡・新久遺跡 旧石器時代編-物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書XI-(財)千葉県教育振興財団
 - 30 沼澤 豊 2012 四街道市出口遺跡-物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書XII-(財)千葉県教育振興財団
 - 31 嶋田浩河ほか 2013 四街道市北ノ作遺跡-物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書XIII-(財)千葉県教育振興財団
 - 32 野口行雄 2013 四街道市出口遺跡 旧石器時代編-物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書XIV-(財)千葉県教育振興財団
 - 33 大岩桂子ほか 2013 四街道市館ノ山遺跡(2)-物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書XV-(財)千葉県教育振興財団
 - 34 沼澤 豊 2013 四街道市御山遺跡(2)-物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書XVI-(財)千葉県教育振興財団
 - 35 大岩桂子ほか 2014 四街道市嶋越遺跡(1) 古墳時代以降編-物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書XVII-(財)千葉県教育振興財団

第2章 旧石器時代

第1節 概要

1 調査の経緯

本遺跡の台地平坦部はほぼ全域常総粘土層まで削平を受けていた。東側（第1次調査）及び中央部（第2次）では立川ローム層残存部がほとんど存在しなかったため、下層調査を省略した。

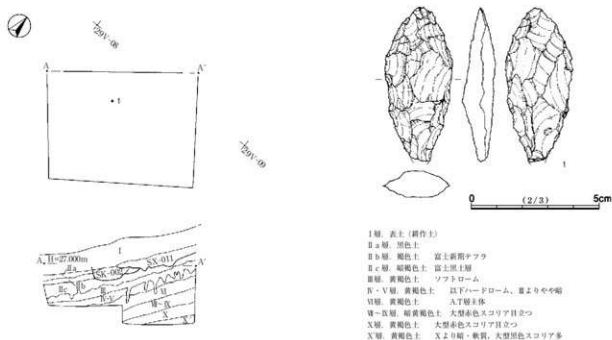
ただ31U区を中心とした縄文時代遺物集中区では、2次堆積土や縄文時代包含層中で旧石器時代の石器が出土しており、西側も平坦部は東側同様の状況であったが、斜面部に立川ローム層の残る部分が920㎡ほど認められたため、5か所の確認グリッド（累計面積25㎡）を設定し、掘り下げた。

その結果、Ⅲ層（ソフトローム）中で1か所石器の出土があり、周囲を拡張して精査したがほかには発見できなかった。

2 確認調査区出土石器（第13図、第2表、図版3）

西側斜面の肩部、29V08中心に、計約12㎡を調査した。Ⅲ層中での単独出土である。

1は中型の木葉形尖頭器で、丁寧な押圧剝離による成形がみられるものである。



第13図 下層確認調査区・出土石器

第2節 遺物

包含層出土石器（第14～16図、第2表、図版6）

ナイフ形石器（第14図1～4）

1は小形薄手で木の葉形をなす。先端・峰・基部に刃潰し的な軽い加工がみられる。2は片面加工の切

り出し形の刃部を持ち、つまみ状の基部をなす。3は大型で厚手である。縦長剥片素材を片面加工している。基部と刃部の境が嘴状に突き出ている。4は先端部を欠く。峰部の加工のみで基部加工がない。

槍先形尖頭器（第14図5～10）

5は先端部の残存品で、片面加工されている。6は両面押圧剥離の施された木葉形尖頭器である。基部側がやや細めとなっている。細部調整が刃部、先端部、基部に顕著である。7は厚手で断面三角形をなす小形品である。最終的な細部加工が正面から縁に浅く施されている。基本は両面加工だが、厚みのせいか一部片面加工がある。側縁刃部は掻器的である。8は台形断面をなすもので、ナイフ形石器のような形状をなす。先端に彫器の有樋加工の部分がある。1側縁に自然節理面を残し、中央に大きなガジリがある。基部は片面から加工されている。9は木葉形尖頭器中央部の破片で、両面押圧剥離がみられる。10は薄手で端部U字形をなす。槍先形尖頭器の基部破片とみられるが、主要部が欠損しているので断定できない。掻器ないし調整痕のある剥片とすべきであろうか。

有舌尖頭器（第14図11）

11は細長く、きれいな押圧剥離を持つ。先端と基部を欠損するが、有舌尖頭器とみられる。最終的に表裏で片側縁づつ細部調整が行われている。

石核（第14図12・第15図16）

12は多面体の小形細石刃核で、打面が2か所があり、1か所は細石刃を剥離し樋状をなす。16は非常に小型のもので、剥片を切断した面を打面とし、小片を削いでいる。

掻器（第15図13・17）

13は粗割加工で上・下端に彫器面を作っている。17は厚手の礫面を残す剥片を素材とし、右側縁に粗い剥離、左側縁にやや磨れ痕をもつ。

削器（第15図14・15・18・第16図21）

14は、左側縁の尖頭部・直線部に片面からのわずかな剥離がある。15は、左側縁下部にノッチの剥離、右側縁端部に尖頭加工がある。周縁に刃こぼれ状の跡が目立つ。18は右側縁に粗い剥離を有する。下縁はナイフ刃部状をなす。21は横長剥片を利用している。図の左側縁の上部に粗い剥離が、また同下部と右側縁には刃部加工がみられる。

楔形石器（第15図19）

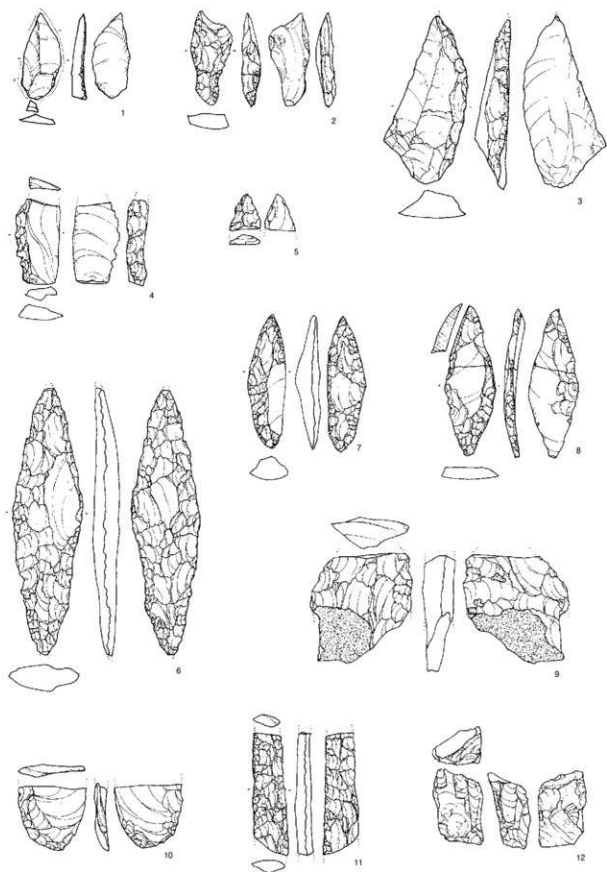
19は両縁に礫面が残る。下部は破損している。上部に両面からの剥離で楔状の加工がされている。

剥片（第15図20・第16図22～24・27）

20は二次加工ある剥片で、一部を欠損する。片面に礫面を多く残す。左側縁と下縁に細かい剥離がある。22は剥片である。23は剥片で、礫面を多く残す。24は二次加工ある剥片で、礫面を多く残している。左側縁使用痕・ノッチが、下縁にノッチの剥離および使用痕がみられる。27は縦長剥片で、側縁に刃潰れがみられる。

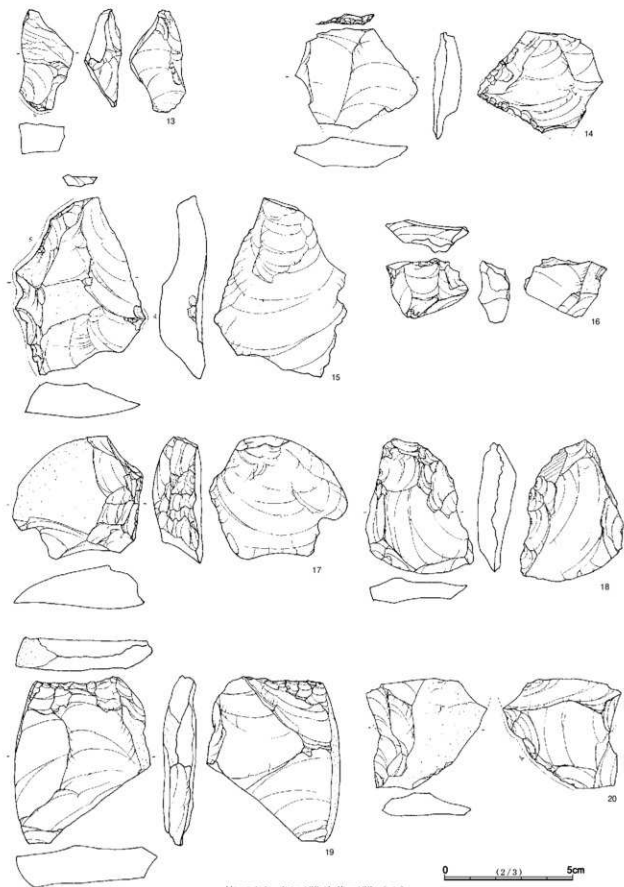
石刃（第16図25・26・28）

25は細く厚い石刃である。26は右側縁にノッチ・使用痕（刃潰れ）がある。下部は欠損している。28は下部を欠損する石刃で、側縁に刃潰れがみられる。

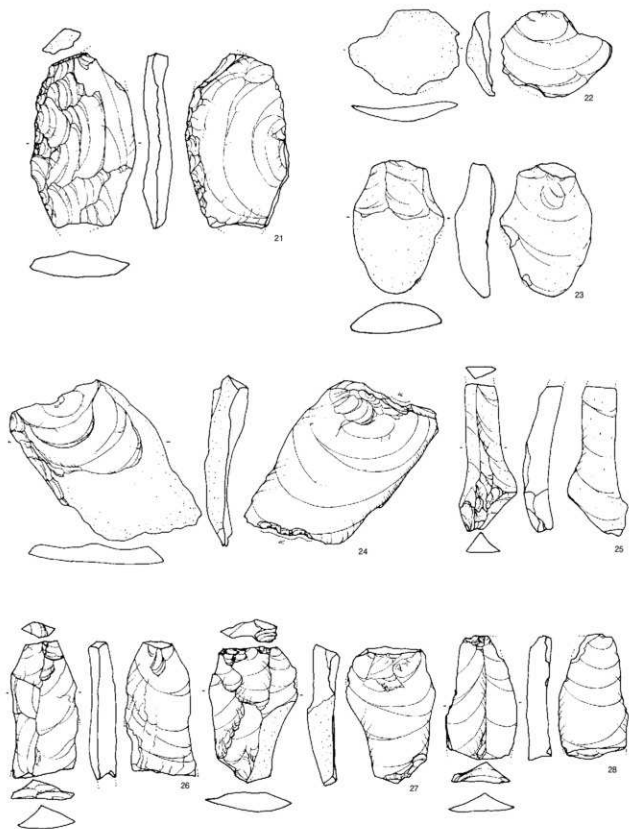


第14圖 旧石器時代石器(1)

0 (2/3) 5cm



第15図 旧石器時代石器（2）



0 (2/3) 5cm

第16図 旧石器時代石器(3)

第2表 旧石器時代石器観察表

種別	No	類 型	石 材	遺物番号	産物番号	形 状	素 材	状 態	長さ (mm)	最大幅 (mm)	厚み (mm)	重さ (g)	備 考
13	1	磨光石片	頁岩	29V-06	1	木杵形	削片	完整	43	27	13	19.2	端部若干欠
14	1	ナイフ形石器	チャート	2011-220	4	木杵形	削片	完整	33	15	4	1.9	
14	2	ナイフ形石器	黒曜石	2011-220	-	切刃1形	削片	完整	37	16	6	3.3	高野山産黒曜石
14	3	ナイフ形石器	ボクス岩質灰色安山岩	2011-242	2	有刃木杵形	削片	完整	66	28	13	20.8	
14	4	ナイフ形石器	メノウ	2011-12A	1	-	削片	先端欠	33	17	6	4.7	
14	5	磨光石片	黒曜石	2011-22A	14	木杵形	削片	先端片	14	12	4	6.6	焼熱
14	6	磨光石片	ボクス岩質灰色安山岩	2011-13A	12	木杵形	削片	完整	105	27	10	27.8	旧石器時代最末
14	7	磨光石片	輝頁頁岩	20T-94D	1	木杵形	削片	完整	53	15	10	6.1	
14	8	磨光石片	メノウ	2011-22D	3・7	木杵形	削片	完整	59	20	5	6.4	段合痕跡
14	9	磨光石片	黒色頁岩	2011-02K	1	木杵形	削片	破片	42	41	12	19.6	焼熱
14	10	磨光石片	ボクス岩質灰色安山岩	2011-04K	2	木杵形?	削片	基部片	25	27	4	3.5	
14	11	石片	チャート	2011-25A	4	磨削形	削片	先端・基部片	48	13	6	5.1	縄文時代古遺物
14	12	磨削形石器	黒曜石	SK-06D	175	塊形	削片	完整	27	18	12	7.5	津波川産黒曜石
15	13	鏃	輝頁頁岩	SK-06D	2	三角形	削片	完整	40	20	12	9.7	
15	14	鏃	輝頁頁岩	217-02K	4	菱形	削片	一底欠	40	48	10	16.5	
15	15	鏃	輝頁頁岩	2011-12D	1	台形	削片	完整	45	48	15	40.9	木製品? 焼熱面
15	16	石核	輝頁頁岩	2011-36	1	小塊状	削片	完整	23	30	11	7.5	
15	17	鏃	ボクス岩質灰色安山岩	2011-24A	6	木杵形	削片	完整	51	50	18	50.0	焼熱面
15	18	鏃	ボクス岩質灰色安山岩	2011-25A	2	台形	削片	完整	37	41	12	24.5	木製品? 下底若干欠
15	19	磨削形石器	ボクス岩質灰色安山岩	2011-05D	3	方形	削片	一底欠	64	50	12	60.6	両側磨削
15	20	二次加工ある削片	ボクス岩質灰色安山岩	2011-13A	2	透台形	削片	平欠	43	48	10	22.0	
16	21	鏃	ボクス岩質灰色安山岩	2011-44D	9	楕円形	磨削削片	一底欠	69	41	10	35.3	
16	22	鏃	黒曜石	2011-22D	4	小楕円形	削片	完整	34	43	5	8.0	焼熱
16	23	鏃	トロト石	2011-22D	8	楕円形	削片	完整	52	36	13	21.4	片側磨削
16	24	二次加工ある削片	輝頁頁岩	2011-13K	4	平行透台形	削片	完整	43	60	10	30.0	両側磨削
16	25	石片	トロト石	2011-25K	14	磨削形	磨削削片	一底欠	36	22	10	11.0	
16	26	石片	輝頁頁岩	2011-24D	8	磨削形	磨削削片	一底欠	32	26	9	15.3	1・4・9・8 (白濁削片)
16	27	鏃	輝頁頁岩	215-72	1	透長台形	磨削削片	完整	53	35	10	17.3	両側磨削
16	28	石片	輝頁頁岩	SK-082	3	磨削形	磨削削片	一底欠	49	38	7	10.7	1・4・9・8 (白濁削片)

第3表 SI-026遺構内出土縄文土器観察表

() 測定値、() 現存値

種別	No	遺物番号	遺物番号	器種	形状	色調	胎 土	時 期	形 式	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	容量 (L)	備 考		
17	1	SI-026	18	深鉢	片	暗褐色	細砂含心	前期縄文	胴之内1	-	-	-	-	口径部片	複製	
17	2	SI-026	1	深鉢	片	褐色	細砂・白砂含心	前期縄文	胴之内1	-	-	-	-	胴部片	複製	
17	3	SI-026	79	深鉢	片	暗褐色	細砂・白砂含心	前期縄文	胴之内1	-	-	-	-	胴部片	複製	
17	4	SI-026	17・19・92	深鉢	片	灰褐色	細砂含心	前期縄文	胴之内1	(22.4)	-	(16.8)	(1.6)	胴部・底部40%	複製	
17	5	SI-026	71	深鉢	片	赤褐色	細砂含心	前期縄文	胴之内1	(23.1)	-	(18.2)	(1.6)	胴部・底部20%	複製	
17	6	SI-026	78・80・81	深鉢	片	赤褐色	細砂・石英粒・微細な雲母含心	前期縄文	胴之内1	-	-	-	-	口径一部片	複製	
17	7	SI-026	83・84・90・91	深鉢	片	赤褐色	白砂含心	前期縄文	胴之内1	-	-	-	-	口径一部片	複製 孔有	
17	8	SI-026	15	深鉢	片	灰褐色	細砂・白砂含心	前期縄文	胴之内1	-	(9.0)	(12.3)	(0.6)	胴部・底部20%	複製	
18	9	SI-026	73	鉢	片	赤褐色	細砂・白砂含心	前期縄文	加付片B 2	(13.0)	灰底	8.0	0.5%	複製		
18	10	SI-026	12	鉢	片	灰褐色	細砂・白砂含心	前期縄文	加付片B 2	-	6.7	(4.3)	(0.6)	胴部・底部40%	複製	
18	11	SI-026	69	鉢	片	褐色	白砂含心・微細な雲母含心	前期縄文	加付片B 1	-	4.6	(7.3)	(0.1)	胴部・底部70%	複製	
18	12	SI-026	62	深鉢	片	赤褐色	細砂・白砂含心	前期縄文	加付片B 2	-	-	-	-	口径部片	複製	
18	13	SI-026	92	深鉢	片	灰褐色	細砂・白砂含心	前期縄文	加付片B 2	-	-	-	-	口径部片	複製 内縁赤銅	
18	14	SI-026	48	深鉢	片	褐色	白砂・細砂・雲母含心	前期縄文	加付片B 2	-	-	-	-	口径部片	複製	
18	15	SI-026	37・59	深鉢	片	暗褐色	細砂・白砂含心	前期縄文	加付片B 2	-	-	-	-	口径一部片	複製	
18	16	SI-026	64	深鉢	片	暗褐色	細砂	前期縄文	加付片B 1	-	-	-	-	胴部片	複製	
18	17	SI-026	24	深鉢	片	灰褐色	細砂・白砂含心	前期縄文	加付片B 2	-	-	-	-	口径部片	複製	
18	18	SI-026	87	深鉢	片	灰褐色	白砂・雲母含心	前期縄文	加付片B 1	-	-	-	-	胴部片	複製	
18	19	SI-026	32・36	深鉢	片	暗褐色	細砂含心	前期縄文	加付片B 1	-	-	-	-	胴部片	複製	
18	20	SI-026	75	深鉢	片	褐色	細砂・白砂含心	前期縄文	加付片B 1	-	-	-	-	口径一部片	複製 内縁赤銅	
18	21	SI-026	16	深鉢	片	赤褐色	細砂・白砂含心	前期縄文	胴部	-	-	9.2	(5.2)	(0.7)	胴下部・底部70%	複製

第3章 縄文時代

第1節 竪穴住居跡

SI-026 (第17・18図, 第3表, 図版4・7)

確実に縄文時代の竪穴住居跡と確定できるのは本住居1軒のみである。

遺跡北半部31 T区、2mほど大きく一段削平された地点での検出である。台地頂部平坦面ではなく、標高25mのラインの斜面に沿って並ぶ遺構群中より確認されたものである。この台地整形における削平とともに、中央部は溝状遺構および中世の土坑により失われている。また斜面部への掘り込みであるため、谷側の半分は流出して柱穴も失われている。現状から想定できるプランとしては、やや隅丸に近い方形となろうか。確実に確認できるのはコーナー1か所であるが、柱穴と考えられる7本の柱状のピットが確認できるため、これらが本竪穴住居跡に伴うものとしてみた場合、一辺が5m程度のプランとなる。掘り込みは、現状で確認面から床面まで30cmを測る。柱穴は床面から20cm～30cm程度の掘り込みとなる。炉跡は、本来存在したであろう中央部付近を溝状遺構などで破壊されているため確認できなかった。

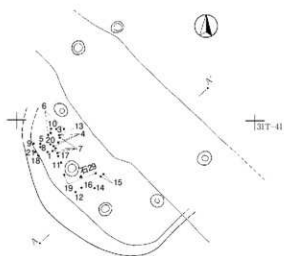
出土遺物は、堀之内式期から加曽利B式期にかけての土器がみられる。本住居からの出土遺物は土器のみである。1～8は堀之内式期の粗製の深鉢である。1は波状の頂部、地文に縄文を施し、沈線で文様を施すもの(1～3)および全体を縄文で施すものとみられる。9は小型の鉢、無文である。10は沈線により綾杉条に文様が施される。11は小型の鉢である。胴下位を沈線で区画し浅い縄文を磨消している。12～21は後期後半加曽利B式期の深鉢である。口縁部を無文とするもの(12・13・15)、逆に口縁部に縄文を施すもの(14)、斜斜に沈線を施すもの(17)などが見られる。15は口縁下を1条の沈線で区切り斜斜沈線を1段施し、以下を波状の沈線としている。16は口縁下に無文帯を設けた後、波状の沈線を施している。17は口縁を大きく外反する浅鉢となろうか。19は地文に粗い縄文を施した後、斜位の沈線の組み合わせで格子状に施文を施している。堀之内期から加曽利B式期にかけての遺物が出土するが、調査時の所見に従い、加曽利B式期の住居跡と思われる。

第2節 その他の遺構と遺物

竪穴住居跡以外で土坑あるいは柱穴状の遺構のなかで縄文期の遺構を想定できないわけではないが、確実に縄文時代のものとして確定するに至るものはない。

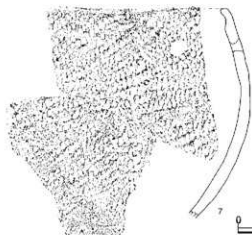
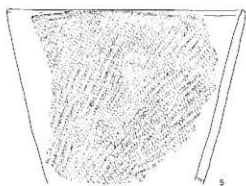
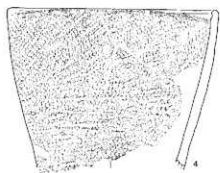
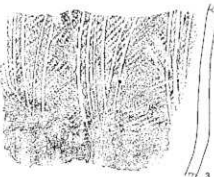
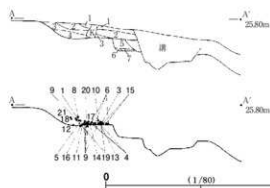
また、これらの遺物に関してもそのほとんどが斜面部より発見、採集されたもので、その主となるものは縄文時代早期撚糸文系から縄文時代晩期にいたる大量の土器群であり、基本的に上部撓乱面からの流れ込みとして、調査時点で10m×10mのグリッドでの取り上げを基本として行った。その量としては、標準的な整理箱に8割方の詰め方でおおよそ800箱に上る分量となる。

早期から前期にかけては、器面の荒れたものも多く見受けられ、上部平坦部からの流れ込みなどを想定しうるものも多々見受けられるが、縄文時代後期以降の相当量のもの、この検出された斜面部に直接投棄されたのではないかと、言うような状態の良いものも多く見受けられる。数量的には少ないものの、縄文時代早期、条痕文系土器群においては、従来あまり知られることのない、東海系の土器の出土もあり、当遺跡の多様性といったものがみられる。



SI-26

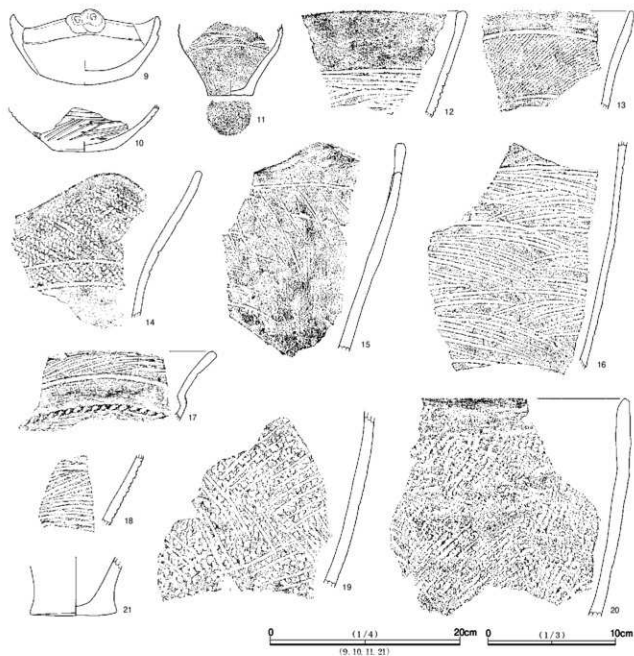
- 白色粘土・フロッタヤヤ多
- 1. 陶製白
- 2. 陶製白
- 3. 陶製白
- 4. 陶製白
- 5. 黒色
- 6. 黒色
- 7. 陶製白



0 (1/4) 20cm 0 (1/3) 10cm

(4.5.8)

第17図 SI-26・出土遺物(1)



第18図 SI-026出土遺物(2)

これらの東海系の早期後半の土器群に関しては、東京湾内湾の低湿地貝塚で調査された市川市所在の雷下遺跡においても、類似の土器群が検出され、これらの土器群が内湾部から内陸を通り香取海内湾に面した地域にまで達していることは新たな知見である。

斜面部以外からは、縄文時代早期・前期と思われる縄文土器が散見されたが、攪乱面であり、斜面部からの出土グループとあわせて一括遺物とした。

第3節 縄文土器

1 第1群 縄文時代早期の土器群 (第19～27図, 第4表, 図版8～13)

縄文式土器としては、燃糸文期、井草式期よりみられる。小片が多く、数量的にも報告したものがほとんどである。

第1類 井草式期 (第19図1～44, 図版8)

流れ込みに伴い、縁辺が摩耗したものがほとんどである。口唇部が肥厚外反し、口縁部に縄文あるいは燃糸文を施すなどこの時期の基本的な形態を示している。焼成は良好なものが多い。ただし流れ込んでいると考えられるため器面などに荒れが目立つ。

第2類 夏島式期 (第19・20図45～90, 図版8・12)

縄文、燃糸文、無文と各種施文がみられる。小片および摩耗の著しいものが多い。台地上からの流れ込みが主であると思われる。口縁には、肥厚するものや円頭状を示すもの、外反するものなどのバリエーションがみられる。

第3類 稲荷台式期 (第20・21図91～156, 図版9)

無文のものから、燃糸文のものなどが基本的な施文である。早期の中ではこの時期の土器がほとんどである。台地平坦面からの流れ込みが主となるため、器面の荒れが目立つ。口唇部においては、外反し無文とするもの(91・92)、円頭状になるもの(93～95)、やや外削状になるものなどがみられる。基本的には、縦位に施される燃糸文が主となる。104～112は、口縁部下に無文帯を設け、口縁部が外反し、肩部から施文を施すもの、あるいは口縁直下から施すものなどがみられる。108は縄文の押圧による格子文を表したもののか。109は傷状に見えるが、沈線が施されている。115は縦に4条の縦位の燃糸文により施文される。無文部は丁寧に仕上げられている。内面には赤彩痕が残る。

第4類 花輪台式期 (第21・22図157～193・第22図194～227, 図版9)

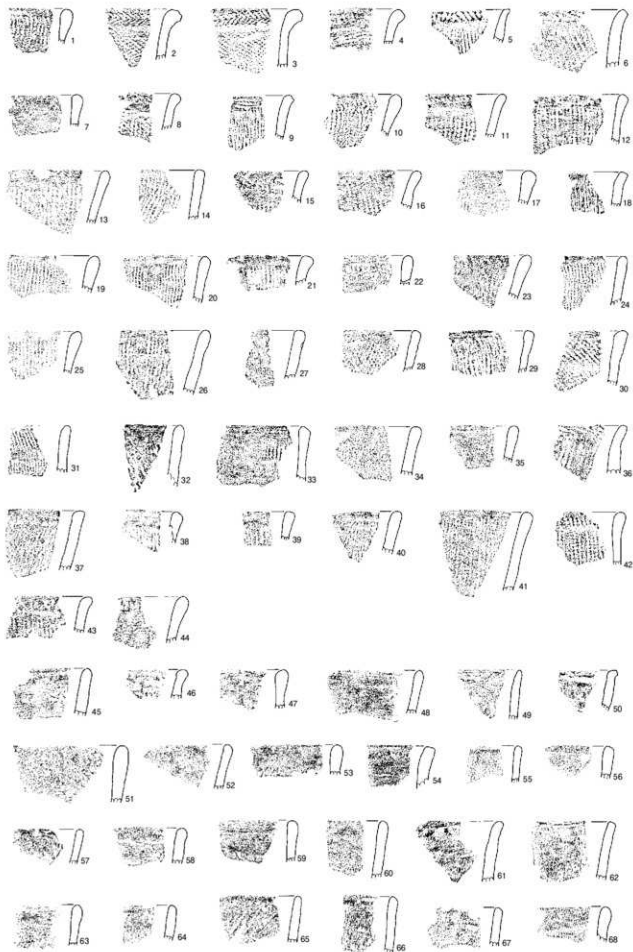
全体に器面の荒れが目立つ。157～172は口縁下に沈線をもって区画が施される。160などはかなり切り立った感じの残る口縁部となるが、167・169などは丸みが強い。基本的には燃糸文と縄文が胴部施文の中心となる。158は燃糸の押圧により文様が施される。172は縄文と燃糸文の組み合わせで、花輪台式でも前半期のものか。178からは沈線での区画ではなく、縄文を横位に施文して口縁部区画を施すグループとなる。208・209は燃糸の押圧によりキャタピラ状に文様を作り出す装飾性の高いものである。逆に210は棒状工具により、粗い縄文を施したかのように文様を施す。

第5類 三戸式期 (第22図228～242, 図版10)

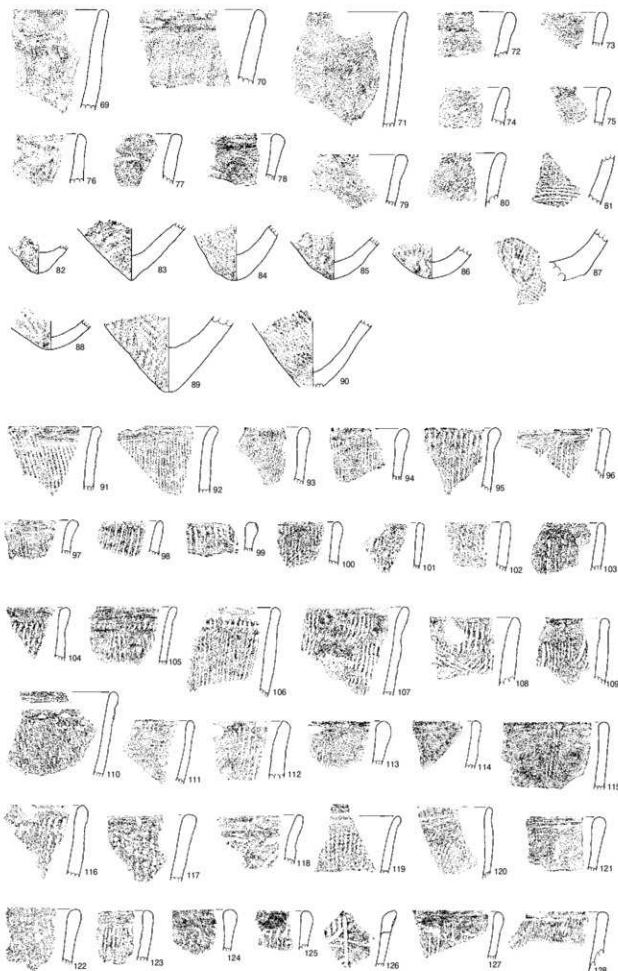
228は口唇が円頭気味で、外反部がそぎ落状の無文であり、花輪台式期に近いものかもしれない。229は横位の条線が施される。230・236は刻目文を口縁直下に配し、以下沈線文が施文される。230は口縁下にも刻みが施されている。235は爪形となるが、胴部は沈線文となる。231は口縁がやや外削ぎ気味となる。口縁下は無文となり、5条の沈線を施した後、斜位の沈線が配せられる。232は口縁直下に2条の沈線と縦の沈線で区画した後、その下位を格子目状の沈線で区画し、数段にわたって文様が繰り返されるものになるとと思われる。238以降は沈線による施文が行われている。

第6類 田戸下層式期 (第22図243～256, 図版10)

この時期の典型的な太沈線により施文される。この時期も流れ込みであり、表面の摩耗が目立つ。本来は焼成や成型も丁寧にやられていたものとうかがえる。

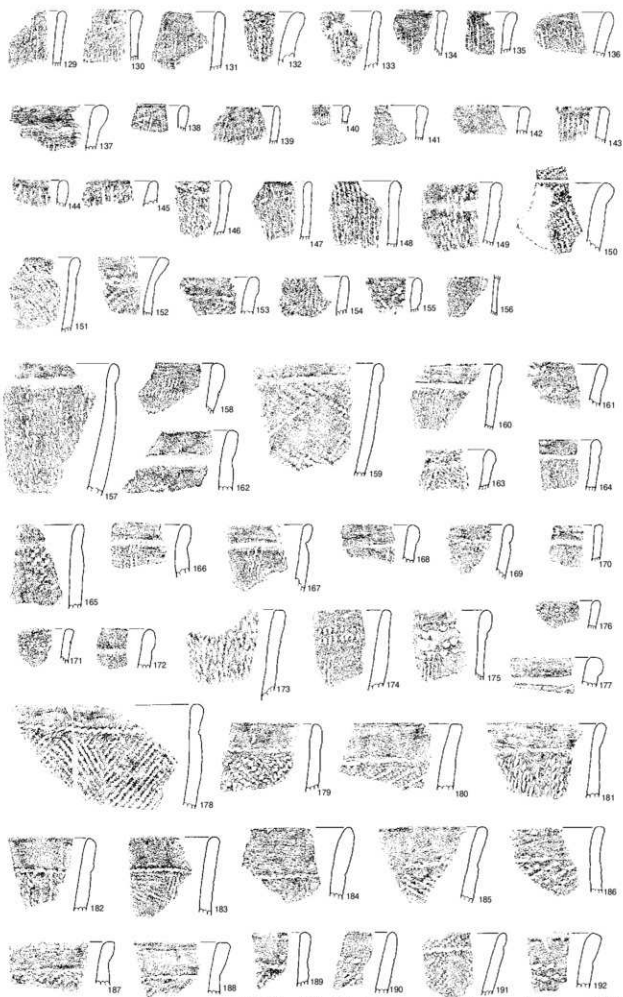


第19図 縄文土器 (1)



第20図 縄文土器(2)

0 (1/3) 10cm



第21図 縄文土器(3)

0 (1/3) 10cm



第22図 縄文土器(4)

0 (1/3) 10cm

第7類 野島式期・鶴ヶ島台式期（第23図257～284・第23・24図285～324、図版10・11）

257は口縁部直下胴部片である。細隆帯と棒状工具による沈線、丸棒状工具による刺突による施文がされる。内面は縦位の条痕が施された後、条痕を磨消している。258は口縁が尖頭状になる。縦位の沈線に横位の隆帯、隆帯上には刺突文が施され、下に向かい斜位の沈線がみえる。259はかなり薄手の土器であり、口縁は薄い角頭状で補修穴が残る。穴は表面よりの穿孔と思われる。内面の条痕は斜位で、繊維などは胎土中には見られない。幾何学文状の施文が施されている。260はやや波状口縁で口縁は円頭状に膨らむ。三角形をモチーフとしたかのような施文が施されていると思われる。摩耗が著しく、内面には条痕がはっきり残らない。施文されていない可能性もある。263は口唇がやや外反し、刻み目が施される。縦位と斜位の沈線の組み合わせで幾何学的な文様が施される。内面は横位の条痕が施される。内面には赤彩痕らしきものが残される。264は波状気味の口縁である。細隆帯により区画され、細沈線で区画内を充填する。内面は縦の条痕が施されている。265は胴部下位、尖底に近い部分である。斜位の沈線と蕨手状の区画とが組み込まれる。267からは沈線文である。主に272のように二等辺三角形に区画し、沈線で埋めるものが多い。276・278は縦位に条線が施され、276や280は円形刺突が見られ、鶴ヶ島台式期に近いと思われる。270・274・276・277・278には赤彩が施されており、赤彩された土器の比率が高く感じられる。285からは鶴ヶ島台式期の一群である。285～299までは口縁部である。器種は深鉢で、肩部に弱い張りをもつ深鉢である。ともに口唇部に刻みを持つ。口縁下には1条の沈線を施し、以下に三角区画が設けられ、また沈線が施される。290は丁寧な作りで、内面も仕上げられている。口縁部の刻みは、細い棒状工具（櫛状のもの）を横に押しつけて施している。293はゆるやかな波状口縁で、頂部には2連の粘土を貼り付けている。右側は頂部の片側のみが残るが、本体からの爪み延ばし、左側は粘土の塊を押しつけている。胴部の沈線はかなり雑で、半截竹管状の工具による施文であろうか。

300以降は胴部上半である。2条の縦または格子状の沈線で区画を施し、その間を沈線により埋めている。307・308のように沈線の交点などに竹管による円形文を施すものが見受けられる。316以降は沈線も雑に施され、地文の条痕が主となるものもある。323・324は棒状の工具を押しつけて施文している。

第8類 茅山式期（第24図325～340・第25図341～379・第26図380～396、図版11・12）

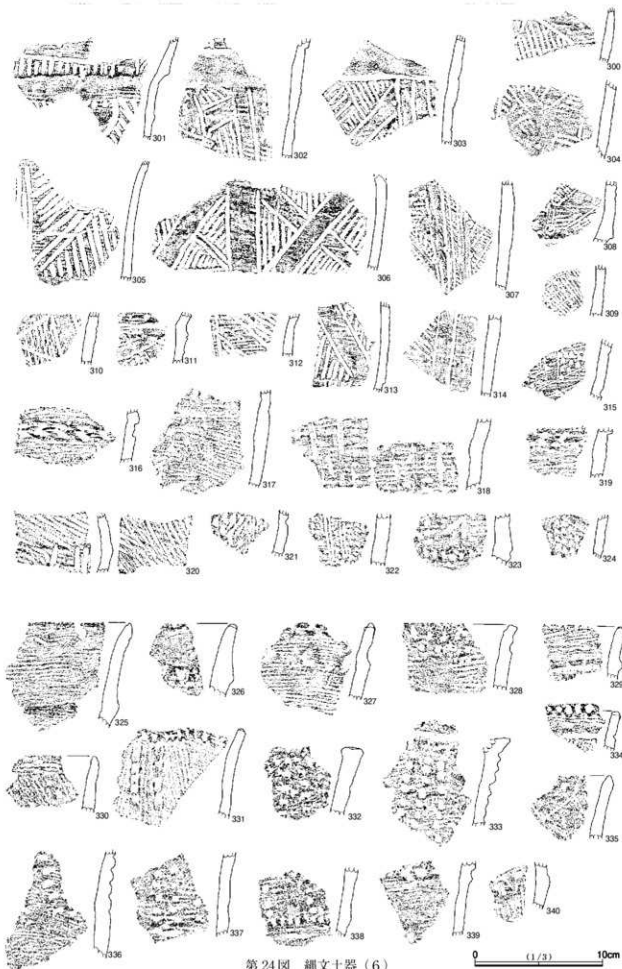
条痕文を主要文様とするものである。器形は深鉢で、胎土中に繊維が含まれる。325の口縁部はやや外反する。横位の条痕が施される。328は横位の条痕が粗く施されるとともに、やや大きめの刺突具による列点に加えられている。口縁はやや外反し、角頭状の頂部には刻みが施される。331～333・336～340の胴部には粗い列点の列が施されている。326・327の口縁には刻みが施される。332・333は波状気味の口縁となり、突起状のものが作り出されている。

341からは茅山上層式期と思われる。口縁部直下は横位の条痕、胴部に向けて縦位および斜位の条痕を施している。344は外反する口縁で、円頭状となる。口唇部には浅い刻みがみられる。345は施文が浅いため、口縁下に無文帯を設けたかのようにもみえる。346は粘土が生乾きのうちに指先で整形した痕跡が残る。口縁部はやや外反し、尖頭状になる。344の様に円頭状のもの、357・358のように外削ぎ状となり頂部に刻みを入れるものが目立つ。352・355には補修孔が施されている。363・364は列点のように見えるが、口唇部の刻みである。371は口縁が角頭状となり、櫛状の沈線で波状の文様を施す。内面は縦位の条痕が施される。赤彩の土器である。396は早期前半のものか。山形文を持つ口縁部片である。

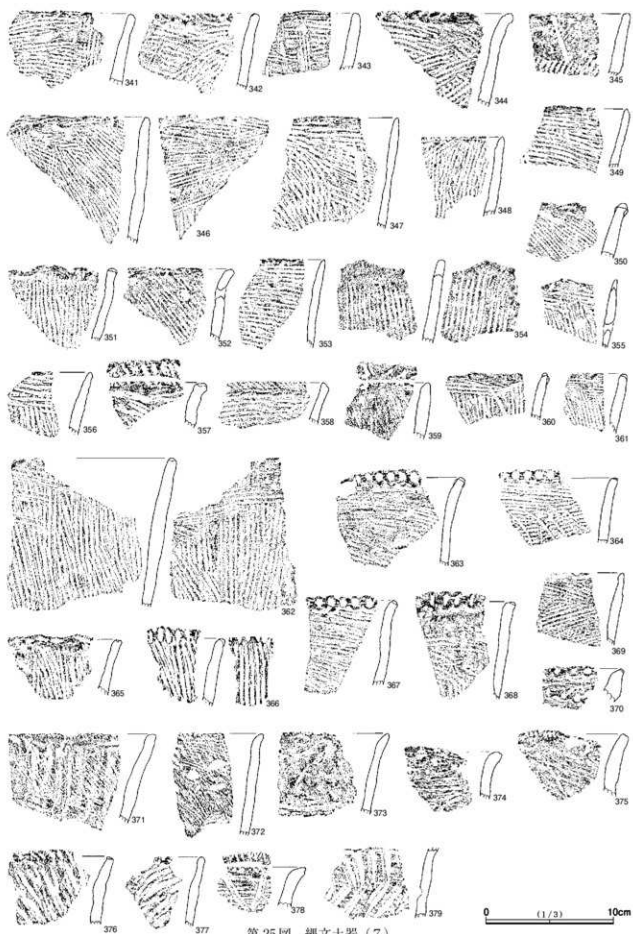
380～390は尖底部である。391はやや丸底である。393～395は条痕文が施文され平底である。395は



第23図 縄文土器(5)



第24図 縄文土器(6)



第25図 縄文土器(7)

指頭の押圧による整形が粗く施され、凹凸の目立つものとなっている。

第9類 条痕文系・東海系土器群（第26・27図397～450・第27図451～463、図版13）

条痕文系土器のうち東海系土器の影響のもとに成立したと考えられる土器群を一括した。早期後半の茅山上層式に続く一群の土器で、主体は、東海地方の上ノ山式期から入海1式期の範疇に収まる土器群と思われる。また、関東地方では、この時期の遺跡が少なく、東海地方のような型式設定がなされていないが、いわゆる下沼部式とよばれる土器群に比定される一群と言えよう。

隆帯によって文様が構成される土器、405～407は、粕畑式から受け継ぐ山形波状口縁を持ち、頭頂部から刻み目を入れた短隆帯を放射状に施すことにより文様が構成される。

408～411・414・415・418・419・430・439・447・450・454～459は口縁部に刻み目を持つ隆帯で山型文を構成するもので、413・423・424・425・460のように刻み目の替わりに絡状帯圧痕文が施されるものがある。また403・412のように刻み目を持つ隆帯が渦巻き状になるものもある。これらは上ノ山式期に比定されよう。

また、397・398～402・442～444・448・449・451のように刻み目の持つ隆帯が口縁に数段横走するものや螺旋状に施される土器は、入海1式期に比定されると思われる。

それらと同じく、主に指頭による交互押捺や絡状帯圧痕文で文様が構成され、折り返し口縁や沈線・貝殻腹線による格子状文や山形文などバラエティー豊かに文様が構成される土器群がみられる。416・417は口縁に指頭による交互押捺と絡状帯圧痕文が施されている。420～422・426～428は口縁以下間隔の詰まった絡状帯圧痕文で文様が構成される。426・427は折り返し口縁となる。また、431・440・446のように折り返し口縁または折り返し口縁様の口縁を持つが、刺突文を巡らして文様を構成するものもある。432～436は口縁に沈線による格子文と刺突文を巡らすことで文様が構成される。437は文様構成が、絡状帯圧痕文から貝殻腹線に置換されている。これらはいずれも入海1式期の範疇と考えられる。

2 第2群 縄文時代前期の土器群

第1類 関山式期（第28図1～26・第29図27～58、図版13・14）

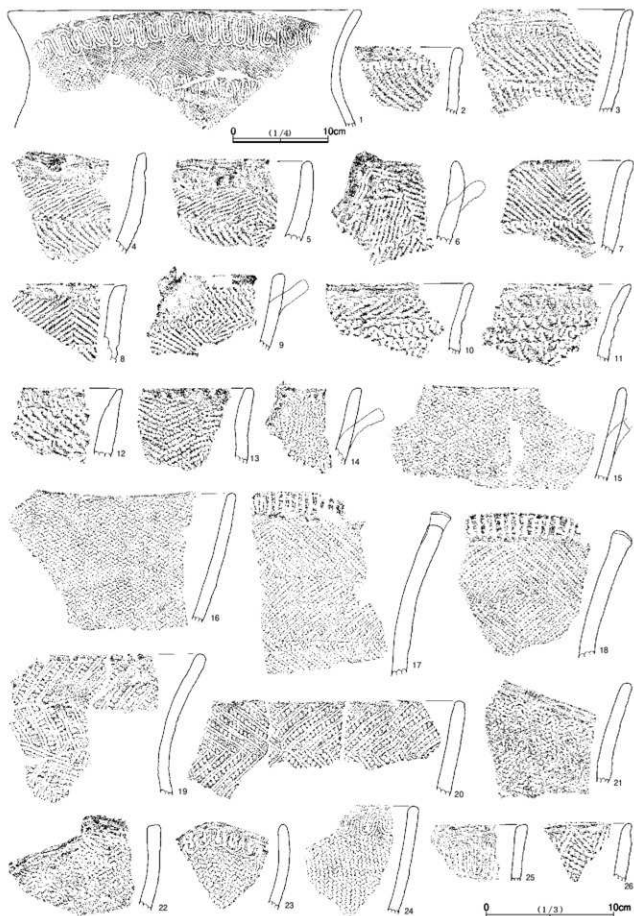
羽状縄文系の土器群である。出土した縄文土器の中では少ない分量ではあるが、破片そのものは大きめのものが目立ち、摩耗などは少ない。この時期のものも、谷からの出土となり、一括での提示となる。器種はその大半が深鉢である。1・19は頸部から外反するほか、4・5のようにやや内湾するものもみられる。16・21～23は口縁部が波状を示す。破片での出土のため波状の単位は不明である。6・9・14・15は片口の鉢である。17～20はLR+RLの撚り合わせにより文様を構成する。その他も結節縄文による羽状縄文を幾何学的に組み合わせて文様を構成したり、縄文端をループ状にして施文するなどこの時期の高度な縄文施文構成がみられる。また、1・23～25などは口縁部に串状工具による曲線文を施すものや、第29図28以降にみられるように沈線文による幾何学文など装飾性に富んでいる。28は口唇部の刻み目を鮫の歯様（7単位）に作り出している。32は片口となろうか。内面はよく磨かれている。外面は黒褐色で、内面には赤彩が施されているものと思われる。地文は縄文上に半截竹管を用いたかと考えられる浮き上がった文様で仕上げの良さを示す。43・44は竹管状の工具で○またはC状に組み合わせている。57・58は地文に縄文を粗く施した後、刷毛状のもので円形の施文を施している。



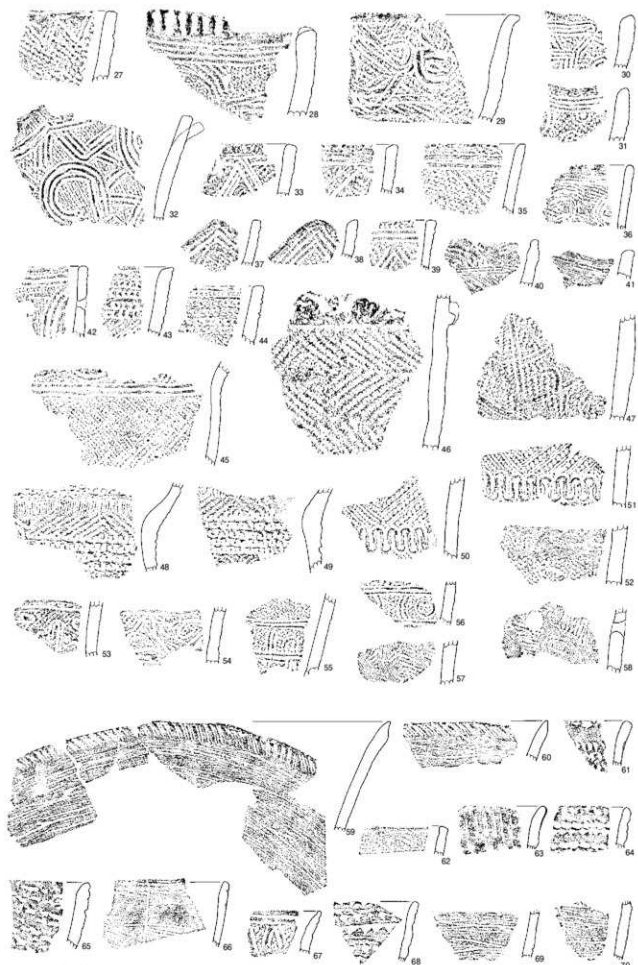
第26図 縄文土器(8)



第27図 縄文土器(9)



第28図 縄文土器 (10)



第29図 縄文土器 (11)

0 10cm
1/3

第2類 浮島式期 (第29・30図59～80, 図版14・15)

出土量は少ない。59・60は口唇をかなり細く削り出し、口縁部は折り返して段を設け、ヘラ先で沈線による施文が施される。61・63～68・76～80はこの時期の特徴的な棒状工具による押し引きの施文あるいは68のような三角棒状工具による刺突が特徴的である。78は薄手の小型の深鉢であるが、胴部の開きなどキャリバー系に類似する。

3 第3群 縄文時代中期の土器群 (第30図1～23, 図版15)

この時期の土器の出土は少ない。一括して記載する。1～3はいわゆる阿玉台式期。4～23は加曽利E式期のものである。13・17～21にみられる沈線間を列点で充填するものが目立つ。加曽利E2式期か。

4 第4群 縄文時代後期の土器群

第1類 後期前半

堀之内Ⅰ式期 (第31図1～第33図82, 図版15～18)

1は頸部にくびれをもち、横位の沈線で区画し、胴部に蕨手文の文様を施している。正面突起は1単位と思われる。同類のものとしては、太沈線で施文される9～26や第32図43・51・54等がみられる。2は口縁が平縁で、貼り付けの突起が現状で4単位みられる。本個体は全体で6単位想定される。口縁の突起より沈線が下り、この沈線に円形の集合沈線が加えられる。図示した正面のみが3条の沈線で構成されているが、他の突起につながる沈線は4条となっている。地文には細かい縄文が施されている。胴部にも菊紐状の貼り付けがみられる。文様が集合沈線化したものでも、4条を基準として施されるものは36・42・45、50は線としては8線であるが複線を1条と考えると4条となる。50は地文に縄文をしっかりと施し、沈線を施文している。本遺跡におけるこのタイプの基準は4条であろうか。第32図36・45は縄文を施さず3条である。第33図61・75は地文に縄文を施し3条である。

3は、前期の撚りを戻したような粗い縄文が施された粗製の深鉢である。正面には掴みだしたような突起がみられる。内面の口縁直下に横位の沈線が施される。4は無文の深鉢底部。縦の細いヘラ削りで整形されている。5は無文の鉢である。口縁は大きく開く。丁寧に仕上げられ黒色処理されたかのような黒褐色である。11は大きく胴部が張り出す鉢である。上部に蕨手状の施文がなされ、下半は無文となるか。第31図26～28・第33図60・61は文様が太沈線から細密沈線化したものである。緩く口縁が外反する深鉢である。堀之内Ⅰ式期の中でも後半に位置する類と考えられる。

堀之内Ⅱ式期 (第34図83～第36図141, 図版16・18・19)

第34～36図は堀之内Ⅱ式期になるか。第34図83・87は口縁直下に刻みを加えた細紐の貼り付けが施され、以下は磨消し縄文で装飾された平行沈線により区画され、三角文を意匠とする施文が胴部に施される。83は緩やかな波状口縁となり、87は平縁である。ともに横位粘土紐貼り付け部に突起状に作られた部位を意識したかのように横走する平行沈線が、この部分で避けるかのように下がっている。87においては三角文の合流部が緩く渦巻き状に巻かれている。84は頸部がやや長めで、緩やかに口縁が広がる大型の深鉢である。口縁直下に1条の沈線を設け、粘土紐による貼り付けの隆帯が4条1単位で施される。肩部は横位2条の沈線で区切られる。胴部には貼り付けの隆帯から2条の半円の沈線、そして錆足状に2条一組になった沈線が施される。胴部の隆帯以外は、横位の沈線から2条一組で全体に縦位の沈線が施さ



第30図 縄文土器 (12)

れている。86は、三角文を磨消し縄文で施し、胴下半を無文とする。88は腕になろうか。平面形は四角形を示す。二重の円(◎)が3段に施されている。内面はかなり円形に仕上げられており、丁寧に磨き上げられている。

89は波状口縁で3単位である。口縁下には細粘土紐による刻みを施した隆帯が巡り、波頂部に向かい同じく刻みのある貼り付けが行われる。波頂部および口縁下の巡る紐部との交点には、棒状の工具による小孔が施される。胴部は縄文のみ施される。底部にはアンペラ状の織物痕がわずかに残る。90も89と同じサイズの小型の深鉢である。緩やかな波状口縁を示し、現状での突起は1単位と思われる。口縁下には刻みを施した2条の細粘土紐が巡る。この紐が緩やかに上がる部分が残されるので、口縁は緩やかな3単位の波状口縁になる可能性がある。106～123は集合沈線による施文である。縦位の線を中心にかなり奔放な沈線の組み合わせがみられる。110・114は斜位の沈線の組み合わせである。118～124のように曲線を奔放に組み合わせるものなどもみられる。126～141は磨消し縄文による三角文を主とするものである。第2類 後期中葉(加曾利B式期)(第37図142～第52図358、図版16・19・20～26)

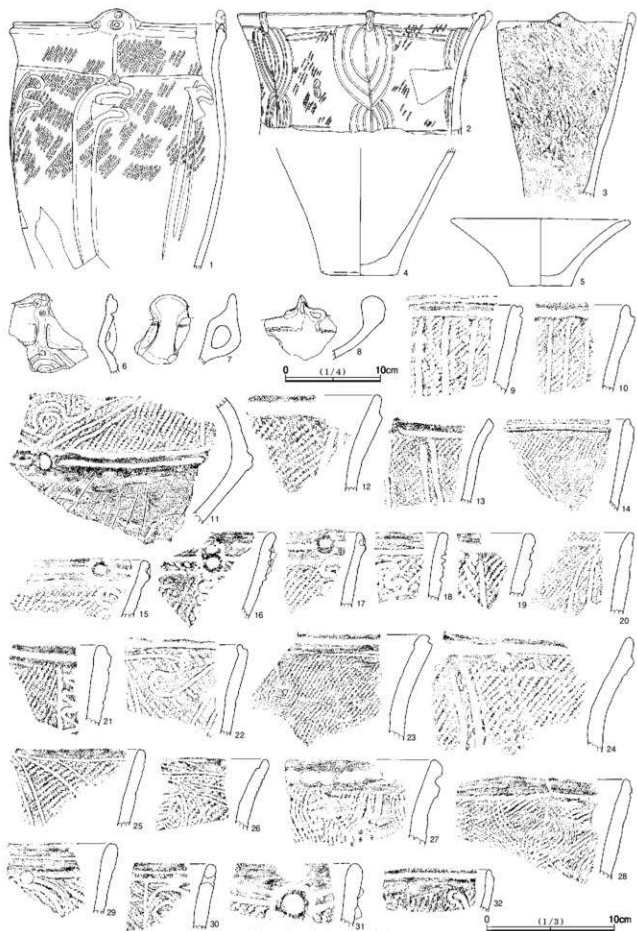
第37・38図に加曾利B I式期を取りまとめた。

142はこの時期の典型的な深鉢である。大きく外反する3単位の波状口縁を作りだしている。口縁直下に無文帯を設け、以下を5条の沈線間に縄文を充填した4段の帯状帯とする。以下は縦位の丁寧なヘラ削りにより無文化されている。図示した部位を正面とするならば、帯縄文帯をつなぐように鎖状沈線で6単位の区切られる。底面も調整されているが、わずかに網代痕が確認できた。143もこの時期の典型的な半精製とも言うべき深鉢である。3単位の波状口縁で6条の沈線で5段の帯状帯を設ける。地文の縄文は施されていない。各帯をつなぐかのような鎖状沈線は、図示した部位を正面として、おおむね均等に4単位施されている。

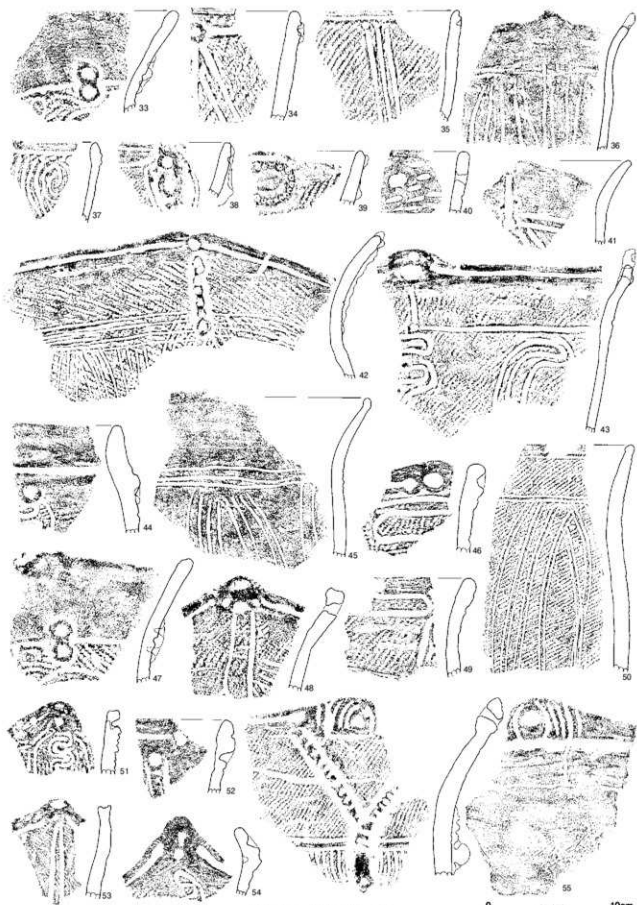
144は、上下の磨消し部を挟んで帯縄文帯が2段に施されている。かなり大型の深鉢となる。中段の磨消しはきわめて雑である。145～148は口縁が平縁のもので、口縁下～頸部の無文帯を設けず縄文を施文する。146は1段の無文帯を設けている。横位沈線は鎖状沈線で区切られる。149は縄文のみ施文されたものである。150は肩部が張り、口縁が内傾する。口縁下には、5条の沈線による4段の帯縄文帯が巡る。胴部は縄文のみ施文される。151は口縁部が波状をなし、頸部で屈曲し胴下半がすぼむ。口縁には棒状工具による刻みが施され、頸部の紐線様の横位線にも刻みを付ける。胴部には帯縄文帯が5条～6条巡る。器面が摩耗しており、単位を確定しきれなかった。

152は粗製の深鉢である。口縁には紐線が巡り、刻みが施される。地文の縄文は粗く雑に施される。153は大型の鉢で、口縁は波状を示すが遺存部から見て4単位になろうか。胴部の帯縄文帯は4段である。口縁下の縄文は浅く施される。胎土中に石英粒などを多く含み、内面の仕上げは丁寧に施される。

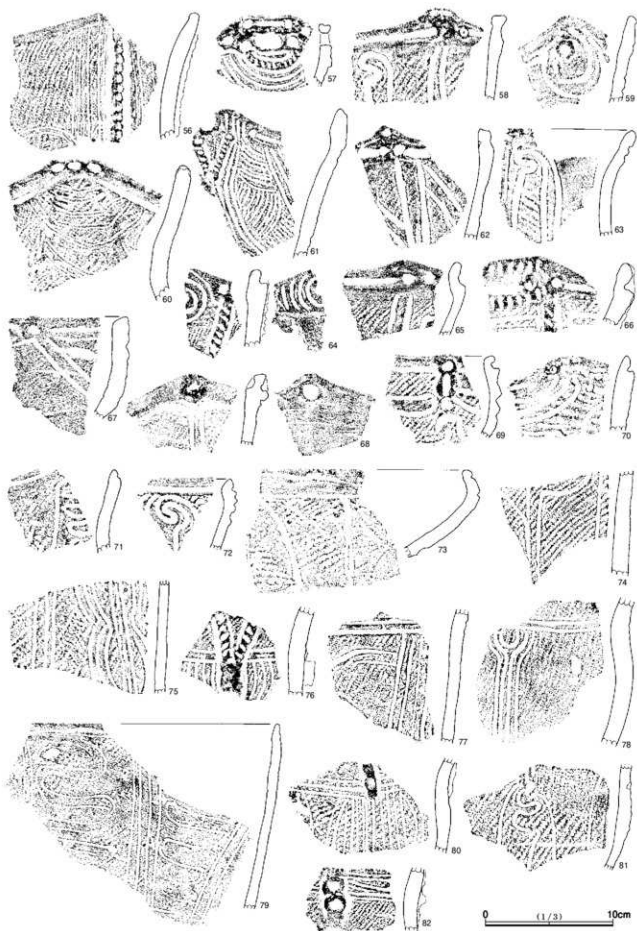
154はほぼ完形の小型の鉢である。肩部から口縁にかけて内湾する。胴部帯縄文帯は1段で、鎖状沈線による区画は6単位である。155は同じく小型の鉢であるが、口縁は外反する。細い帯縄文帯が2段、区画は6単位と思われる。胴部以下の地文の縄文は浅く施文される。内面の仕上げは丁寧だが、外面はいささか雑な感がある。156も小型の鉢である。帯縄文帯は1段、区画はみられない。口縁部突起は4単位か。158は台付きの鉢になるか。159・160は深鉢である。157はほぼ完形の船形鉢である。両端を軸先縁にまみ出している。ヘラ整形痕はあるが特に文様等は施されない。検出されたグリッド、共存遺物などから加曾利B I式期と想定した。



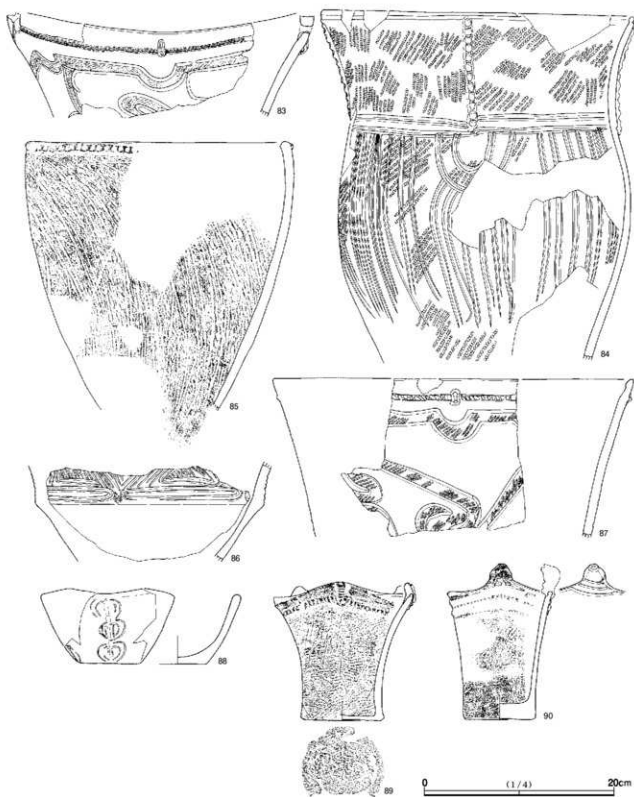
第31図 繩文土器 (13)



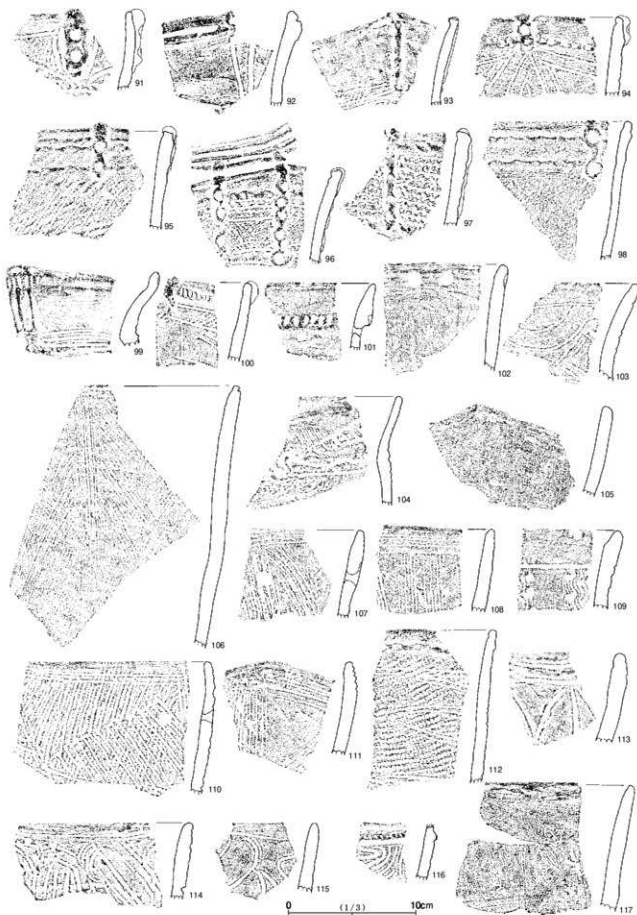
第 32 図 縄文土器 (14)



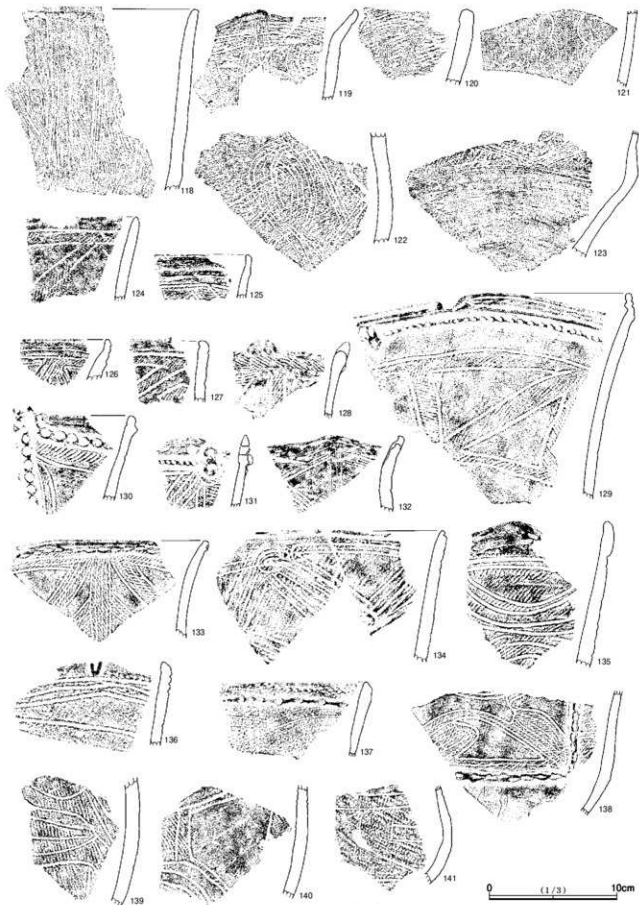
第33図 縄文土器 (15)



第34図 縄文土器 (16)



第35图 縄文土器 (17)



第36図 縄文土器 (18)

第38～41図は加曽利BⅡ式期である。161は正面に1単位の突起を有する平緑の鉢になろうか。口縁下には対弧文が施される。162は小型の深鉢である。外面口唇直下に棒状工具による刺突が行われ、そのまま縦位に沈線を引いている。頸部から肩部にかけて無文帯を設け、同じように刺突から沈線を作り出している。波状口縁は5単位が想定される。163は5単位の波状口縁を持ち、波状間には小突起を作る。この深鉢は加曽利BⅢ式期に近いものか。164は頸部まで無文とし、胴最大径肩部に施文している。

165は対弧文を施し、胴下半を無文とする。加曽利BⅡ式期によく見られるタイプである。166は粗い縄文を施している。腰高な深鉢で、口縁は開く。189は口縁下に横位の縄文帯を1条設けた後、綾杉文帯を胴部に1周させている。胴下半は沈線で区切った後縄文を施す。190は小型の鉢で、口縁に横位沈線を施し、頸部に1条の刺突文、胴部には縄文を施す。191は口唇部をなで上げ、胴部には粗い縄文を施している。内面の仕上げは丁寧である。

第39・40図167～197は浅鉢である。167は地文に細かい縄文を施し、磨消し縄文を多用した文様を作り出す。三角文や葉っぱ様文などが配置される。加曽利BⅡ式期の古手かと思われるが、堀之内2式期にさかのぼるかもしれない。168は正面に小突起を設け、波状口縁は3単位と思われる。口縁下を2条の沈線で区切り、中に棒状工具による刺突列が施される。胴部以下は、弧状に区切られた磨消し縄文が施される。169は大型の鉢で、口縁から肩部は磨き上げられている。168と同様、肩部に2条の沈線間に刺突列が施される。胴部には縄文の施された横位帯条文が2段施されている。火を受けた明瞭な痕跡が底部に残されている。170は平緑で、169に準じた横位縄文帯が2段みられる。171は口縁が大きく外反し、肩部を2条の沈線で区切り、胴部には弧状の区画に縄文を充填する。172は方形に近い鉢である。波状口縁は5単位で、胴部はほぼ垂直に立つ。口縁から頸部を無文帯とし、胴部には斜線文が施される。173は口縁がやや内湾する。横位の沈線を口縁から頸部にかけて施し、以下は無文とする。174は3単位の波状口縁が大きく張り上がる。胴部には斜線文が施される。175は浅い碗状で、正面の貼り付け突起は1単位のみである。横位沈線と刺突が施される。176は5単位の波状口縁である。胴部上段が弧状沈線文で区画された縄文帯、下段が横位縄文帯である。177～181は平緑で、斜線文を施すものである。刺突を施す位置が胴部最大径部にあるもの(177・178)、口縁に刻みを施し無文帯を設けるもの(第39図179・181、第40図194)がある。179は底部にも刻みを施しているが、沈線の施文は雑である。180は正面に突起を設けている。182・183は沈線が浅く、183は口縁の刻みも粗い。184は黒色処理をした可能性がある。底部にアンベラ痕がはっきり残っている。

185～188は無文の大型の鉢である。185・186は口縁が内湾気味に立ち上がり、口唇内面に刻みを施している。187は緩やかな波状口縁で、5単位が想定できる。肩に稜線を設けやや外反する。皿状になるか。188は細かい波状を設けている。現存する部位で7単位を数える。全体の1/3の遺存であることから、20単位前後の波状となろうか。口縁下頸部に稜を作り出し、口縁がやや内湾気味に立ち上がっている。192は小型のもので、手捏ね感があり厚手である。内外面とも丁寧に磨き上げている。193は小型の鉢で、4条の沈線で口縁部文様を作る。口唇部のみには縄文が施されている。内外面・底部とも丁寧に磨き上げられている。195は丸底に近い碗状で、口唇下に2条の横位沈線、その下には縦沈線による文様帯が設けられ、無文帯、斜線文と4～5段に文様帯が設けられている。196はそれに比べ粗雑な作りで、口唇部には雑な刻みが施される。口縁下と胴部下位にそれぞれ1条の沈線が施される。197は4単位の波状口縁を持つ鉢である。外面は底部を含めて直径9cmの円形であるが、胴部中央より波状部が大きく外反し、平面形は四

角形となる。外面は底部を含めて縄文が施され、口縁内面に2条の沈線が巡り、波頂部内面には半弧の組み合わせによる縦位頸状文が施される。内面は磨きも含めて丁寧な作りである。198・199は精製の船形の鉢である。198は完形で、時計回りに平行沈線と斜状沈線との組み合わせにより、左右対称に施文される。内外面とも黒色処理されたか。内面の仕上げは丁寧である。底部内面は何かを叩いたか磨りつぶしたかのように器面が荒れている。199は底面を欠くがほぼ完形である。内面は丁寧に磨きあげられるが、外面は雑な仕上げである。斜状沈線で器面を飾るが、3条を1単位として施す部分と、2条らしき部位もあり定かではない。両端部分を多少つまみ上げている。

第41図200～223は台付鉢である。200は口縁が平緑で、口唇下に斜行沈線による横位施文帯を1段設け、無文帯を挟んで、台の付くあたりに再度横位沈線で区画された斜行沈線文が1段入る。201は5単位の波状口縁である。波状部から胴部上半を無文とし、以下5条の沈線で区画した細い4段の横位縄文帯を設ける。台部は失われている。202・205は平緑で、口縁から文様帯1段目は横位沈線、2段目無文帯、肩部の稜線に刻みを施す。胴部は半弧による沈線により器面を埋める。206は横位沈線ではなく斜行沈線が施される。

203は202に類似するタイプで、1段目文様帯は縄文が施されている。204はラッパ状に口縁が広がる。207はやや大型の台付鉢で、口縁を無文とし、肩部には刻みが入る。胴部には太くはっきりとした斜行沈線による施文が施される。209は口唇部を欠く。口縁は無文で、肩部に刻みを施す。胴部は斜行沈線による格子状の文様が施文され、台上部は無文、中位下には斜行沈線による格子状文を施す。無文部はよく磨かれている。211・214は、胴下半に斜行沈線を羽状に施している。214・215の口縁は緩やかな波状を示すとともに、4または5単位と推定する。213は4単位の波状となろうか。208は基台部のみである。横位沈線により施文される。216～223は基台部である。無文のものや台下端部に刻みを施すもの、横位の沈線を胴部の施文に引き続くように施すものなどがみられる。210は磨消し縄文による入組文で施文される。口縁は基本的に平緑であるが、4単位と思われる弱い波状部がみられる。これは加曾利BⅢ式期に分けるのがふさわしい可能性もある。

第42図～第52図までは、加曾利BⅢ式期と想定されるものをまとめてみた。

第42図・第43図は主に精製と考えられる深鉢類で、波状口縁が多くみられ、波状部は4～5単位が多くみられる。第44図～第49図は粗製の深鉢であるが、平緑のものがほとんどとなる。

224は波状口縁直下に刻みを設け、磨消し縄文、無文帯、横位沈線あるいは細隆帯貼付後刻みを施し、磨消し縄文により入り組み文を施すという類型化したものである。228は224と同じ意匠であるが、磨消しは雑である。236はいわゆる瓢型となるか。

第44図237からは粗製の深鉢である。237・242～244は頸部無文帯を設定後に口縁部および胴部に格子状沈線文を施している。246～252・254も同様であるが、246・247・252の頸部には横位沈線が施されず、無文化している。253ははっきりとしない横位沈線が1条肩部付近にあるものの、斜状沈線文と重複しており、明確な区画としての沈線ではないようである。249・254・255～258は2条の沈線により頸部無文帯が構成される。259は胴部下位に縄文を施文する。口縁部～胴部上位は格子文と横位沈線により文様帯を施している。260～287は紐線文を施した一群である。口縁部に1条、肩部に1条の紐線文を設ける。260は2条の紐線文の間に横位沈線を施す。胴部は、地文の縄文の上から菱杉状に斜行沈線を施している。261～263は、口縁下に波状の横位沈線、胴部は縄文を地文とし、弧状の沈線を引いている。264・265は

一段古い加曾利BⅡ式期の粗製土器になる可能性がある。267は口縁下に紐線を1条設け、上部は横位沈線、下部に斜状沈線をともにかなり粗く施している。270～274・277は口縁～肩部にかけて横位沈線を施し、胴部に縄文を施す一群である。268・270～272は横位の沈線を縦の沈線で区切るように施している。274・277・282は口縁部が長く内湾する。276は壺状とも言うべきか。279は無文で、内外面ともにあまり丁寧な仕上げではない。283・284・286は縄文のみの施文となる。

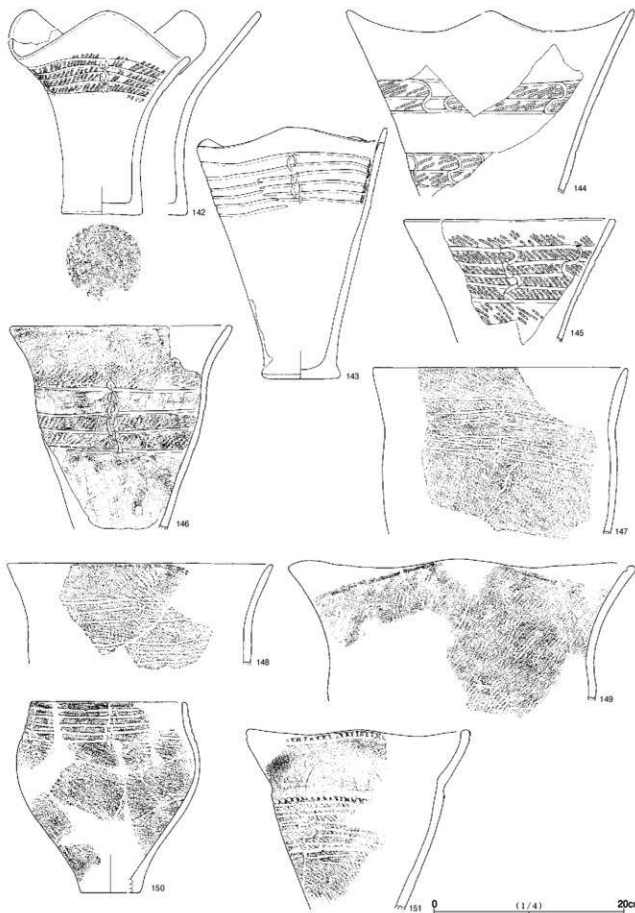
第50図288は、5単位の波状口縁をもち、胴部中に横位の斜状沈線を施す。口縁径は30cmとかなり大型の浅鉢である。加曾利BⅡ式期～BⅢ式期となるか。内外面ともによく磨かれている。289も直径が30cmに近い。波状口縁は5単位と想定される。刻み列下に集合沈線を施す。焼成は良好である。292の刻みはヘラ状工具で施し、文様帯内は縄文を施す。294は口縁4単位となろうか。底面を円形で区画し、縄文を施している。297・300・301・302は平縁の浅鉢で、平行沈線で区画し、縄文を施す。297の底面区画は無文で、精製された浅鉢である。300は底面に縄文を施している。摩擦しているせいか仕上がりがやや粗く感じられる。302も底面区画は無文で、内面は丁寧に磨きあげられている。291も30cmに近い浅鉢で、正面に円形の粘土貼り付け文を施す。1単位と想定できるため正面と思われる。磨消し縄文で器面を飾るが、区画する沈線は半弧状あるいは不正円形の組み合わせである。209・299・307は小型の鉢であるが、いわゆる瓢型に類似してややすぼまり気味に口縁が立つ。290は頸部を沈線で区画し、胴部に縄文を施す。303は刺突文が肩部に巡る。305は口縁部に横位沈線を施し、胴部は縄文を施文している。口縁は内反し、やや肥厚する。

295・298は皿状に近くなる。口縁下に撚糸文による文様帯を設け、以下に磨消しを伴う半弧文を施した後、撚糸文を施している。沈線は細い。口唇には3cmほどの粘土紐の貼り付けが行われ、正面から見ると小さな頂部が2か所あるように見える。外面には火にかけられた痕跡があり、内面も煮沸痕がみられることから、煮炊きに使われた可能性がある。

308は碗である。口縁に1単位突起を設ける。文様帯は2段で、区画した凸帯に円形の棒状工具による円形の刺突を施す。口縁下1段目の文様帯は、沈線による三角形および鋸歯状の区画内を交互に磨消す。2段目はV字形に磨消している。底面は無文である。正面突起の右側に補修孔がある。内面は丁寧に磨かれる。312は口縁が高く張り出す。口唇部には刻みが施され、以下は無文となる。胴部には沈線による松葉状の文様が施される。313～316・330・332・345は、口縁部・胴部・胴下部の3段を沈線で区画し縄文を施す。313の胴下部は斜位沈線が施される。317は皿状に近い。318～329・336～339は口縁部に無文帯を設け、以下はほぼ全面に縄文を施す。327は口縁を肥厚させている。327・333の胴部には磨消し縄文を施す。328・329は口縁部に紐線文が施される。

343・344・346は船形の鉢である。343・346は両端が船の軸先様に持ち上げられる。343は黒褐色を呈し、内面はよく磨かれるが、外面は粗いヘラ削りにより整形される。346は底部内面に煮沸様の痕跡が残る。赤褐色で、外面は粗い縄文が施文される。344は船形の両端を失うため正確な形状は不明である。(船体)中央部が高く上げられる。口縁部には刻みが付けられ、346同様に胴部全体に縄文が施される。

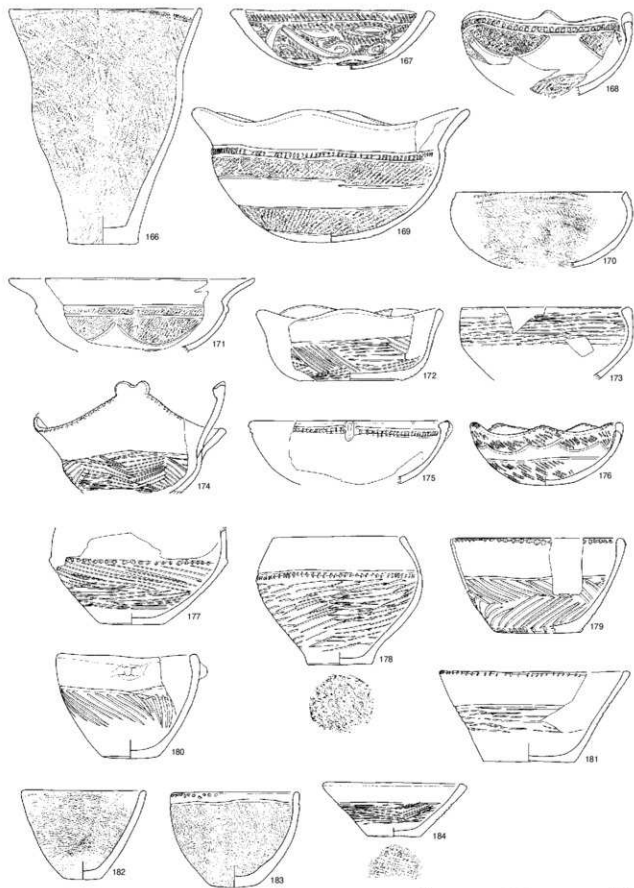
345・348～350は台付きの鉢である。ともに台部を欠く。345は浅鉢に台を付けたという形態である。口縁は弱い波状をしめし、両端で頂部状となる。348は丸みを帯びた胴部である。堯に台を付けたかのようである。弧状に組まれた磨消し縄文が胴中央に施され、胴下半は1条の沈線で区切られ縄文が施される。350は台部を欠く。肩が張り出し、口縁が大きく外反する。斜位沈線と無文帯が組み合わせられる。台部は



第37図 縄文土器 (19)

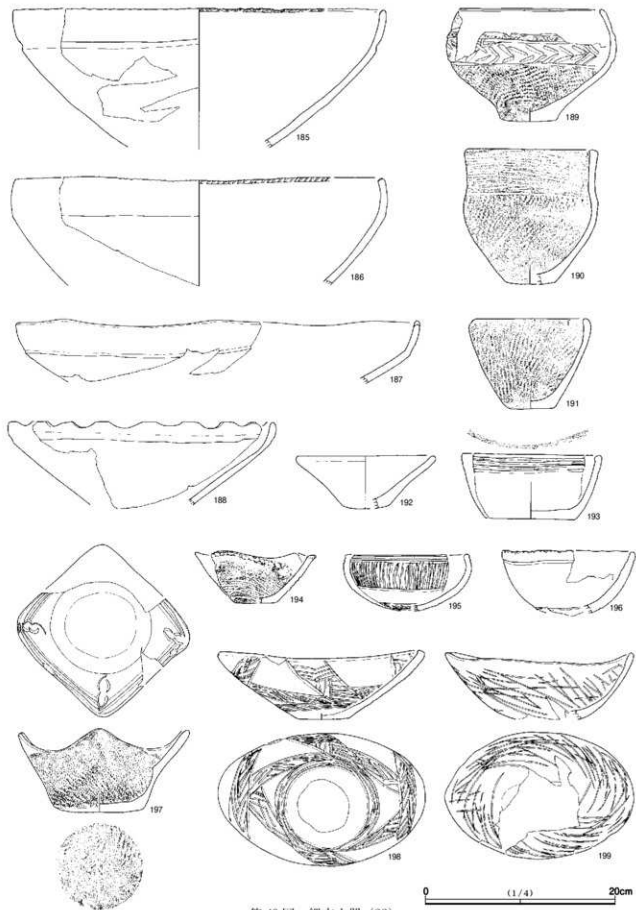


第38図 縄文土器 (20)



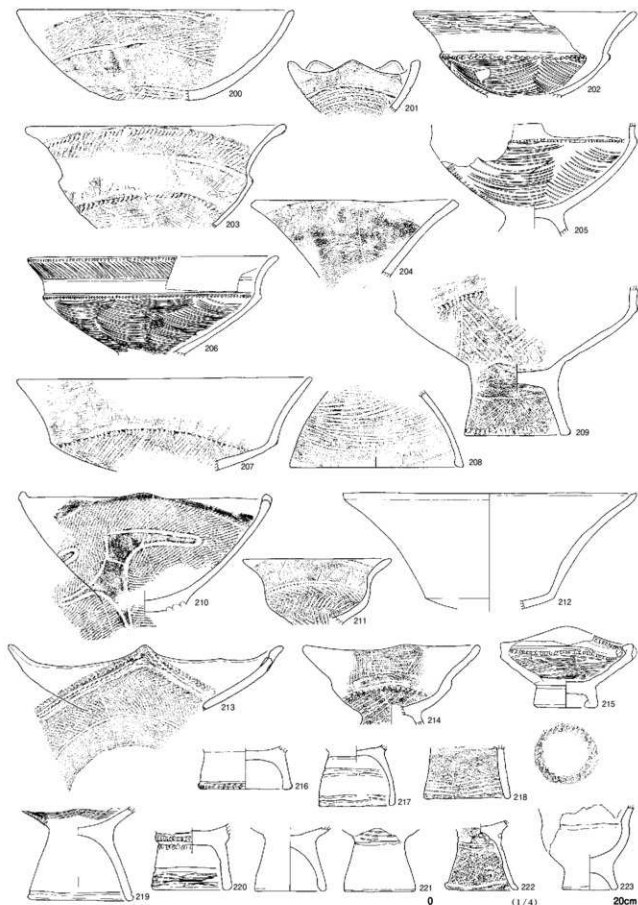
第39図 縄文土器 (21)

0 (1/4) 20cm

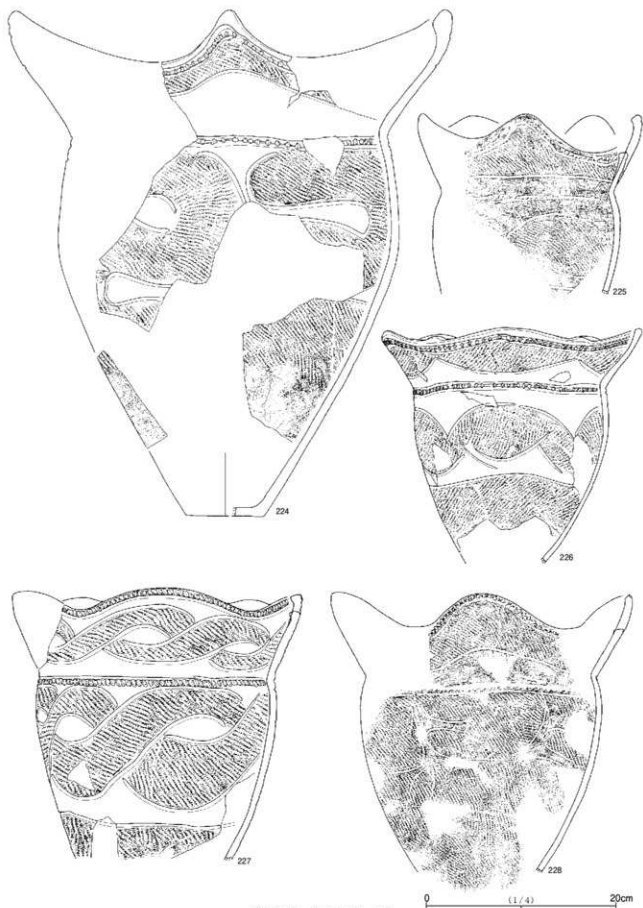


第40図 縄文土器 (22)

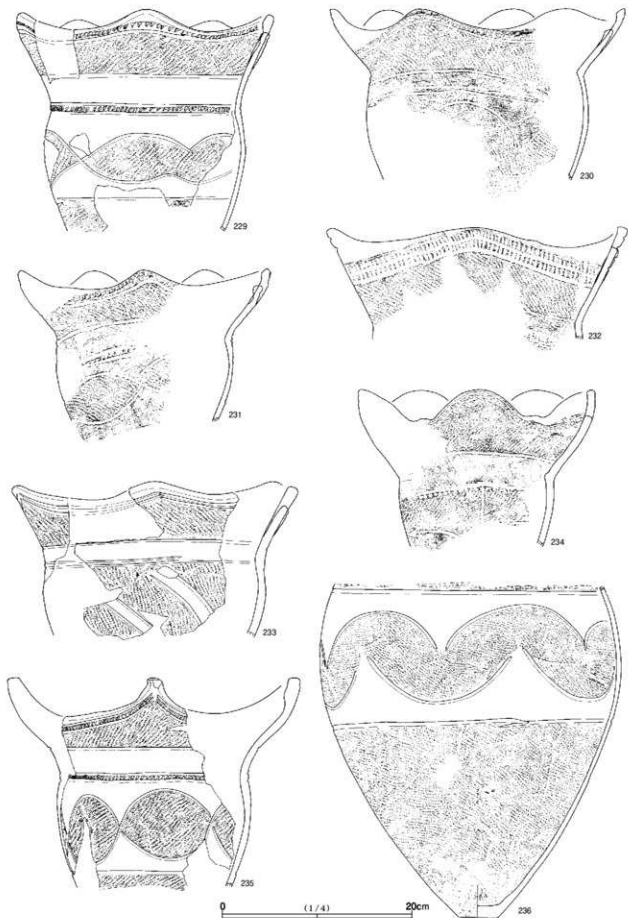
0 (1/4) 20cm



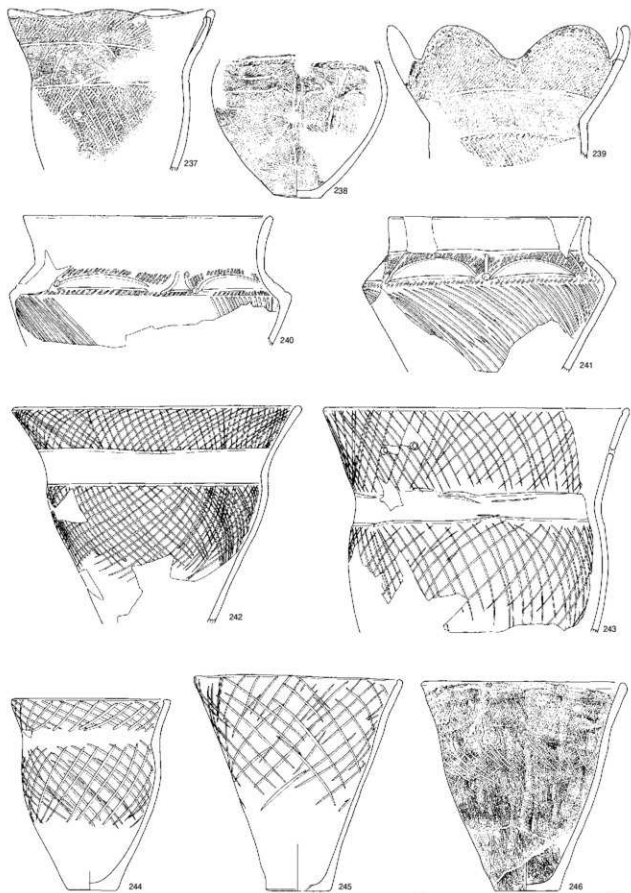
第41図 縄文土器 (23)



第42図 縄文土器 (24)



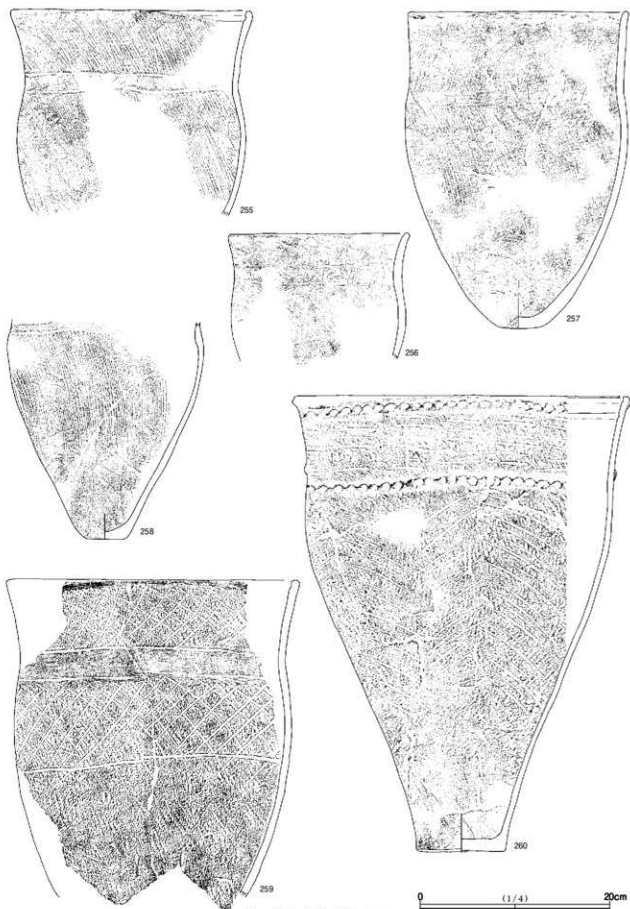
第43図 縄文土器 (25)



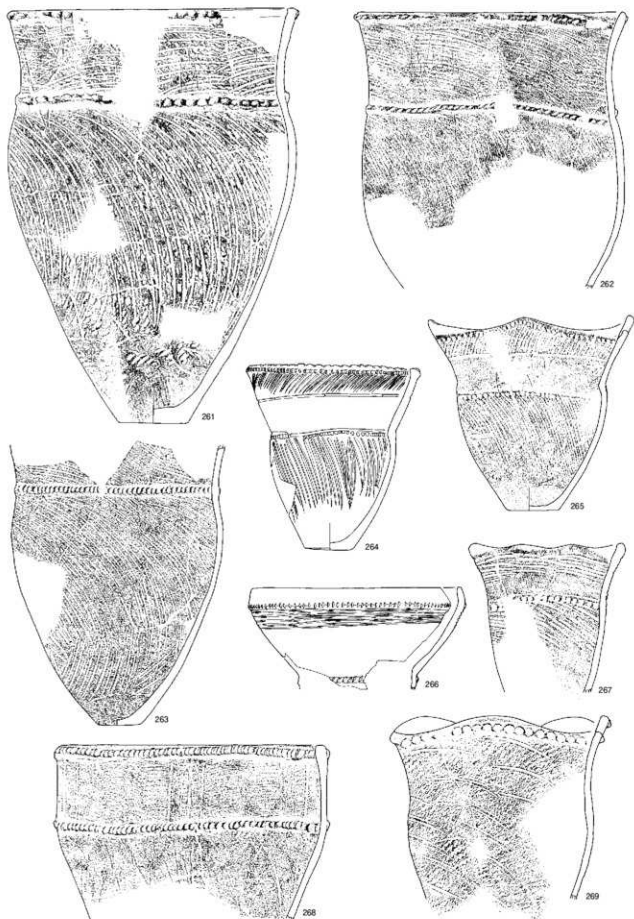
第44図 縄文土器 (26)



第45図 縄文土器 (27)

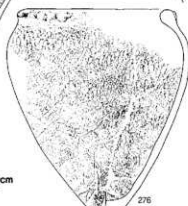
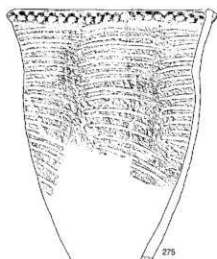
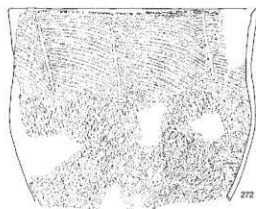
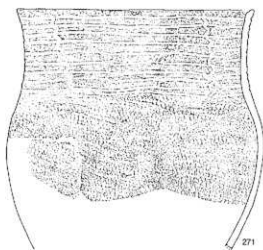


第46図 縄文土器 (28)



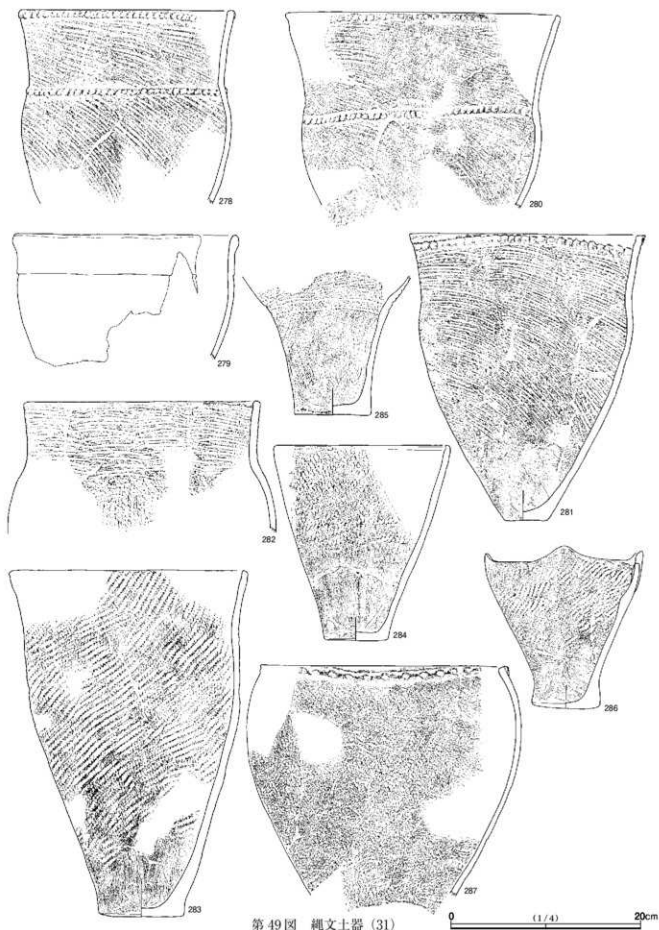
第47図 縄文土器 (29)

0 (1/4) 20cm

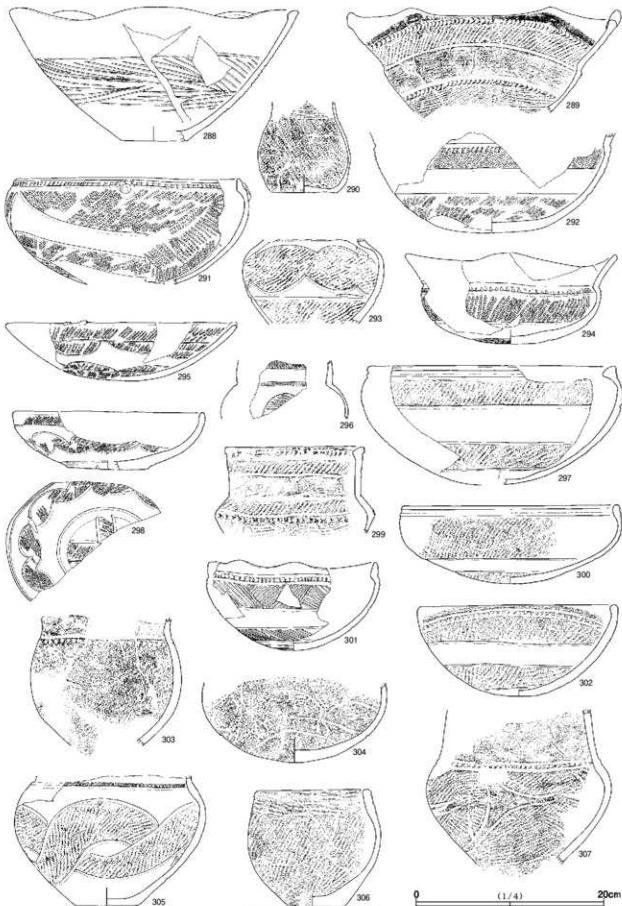


0 (1/4) 20cm

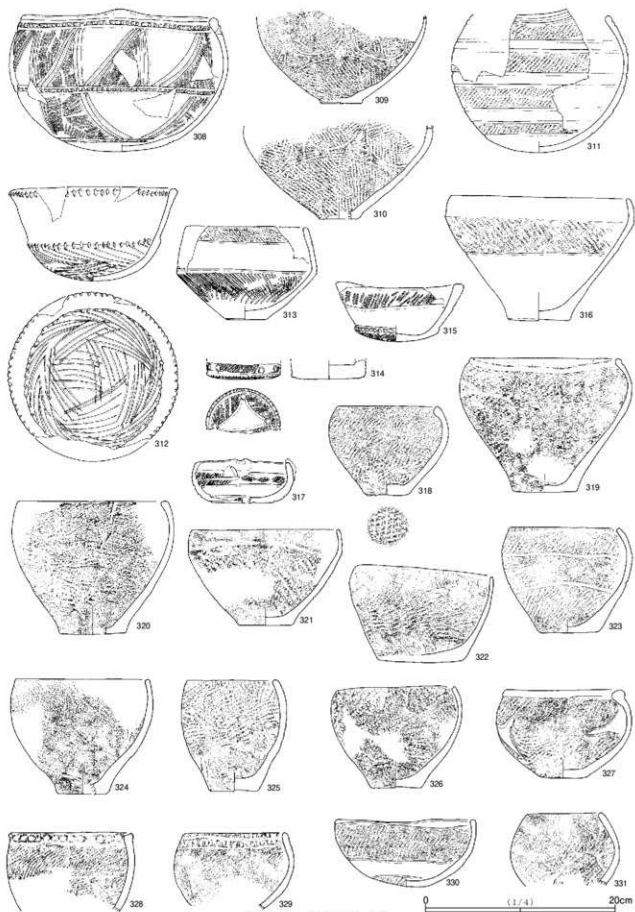
第48図 縄文土器 (30)



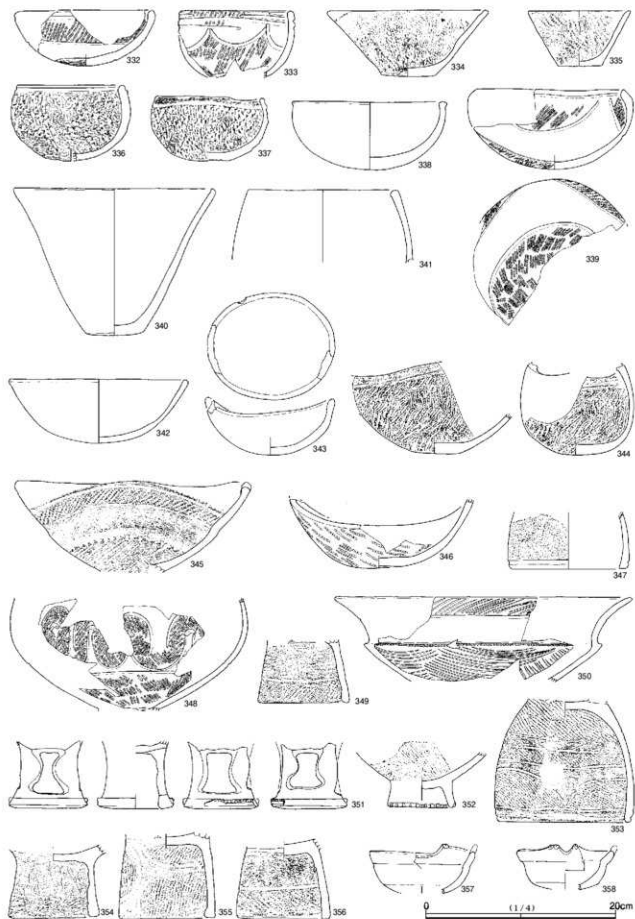
第49図 縄文土器 (31)



第50図 縄文土器 (32)



第 51 図 縄文土器 (33)



第52図 縄文土器 (34)

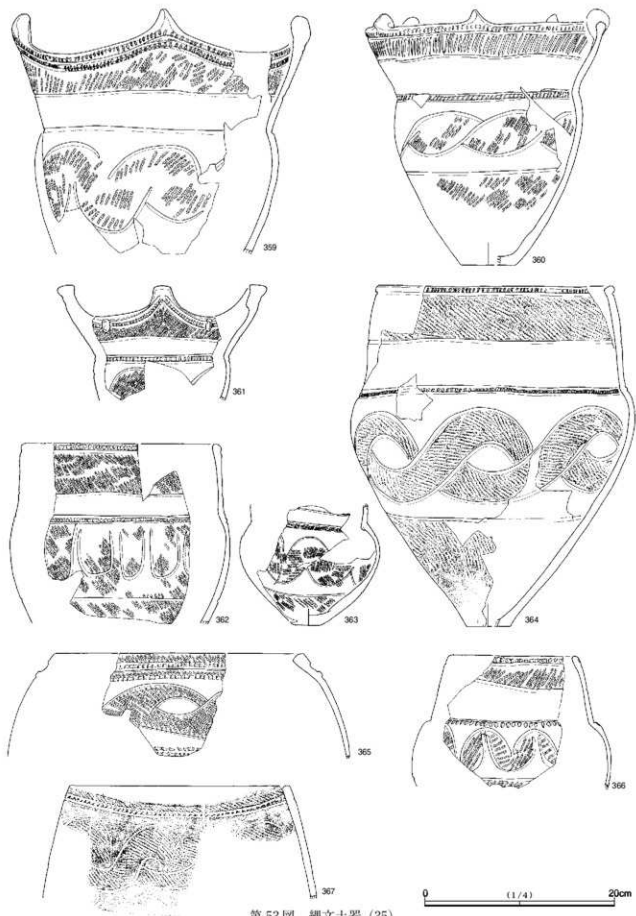
352のように台部取り付け部まで沈線が施されるものと考えられる。347・349・351～356は台付きの脚部である。347は台部最下位に横位沈線が施されている。354は台部中位に横位沈線が施される。349・356は横位沈線で区切り、沈線上は無文、以下は縄文を施す。353・355は磨消し縄文が施されている。351は3方に透かしが入る台部である。台部下端には刻みが施される。357・358は無文の小型の片口鉢である。出土状況などから本類に含めた。

第3類 後期後葉（曾谷式期）（第53図359～第54図379、図版26・27）

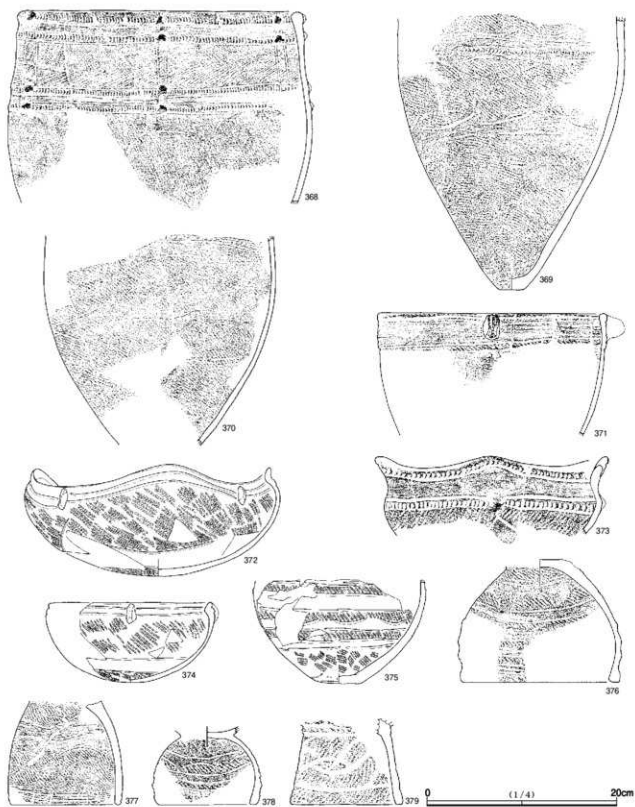
第53図に示したものは曾谷式期の精製の深鉢である。359・361は4単位の波状口縁となる。359は波状部があまり発達せず、口唇下の刻みが2条巡っている。頸部を沈線と無文帯で区画し、胴部は連続半弧状文により区画された磨消し縄文で飾る。361は小型であるが波頂部が大きく円頭状に張り立つ。口縁部の刻みは1条である。頂部間の口縁部の刻みに台形状の貼り付けが附される。胴部を区画する沈線間の刻みは、口縁部と同様の四角いへら状工具によりくっきりと施文される。無文部は丁寧な磨きが施されている。

360は、平縁の口縁に波状につまみ上げられた感のある突起を4単位設ける。口縁の刻みは1条巡り、その直下には縦位沈線帯を施す。無文帯を挟んで刻みを持つ2本の横位沈線がみられる。胴部は連続半弧状文を磨消し縄文で飾り、直下に区画の沈線が回り、胴下半を縄文で埋めている。摩擦が著しい。362～366は、口縁が内反しながら立ち上がる。口縁部に刻みを設け、縄文帯、無文帯、頸部区画沈線（刻み付き）、磨消し縄文による連続半弧状文帯、沈線で区画し縄文を施すという類型化した施文がみられる。ただし362は連続半弧状文ではなく、U字状の連続文となっている。連続半弧文の省略形であろうか。365・367は壺状になるものである。

368～371はこの時期の粗製の深鉢である。368は、口縁部と肩部に2条の沈線間に施された半截竹管による爪形状の刻みが巡る。2条の沈線により4～5単位の区画に分けられ、区画内は口縁部文様帯は、羽状沈線文により充填される。この区画の交点には方形の貼り付け文が附される。上下の区画文線と合わせると縦に4個となる。胴部は浅い縦の条線で施文する。369は、胴部を区画する刻み目文の上下に、連続半弧状文による磨消し縄文帯が施される。沈線で区画された胴下半部は縄文により施文される。371はやや深い鉢である。やや大型のつまみ状の貼り付けを1単位取り付けしている。口縁部の文様帯は数条のランダムな横位沈線が施される。372は方形に近い鉢である。波状口縁で、頂部は4単位となり、低くなった部位につまみ状の突起を4単位貼り付ける。口縁下には2条の沈線が巡る。沈線の下には磨消し縄文が施される。以下には、沈線で区画した無文部を設け、底面にはさらに縄文を施す。非常に丁寧な作りである。373は口縁部刻みと胴部の縄文がみられる。374は平縁で、372と同様に、口縁部4単位のつまみが附される。口縁直下の2条の沈線、磨消し縄文帯、無文帯、底部円形縄文と施文構成は同じである。375は鉢より椀に近くなるか。沈線に区画された磨消し縄文帯と無文帯の組み合わせとなる。胴下半の磨消し縄文帯には下側に半弧状文が連続してみられる。横位沈線は直線をつないでいるかのようである。底部直上に串先様の工具による刺突が施されている。376は台部である。かなり摩擦しているが赤彩の可能性もある。横位の沈線および縄文帯による区画が数段みられ、取り付け部から縄文帯、沈線、弧状（山形）磨消し縄文帯、隆起縄文帯と言った組み合わせがみられる。377・378は、縄文帯と磨消し弧状文（山形）縄文帯という、この時期に多くみられる典型的な施文となっている。379は取り付け部直下に刻みを付けた沈線を施し、全面に粗い縄文を施した後連弧文沈線を加える。



第53図 縄文土器 (35)



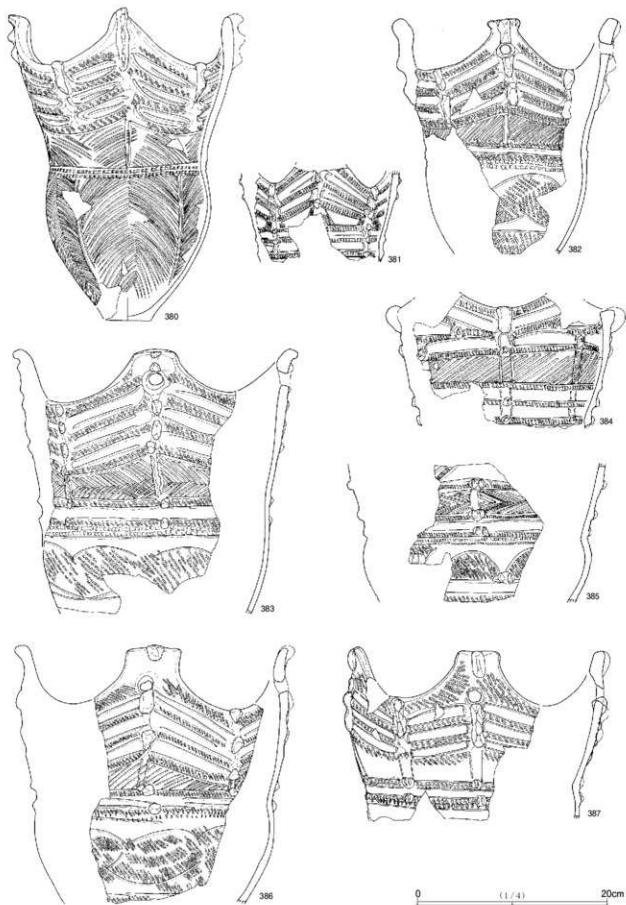
第54図 縄文土器(36)

第4類 後期後半（安行1式期）（第55図380～第62図455、図版27～29）

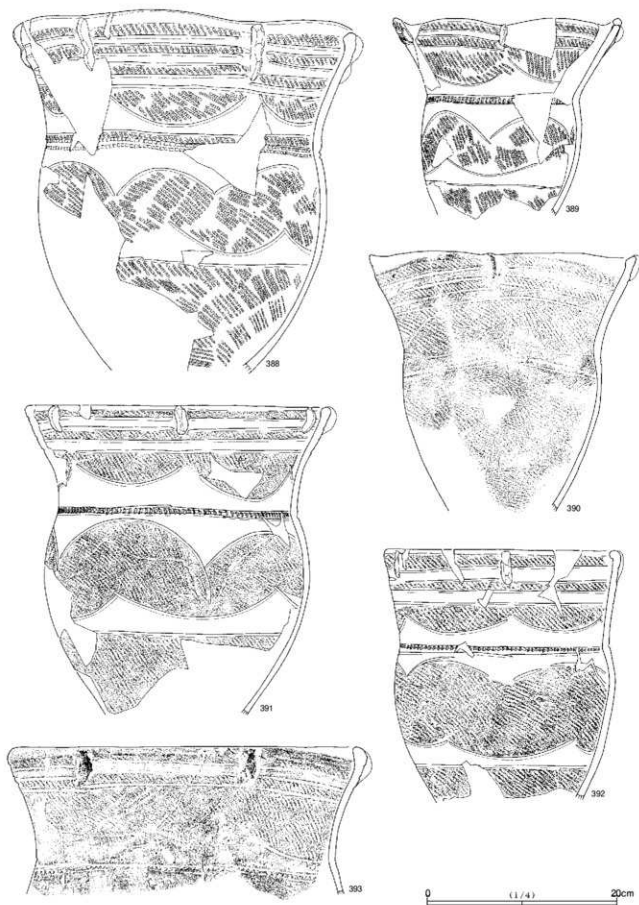
第55図は当該時期の精製された深鉢である。口縁の波状は深く、大型化している。隆帯による区画は規格化されているようである。380は大型の波状口縁4単位、口縁下からの4条の隆起帯が施され、隆起帯には縄文が付加される。この区画によって横長の楕円が作られるが、その中に横位の沈線が引かれる。胴部くびれ部には棒状工具で1条の沈線が引かれ、直下に2条の刺突列が施文される。また縦2条の沈線により、波状に対応するように4区画が設けられ、胴上部、胴下部にはそれぞれ羽状の条線が施される。羽状沈線を持つものに383・385がある。胴下部はこの区画が45度ずらされている。口縁下隆帯は380が4条なのに対し、他のものは3条で構成されることが多い。また382・383・385・386は、胴部は磨消し縄文による連続半弧状文が施される。385は連弧文（山形）となり、弧状の接続部に突起が貼り付けられる。382・383・386は口縁波頂下に穿孔がみられる。また382は波頂下隆起帯区画内を赤彩している可能性がある。

第56図～第61図は安行1式期の半精製のものおよび粗製の土器である。口縁が平縁中心となる。388は口径が40cmに近い大型の深鉢である。口縁は緩やかな波状である。3段の隆起帯下を沈線で区画し、半弧状文を磨消し縄文で飾る。頸部は2条の沈線で刻みを施した隆帯を区画する。胴中央部は連続半弧状文、胴下位は沈線で区画し縄文を施す。波状口縁を持つ精製土器類と同様の施文を行っている。口縁下の3条の隆起帯をつなぐ貼り付けは6単位である。389～405は口縁下の隆起帯文を2条とする。隆帯の器面施文に関しては389～400・402・403はほぼ同様の施文と言えよう。401・404～423は頸部を構成せず、口縁が内反するものである。401はこれらの中でも半精製に近く、施文は他の精製深鉢類と同様の文様構成となる。404～437・439は3～4条の隆帯文を施し、肩部以下を縦または斜位の条線および縄文で施文するものである。412～414は口縁が大きく外反するものである。415～423はいわゆる瓢型の深鉢である。口縁部には2～3条の隆帯文、縄文の他、刻み目を設け、入り組み状の連続半弧状文が上半部に附される。426～440の粗製の深鉢である。424～437は口縁部と肩部に2条の刻みを加えた隆帯を巡らし、胴部には横位・斜位・縦位の条線で器面を飾っている。430は口縁下2段の貼り付け隆帯文である。条線により丁寧に施文した後、隆帯文を貼り付けている。この隆帯文は単純に口縁下を巡るのではなく、左回りで隆帯を廻した後、下段に下るという意匠をとる。隆帯文に附せられる刻みは指頭文である。類例の見られない施文である。431は斜位の条線文である。隆帯は地文を付けた後施されている。432は3条の縦位沈線の区画と斜位条線である。433～437は条線のみ構成である。434・437は430と同様に横位の波状の条線であるが軽く流すように施文される。436・438は無文である。明確な時期を提示し得ないが焼成・胎土により後期後半期と考えた。薄手でかなりもろい遺存状態である。製塩土器と考えられる。

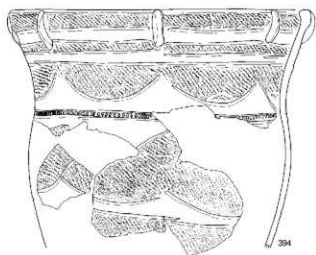
第62図は浅鉢類あるいは台付き土器類などをまとめた。439は口径が30cmを超える大型の浅鉢で、波状口縁は大きく外反する。5単位のゆるやかな波状部かと思われる。肩部には横位の刻み目が施され、胴部は斜位の沈線文で施文する。440は無文の浅鉢で、肩部に稜を作り出し緩やかに口縁が立つ。加曾利BⅢ式期に上るかもしれない。441は小型の椀状の鉢である。平縁の口縁上に5単位の貼り付け輪が附され、頂部に3条の刻みを施す。口縁下に細い縄文帯を施し、胴中位には連続半弧状文と磨消し縄文で飾り、胴下位は縄文で充填する。442の基本施文は441と同じであるが、貼り付け輪はやや大型化している。頂部の刻みは6条で、残念ながら欠損のため輪単位数は不明である。442は平底状となる。446は台付き瓶で、口縁に刻みを施し、直下はヘラ先状の工具による羽状の条線で施文する。隆帯文は3条で、条間は磨かれ



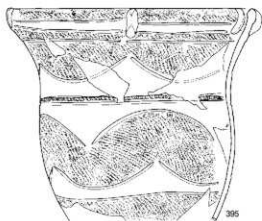
第55図 縄文土器 (37)



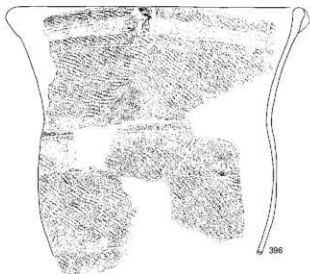
第56図 縄文土器 (38)



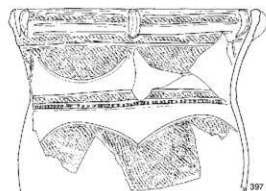
394



395



396



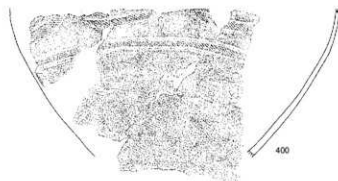
397



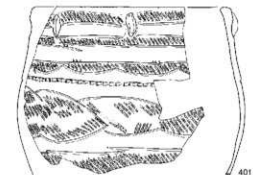
398



399



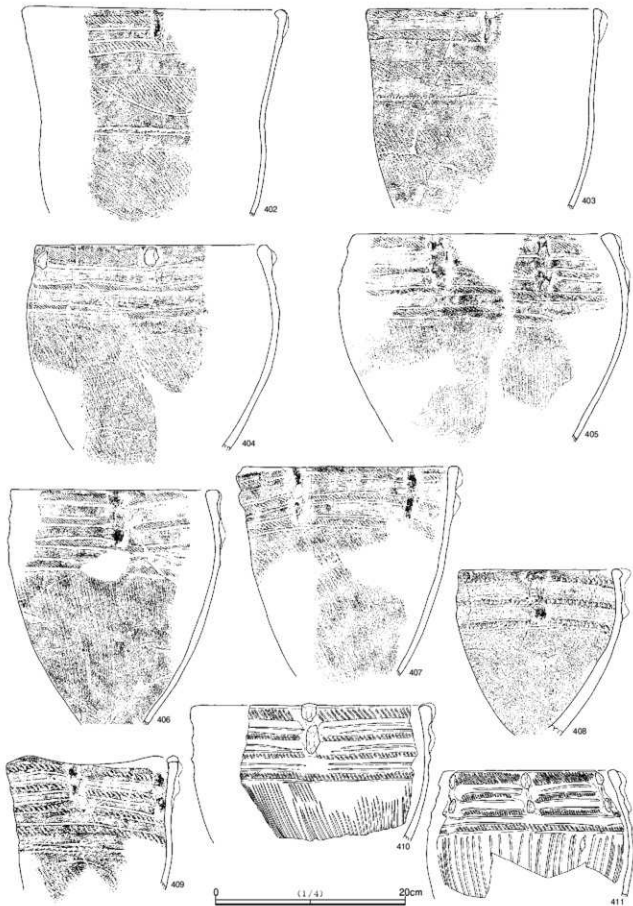
400



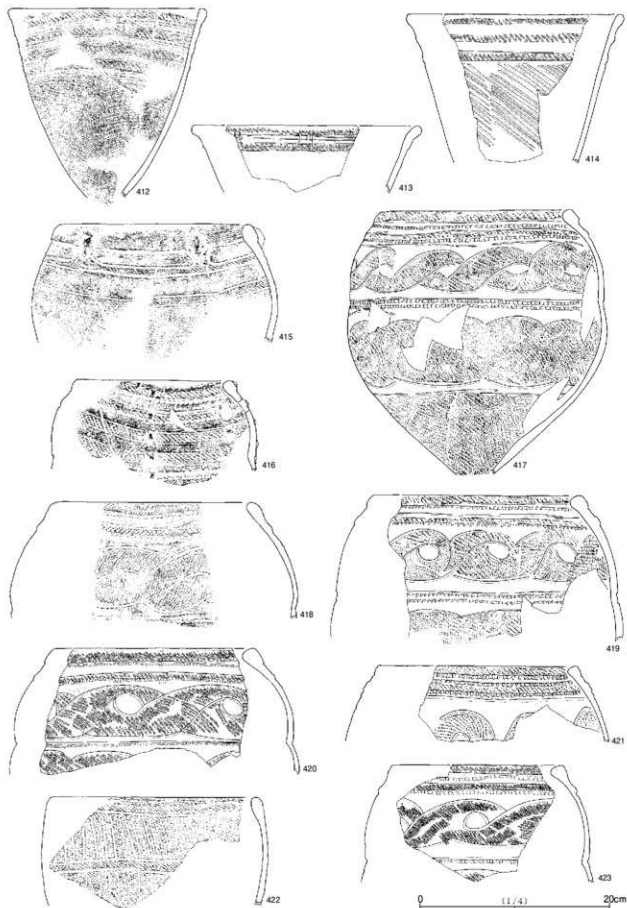
401

0 (1/4) 20cm

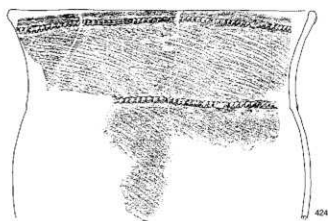
第57図 縄文土器 (39)



第 58 図 縄文土器 (40)



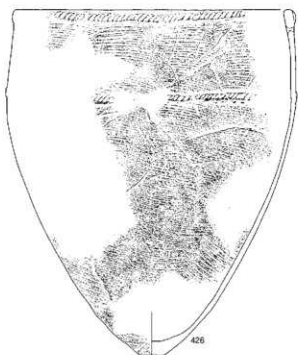
第59図 縄文土器 (41)



424



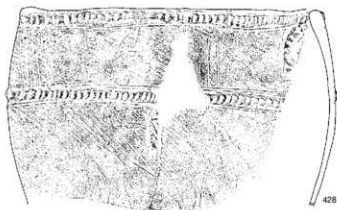
425



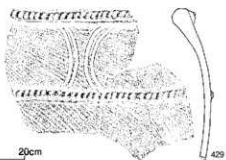
426



427



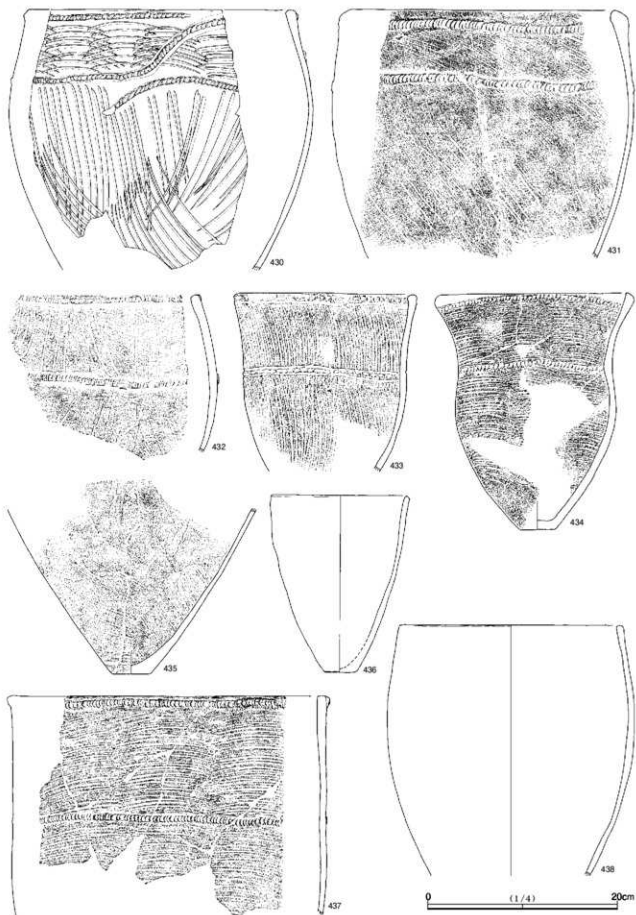
428



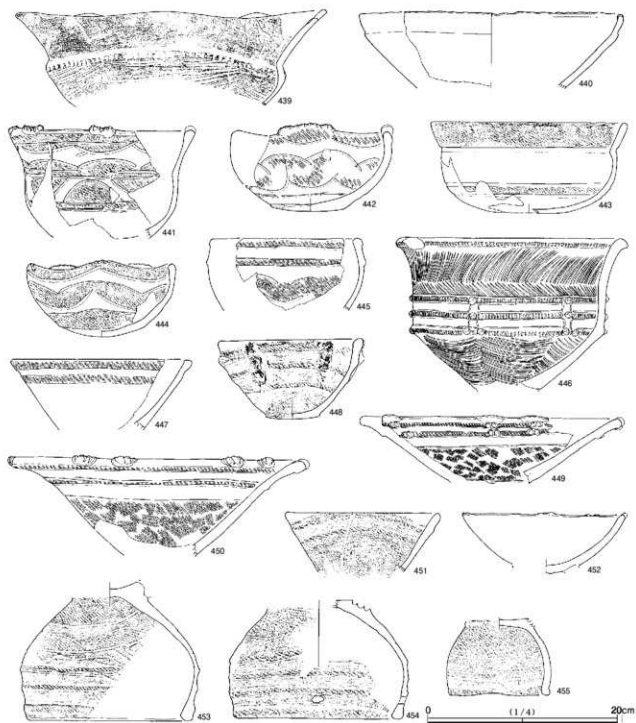
429

0 (1/4) 20cm

第60図 縄文土器 (42)



第61図 縄文土器 (43)



第62図 縄文土器 (44)

ている。3条の隆帯をつなぐように弧状の沈線が施され、沈線と隆帯の交点に小さな瘤が貼りつけられる。胴下半は横位(谷)に弧状の条線が施される。台部は欠損する。黒色で仕上げは丁寧である。隆帯文間には赤彩された可能性がある。447は胴部が無文で、朝顔状に開く器形である。台付きの鉢になる可能性がある。448は第58図にある深鉢類に施文が類似する鉢である。底部はやや丸みを帯びた平底である。

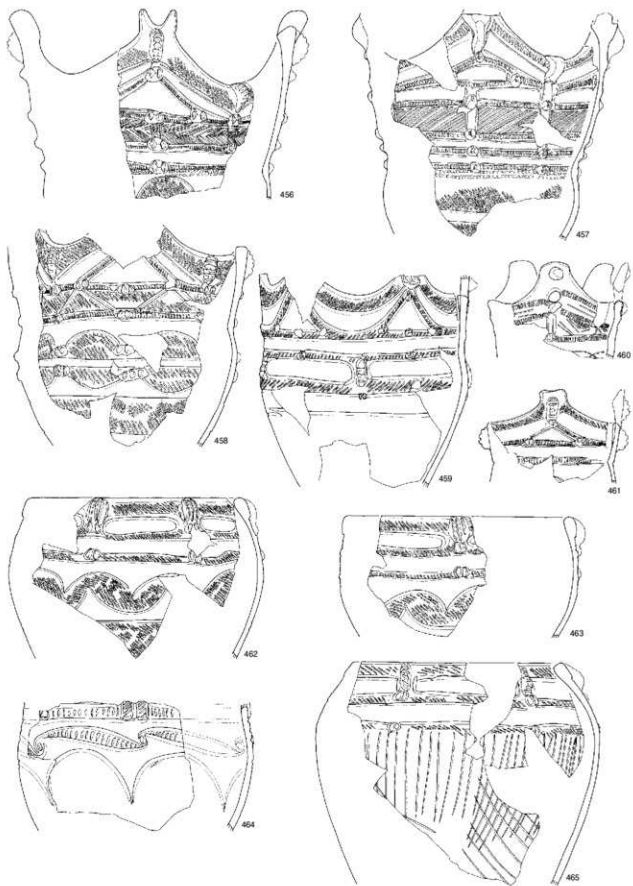
449～455は台付きの鉢の胴部および台部である。449・450は口縁が大きく開く浅い鉢である。口唇部には、2個一対の次期を先取りするようなブタ鼻状の突起が設けられる。口縁および口縁下隆帯文には縄文が施される。無文帯以下は細かい縄文が施される。451は口縁部突起が施されていない。452は無文で、口唇部に粘土玉を乗せたかのような小突起が5単位(推定)付される。453は、台部最上段に縄文帯を施し、磨消し連弧文(山)、無文帯、隆帯文2条+脚部縄文帯を加える。454は下位に5～6単位の小孔を持つ。455の台端部は外反する。

第5類 後期後半期(安行2式期)(第63図456～第66図506、図版19・29・30)

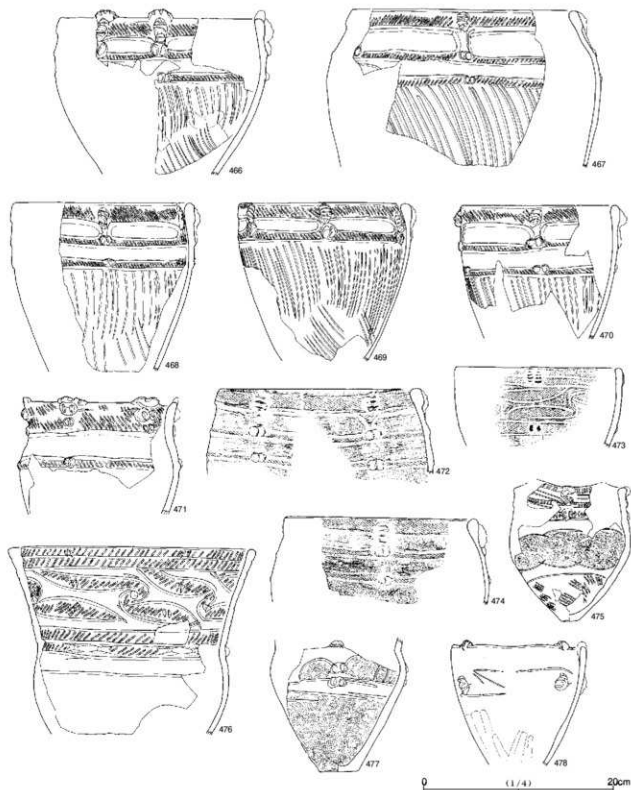
456～461は大きく開く波状口縁を有する深鉢である。456の波頂部はネコ耳状に二つに割れており、5単位になると推測される。波頂部直下には半円形の貼り付け文が7単位の刻みを付けて設けられている。口縁下には縄文帯が巡らされ、細隆帯文により波状部下には三角文がみられる。細隆帯にはヘラ状工具による刻みが附される。この細隆帯により数条に区画され、安行1式系にもみられたヘラによる横位羽状条線が施される。波状部あるいは波状部から降りた交点には貼り付け文が附され、細隆帯には横長の瘤が貼り付けられる。棒状工具による2個一対のいわゆるブタ鼻状の押圧がなされる。胴部中央は連続半弧状文と磨消し縄文による施文が行われているものと思われる。457は波状部5単位で、細隆帯上に付される貼り付け瘤には1個の押圧が施される。458の口縁波状部が4～5単位である。ブタ鼻状の瘤へ付けられる押圧は胴が締まるころまでは2個一対のブタ鼻状瘤であるが、胴下半の連続半弧状磨消し縄文帯に入ると3個の押圧を施しており、ブタ鼻状ではなくなっている。459は細隆帯文上に縄文が施される。貼り付け瘤は小型あるいは崩れたような瘤ではあるが、2個一対のブタ鼻状となっている。胴下半部にはこの貼り付け文が縦位となり、3個の押圧となっている。460は波状部3単位か。頂部に円形の孔が施される。461は大きく伸びる波状部が1か所であるが、この大型波状部の両脇に小波状部があるため、大および小の波状部で全4単位となるかあるいは大1、小2かもしれない。この時期になると、奇数単位が主となる傾向があるため大1、小2の可能性が高い。

464～486は口縁が平縁タイプのものである。口縁直下に楕円を配した磨消し縄文帯を設け、胴部には連続半弧状文帯といった、安行1式期から続くこの型式において、オーソドックスな施文が多くみられる。この平縁型深鉢では、瘤の貼り付けの配置が少ないとされるが、当遺跡においては通常の例として配置される。464は通常用いられる磨消し縄文を用いない連続するJ字線半弧状文のタイプと言えようか。沈線とヘラ状工具(幅8mm程度)による簡素な施文である。無文部の磨きは丁寧に仕上げられている。473は磨消し縄文を用いたものである。465は胴部まで磨消し残しの縄文がみられる。胴下部には煤などの付着および吹きこぼれを思わせる痕跡などが目立つ。467は口縁に一対と思われる2個の貼り付け突起を設ける。

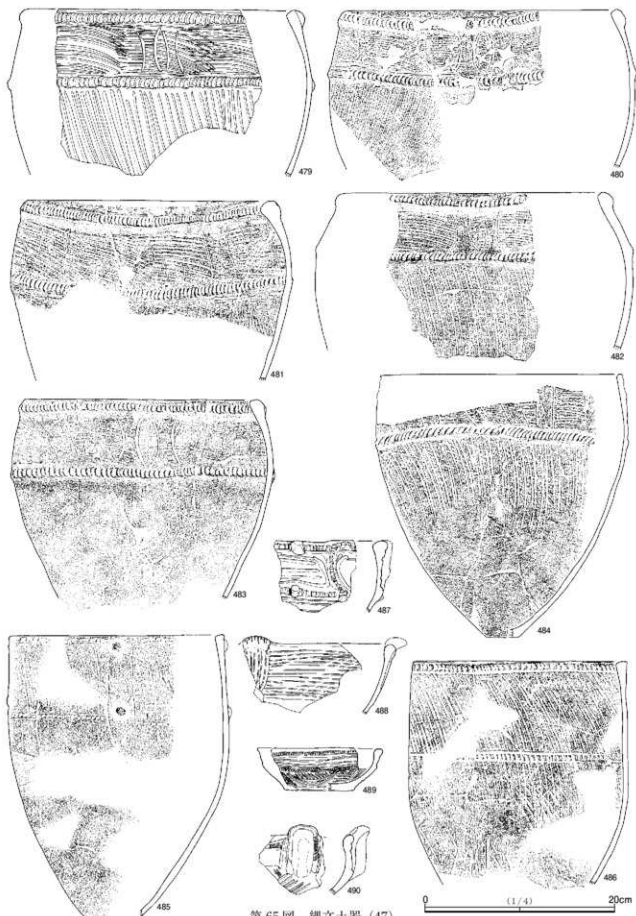
471は口縁部に6単位の貼り付け突起を設け、頸部は無文となり、胴部に縄文帯を設け、胴下半部も無文で仕上げているようである。胴部には口縁の貼り付けに対応するようにブタ鼻状瘤がみられる。475は小型の深鉢で、底径が2.5cmと小さい。476は入り組文様に2段にみえるように組んでいる。最下段の磨



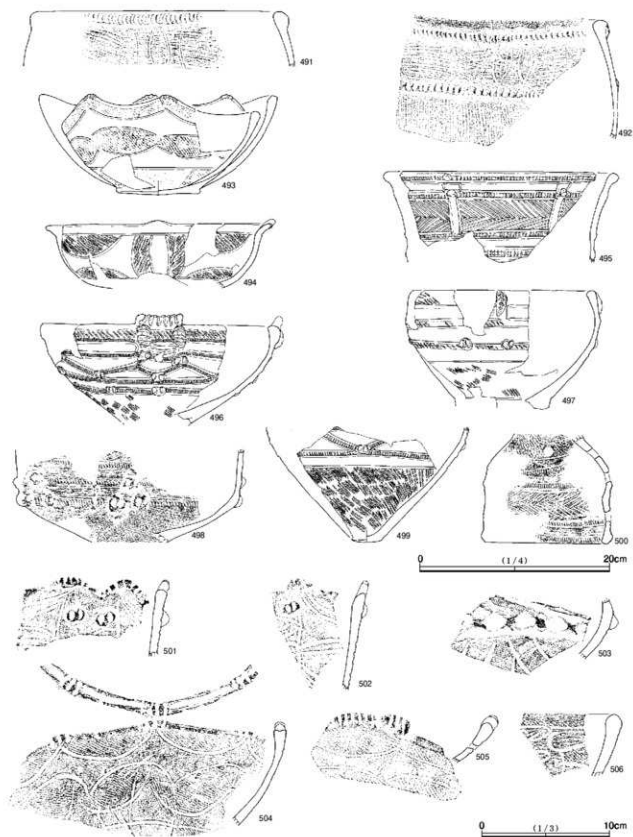
第63図 縄文土器 (45)



第64図 縄文土器 (46)



第 65 図 縄文土器 (47)



第66図 縄文土器 (48)

消し縄文帯内に2個一対の縦沈線が付けられる。ブタ鼻瘤の意匠であろうか。465～470は口縁部に楕円区画を設け、頸部から下が斜位の粗い条線による施文である。478は無文で、あまり丁寧とは言えないヘラ削りが全面に施されている。口縁に貼り付け突起が2個残る。4～5単位で突起が付けられていたか。487は雑な仕上げで、ヘラによる刻みを多用したものである。488は浅鉢状になるか。479～486・491・492は口縁が内湾し、基本的に2条の隆帯（爪形または刺突など付加）を施し、区画内に弧線や縦横の条線を組み合わせた文様を施したものである。485のみ2個一対4単位の丸鉢状の貼り付けがみられる。

499は小型の鉢か。外面に火を受けた様子はないが、内面がかなり荒れている。493は緩やかな楕円状の鉢である。楕円頂部には2個1単位と思われる波状部がみられる。頂部には4ないし5条の沈線を施す。胴部施文は、精製の深鉢類に類する磨消し縄文による連続半弧状文の組み合わせである。磨消し部や内面はよく磨かれている。ただこの文様構成は、安行1式期あるいは曾谷式期にもみられる。495は第66図のグループとなろうか。明瞭な沈線とヘラ状条線による施文である。口縁部を中心に赤彩の痕跡が残る。

494は浅鉢である。半弧状あるいは縦位沈線で区画を施し、磨消し縄文で構成する。496～498は台付きの鉢であろうか。496の細隆帯は非常に細かい刻みで飾られる。無文部の磨消しは丁寧に仕上げられている。498は496等と比べると口縁部が直角に近く立ち上がる。500は台付き鉢の台部である。3段の円形の孔が各段4～5孔開けられている。必ずしも位置が定まっていなかったが、上段と最下段が同じ位置にあり、2段目、3段目をそれぞれずらして開けているようである。

501からは破片であるが、頂部に特徴のあるものを掲載した。501は平縁に2個一対の小波状部を設けたものである。沈線で地文を構成し、ブタ鼻瘤を一対で設定する。502は1個となる。503は隆帯の変形であろうか。太隆帯上に大きく指で押し込んだ刺突がみられる。504は口唇部に沈線を設ける。口縁部半弧状文の頂部ごとに2個一対の小突起を設けている。口縁全体で6対～7対程度と推定される。

5 第5群 縄文時代晩期の土器群（安行3a式期～3b式期）

縄文時代晩期前葉の土器群である。縄文土器群は本類をもって存在を減少させてゆく。安行3b式期以降に関しては東関東圏各時期の破片類を主として残すもののその影は薄くなる。

第1類（安行3a式期）（第67図1～第72図174、図版31～34）

おおむね安行3a式期と考えられる一群である。1は平縁の深鉢で、最大径はかなり上位にある。口縁は肩部から内傾し、口縁部は直立する。口唇部に設けられる貼り付け状突起は2単位現存する。全体として5～6単位の可能性がある。6・8・10は前時期より続く半弧状文を用い、型式の継続性がみられるとともに、三叉文、入り組み文などの流れを取り入れている。2～5・7は大波状口縁を特徴とする深鉢である。4・7は口縁下の三角文の入り方からすると安行2に近いものか。波状口縁また平縁の貼り付突起とともに、4単位になるものが多くみられる。これら平縁土器・波状土器ともに精製の深鉢は黒褐色で、内面および外面無文部はよく磨かれている。2には赤彩の痕跡が残る。11・12は紐線文系粗製の深鉢である。かなりの大型となり貼り付けられた紐線も大ぶりである。胎土中に小砂粒を含み、粗い胎土である。13～25は精製の鉢類をまとめた。13は浅鉢で、平面形はやや方形にみえる。図示した位置を正面とすると、口縁上の突起は、一対のやや大型の突起に挟まれるように小突起が3個作られ、計5個の突起となる。このためこの位置が幅広となり方形になる。この正面突起に対応し、裏側には正面同様のやや大型の突

起と、波状の2個の山形突起が付けられ、4個1単位のもが作られる。横面にはこの山形2個一対の突起と同類のもが作られている。以下連続半弧状文、三叉文、入り組み文などが施文される。底面はやや丸みを帯びた平底である。黒褐色で、内外面とも磨きが丁寧になされている。17は口縁部に小突起を7個付ける。正面と意識している部位には2個一対で突起を設け、焼成後であるが小孔を突起下に開けている。底面はやや丸底である。14～21の鉢類は肩部にツバ状の突起が張り出している。

22は小型の鉢で、口縁がやや外反しつ直立する。口縁部には縄文を附し、肩部には入り組み文が施される。胴下位は地文に縄文を付した後、全面を磨消して無文化している。25の口縁部には突起の貼り付けではなく、指頭による凹みを設けている。遺存部から推定して全8単位と考えられる。24は台付き鉢になる。肩部に突起の張り出しが付く。口縁は平縁で、15・18のように大型の口縁突起を設けるものが見受けられる。26は器台であろうか。端部は大きく平坦に外に伸び、口縁部はやや立ち上がり、波状を示す。この波状部に山形の沈線と三叉状文が組み込まれている。この立ち上がり部には縄文が施される。赤彩されていた可能性ある。31は玉抱き三叉文に含めて良いものか。玉部は穿孔である。入組状文から三叉文に付け足しのような魚の目状の小さな点(43・53・102・125)または三叉文をつなぐ点(46)、入組状文(3・34など)を大きな丸に抱かせる(31・38・49)、など三叉文から玉抱き三叉文への過程をみるかのようないくつものバリエーションがみて取れる。破片類は摩耗が目立つため確認しきれないが、48・106・125には赤彩の痕跡が残る。48は三叉文の間にひし状の貼り付けが施される。台付の可能性もある。

第2類(安行3b式期以降)(第72図175～第76図402、図版34～37)

この時期からは全体がみられるような個体の出土は減少し、破片がほとんどである。主に深鉢系の口縁から胴部がみられるが、やや摩耗した小片が主であり、当遺跡において以降存在感が薄くなる。194～198は沈線文により施文が行われ、当該期以前の系統をもつ。これ以降土器の施文は幾何学状施文に依ってゆく。口縁にはヘラで切り込むような刻みが多くみられる(207・208・224・236～240・243)。文様区画内は磨消し縄文による施文はほとんどみられなくなり、細密沈線により施文が施される。安行3c式期になるとその存在はますます薄くなり、第75図338～380までの小片を残すのみである。区画内施文はこの時期の特徴的な列点によるものがほとんどとなる。

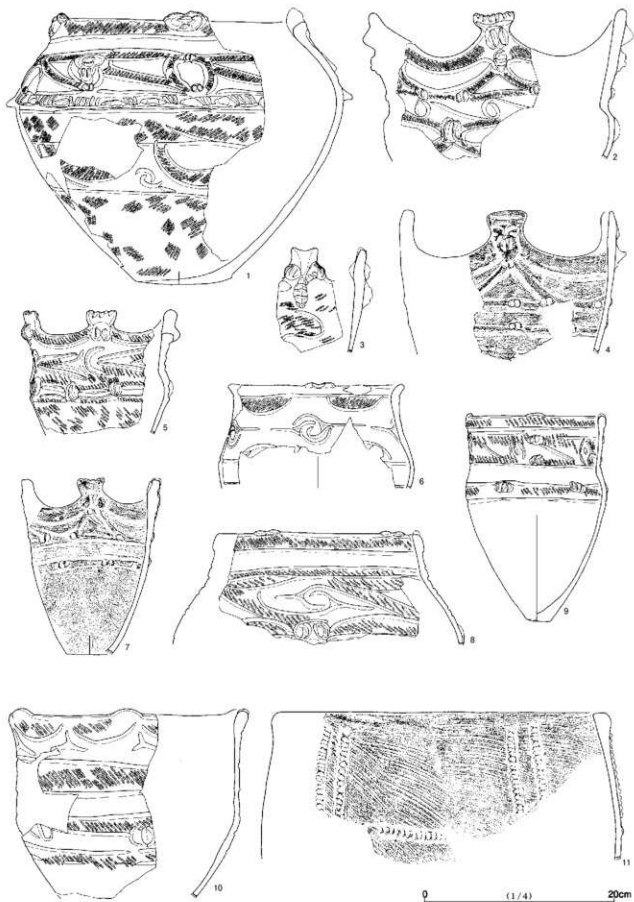
安行3d式期に関しては、381～384が相当する。主に入り組み文系の施文がみられる。

第76図は安行3式期と思われる無文の土器である。391～393のように無文土器にも小突起が付けられる。396は口縁部および口唇部に小突起状の貼り付けらしき痕跡が残る。同一個体ではないと思われるが、399はほぼ底部付近である。尖底状に底部が絞込まれて、煤状のものが付着する。401・402も同様に薄手の土器であり、製塩土器と思われる。

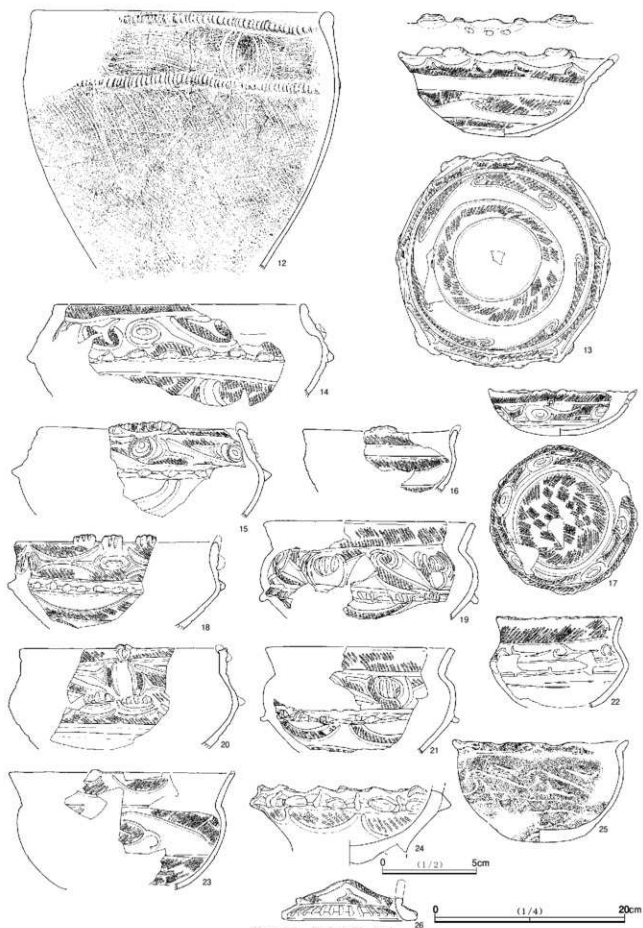
第3類 縄文時代晩期後半(安行系以外の土器)(第76図403～第78図482、図版32・37・38)

縄文時代晩期後半においては、姥山式期から前浦式期および、ごく少数ではあるが荒海式期のほか、大洞式期の土器の出土もみられる。破片のみで出土量も少なく、当遺跡においてはごく少ない客体的な存在であったといえよう。

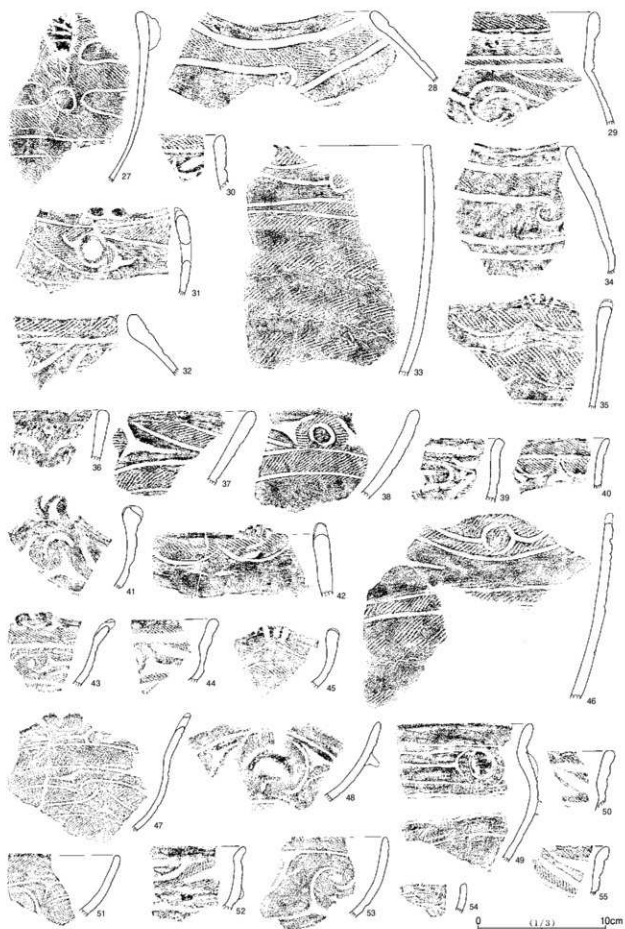
第77図はいわゆる姥山式期の一群である。曲線文、菱形の区画文などが特色にあげられ、また三叉文を持たないなどこのグループの特徴がみられる。規制が強いこの時期ではあるが、線弧文の組み合わせが多様であり、404のように口縁部から胴上半は楕円と曲線、胴下半は条線となる。411のように水かき



第67図 縄文土器 (49)



第 68 図 縄文土器 (50)



第69図 縄文土器 (51)

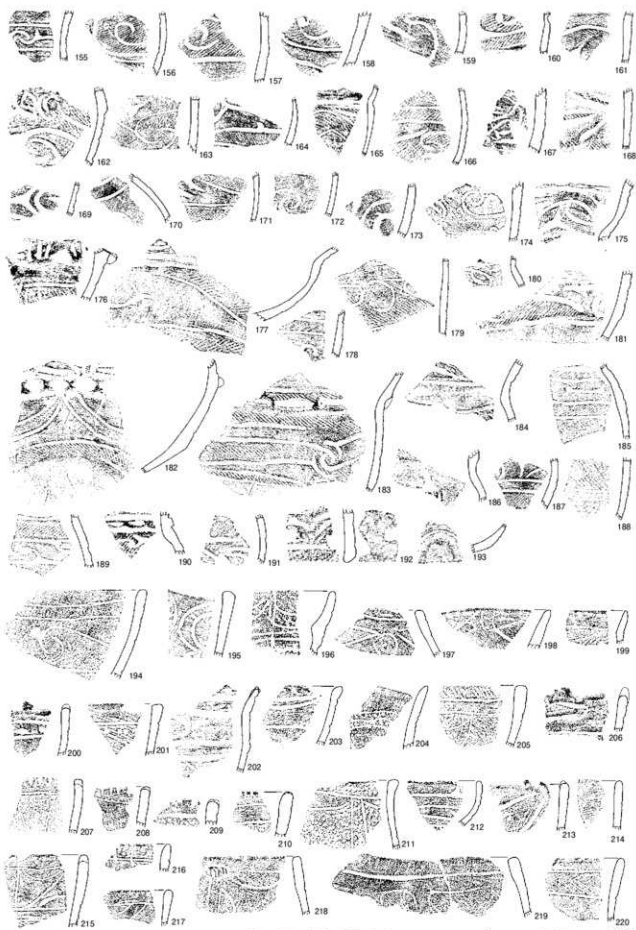


第70図 縄文土器 (52)



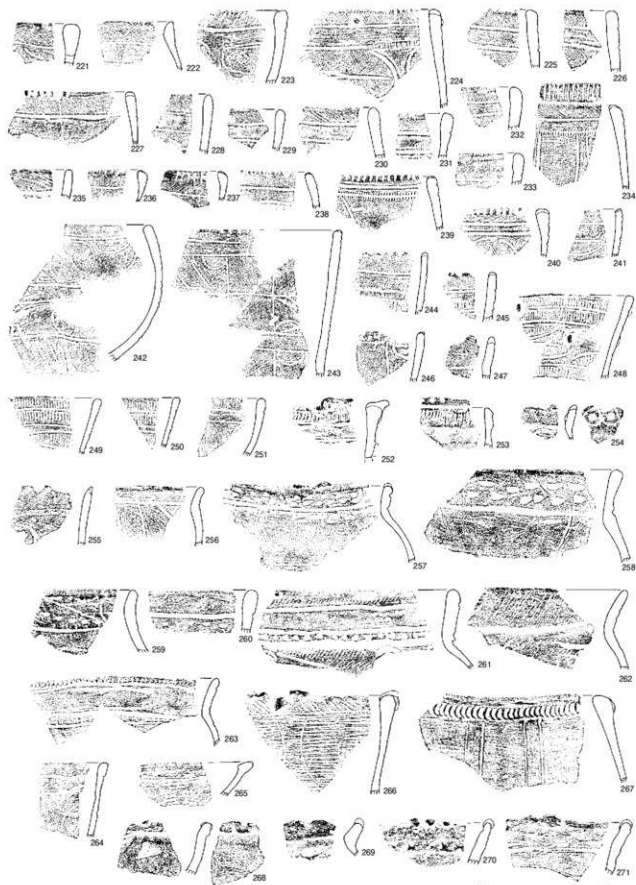
第71図 縄文土器 (53)

0 (1/3) 10cm



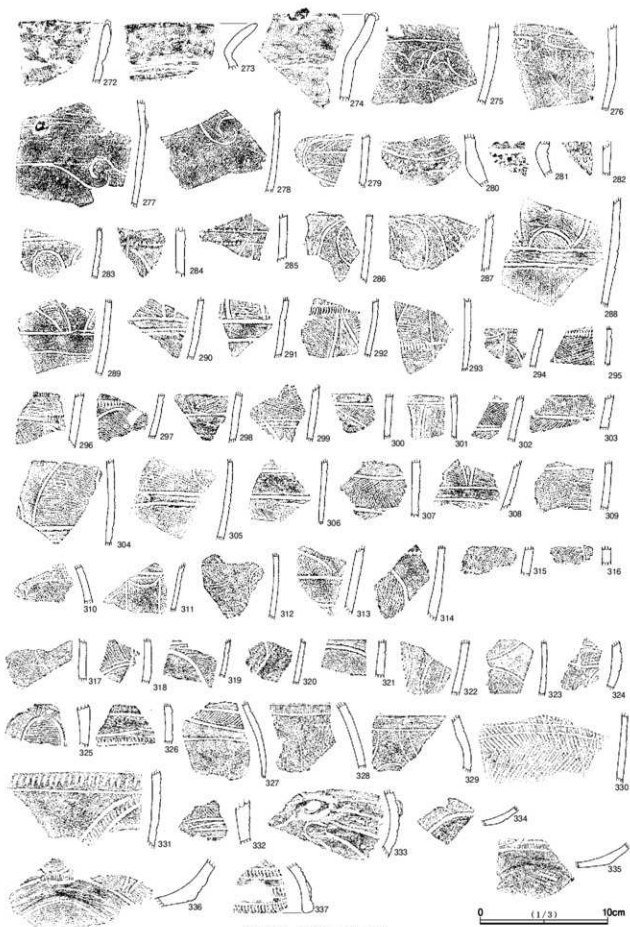
第72図 縄文土器 (54)

0 (1/3) 10cm

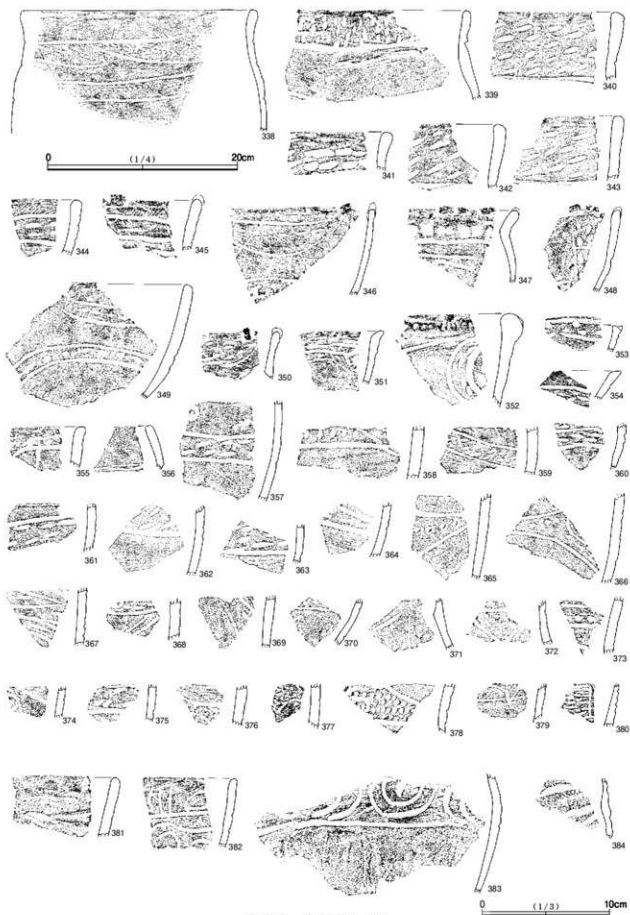


第73図 縄文土器 (55)

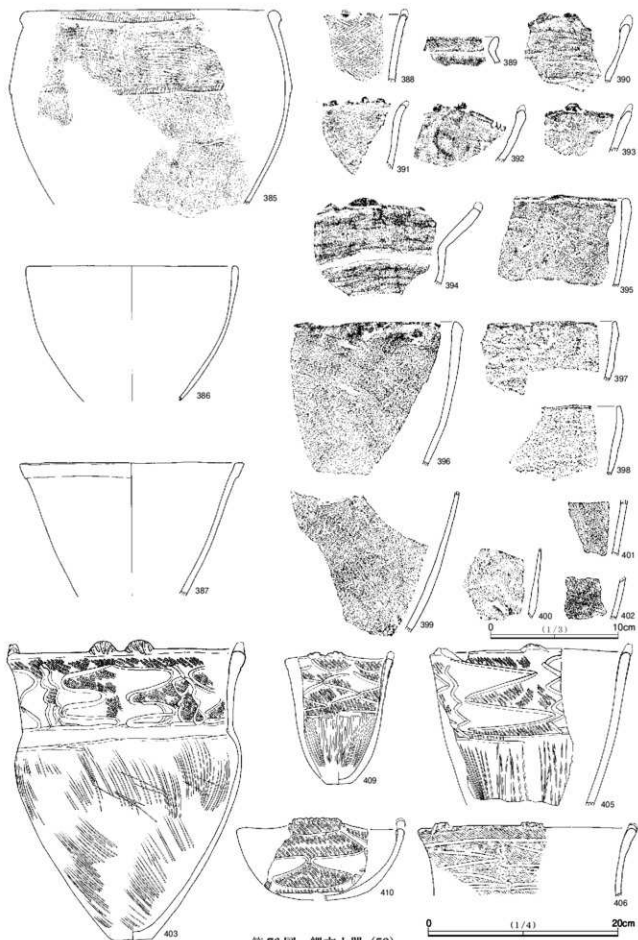
0 (1/3) 10cm



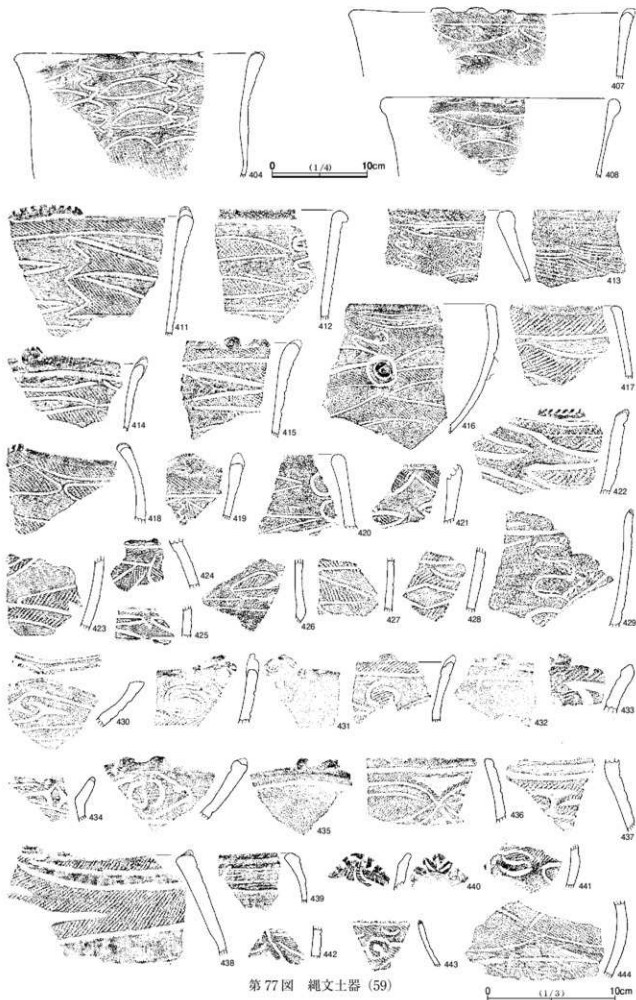
第74図 縄文土器 (56)



第75図 縄文土器 (57)



第76図 縄文土器 (58)



第77図 縄文土器 (59)



第78図 縄文土器 (60)

状に組み合わせるなど興味深いものもみられる。第77図は前浦式期を一括した。431などのような「の」字状文はこの時期の特徴とされる。453のような入り組み文は、前浦式でも後半期とされるものであろうか。430～434を前浦1式期、435～439を前浦2式期としてみる。440～444は前浦式期と思われるが安行式系後半期とも言える存在である。

第4類 大洞系土器（第8・78図、第4表、図版38）

第78図は大洞系土器を一括する。時期的には大洞B式期～大洞A式期か。までがみられる。器種的には鉢あるいは壺系が多いか。図示したものが、出土量のほとんどとなる。445・446・448～451は大洞B式期、452～457は大洞B-C式期にかけてと思われる。羊歯状文が形式化して付けられる。458～471・473・474・476・477は大洞C式系と思われる。447・472は大洞C2式か。475は大洞A(?)式か。469は小型壺と思われ、赤彩が施される。いずれにせよ、小片であり明確に区分しきれないが、縄文時代晩期後半期においては、当遺跡も広く東北圏と関連をもって、存在したことが確認されるものである。

第78図は、縄文時代晩期最終末期とされる、荒海式期のものと思われる土器である。これらも図示したものがすべてである。482は台付の脚部で、粗い縦の条線を器面に施す。粗雑な胎土である。

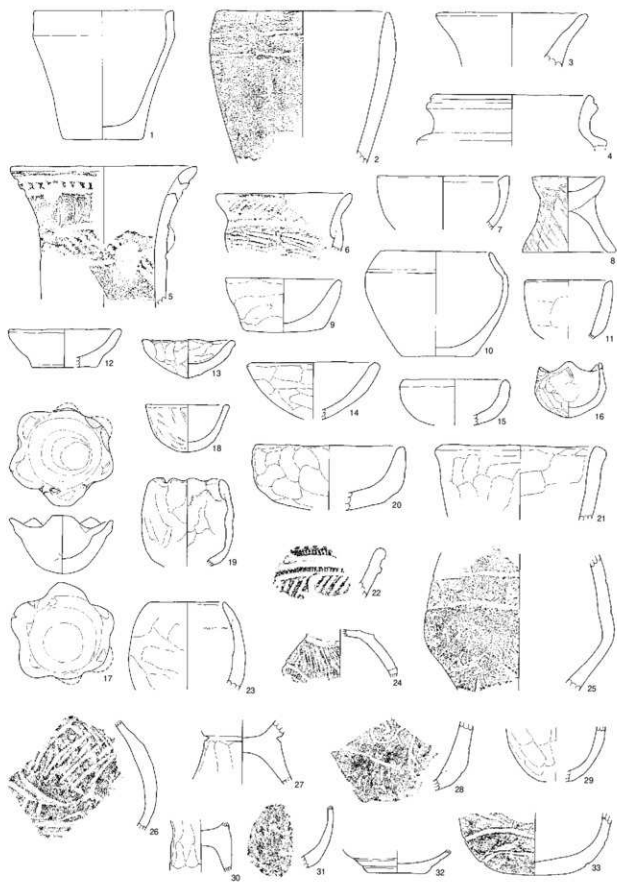
第5類 ミニチュア土器（第9・79～82図、第5表、図版39）

1・2は無文の深鉢である。1の口縁はほぼ直立し、焼成は良好である。2の口縁は緩やかに内湾し、口縁部に横位沈線が2条施される。3・4は壺状の口縁である。5は筒状の胴部に朝顔状に開く口縁が付く。口縁下部に開けられた孔は焼成前に開けられたものである。8は台付きの鉢である。台を作り鉢をあとから貼り付けている。12～15・18・20は手捏ねによるものである。13の外表面は粘土の塊状であるが、内面は指ナデであろうか。手捏ねで明瞭ではないが口縁部は4単位の波状にもみえる。16は小型の壺で、口縁部を4単位の波状としている。17も同様のものであるが、波状部が梅花状に開き、6単位となっている。19は口縁部を内側折り返して波状口縁を作り出す。波状は4単位か。以下、小片であるが本来の日常用いられる土器器種のミニチュアとみられる。

1～44までは時期の特定は明瞭ではないが縄文時代後期とする。45は三十稲場式期の可能性がある。46～72は加曽利B式期と思われる。当期の文様構成を省略して写している。53はスタンプあるいは何らかの把手と考えた方がよいかもしれない。54・55は鉢である。口縁は大きく外反する。55は54ほどではないが外反している。全体の遺存度は低いが、胎土・焼成とも良好である。加曽利B式期と考えられる。56～68は鉢および浅鉢である。58は口縁部に2条の沈線を巡らす。59は皿状となる。口縁は波状をなし、胴部に連文を沈線で施している。60は鉢である。粗い縄文が器面に施される。

61は脚付きの鉢である。赤彩の痕跡がある。無文のため時期不詳であるが、後期に区分しておく。62はかなりいびつである。出土地点などから加曽利B式期とした。65～68の小型の鉢は、精製の深鉢に類する施文が施される。72は方形に近い平面形を持つ。器面には沈線により、篋状の文様が施される。73は瓢型で、穿孔は釣り手を通したか。前後一対である。焼成以前に孔は開けられている。73・74は曾谷式期のものか。

以降の土器は安行式系の土器となる。75・76は安行1式期か。78は台付の鉢である。83は船状の浅鉢となる。84～90は異形台付土器である。84は完形に近い。全面に沈線で文様が施される。四方に張り出した胴下部には孔が施される。口縁部の把手は同じく孔が通されている。これらの一群は安行式期と考えられる。91・92は小型の台付鉢と思われる。別個体ではあるが91が胴部、92は台部であろうか。93は



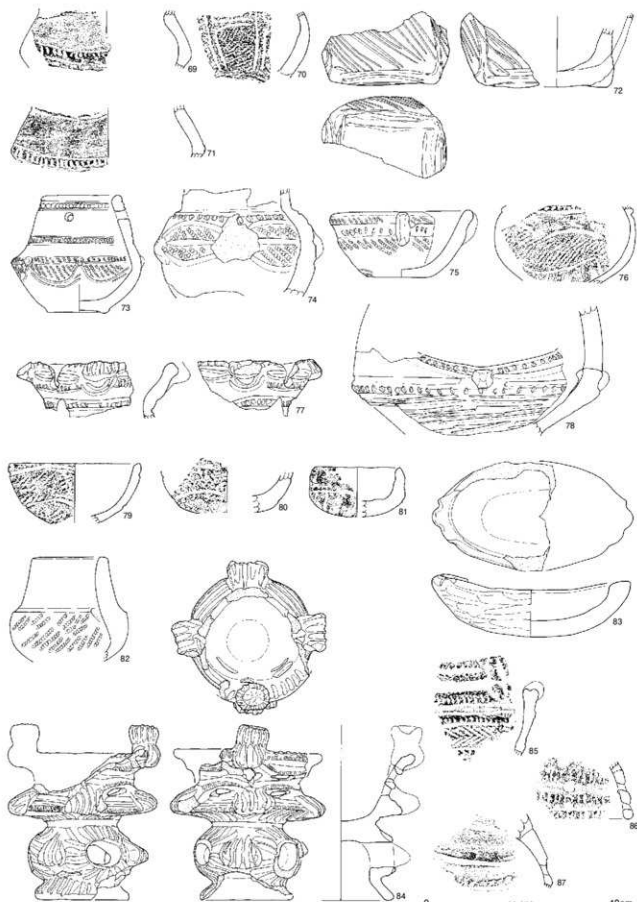
第79図 ミニチュア土器(1)

0 (1/2) 10cm

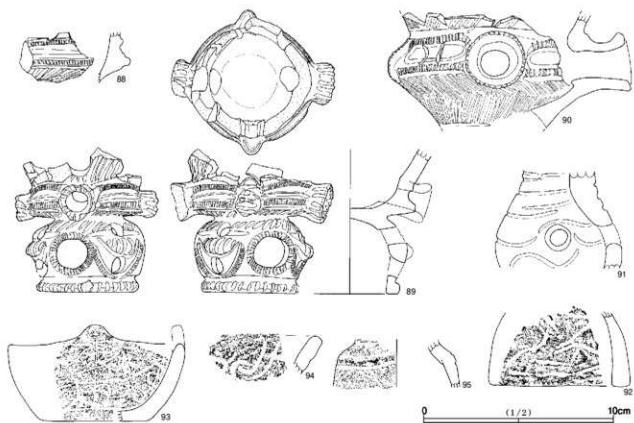


第80図 ミニチュア土器(2)

0 (1/2) 10cm



第81図 ミニチュア土器(3)



第82図 ミニチュア土器(4)

正面に小突起を設ける。91～93は安行3b式期にならうか。

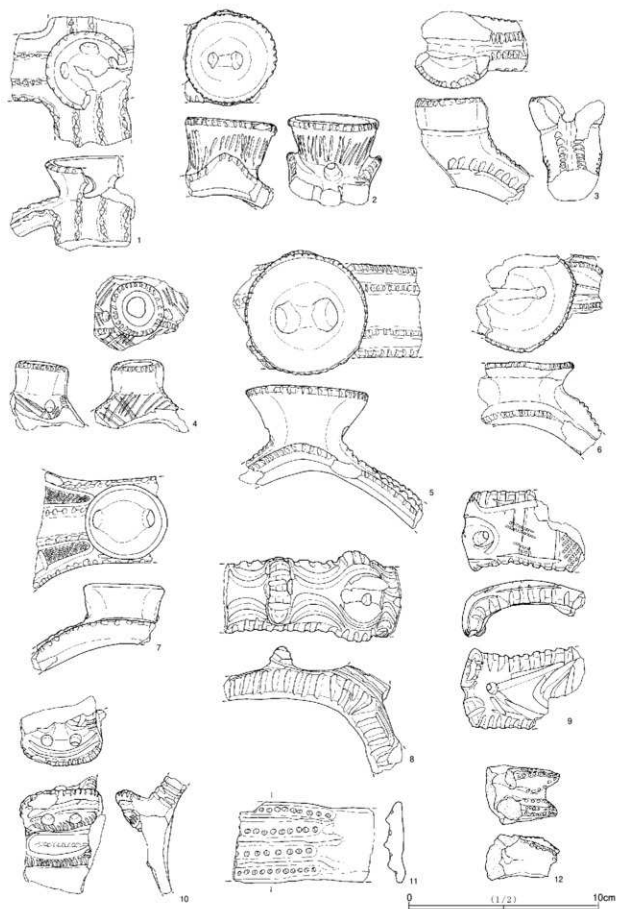
第6類 特殊土器（第9・83～85図、第6表、図版40）

第83図～85図に吊手土器および把手類など特殊土器をまとめた。

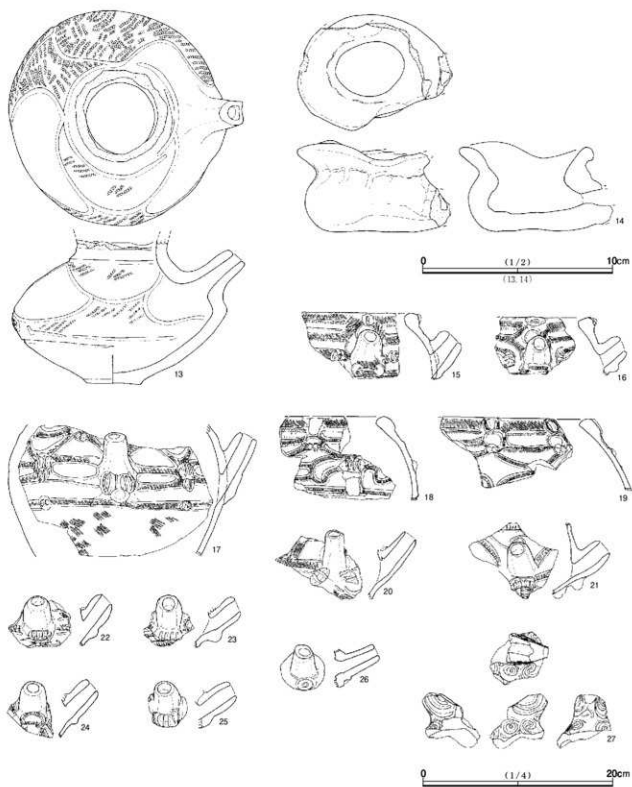
1～3・5～8は吊手部である。紐通しの孔は通常2孔が多くみられるが1は4孔である。紐が沿いやすいように貼り付け隆帯を作るもの（1・2・5～7）、あるいは沈線を彫り込むもの（3）がみられる。8は主となる紐通しの他に左右にもう一つ補助孔を設けている。吊手部には粘土紐による貼り付け文、刻みなどが施文されるが、時期を特定できる施文はみられない。

13は口縁を一部欠くがほぼ完形である。加曾利B式期のものである。14の先端部には孔が通っており、注口的な用途となり得ることが考えられる。施文がされていないこともあり、時期的には縄文時代後期としておく。

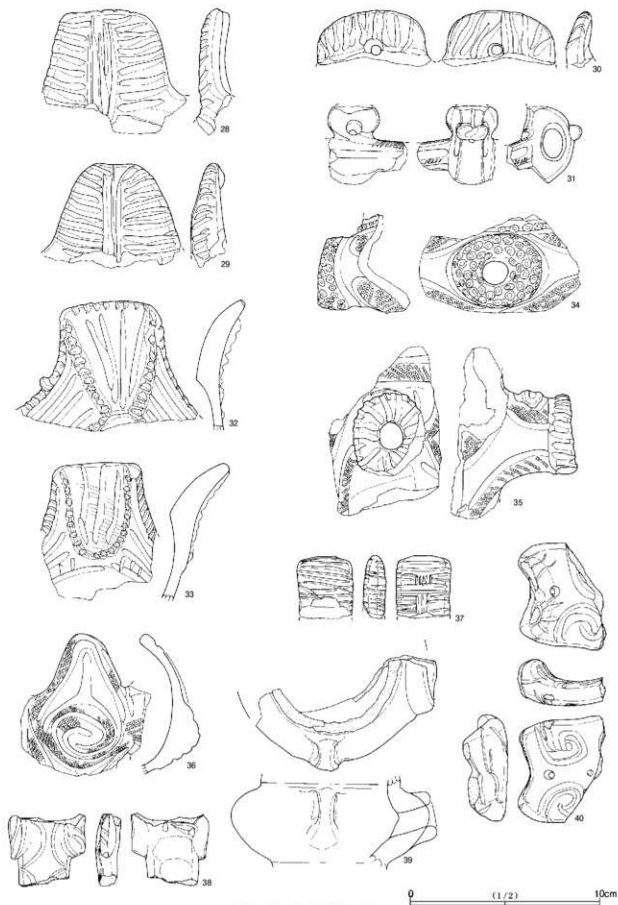
15～26は注口の口部である。安行2式期と考えられる。26は加曾利B式期になるものかもしれない。27は渦巻きを主文様としている。安行3b式期にならうか。28～30・32～35は異形台付土器の一部であらうか。大型波状部の一部とも考えられなくはない形状である。時期は後期としておく。31は釣手土器の把手部か。34は全体に竹管状の施文が「たこの吸盤」状に密集して施されている。加曾利B式期にならう。39は香炉形土器と思われる。赤彩が施される。40は手焙形土器になるか。開けられる孔は焼成前である。39・40ともに後期の所産としておく。



第83图 特殊土器(1)



第84图 特殊土器(2)



第85图 特殊土器(3)

第4表 縄文土器観察表

() 推定値, () 現存値

群別	No.	遺構番号	遺物番号	名称	焼成	色調	胎土	時期	形式	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	保存状況	備考
19	1	3H1-24B	5	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	2	3H1-22C	4	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	3	3H1-25D	5	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	4	3H1-25A	1	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	5	3H1-25A	6	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	6	3H1-4C	6	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	7	3H1-9J	1	深鉢	焼	灰褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	8	3H1-25C	3	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	9	3H1-15D	1	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	10	3H1-25A	3	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	11	3H1-2C	1	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	12	3H1-7B	1	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	13	3H1-6C	1	深鉢	焼	灰褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	14	3H1-5C	3	深鉢	焼	赤褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	15	3H1-14C	4	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	16	3H1-3D	2	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	17	3H1-14D	4	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	18	3H1-45A	2	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	19	3H1-35A	6	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	20	3H1-25D	3	深鉢	焼	赤褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	21	3H1-24D	18	深鉢	焼	赤褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	22	3H1-15A	5	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	23	3H1-25D	8	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	24	3H1-12B	4	深鉢	焼	赤褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	25	3H1-12B	3	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	26	3H1-14B	10	深鉢	焼	赤褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	27	3H1-4C	7	深鉢	焼	灰褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	28	3H1-42B	2	深鉢	焼	灰褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	29	3H1-25C	12	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	30	3H1-43B	2	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	31	3H1-15D	1	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	32	3H1-12A	5	深鉢	焼	灰褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	33	3H1-94D	18	深鉢	焼	灰褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	34	3H1-12A	5	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	35	3H1-15D	2	深鉢	焼	灰褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	36	3H1-2D	1	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	37	3H1-15A	6	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	38	3H1-25D	10	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	39	3H1-9J	1	深鉢	焼	灰褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	40	3H1-24A	8	深鉢	焼	灰褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	41	3H1-7D	1	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	42	3H1-7	1	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	43	3H1-6C	1	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	44	3H1-13A	16	深鉢	焼	赤褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	45	3H1-24C	2	深鉢	焼	赤褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	46	3H1-14C	6	深鉢	焼	赤褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	赤粉全?
19	47	3H1-25B	5	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	48	3H1-9C	1	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	49	3H1-15C	5	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	50	3H1-13A	16	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	赤粉全?
19	51	3H1-12C	2	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	52	3H1-12A	1	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	53	3H1-11B	2	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	54	3H1-13C	1	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	55	3H1-7D	2	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	56	3H1-13C	14	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	57	3H1-9J	1	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	58	3H1-9C	1	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	59	3H1-22C	1	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	60	3H1-13A	16	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	61	3H1-25B	5	深鉢	焼	赤褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	62	3H1-9J	1	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	63	3H1-15D	1	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	64	3H1-25D	10	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	65	3H1-13A	13	深鉢	焼	灰褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	66	3H1-22B	4	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	67	3H1-36A	4	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
19	68	3H1-7	1	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
20	69	3H1-42B	2	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
20	70	3H1-13A	16	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
20	71	3H1-13A	16	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
20	72	3H1-3C	4	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
20	73	3H1-2D	14	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
20	74	3H1-14B	9	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
20	75	3H1-35A	6	深鉢	焼	黄褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	
20	76	3H1-2D	14	深鉢	焼	灰褐色	細砂	早期前期	普通	-	-	-	口縁部欠	

种别	No.	品番番号	品物番号	品名	形状	色調	加工	時期	形式	口径 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	所在地	備考
20	77	3H-4D	5	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	78	3H-5A	10	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	79	3H-6C	2	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	80	3H-14B	4	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	81	3H-22D	1	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	縁部片	
20	82	3H-12S	1	灰土器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	底面片	
20	83	3H-4B	1	灰土器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	底面片	
20	84	3H-29C	7	灰土器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	底面片	
20	85	3H-2C	6	灰土器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	底面片	
20	86	3H-13B	7	灰土器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	底面片	
20	87	3H-28C	4	灰土器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	底面片	
20	88	3H-5A	3	灰土器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	底面片	
20	89	3H-2B	2	灰土器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	底面片	
20	90	3H-5A	11	灰土器	中平盤	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	底面片	
20	91	3H-24C	10	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	92	3H-22D	2	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	93	3H-9C	1	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	94	3H-2C	6	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	95	3H-5A	1	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	96	3H-18C	2	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	97	3H-5A	8	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	98	3H-12B	3	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	99	3H-19C	6	漆器	皿	赤褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	100	3H-25D	15	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	101	3H-33B	13	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	102	3H-14B	10	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	103	3T-6	1	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	104	3T-9S	1	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	105	3H-22D	2	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	106	3H-21B	1	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	107	3H-29C	4	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	108	3H-22D	11	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	109	3H-5A	1	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	110	3T-1	1	漆器	甕	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	111	3H-5A	11	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	112	3H-12A	1	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	113	3H-31B	3	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	114	3H-15D	2	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	115	3H-5A	7	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	116	3H-11B	2	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	117	3H-13D	5	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	118	3H-2C	6	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	119	3H-1C	1	漆器	皿	赤褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	120	3H-2C	2	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	121	3T-9D	1	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	122	3H-4A	1	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	123	3H-12A	2	漆器	皿	赤褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	124	3H-15A	16	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	125	3H-22B	1	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	126	3H-25D	7	漆器	皿	灰白色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	127	3H-24B	8	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
20	128	3H-5A	1	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	129	3H-33B	13	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	130	3H-22C	6	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	131	3H-5A	5	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	132	3H-11B	2	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	133	3H-22B	12	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	134	3H-5A	13	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	135	3H-29C	10	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	136	3H-22D	2	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	137	3H-22D	2	漆器	皿	赤褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	138	3H-15D	2	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	139	3H-22C	4	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	140	3H-25A	2	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	141	3H-11B	1	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	142	3H-4C	2	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	143	3T-9B	1	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	144	3H-24C	9	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	145	3H-25A	1	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	146	3H-34B	4	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	147	3H-11C	2	漆器	皿	赤褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	148	3H-5A	6	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	149	3H-12A	4	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	150	3H-33B	8	漆器	皿	赤褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	151	3H-42B	2	漆器	皿	黄褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	152	3H-15A	2	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	
21	153	3H-5A	8	漆器	皿	灰褐色	継ぎ	早期	継ぎ	-	-	-	口縁部片	

種別	No.	規格番号	品物番号	品名	地産	色調	加工	時期	形式	口径 (cm)	口径 (cm)	高さ (cm)	所在地	備考
21	134	3H-128	2	漆塗	黒	赤褐色	縹紗	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	135	3H-130	2	漆塗	黒	黄褐色	縹紗	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	136	3H-132	13	漆塗	黒	赤褐色	縹紗	早期前葉	花輪台	-	-	-	縹紗片	
21	137	3H-229	2	漆塗	黒	黄褐色	雲母・多層縹紗	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	138	3H-230	11	漆塗	黒	黄褐色	白砂・スコリア・石莖殻	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	139	3H-438	2	漆塗	黒	黄褐色	縹紗	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	160	3H-91	1	漆塗	黒	灰褐色	縹紗	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	161	3H-282	2	漆塗	黒	灰褐色	縹紗・石莖殻	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	162	3H-120	2	漆塗	黒	灰褐色	スコリア	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	163	3H-283	1	漆塗	黒	赤褐色	スコリア	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	164	3H-15A	7	漆塗	黒	灰褐色	石莖殻	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	165	3H-90C	1	漆塗	黒	黄褐色	縹紗・石莖殻	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	166	3H-228	11	漆塗	黒	灰褐色	雲母・石莖殻・縹紗	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	167	3H-43C	2	漆塗	黒	灰褐色	縹紗	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	168	3H-43C	2	漆塗	黒	灰褐色	縹紗・石莖殻	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	169	3H-40	3	漆塗	黒	灰褐色	縹紗	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	170	3H-248	2	漆塗	黒	灰褐色	縹紗・石莖殻・スコリア	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	171	3H-250	8	漆塗	黒	灰褐色	縹紗・石莖殻・スコリア	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	172	3H-130	6	漆塗	黒	灰褐色	縹紗・石莖殻・スコリア	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	173	3H-13A	13	漆塗	黒	灰褐色	縹紗・石莖殻・スコリア	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	174	3H-2C	6	漆塗	黒	灰褐色	縹紗・石莖殻	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	175	3H-33A	8	漆塗	黒	灰褐色	縹紗・石莖殻	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	176	3H-13A	1	漆塗	黒	灰褐色	縹紗	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	177	3H-228	4	漆塗	黒	黄褐色	縹紗	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	178	3H-31	1	漆塗	黒	黄褐色	縹紗・石莖殻	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	179	3H-218	1	漆塗	黒	灰褐色	石莖殻・スコリア	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	180	3H-91	1	漆塗	黒	灰褐色	石莖殻・雲母・縹紗	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	181	3H-35A	7	漆塗	黒	灰褐色	石莖殻・雲母・縹紗	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	182	3H-92B	1	漆塗	黒	灰褐色	石莖殻・縹紗・雲母・スコリア	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	183	3H-14A	9	漆塗	黒	灰褐色	石莖殻・縹紗・雲母	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	184	3H-23C	8	漆塗	黒	灰褐色	石莖殻・縹紗・雲母	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	185	3H-90	4	漆塗	黒	灰褐色	石莖殻・縹紗・雲母	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	186	3H-23B	1	漆塗	黒	灰褐色	石莖殻・縹紗・雲母	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	187	3H-23D	14	漆塗	黒	黄褐色	石莖殻・縹紗・雲母・スコリア	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	188	3H-23C	15	漆塗	黒	灰褐色	石莖殻・縹紗	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	189	3H-25A	5	漆塗	黒	赤褐色	石莖殻・縹紗・雲母・スコリア	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	190	3H-32A	1	漆塗	黒	灰褐色	石莖殻・縹紗・雲母・スコリア	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	191	3H-35A	4	漆塗	黒	灰褐色	石莖殻・雲母・縹紗	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	192	3H-90C	1	漆塗	黒	黄褐色	スコリア・縹紗	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	193	3H-43C	1	漆塗	黒	黄褐色	スコリア	早期前葉	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	194	3H-228	4	漆塗	黒	黄褐色	縹紗	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	205	3H-14	1	漆塗	黒	黄褐色	縹紗	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	206	3H-14C	4	漆塗	黒	黄褐色	縹紗・白砂・石莖殻	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	207	3H-13A	1	漆塗	黒	赤褐色	縹紗・白砂	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	208	3H-23D	3	漆塗	黒	黄褐色	石莖殻	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	209	3H-14B	6	漆塗	黒	暗褐色	雲母・白砂	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	200	3H-35A	2	漆塗	黒	暗褐色	雲母・白砂	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	201	3H-35A	7	漆塗	黒	暗褐色	白砂	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	202	3H-3D	1	漆塗	黒	暗褐色	白砂	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	203	3H-128	4	漆塗	黒	暗褐色	白砂・雲母・石莖殻	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	204	3H-13A	15	漆塗	黒	黄褐色	縹紗	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	205	3H-32A	1	漆塗	黒	黄褐色	白砂・雲母・石莖殻	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	206	3H-32A	9	漆塗	黒	黄褐色	雲母・白砂	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	207	3H-22C	10	漆塗	黒	黄褐色	白砂	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	208	3H-25A	12	漆塗	黒	黄褐色	白砂・石莖殻	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	209	3H-34A	10	漆塗	黒	黄褐色	縹紗	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	210	3H-13C	14	漆塗	黒	黄褐色	縹紗	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	211	3H-32D	1	漆塗	黒	暗褐色	縹紗	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	212	3H-26D	2	漆塗	黒	黄褐色	縹紗・白砂	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	213	3H-33A	8	漆塗	黒	黄褐色	縹紗・白砂	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	214	3H-15D	4	漆塗	黒	黄褐色	縹紗・石莖殻	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	215	3H-32A	1	漆塗	黒	黄褐色	縹紗	早期	花輪台	-	-	-	口縁部片	
21	216	3H-33B	13	漆塗	黒	赤褐色	縹紗	早期	花輪台	-	-	-	縹紗片	
21	217	3H-13C	2	漆塗	黒	黄褐色	縹紗・雲母	早期	花輪台	-	-	-	縹紗片	
21	218	3H-23C	15	漆塗	黒	黄褐色	縹紗	早期	花輪台	-	-	-	縹紗片	
21	219	3H-128	4	漆塗	黒	赤褐色	白砂・雲母	早期	花輪台	-	-	-	縹紗片	
21	220	3H-22D	2	漆塗	黒	赤褐色	白砂・雲母	早期	花輪台	-	-	-	縹紗片	
21	221	3H-25D	3	漆塗	黒	黄褐色	白砂・雲母	早期	花輪台	-	-	-	縹紗片	
21	222	3H-13B	8	漆塗	黒	黄褐色	縹紗	早期	花輪台	-	-	-	縹紗片	
21	223	3H-12D	4	漆塗	黒	黄褐色	縹紗	早期	花輪台	-	-	-	縹紗片	
21	224	3H-2C	2	漆塗	黒	黄褐色	縹紗・雲母	早期	花輪台	-	-	-	縹紗片	
21	225	3H-12B	4	漆塗	黒	黄褐色	縹紗・雲母	早期	花輪台	-	-	-	縹紗片	
21	226	3H-13D	5	漆塗	黒	赤褐色	縹紗・石莖殻	早期	花輪台	-	-	-	縹紗片	
21	227	3H-3D	1	漆塗	黒	黄褐色	縹紗	早期	花輪台	-	-	-	縹紗片	
21	228	1.3.5	1	漆塗	黒	暗褐色	縹紗	早期中葉	三日月	-	-	-	口縁部片	

材料 No.	規格番号	造形番号	品名	材質	色調	加工	時期	形式	口径 (mm)	口径 (cm)	高さ (cm)	取付穴径	備考
22	229	3H-T-14	1	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	口縁部内
22	230	3H-U-33A	13	洋漆	黒	赤褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	口縁部内
22	231	3H-U-49	2	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	口縁部内
22	232	3H-U-128	6	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	口縁部内
22	233	3H-U-3	1	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	234	3H-83	1	洋漆	黒	灰褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	235	3H-U-127	1	洋漆	黒	赤褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	236	3H-82	1	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	237	3H-U-25A	6	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	238	3H-U-126	2	洋漆	黒	赤褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	239	3H-U-262	2	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	240	3H-U-30	1	洋漆	黒	赤褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	241	3H-U-25	1	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	242	3H-U-150	1	洋漆	黒	赤褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	243	3H-U-150	1	洋漆	黒	赤褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	口縁部内
22	244	3H-U-23C	5	洋漆	黒	灰褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	口縁部内
22	245	3H-U-23C	1	洋漆	黒	灰褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	246	3H-U-30	1	洋漆	黒	赤褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	247	3H-U-229	1	洋漆	黒	灰褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	248	3H-U-13A	11	洋漆	黒	赤褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	249	3H-U-29C	3	洋漆	黒	灰褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	250	3H-U-130	7	洋漆	黒	灰褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	251	3H-U-33A	13	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	252	3H-U-11B	2	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	253	3 1 4	1	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	254	3H-U-24C	7	洋漆	黒	灰褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	255	3H-U-13A	3	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	256	3H-U-25A	6	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期中期	33φ	-	-	-	織底内
22	257	3H-U-32A	1	洋漆	黒	灰褐色	織紗・織網含石	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	258	3H-U-150	4	洋漆	黒	黒褐色	織紗・織網含石	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	259	3H-U-129	1	洋漆	黒	灰褐色	織紗・織網含石	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	260	3H-U-229	4	洋漆	黒	灰褐色	織紗・織網含石	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	261	3H-U-150	1	洋漆	黒	灰褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	262	3 1 4	1	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	263	3H-T-98	1	洋漆	黒	灰褐色	織紗・織網含石	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	264	3H-U-34A	3	洋漆	黒	灰褐色	織紗・石裏紙・織網含石	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	265	3H-U-26B、25A	8.5	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	266	3H-U-15A	4	洋漆	黒	赤褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	267	3H-U-29C	9	洋漆	黒	赤褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	268	3H-U-24D	19	洋漆	黒	赤褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	269	3H-U-16A	8	洋漆	黒	赤褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	270	3H-U-13C	15	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	271	3H-U-230	15	洋漆	黒	赤褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	272	3H-T-90C	1	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	273	3H-U-23D	11	洋漆	黒	灰褐色	織紗・織網含石	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	274	3H-U-13C	1	洋漆	黒	赤褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	275	3H-U-18C	1	洋漆	黒	黒褐色	織紗・織網含石	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	276	3H-U-15D	2	洋漆	黒	黒褐色	織紗・織網含石	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	277	3H-U-43D	2	洋漆	黒	黒褐色	織紗・織網含石	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	278	3H-U-23C	5	洋漆	黒	黒褐色	織紗・織網含石	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	279	3H-U-29	2	洋漆	黒	赤褐色	織紗・織網含石	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	280	3H-U-33A	1	洋漆	黒	赤褐色	織紗・織網含石	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	281	3H-U-230	11	洋漆	黒	灰褐色	織紗・織網含石	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	282	3H-U-33A	1	洋漆	黒	灰褐色	織紗・織網含石	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	283	3H-U-2C	2	洋漆	黒	灰褐色	織紗・織網含石	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	284	3H-U-4D	5	洋漆	黒	灰褐色	織紗・織網含石	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	285	3H-U-2D	14	洋漆	黒	灰褐色	織紗・織網含石	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	286	3H-U-15D	2	洋漆	黒	灰褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	287	3H-U-3C	4	洋漆	黒	灰褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	288	3H-U-130	13	洋漆	黒	赤褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	289	3H-U-35A	7	洋漆	黒	赤褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	290	3H-T-94C	2	洋漆	黒	赤褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	291	3H-U-15A	6	洋漆	黒	赤褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	292	3H-U-15D	2	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	293	3H-U-4D-15D	5.3	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	294	3H-U-30B	6	洋漆	黒	赤褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	295	3H-U-230	11	洋漆	黒	灰褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	296	3H-U-13C	2	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	297	3H-U-2C	2	洋漆	黒	灰褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	298	3H-U-65A	2	洋漆	黒	灰褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	299	3H-U-15D	2	洋漆	黒	灰褐色	織紗・織網含石	早期後葉	野色	-	-	-	口縁部内
22	300	3H-U-43D	1	洋漆	黒	灰褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	301	3H-U-29C、29D	6.10	洋漆	黒	灰褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	302	3H-U-33A	13	洋漆	黒	灰褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	野一織底内
22	303	3H-U-330	13	洋漆	黒	灰褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	織底内
22	304	3H-U-25D	3	洋漆	黒	黒褐色	織紗	早期後葉	野色	-	-	-	織底内

材料	No.	規格番号	数量番号	品名	仕様	色調	加工	時期	形式	口径 (cm)	口径 (cm)	高さ (cm)	取付穴	備考
	24	305 3H1-2C	23	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂	早期塗装	縦×横台	-	-	-	製品片	
	24	306 3H1-3A	13	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂	早期塗装	縦×横台	-	-	-	製品片	
	24	307 3H1-42A	2	洋漆	黒	黒褐色	細砂	早期塗装	縦×横台	-	-	-	製品片	
	24	308 3H1-5A	9	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂	早期塗装	縦×横台	-	-	-	製品片	
	24	309 3H1-13B	2	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂	早期塗装	縦×横台	-	-	-	製品片	
	24	310 3H1-24B	5	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂	早期塗装	縦×横台	-	-	-	製品片	
	24	311 3H1-35A	6	洋漆	黒	黒褐色	細砂	早期塗装	縦×横台	-	-	-	製品片	
	24	312 3H1-3	4	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂	早期塗装	縦×横台	-	-	-	製品片	
	24	313 3H1-4D	2	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂	早期塗装	縦×横台	-	-	-	製品片	
	24	314 3H1-43A	9	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂	早期塗装	縦×横台	-	-	-	製品片	
	24	315 3H1-14B	2	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂	早期塗装	縦×横台	-	-	-	製品片	
	24	316 3H1-25D	4	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	縦×横台	-	-	-	製品片	
	24	317 3H1-25D	8	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	縦×横台	-	-	-	製品片	
	24	318 3H1-25D	5~8	洋漆	黒	黒褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	縦×横台	-	-	-	製品片	
	24	319 3H1-24B	5	洋漆	黒	黒褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	縦×横台	-	-	-	製品片	
	24	320 3H1-14C	4	洋漆	黒	黒褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	縦×横台	-	-	-	製品片	
	24	321 3H1-22C	1	洋漆	黒	暗褐色	細砂	早期塗装	縦×横台	-	-	-	製品片	
	24	322 3H1-12D	2	洋漆	黒	暗褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	縦×横台	-	-	-	製品片	
	24	323 3H1-24D	19	洋漆	黒	赤褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	縦×横台	-	-	-	製品片	
	24	314 3H1-12B	9	洋漆	黒	暗褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	縦×横台	-	-	-	製品片	
	24	325 3H1-12D	10	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・石末	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	326 3H1-22B	10	洋漆	黒	褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	327 3H1-2C	2	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	328 3H1-39C	2	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	329 3H1-13A	2	洋漆	黒	褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	330 3H1-3C	4	洋漆	黒	褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	331 3H1-22C	10	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	332 3H1-25D	6	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	333 3H1-38A-32B	8,12	洋漆	黒	黒褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	334 3H1-22B	10	洋漆	黒	赤褐色	細砂	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	335 3H1-24C	10	洋漆	黒	赤褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	336 3H1-35A	4	洋漆	黒	黒褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	製品片	
	24	337 3H1-25D	3	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	製品片	
	24	338 3H1-25B	1	洋漆	黒	褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	製品片	
	24	339 3H1-3C	2	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	製品片	
	24	340 3H1-26A	1	洋漆	黒	黒褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	製品片	
	24	341 3H1-32B	13	洋漆	黒	黒褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	342 3H1-25D	3	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	343 3H1-15D	2	洋漆	黒	暗褐色	細砂	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	344 3H1-25A	6	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	345 3H1-12A	10	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	346 3H1-14C	1	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	347 3H1-32C	1	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	348 3H1-12A	1	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	349 3H1-33A	13	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	350 3H1-25D	7	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	351 3H1-43B	2	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	352 3H1-35A	8	洋漆	黒	暗褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	353 3H1-33A	13	洋漆	黒	暗褐色	細砂	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	354 3H1-3	4	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	355 3H1-35A	6	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	356 3H1-15D	2	洋漆	黒	黒褐色	細砂	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	357 3H1-13C	1	洋漆	黒	黒褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	358 3H1-25D	8	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	359 3H1-4D	1	洋漆	黒	暗褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	360 3H1-32B	4	洋漆	黒	暗褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	361 3H1-24D	20	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	362 3H1-12B	4	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	363 3H1-13A	10	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	364 3H1-25D	8	洋漆	黒	黒褐色	細砂	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	365 3H1-15A	7	洋漆	黒	暗褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	366 3H1-34A	7	洋漆	黒	赤褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	367 3H1-12A	3	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	368 3H1-12A	1	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	369 3H1-9D	6	洋漆	黒	褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	370 3H1-33A	9	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	371 3H1-15D-24C	1,3	洋漆	黒	黒褐色	細砂	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	本形
	24	372 3H1-33A	11	洋漆	黒	黒褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	373 3H1-33A	13	洋漆	黒	黒褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	374 3H1-12A	1	洋漆	黒	黒褐色	細砂	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	375 3H1-33B	12	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・石末、炭粉、細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	376 3H1-13A	2	洋漆	黒	黒褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	377 3H1-5D	3	洋漆	黒	黒褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	本形全?
	24	378 3H1-24C	9	洋漆	黒	暗褐色	細砂	早期塗装	山山下降	-	-	-	口縁部	
	24	379 3H1-12B	1	洋漆	黒	暗茶褐色	細砂・細砂含石	早期塗装	山山下降(深溝全?)	-	-	-	口縁部	

種別	No.	道標番号	道路番号	区別	地産	色調	加工	時期	形式	口径 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	所在地	備考
28	380	31U-228	11	実況土器	甎	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期	赤磁文	-	-	5(5)	成瀬	
29	381	31U-229	10	実況土器	瓦	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期	赤磁文	-	-	5(6)	成瀬	
30	382	31U-140	2	実況土器	瓦	黄褐色	縹砂	早期	赤磁文	-	-	5(3)	成瀬	
31	383	31U-320	13	実況土器	今半瓶	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期	赤磁文	-	-	5(2)	成瀬	
32	384	31U-32A	13	実況土器	瓦	褐色陶器	縹砂	早期	赤磁文	-	-	5(2)	成瀬	
33	385	31U-34A	12	実況土器	甎	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期	赤磁文	-	-	5(5)	成瀬	
34	386	31U-3	4	実況土器	瓦	黄褐色	縹砂	早期	赤磁文	-	-	5(3)	成瀬	
35	387	31U-130	8	実況土器	甎	赤褐色	縹砂、縹磁を含む	早期	赤磁文	-	-	5(7)	成瀬	
36	388	31U-35A	6	実況土器	瓦	赤褐色	縹砂、縹磁を含む	早期	赤磁文	-	-	5(8)	瀬田川	
37	389	31U-12A	1	実況土器	今半瓶	黄褐色	縹砂、縹磁を含む	早期	赤磁文	-	-	5(9)	成瀬	
38	390	31U-34A	12	実況土器	今半瓶	赤褐色	縹砂、縹磁を含む	早期	赤磁文	-	-	5(3)	成瀬	
39	391	31U-320	12	実況土器	甎	赤褐色	縹砂、縹磁を含む	早期	赤磁文	-	-	5(8)	成瀬	
40	392	31U-230	15	実況土器	甎	黄褐色	縹砂、縹磁を含む	早期	赤磁文	-	-	5(3)	成瀬	
41	393	31U-26	7	漆器	今半瓶	赤褐色	縹砂、縹磁を含む	早期	赤磁文	-	5(1)	5(7)	成瀬	
42	394	31U-24D	18	漆器	甎	赤褐色	縹砂、縹磁を含む	早期	赤磁文	-	5(0)	5(2)	成瀬	
43	395	31U-23A	5	漆器	甎	赤褐色	縹砂	早期	赤磁文	-	5(1)	7(3)	成瀬	
44	396	31U-24D	11	漆器	瓦	灰褐色	縹砂	早期後葉	山笠文	-	-	-	口線部付	
45	397	31U-24C	7	漆器	瓦	褐色	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
46	398	31U-23C	14	漆器	瓦	赤褐色	縹砂、石瓦粒	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
47	399	31U-25A	2	漆器	甎	黒褐色	縹砂、石瓦粒、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
48	400	31U-24B	8	漆器	瓦	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
49	401	31U-33A	14	漆器	甎	黒褐色	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
50	402	31U-24D	15	漆器	瓦	褐色	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
51	403	31U-34A	10	漆器	甎	灰褐色	縹磁を含む	早期後葉	上の方	-	-	-	口線部付	
52	404	31U-25A	2	漆器	甎	黒褐色	大粒砂り多量、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
53	405	16 ト	1	漆器	瓦	赤褐色	縹砂、石瓦粒、縹磁を含む	早期後葉	上の方	-	-	-	口線部付	
54	406	31U-33B	12	漆器	甎	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	上の方	-	-	-	口線部付	
55	407	31U-23D	10	漆器	今半瓶	赤褐色	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	上の方	-	-	-	口線部付	
56	408	31U-12B	2	漆器	甎	赤褐色	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	上の方	-	-	-	口線部付	
57	409	31U-4D	5	漆器	瓦	褐色陶器	大粒砂	早期後葉	東海派	-	-	-	口線部付	
58	410	31U-32B	4	漆器	甎	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	東海派	-	-	-	口線部付	
59	411	31U-13C	14	漆器	甎	赤褐色	縹砂、石瓦粒など、縹磁を含む	早期後葉	上の方	-	-	-	口線部付	
60	412	31U-25D	6	漆器	甎	褐色陶器	大粒砂、石瓦粒など、縹磁を含む	早期後葉	上の方	-	-	-	口線部付	
61	413	31U-22D	10	漆器	甎	褐色陶器	大粒砂、石瓦粒など、縹磁を含む	早期後葉	東海派	-	-	-	口線部付	
62	414	31U-34A	8	漆器	瓦	黒褐色	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	東海派	-	-	-	口線部付	
63	415	31U-22C	4	漆器	甎	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	上の方	-	-	-	口線部付	
64	416	31U-140	9	漆器	甎	灰褐色	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
65	417	31U-13A	2	漆器	甎	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
66	418	31U-22D	2	漆器	甎	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	上の方	-	-	-	口線部付	
67	419	31U-22D	2	漆器	瓦	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	東海派	-	-	-	口線部付	
68	420	31U-14C	6	漆器	瓦	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
69	421	31U-33C	1	漆器	瓦	赤褐色	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
70	422	31U-15D	2	漆器	瓦	赤褐色	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
71	423	31U-12A	1	漆器	瓦	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	東海派	-	-	-	口線部付	
72	424	31U-25D	8	漆器	瓦	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	東海派	-	-	-	瀬田川	
73	425	31U-35A	4	漆器	瓦	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	上の方	-	-	-	瀬田川	
74	426	31U-25D	11	漆器	瓦	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
75	427	31U-22B	9	漆器	甎	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
76	428	31U-24B	5	漆器	瓦	黒褐色	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
77	429	31U-32B	5	漆器	瓦	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	東海派	-	-	-	口線部付	
78	430	31U-12A	1	漆器	瓦	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	上の方	-	-	-	口線部付	
79	431	31U-12A	1	漆器	瓦	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	東海派	-	-	-	口線部付	
80	432	31U-33B	4	漆器	瓦	黄褐色	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
81	433	31U-16C	1	漆器	甎	黒褐色	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
82	434	31U-35A	6	漆器	瓦	赤褐色	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
83	435	31U-23C	7	漆器	瓦	赤褐色	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
84	436	31U-5D	9	漆器	瓦	黄褐色	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	瀬田川(6)
85	437	31U-15D	2	漆器	甎	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
86	438	31U-15D	4	漆器	瓦	赤褐色	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	東海派	-	-	-	口線部付	
87	439	31U-12B	4	漆器	瓦	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	上の方	-	-	-	口線部付	
88	440	31U-3D	4	漆器	甎	黄褐色	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	東海派	-	-	-	口線部付	
89	441	31U-2D	1	漆器	甎	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	東海派	-	-	-	口線部付	
90	442	31U-13A	16	漆器	甎	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
91	443	31U-33B	11	漆器	瓦	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
92	444	31U-4A	1	漆器	瓦	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
93	445	31U-12D	2	漆器	甎	褐色陶器	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	東海派	-	-	-	口線部付	
94	446	31U-24A	5	漆器	甎	黄褐色	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	東海派	-	-	-	口線部付	
95	447	31U-33A	6	漆器	瓦	黄褐色	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	上の方	-	-	-	口線部付	
96	448	31U-12A	1	漆器	甎	灰褐色	縹砂、縹砂多量に含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	
97	449	31U-24C	7	漆器	今半瓶	赤褐色	縹砂、縹磁を含む	早期後葉	人面1	-	-	-	口線部付	

種別	No.	規格番号	造物番号	品名	組成	色調	加工	時期	形式	口径 (cm)	口径 (cm)	深高 (cm)	形状	備考
	31	31U-240	11	洋鉢	真	赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	31	31U-250	2	洋鉢	真	暗赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	31	31U-11A	4	洋鉢	真	暗赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-22C	14	洋鉢	今中瓶	赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	内面赤粉
	32	31U-22D	7	洋鉢	真	赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-14A	4	洋鉢	真	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-44A	2	洋鉢	今中瓶	暗赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-24A	6	洋鉢	真	暗赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-2C	2	洋鉢	真	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-33B	8	洋鉢	真	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-15A	4	洋鉢	真	暗赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-3D	1	洋鉢	真	暗赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	内面赤粉
	32	31U-212D	1010	洋鉢	真	黄褐色	大粒砂粒	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	内面赤粉
	32	31U-25A	12	洋鉢	今中瓶	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-14C	3	洋鉢	真	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-23C	14	洋鉢	真	暗赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-23C	5	洋鉢	真	暗赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-24D	18	洋鉢	今中瓶	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-25D	3	洋鉢	真	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-25A	5	洋鉢	真	暗赤褐色	砂粒	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-2C	1	洋鉢	真	暗赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-24C	4	洋鉢	真	赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-24A	2	洋鉢	真	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-15D	1	洋鉢	真	暗赤褐色	砂粒	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-24D	1	洋鉢	真	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-22C2D	318	洋鉢	真	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-12B	2	洋鉢	真	暗赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-13C	15	洋鉢	真	暗赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-3	1	洋鉢	真	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-25A	1	洋鉢	真	黄褐色	小砂粒多し	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	赤粉
	32	31U-23C	12	洋鉢	真	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-27D	1	洋鉢	真	赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-23C	12	洋鉢	真	暗赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-15D	4	洋鉢	真	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-24D	13	洋鉢	真	暗赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-24D	10	洋鉢	真	暗赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-25A	4	洋鉢	真	暗赤褐色	砂粒今中瓶心	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-5D	5	洋鉢	今中瓶	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-23C	1	洋鉢	真	黄褐色	砂粒今中瓶心	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-14C	7	洋鉢	真	暗赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-94D	2	洋鉢	真	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-44A	3	洋鉢	今中瓶	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	赤粉多し
	32	31U-25A	6	洋鉢	真	黄褐色	織紗多量・流汗含む	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	3トレ	1	洋鉢	真	黄褐色	砂粒	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-4C	4	洋鉢	真	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-25A	3	洋鉢	今中瓶	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-33D	9	洋鉢	真	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-25	3	洋鉢	真	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-24D	10	洋鉢	真	赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	口縁部・縁部片
	32	31U-22B	8	洋鉢	真	黄褐色	砂粒・石黒粒含む	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	口縁部・縁部片
	32	31U-4C	6	洋鉢	真	暗赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-22C	14	洋鉢	真	同褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-3D	1	洋鉢	今中瓶	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内1	-	-	-	口縁部片	
	32	31U-DB13A	5.2	洋鉢	今中瓶	同褐色	織紗・石黒粒多量に含む	後醍醐天皇	堀之内2	(324)	(110)	(110)	口縁部片	
	34	31U-14C2D	4・5D・12	洋鉢	真	黄褐色	織紗・スコリア	後醍醐天皇	堀之内2	332	(388)	(388)	口縁部・縁部片	60%
	34	31U-15A	3・4・6	洋鉢	今中瓶	同褐色	織紗含む	後醍醐天皇	堀之内2	(278)	(283)	(283)	口縁部・縁部片	25%
	34	31U-23A	8	洋鉢	今中瓶	黄褐色	大粒砂粒	後醍醐天皇	堀之内2	-	(311)	(311)	縁部片	30%
	34	31U-13A	2・5	洋鉢	真	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内2	(160)	(160)	(160)	口縁部・縁部片	10%
	34	31U-3B	1	縁部片	真	黄褐色	織紗・白砂・スコリア	後醍醐天皇	堀之内2	(141)	6.4	7.9	30%	縁部片
	34	31U-13C	13	洋鉢	今中瓶	黄褐色	白色砂粒含む	後醍醐天皇	堀之内2	117	8.8	14.5	80%	縁部片
	34	1トレ	1	洋鉢	真	同褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内2	(111)	7.6	16.5	30%	
	35	31U-12B	2	洋鉢	真	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内2	-	-	-	口縁部片	
	35	31U-3C	1	洋鉢	真	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内2	-	-	-	口縁部片	
	35	31U-24D	18	洋鉢	今中瓶	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内2	-	-	-	口縁部片	
	35	31U-12B	2	洋鉢	今中瓶	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内2	-	-	-	口縁部片	
	35	31U-25A	3	洋鉢	真	同褐色	砂粒多量	後醍醐天皇	堀之内2	-	-	-	口縁部片	
	35	31U-3D	13	洋鉢	真	暗赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内2	-	-	-	口縁部片	
	35	31U-4D	1	洋鉢	真	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内2	-	-	-	口縁部片	
	35	31U-13A	1	洋鉢	真	暗赤褐色	砂粒多量	後醍醐天皇	堀之内2	-	-	-	口縁部片	
	35	31U-24D	4	縁部片	真	暗赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内2	-	-	-	口縁部片	
	35	31U-3D	13	洋鉢	今中瓶	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内2	-	-	-	口縁部片	
	35	31U-13D	4	洋鉢	真	暗赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内2	-	-	-	口縁部片	縁部片多し
	35	31U-25	-	洋鉢	真	赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内2	-	-	-	口縁部片	
	35	31U-24C	9	洋鉢	真	黄褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内2	-	-	-	口縁部片	内面赤粉多し
	35	16トレ	1	洋鉢	真	暗赤褐色	織紗	後醍醐天皇	堀之内2	-	-	-	口縁部片	

種別	No.	品名	規格	単位	原料	組成	色調	加工	時期	形式	口径 (mm)	口径 (mm)	高さ (mm)	形状	備考
35	105	310-328	4	深溝	真	硬質合金	線鈹		後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
36	106	310-23A	1	深溝	真	硬質合金	線鈹		後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
37	310-040	3	深溝	中々硬	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	線鈹丸あり
38	310-228	9	深溝	真	硬質合金	線鈹	砂粒多量		後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
39	310-36	1	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
40	310-242	10	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	線鈹丸あり
41	310-29C	7	深溝	中々硬	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
42	310-24C	7	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
43	310-23A	8	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
44	310-09C	1	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	内径面車削の線鈹あり
45	310-328	4	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
46	310-24D	11	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
47	310-22C	7	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
48	310-22D	6	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
49	310-2K2D	41	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
50	310-14C	6	深溝	中々硬	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
51	310-328	9	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	側面凸	
52	310-23C	5	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	側面凸	
53	310-23A	10	溝	真	硬質合金	砂粒多量			後製線鈹	第2内2	-	-	-	側面凸	
54	310-23A	4	深溝	中々硬	硬質合金	小砂粒多量			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
55	310-13A	3	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
56	310-228	5	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	車削
57	310-040	17	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
58	310-22C	15	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
59	310-23A	7-8	深溝	真	硬質合金	砂粒含む			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
60	310-22D	5	深溝	真	硬質合金	砂粒			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	車削
61	310-44A	2	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
62	310-23A	3	深溝	真	硬質合金	砂粒			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
63	310-24A	6	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
64	310-14C2D	4.18	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
65	310-23A	8	深溝	真	硬質合金	小砂粒			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
66	310-44A	2	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
67	310-24D	4	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	口縁部凸	
68	310-14D	1	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	側面凸	
69	310-4C	2	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	第2内2	-	-	-	側面凸	
70	310-25D	7	深溝	中々硬	硬質合金	砂粒含む			後製線鈹	第2内2	-	-	-	側面凸	
71	310-34B	4	深溝	真	硬質合金	砂粒			後製線鈹	第2内2	-	-	-	側面凸	
72	310-2C	4	深溝	真	硬質合金	石炭粒、大粒白砂			後製線鈹	追加材料 1	2640	8.6	214	45%	
73	310-2C	1-2-4	深溝	真	硬質合金	大粒白砂多量に含む			後製線鈹	追加材料 1	188	8.1	267	80%	
74	18 T 310-1E2	1.5	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	追加材料 1	3841	-	1940	口縁-側面30%	1.8
75	310-23A	1-8	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	追加材料 1	2241	-	1311	口縁-側面30%	
76	310-12B	2-3	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	追加材料 1	2253	-	2215	口縁-側面40%	
77	310-12B	5	深溝	中々硬	硬質合金	線鈹、大粒砂粒、スコリア含む			後製線鈹	追加材料 1	173	-	2850	口縁-側面10%	
78	310-14A	4-6	深溝	中々硬	硬質合金	線鈹、大粒砂粒、スコリア含む			後製線鈹	追加材料 1	279	-	1097	口縁20%	
79	310-2A2C-304B	1-12.2.4	深溝	真	硬質合金	砂粒、スコリア多量に含む			後製線鈹	追加材料 1	3366	-	1430	口縁-側面25%	縦型
80	310-90C	1	溝	真	硬質合金	線鈹、スコリア含む			後製線鈹	追加材料 1	1625	6.2	201	30%	縦型
81	310-4A30C	1.11	深溝	中々硬	硬質合金	大粒砂粒多量に含む			後製線鈹	追加材料 1	2346	-	1911	口縁-側面30%	
82	310-22B	4-9	深溝	真	硬質合金	線鈹、白砂含む			後製線鈹	追加材料 1	221	7.6	305	80%	縦型
83	310-13A	3-10	溝	真	硬質合金	線鈹、白砂多量に含む			後製線鈹	追加材料 1	-	6.2	1613	40%	1.8
84	310-12B	3	溝型	真	硬質合金	白砂多量に含む			後製線鈹	追加材料 1	9.0	4.1	70	80%	1.8
85	310-4C.15B	4.2	中々硬	中々硬	硬質合金	線鈹			後製線鈹	追加材料 1	1321	4.8	64	80%	
86	310-22B	4	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	追加材料 1	1130	5.0	69	50%	形状上級
87	310-3	1	外形	真	硬質合金	線鈹、白砂、石炭粒			後製線鈹	追加材料 1	129	9.6	41	98%	
88	310-25D	4	台形溝	中々硬	硬質合金	白砂多量に含む			後製線鈹	追加材料 1	-	100	385	側面100%	
89	310-25D	13	深溝	真	硬質合金	線鈹、スコリア含む			後製線鈹	追加材料 1	-	7.2	1115	側下下-真底60%	
90	310-90C	1	深溝	中々硬	硬質合金	線鈹、白砂多量に含む			後製線鈹	追加材料 1	-	102	118	側面90%	
91	310-2	1	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	追加材料 2	2509	-	360	口縁-側面25%	同一鋼体3片
92	310-22D.3	1.3	深溝	真	硬質合金	線鈹、白砂含む			後製線鈹	追加材料 2	1740	-	1216	口縁-側面25%	
93	310-4A.4C.4D	1.21	深溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	追加材料 2	235	5.7	251	70%	
94	310-24C	6	深溝	中々硬	硬質合金	線鈹、石炭粒多量に含む			後製線鈹	追加材料 2	169	-	1877	口縁-側面70%	
95	310-22B	1-5-9	深溝	真	硬質合金	大砂粒、白砂、石炭粒			後製線鈹	追加材料 2	218	7.80	246	85%	
96	310-22B	10-14-15	深溝	中々硬	硬質合金	白砂多量に含む			後製線鈹	追加材料 2	262	7.5	250	70%	縦
97	310-90C.90D.310-2B	1.11	浅溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	追加材料 2	2151	-	1621	25%	
98	310-13C	10	浅溝	真	硬質合金	線鈹、小石を含む			後製線鈹	追加材料 2	1160	-	330	口縁-側下溝30%	1.8
99	310-34B	7	浅溝	真	硬質合金	線鈹			後製線鈹	追加材料 2	263	9.6	140	80%	1.8
100	310-2D	1	浅溝	真	硬質合金	線鈹、白砂			後製線鈹	追加材料 2	1180	9.6	200		
101	310-12B	1	浅溝	真	硬質合金	線鈹、大粒砂粒多量に含む			後製線鈹	追加材料 2	2300	-	278	口縁-側下溝30%	1.8
102	310-29C.25D	8-12.13-6	浅溝	真	硬質合金	線鈹、白砂多量に含む			後製線鈹	追加材料 2	188	11.0	76	50%	
103	310-22B	10	浅溝	真	硬質合金	線鈹、白砂、石炭粒			後製線鈹	追加材料 2	1731	-	176	口縁-側面40%	
104	310-23A	2-3	浅溝	真	硬質合金	線鈹、石炭粒含む			後製線鈹	追加材料 2	2827	-	1110	口縁-側下溝30%	25D-7と同一鋼

種別	No.	品名	規格	数量	単位	材質	色調	加工	時期	形式	口径 (mm)	口径 (mm)	高さ (mm)	用途	備考	
	39	31U-水-43 C22A40	2・4.1.1.4	1	枚	鋼	灰色	線研、白粉、石炭粉、スリ ア	後期中	加付別 2	21.2	丸	6.7	60%		
	39	31U-3C-3	1.1	1	枚	鋼	赤褐色	線研	後期中	加付別 2	16.1	丸	6.3	90%	L.R	
	39	31U-3A-6	6	1	枚	鋼	黒色	線研	後期中	加付別 2	-	6.6	10.3	10%	10%	
	39	31U-3A-6	6	1	枚	鋼	黒色	白粉、スリ ア	後期中	加付別 2	13.7	7.0	13.5	95%		
	39	31U-3-3B 31T-90C	1.5.1	1	枚	鋼	赤褐色	線研、大粒砂粒多量に含む	後期中	加付別 2	18.5	9.0	11.1	75%		
	39	31U-3B	2	1	枚	鋼	赤褐色	線研、白粉多量に含む	後期中	加付別 2	15.0	6.0	11.1	60%		
	39	31U-3A	2・3・4	1	枚	鋼	赤褐色	大粒砂粒多量に含む	後期中	加付別 2	18.0	9.6	8.5	20%		
	39	31U-3B	2	1	枚	鋼	赤褐色	線研、白粉多量に含む	後期中	加付別 2	13.2	4.1	9.4	30%		
	39	31U-3A	2	1	枚	鋼	赤褐色	線研	後期中	加付別 2	12.6	5.0	10.0	100%	表紙	
	39	31U-3C	4	1	枚	鋼	赤褐色	線研、白粉多量に含む	後期中	加付別 2	15.1	5.6	5.7	55%		
	40	31U-3A	1	1	枚	鋼	赤褐色	線研	後期中	加付別 2	26.5	-	11.7	110%	15%	
	40	31U-3A	1+2	1	枚	鋼	赤褐色	大粒砂粒	後期中	加付別 2	26.2	-	11.0	110%	15%	
	40	31U-2C 31A	1・5.8	1	枚	鋼	赤褐色	線研、大粒砂粒多量に含む	後期中	加付別 2	42.6	-	6.6	110%	10%	
	40	31U-2A 31A	15.2	1	枚	鋼	赤褐色	線研、大粒砂粒多量に含む	後期中	加付別 2	26.2	-	6.7	110%	10%	
	40	31U-12D	1	1	枚	鋼	赤褐色	線研、石炭粉多量に含む	後期中	加付別 2	15.3	6.0	12.0	60%		
	40	31U-14D	1	1	枚	鋼	赤褐色	線研、大粒砂粒多量に含む	後期中	加付別 2	11.1	5.3	11.2	45%		
	40	31U-3A	8	1	枚	鋼	赤褐色	線研、大粒砂粒多量に含む	後期中	加付別 2	12.6	5.1	9.5	30%		
	40	31U-1C 24D	8.4	1	枚	鋼	赤褐色	線研	後期中	加付別 2	11.0	5.1	5.1	45%	表紙	
	40	31U-1 1	1	1	枚	鋼	赤褐色	線研	後期中	加付別 2	11.7	9.4	6.8	60%		
	40	31U-32D	8	1	枚	鋼	赤褐色	線研	後期中	加付別 2	12.8	4.6	5.2	25%		
	40	31U-2A	9	1	枚	鋼	赤褐色	線研	後期中	加付別 2	13.0	6.6	5.9	30%		
	40	31U-3C	5	1	枚	鋼	赤褐色	線研	後期中	加付別 2	14.6	-	16.6	30%		
	40	31U-3A-3D	1.2	1	枚	鋼	赤褐色	線研、白粉多量に含む	後期中	加付別 2	16.0	9.2	8.9	70%	内面文様	
	40	31U-12D	3	1	枚	鋼	赤褐色	大粒白粉、石炭粉	後期中	加付別 2	13.9	21.8	5.4	7.2	12%	
	40	31U-2D	2	1	枚	鋼	赤褐色	線研	後期中	加付別 2	13.1	10.6	6.6	70%	外形	
	41	31U-12B 12D	2.5	1	枚	鋼	赤褐色	線研、白粉多量に含む	後期中	加付別 2	28.3	-	9.5	110%	25%	
	41	31U-12C 18 ト	1.1	1	枚	鋼	赤褐色	線研	後期中	加付別 2	14.0	-	5.5	110%	20%	
	41	31U-1 1	1	1	枚	鋼	赤褐色	線研、白粉多量に含む	後期中	加付別 2	12.7	-	9.1	110%	35%	
	41	31U-3-3B 4A,3C,13C	1.1,1.1.8	1	枚	鋼	赤褐色	大粒砂粒、白粉多量に含む	後期中	加付別 2	27.5	-	10.7	110%	40%	
	41	31U-2 4C,13A	1.2,1.0	1	枚	鋼	赤褐色	線研	後期中	加付別 2	23.0	-	3.2	100%	同一機	
	41	31U-13C	3	1	枚	鋼	赤褐色	大粒砂粒、白粉多量に含む	後期中	加付別 2	-	-	11.0	110%	40%	
	41	31U-2A 23D	2.4・7	1	枚	鋼	赤褐色	線研、白粉多量に含む	後期中	加付別 2	26.5	-	10.5	110%	80%	
	41	31U-12B 12D,23C	2.1,0.2	1	枚	鋼	赤褐色	線研	後期中	加付別 2	13.0	-	9.8	100%	同一機 13D: 13A-11	
	41	31U-33A 33D	2.8	1	枚	鋼	赤褐色	小砂粒、白粉含む	後期中	加付別 2	-	16.2	8.1	100%	50%	
	41	31U-2C 31T-90C	2+4.1	1	枚	鋼	赤褐色	大粒砂粒、白粉多量に含む	後期中	加付別 2	-	11.2	13.5	100%	10%	
	41	31U-33A 33D	2・3・4.1.1	1	枚	鋼	赤褐色	線研	後期中	加付別 2	28.7	-	13.2	100%	40%	
	41	21U-1 1	1	1	枚	鋼	赤褐色	線研、白粉多量に含む	後期中	加付別 2	15.6	-	7.0	110%	45%	
	41	31U-3A	9	1	枚	鋼	赤褐色	線研、石炭粉多量に含む	後期中	加付別 2	30.9	-	12.2	100%	15%	
	41	31U-2A 23D,34A	1.8,2	1	枚	鋼	赤褐色	線研、白粉多量に含む	後期中	加付別 2	29.0	-	14.0	110%	45%	
	41	31U-3A 25D,24D,23D, 24D,33	4.3,4.1,1.1	1	枚	鋼	赤褐色	大粒砂粒多量に含む	後期中	加付別 2	16.4	-	18.1	100%	40%	
	41	31U-1C-4D	2.1	1	枚	鋼	赤褐色	線研	後期中	加付別 2	14.0	6.7	7.6	30%		
	41	31U-33A	8	1	枚	鋼	赤褐色	線研、白粉多量に含む	後期中	加付別 2	-	9.9	14.6	100%		
	41	31U-2C	903,1311・27・ 49・156・ 177・225・252	6	1	枚	鋼	赤褐色	大粒砂粒多量に含む	後期中	加付別 2	-	8.0	6.4	100%	70%
	41	31U-3A	3	1	枚	鋼	赤褐色	線研、スリ ア多量に含む	後期中	加付別 2	-	8.1	3.5	100%	10%	
	41	31U-18 ト	1	1	枚	鋼	赤褐色	線研、大粒砂粒多量に含む	後期中	加付別 2	-	11.2	9.9	100%	10%	
	41	31U-2D	5	1	枚	鋼	赤褐色	線研	後期中	加付別 2	-	8.5	6.5	100%		
	41	31U-34D	6	1	枚	鋼	赤褐色	大粒砂粒多量に含む	後期中	加付別 3	-	7.5	6.7	100%	80%	
	41	31U-4A	1	1	枚	鋼	赤褐色	線研、大粒砂粒多量に含む	後期中	加付別 2	-	7.7	7.4	100%	50%	
	41	31U-22D	7	1	枚	鋼	赤褐色	線研、白粉多量に含む	後期中	加付別 2	-	9.0	5.8	70%		
	42	31U-3 C,13C, 25C,4D	5-11・2・3-53・ 4.4	1	枚	鋼	赤褐色	線研	後期中	加付別 3	16.6	16.2	33.3	40%		
	42	21U-23C	12	1	枚	鋼	赤褐色	線研	後期中	加付別 3	12.1	-	10.0	110%	20%	
	42	31U-14	1	1	枚	鋼	赤褐色	線研、石炭粉多量に含む	後期中	加付別 3	27.6	-	12.7	110%	70%	
	42	227 SK10 SK-021021	509・508・503・ 467・466・ 903,1311・27・ 49・156・ 177・225・252	1	枚	鋼	赤褐色	線研	後期中	加付別 3	30.8	-	28.0	110%	80%	
	42	31U-2C 3A,23D,12D	1・2,2.2.1	1	枚	鋼	赤褐色	線研、大粒砂粒多量に含む	後期中	加付別 3	13.7	-	29.3	110%	60%	
	42	31U-12D 12A,13D	1.1・2・11.4	1	枚	鋼	赤褐色	線研、白粉含む	後期中	加付別 3	27.2	-	23.4	110%	70%	
	42	31U-33D	7	1	枚	鋼	赤褐色	線研、白粉多量に含む	後期中	加付別 3	13.0	-	10.0	110%	30%	
	42	21U-18 ト	1	1	枚	鋼	赤褐色	線研、白粉含む	後期中	加付別 3	28.6	-	16.5	110%	15%	
	42	31U-23D 23C,28C	1・3,5.6	1	枚	鋼	赤褐色	線研、スリ ア含む	後期中	加付別 3	31.7	-	12.8	110%	15%	

種別	No.	規格番号	造形番号	品名	地色	色調	加工	時期	形式	口径 (mm)	口径 (mm)	深高 (mm)	形状	備考	
43	203	31U-12B, 14A,C	432	深鉢	黒	黒褐色	無研磨	後期中世	加群利B	3(32)	-	1630	口縁-深底25%		
43	204	31U-12B,2D	433	深鉢	黒	黒褐色	無研磨	後期中世	加群利B	2(50)	-	1640	口縁-深底20%		
43	205	31U-24A, 24C	37	深鉢	黒	黒褐色	細砂・石炭粉多量に含む	後期中世	加群利B	3(10)	-	2210	口縁-深底7%	L.5	
43	206	31U-12B, 12A	1・21	深鉢	黒	黒褐色	細砂・石炭粉多量に含む	後期中世	加群利B	3	-	40	口縁-深底70%		
44	207	31U-44, 14D,13B, 20D,20E	11・23,73	深鉢	黒	暗褐色	細砂	後期中世	加群利B	3(24)	-	1720	口縁-深底40%	複製	
44	208	31U-2C,4D	13	深鉢	黒	暗褐色	白砂多量に含む	後期中世	加群利B	3	-	50	口縁-深底40%		
44	209	18・1, 31U-33B	14	深鉢	黒	暗褐色	細砂	後期中世	加群利B	2(265)	-	1410	口縁-深底40%		
44	210	31U-8C, 20D,21D	2・4,24,4	深鉢	黒	褐色	無研磨	前期中世	加群利B(赤)	2	-	265	口縁-深底70%		
44	211	31U-22C, 33B	8-12,4・5-6・7・8	深鉢	黒	黒褐色	無研磨	後期中世	加群利B	3	213	-	1635	口縁-深底70%	L.5 せらびん王
44	212	31U-30, 24D,25D, 26A,23B	12,5,42・34・5・11	深鉢	黒	暗褐色	無研磨	後期中世	加群利B	3	3(94)	-	2210	口縁-深底70%	格子目
44	213	31U-20C, 28C,20D,24D, 25A,22B,23C	63・5-8,12,1・4,11・5-8,31,53	深鉢	黒	黒褐色	小砂粒	後期中世	加群利B	3	3(24)	-	2310	口縁-深底65%	
44	214	31U-31B,2C,3	1・3,33	深鉢	黒	暗褐色	細砂・白砂含む	後期中世	加群利B	3	168	5.1	263	口縁深底	格子目, 籠
44	215	18・1	1	深鉢	黒	黒褐色	無研磨	後期中世	加群利B	3	2(22)	6.9	227	50%	格子目, 籠
44	216	2・1	1	深鉢	黒	暗褐色	細砂	後期中世	加群利B	3	217	6.8	221	65%	格子目, 籠
45	217	31U-30, 3C,4D	1・2,13	深鉢	やや暗	暗褐色	大粒砂粒多量に含む	後期中世	加群利B	2	280	-	2450	口縁-深底70%	格子
45	218	31U-25A, 24D	13・4・5・6	深鉢	黒	暗褐色	細砂・石炭粉多量に含む	後期中世	加群利B	3	232	-	2830	80%	
45	219	31U-22B	7・9	深鉢	黒	暗褐色	無研磨	後期中世	加群利B	3	3(80)	-	2310	口縁-深底70%	格子目, 籠
45	220	31U-12B, 12C,23D, 23B,4D	4,5,67・14,9	深鉢	黒	暗褐色	細砂・石炭粉多量に含む	後期中世	加群利B	3	2(23)	-	1820	口縁-深底30%	格子目
45	221	31U-4C	2	深鉢	黒	暗褐色	細砂・スコリア含む	後期中世	加群利B	3	124	-	1935	口縁-深底70%	
45	222	31U-14A, 14B	4・6,4	深鉢	黒	暗褐色	無研磨	後期中世	加群利B	3	232	5.8	322	65%	格子目, 籠
45	223	31U-25A	2・3	深鉢	やや暗	暗褐色	細砂・石炭粉多量に含む	後期中世	加群利B	3	2(76)	3.2	355	60%	複製
45	224	31U-12B,2C	43	深鉢	やや暗	暗褐色	細砂・白砂多量に含む	後期中世	加群利B	3	2(210)	-	2225	口縁-深底30%	
45	225	31U-22C, 25A,25A	3,7,3	深鉢	黒	暗褐色	細砂	後期中世	加群利B	3	2(56)	-	2117	口縁-深底25%	
45	226	31U-4C	2・4	深鉢	黒	暗褐色	細砂・スコリア含む	後期中世	加群利B	3	1(90)	-	1314	口縁-深底25%	複製
45	227	31U-20C, 9,4D	13	深鉢	黒	暗褐色	細砂	後期中世	加群利B	3	233	4.4	336	65%	
45	228	31U-2C,2D	23	深鉢	黒	暗褐色	細砂	後期中世	加群利B	3	-	40	2310	深底-浅底25%	
45	229	31U-12B	2	深鉢	黒	暗褐色	無研磨	後期中世	加群利B	3	3(10)	-	3310	口縁-深底20%	複製
45	230	31U-12B, 12A	1・21・2	深鉢	黒	暗褐色	大粒砂粒多量に含む	後期中世	加群利B	3	358	9.4	478	95%	
45	231	31U-30, 3C,4D	1・13	深鉢	やや不具	暗褐色	無研磨	後期中世	加群利B	3	302	7.2	458	75%	複製
45	232	31U-24 D	11・15・17	深鉢	やや不具	暗褐色	細砂・白砂含む	後期中世	加群利B	3	282	-	2810	口縁-深底70%	
45	233	31U-22B	7・10・17	深鉢	やや暗	暗褐色	大粒砂粒多量に含む	後期中世	加群利B	3	-	45	2955	深底-浅底40%	籠
45	234	31U-12C, 14D	8・10・12,8	深鉢	黒	暗褐色	細砂・石炭粉多量に含む	後期中世	加群利B	3	184	5.1	195	80%	
45	235	31U-14C, 14D	3,10・12	深鉢	黒	暗褐色	白砂含む	後期中世	加群利B	3	237	5.4	265	80%	
45	236	31U-12C, 16・1	13	深鉢	黒	暗褐色	無研磨	後期中世	加群利B	3	229	-	1937	口縁30%	
45	237	31U-26C, 35D	3・4,5	深鉢	黒	暗褐色	無研磨・白砂含む	後期中世	加群利B	3	1(66)	-	1558	口縁-深底30%	籠
45	238	31U-13C	4・8	深鉢	黒	暗褐色	細砂	後期中世	加群利B	3	2(84)	-	1835	口縁-深底30%	複製
45	239	31U-25A, 25B	6・7	深鉢	黒	暗褐色	細砂・白砂含む	後期中世	加群利B	3	234	-	1914	口縁-深底45%	複製
46	270	31U-22B, 26C,26A	1・2・6,33	深鉢	やや暗	暗褐色	細砂・白砂含む	後期中世	加群利B	3	2(64)	-	2220	口縁-深底30%	格子目, 籠
46	271	31U-13C, 13A,14C, 14D,15A,15D	101・133・129,64	深鉢	暗褐色	暗褐色	白色砂含む	後期中世	加群利B	3	250	-	2554	口縁-深底70%	
46	272	31U-33B	3	深鉢	黒	暗褐色	大粒砂粒多量に含む	後期中世	加群利B	3	2(84)	-	2814	口縁-深底25%	籠
46	273	31U-33B	5	深鉢	黒	暗褐色	細砂	後期中世	加群利B	3	2(220)	-	1677	口縁-深底25%	複製
46	274	31U-23C	5・7・8	深鉢	やや暗	暗褐色	大粒砂粒多量に含む	後期中世	加群利B	3	258	5.2	349	60%	複製
46	275	31U-26C	8	深鉢	黒	暗褐色	細砂	後期中世	加群利B	3	2(14)	-	2877	口縁-深底70%	
46	276	31U-24C	7	深鉢	黒	暗褐色	白砂多量に含む	後期中世	加群利B	3	1(60)	34	211	60%	複製
46	277	31U-12B, 23D	1・4・5・8,14	深鉢	黒	暗褐色	無研磨・スコリア	後期中世	加群利B	3	115	5.6	297	70%	
46	278	31U-23B,4A	4・7・8,7	深鉢	黒	暗褐色	大粒の砂含む	後期中世	加群利B	3	228	-	2855	口縁-深底60%	複製
46	279	31U-22C, 18	3,4	深鉢	黒	暗褐色	細砂・大粒砂粒多量に含む	後期中世	加群利B	3	238	-	1332	口縁-深底15%	無文
46	280	31U-24A	7	深鉢	黒	暗褐色	大粒砂・白砂	後期中世	加群利B	3	261	-	2855	口縁-深底25%	複製
46	281	31U-22B	4	深鉢	黒	暗褐色	大粒砂・白砂・石炭粉	後期中世	加群利B	3	259	4.5	303	95%	
46	282	31U-4C,4D, 8C,5D	43・23・5,4	深鉢	やや暗	暗褐色	細砂・スコリア含む	後期中世	加群利B	3	250	-	1338	口縁-深底30%	籠
46	283	31U-25A, 25B	12,7・9	深鉢	黒	暗褐色	細砂	後期中世	加群利B	3	2(52)	9.0	366	50%	
46	284	31U-30,3	13	深鉢	黒	暗褐色	細砂(赤)	後期中世	加群利B	3	186	6.8	306	35%	複製
46	285	31U-43 D	4	深鉢	黒	暗褐色	細砂・白砂多量に含む	後期中世	加群利B	3	-	8.0	1450	口縁-深底80%	
46	286	31U-12C	1	深鉢	黒	暗褐色	大粒の砂含む	後期中世	加群利B	3	166	7.2	172	95%	複製
46	287	31U-2C,2D, 12D	1・2,1・21	深鉢	黒	暗褐色	細砂	後期中世	加群利B	3	2(62)	-	2342	口縁-深底30%	

種別	No.	道標番号	道路番号	路線	地区	色調	加工	時期	形式	口幅	視程 (m)	高さ (m)	設置状況	備考
50	208	31U-238	2-5-9	浅緑	黄	黄緑色	縹緞・白線多量に含む	後期中葉	加付標3	309	7.0	14.3	63%	
50	209	5X-010	2-307-510・ 520-800-803・ 806-807	浅緑	黄	黄緑色	縹緞・白線多量に含む	後期中葉	加付標3	290	-	13.0	口幅・視程60%	
50	20	31U-23C	9	小型緑	黄	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	-	7.0	9.7	標高・視程60%	
50	201	31U-13A, 14A, 15D,13E	2.4-6.4	浅緑	黄	黄緑色	縹緞・スコリア含む	後期中葉	加付標3	312	9.7	11.5	20%	L.R
50	202	31U-20B, 24D	3-4.5-1.8	浅緑	黄	黄緑色	大粒砂・白線	後期中葉	加付標3	-	丸底	13.0	標高・視程50%	L.R
50	203	31U-20B	3	緑	黄	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	-	-	9.2	標高40%	
50	204	31U-20	1	浅緑	黄	黄緑色	縹緞・石炭粉含む	後期中葉	加付標3	322	丸底	9.7	70%	
50	205	31U-4D	1-2	浅緑	黄	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	314	丸底	6.2	30%	L.R
50	206	31U-06A	3	緑	や中緑	黄緑色	大粒砂を含む	後期中葉	加付標3	-	-	9.2	視程	色粉
50	207	31U-20B, 34A,23C	7-8-9.3-7.6	浅緑	黄	黄緑色	白線・石炭粉多量に含む	後期中葉	加付標3	266	丸底	12.7	30%	L.R
50	208	31U-23B	10	浅緑	黄	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	296	9.6	6.1	30%	L.R
50	209	2ト1	1	緑	黄	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	150	-	9.1	口幅・視程30%	L.R
50	20	31U-23B	6	緑	黄	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	232	丸底	9.3	口幅・視程40%	
50	301	31U-23A, 23B	8-9-32.9	浅緑	黄	灰白色	縹緞	後期中葉	加付標3	178	丸底	9.5	60%	
50	302	31U-20B, 20C, 24D	4.3-10	浅緑	黄	黄緑色	縹緞・白線・スコリア	後期中葉	加付標3	214	丸底	9.7	70%	
50	303	31U-23B	1	緑	や中緑	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	-	-	13.0	標高・視程70%	藍
50	304	31U-20B	4-9	浅緑	黄	黄緑色	大粒砂・白線・石炭粉	後期中葉	加付標3	-	丸底	9.1	標高・視程45%	
50	305	31U-25	2	緑	黄	黄緑色	縹緞・スコリア含む	後期中葉	加付標3	-	6.6	13.8	標高・視程30%	L.R
50	306	31U-2C	1	緑	黄	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	124	5.9	12.5	80%	
50	307	31U-25B	1-4	緑	黄	黄緑色	縹緞多量に含む	後期中葉	加付標3	-	-	10.5	標高40%	
51	308	31U-23A, 24A, 23B, 13C	1-2・11.3・7.9・ 10-14.0	浅緑	黄	黄緑色	大粒砂・白線	後期中葉	加付標3	292	丸底	15.0	75%	
51	309	1ト1	1	緑	黄	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	-	4.4	9.2	標高・視程30%	
51	310	31U-20A, 24C	17-18.5	台付緑	黄	黄緑色	縹緞・白線多量に含む	後期中葉	加付標3	-	-	9.7	標高40%	
51	311	31U-23B	7-9	緑	黄	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	143	丸底	13.2	40%	L.R
51	312	31U-13A,3C, 13D	10-13.4	緑	黄	黄緑色	大粒砂・白線・スコリア	後期中葉	加付標3	177	丸底	9.9	80%	
51	313	1ト1	1	浅緑	黄	黄緑色	縹緞・白線多量に含む	後期中葉	加付標3	1290	4.4	9.8	50%	
51	314	31U-25D	3	緑	黄	黄緑色	縹緞・白線含む	後期中葉	加付標3	-	7.8	13.0	視程50%	
51	315	31U-33B	7	緑	黄	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	133	丸底	6.2	40%	L.R
51	316	31U-33B	1.3	緑	や中緑	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	138	6.1	13.1	50%	
51	317	31U-33A	6	浅緑	黄	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	100	9.0	4.7	45%	
51	318	31U-30A,2D	2-5.1	浅緑	黄	黄緑色	大粒白砂	後期中葉	加付標3	107	5.9	9.2	90%	
51	319	31U-2C	1	緑	黄	黄緑色	縹緞・白線多量に含む	後期中葉	加付標3	159	6.8	14.2	60%	視程・L.R
51	320	31U-13A	10	緑	藍	黄緑色	縹緞・スコリア含む	後期中葉	加付標3	157	7.0	14.1	25%	
51	321	31U-3	1	緑	黄	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	135	5.8	10.1	50%	
51	322	31U-22B	6	緑	黄	黄緑色	大粒砂多量に含む	後期中葉	加付標3	146	8.9	10.3	99%	L.R
51	323	31U-2C	2	緑	黄	黄緑色	大粒の白線を含む	後期中葉	加付標3	115	5.8	11.1	90%	
51	324	31U-2C, 2013A,13B	12.1,4	緑	や中緑	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	141	5.6	12.1	35%	視程
51	325	31U-25B	7	緑	黄	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	9.4	5.0	11.7	121%	
51	326	31U-13D	5	緑	や中緑	黄緑色	大粒砂・スコリア含む	後期中葉	加付標3	127	5.1	10.7	70%	視程
51	327	31U-34A	5	緑	黄	黄緑色	縹緞・石炭粉多量に含む	後期中葉	加付標3	129	5.0	9.4	85%	L.R
51	328	31U-22C, 24D	12-14-15.4	浅緑	や中緑	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	131	-	9.3	口幅・視程60%	視程
51	329	2ト1-1	1	藍	や中緑	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	111	丸底	9.0	45%	
51	330	31U-12B	2	浅緑	藍	黄緑色	大粒白砂・スコリア	後期中葉	加付標3	149	丸底	7.1	60%	
51	331	16ト1	1	藍	や中緑	黄緑色	縹緞・白線多量に含む	後期中葉	加付標3	9.3	-	17.7	口幅・視程40%	
52	332	31U-4D,3D	1.4	藍	黄	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	116	丸底	5.9	40%	L.R
52	333	16ト1, 31U-23B	1.4	浅緑	黄	黄緑色	白線	後期中葉	加付標3	122	丸底	7.0	30%	
52	334	16ト1	1	緑	黄	黄緑色	縹緞・白線多量に含む	後期中葉	加付標3	170	5.8	7.0	50%	
52	335	31U-22B	4	緑	黄	黄緑色	縹緞・白線多量に含む	後期中葉	加付標3	108	4.9	5.9	60%	
52	336	31U-23A	2	緑	や中緑	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	113	丸底	7.9	60%	視程
52	337	31U-12B	2	緑	黄	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	116	丸底	6.7	45%	
52	338	31U-3B	1-2	浅緑	黄	黄緑色	白線・白砂	後期中葉	加付標3	162	丸底	7.2	95%	視程
52	339	31U-3D	5	浅緑	黄	黄緑色	縹緞・白線多量に含む	後期中葉	加付標3	156	丸底	8.4	40%	L.R 視程含む?
52	340	31U-2C	4	緑	黄	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	213	5.8	13.5	80%	視程
52	341	31U-06A, 25C	3.5	藍	黄	黄緑色	縹緞・白線含む	後期中葉	加付標3	157	-	17.7	口幅・視程25%	視程
52	342	31U-14B	3	藍	黄	黄緑色	縹緞	後期中葉	加付標3	190	丸底	6.7	30%	視程
52	343	31U-12B	3	青緑	黄	黄緑色	白線多量に含む	後期中葉	加付標3	113	丸底	6.0	90%	視程
52	344	31U-2C	2	青緑	黄	黄緑色	大粒砂・白線	後期中葉	加付標3	-	3.0	9.5	60%	視程
52	345	31U-13A, 14D	12-14.4	台付緑	黄	黄緑色	縹緞・白線多量に含む	後期中葉	加付標3	249	-	9.5	口幅・視程40%	
52	346	16ト1, 31U-12B	1.4	浅緑	黄	黄緑色	縹緞・白線含む	後期中葉	加付標3	-	丸底	7.3	50%	青粉
52	347	31U-24A	6-7	台付緑	や中緑	黄緑色	大粒砂多量に含む	後期中葉	加付標3	-	12.0	6.0	標高75%	視程
52	348	31U-22B, 15D	12.3-5	青	黄	黄緑色	白線・石炭粉	後期中葉	加付標3	-	13.9	9.7	視程30%	
52	349	31U-25A, 23B	6.7-9	台付緑	黄	黄緑色	縹緞・大粒白線多量に含む	後期中葉	加付標3	-	9.7	6.7	標高60%	L.R
52	350	31U-12B	2	台付緑	黄	黄緑色	大粒砂多量に含む	後期中葉	加付標3	312	-	9.9	口幅・視程35%	
52	351	31U-2B	7	台付緑	黄	黄緑色	縹緞・白線多量に含む	後期中葉	加付標3	-	8.3	12.2	標高50%	スコリア

種別	No.	道標番号	道路番号	区画	地味	色調	加工	時期	形式	口碑 (%)	成坪 (㎡)	築高 (m)	築年	備考	
52	302	311-1	1	付付線	真	真緑色	大粒砂粒多量に含む	真緑塗装	加付利B3	-	7.2	5.9	築年100% 築坪12%		
52	303	311-250	2	付付線	真	真緑色	細砂	真緑塗装	加付利B3	-	14.0	13.0	築坪75%		
52	304	311-251	3	付付線	真	真緑色	細砂、スコリア含む	真緑塗装	加付利B3	-	9.5	17.6	築坪100%	1.1.1	
52	305	311-252	3-4	付付線	真	真緑色	細砂、白砂多量に含む	真緑塗装	加付利B3	-	10.2	9.0	築坪60%	1.1.1	
52	306	311-253	3	付付線	真	真緑色	大粒砂粒多量に含む	真緑塗装	加付利B3	-	9.9	8.5	築坪100%		
52	307	311-90C	1	成線	真	赤褐色	白砂	真緑塗装	加付利B3	113.3	-	15.7	C140-成坪10%		
52	308	311-94C	1	成線	真	真緑色	細砂	真緑塗装	加付利B3	116.6	-	14.6	C140-成坪10%		
53	309	311-13C 14D	10-12-14A-9	成線	真	真緑色	無細砂	真緑塗装	管付	131.6	-	28.0	C140-築坪50%		
53	310	311-30A,31A	14,1	成線	やや真	真緑色	大粒の砂を含む	真緑塗装	管付	25.4	5.8	27.0	80%		
53	311	311-40D	1,1	成線	真	赤褐色	細砂、白砂含む	真緑塗装	管付	22.0	-	12.2	C140-築坪30%		
53	312	311-20C 21D	2-5,10-15-18	成線	真	真緑色	細砂、白砂含む	真緑塗装	管付	23.0	-	18.0	C140-築坪30%		
53	313	311-20C 26D	3-4,2	成線	真	真緑色	細砂、白砂多量に含む	真緑塗装	管付	-	3.0	12.7	築坪-成坪40%		
53	314	311-23D	1-2-8	真赤色成線	真	真緑色	無細砂、白砂含む	真緑塗装	管付	25.2	14.6	36.1	60%		
53	315	311-94	1	成線	真	真緑色	大粒砂、白砂、スコリア	真緑塗装	管付	26.0	-	13.0	C140-築坪15%		
53	316	311-33B	3	成線	真	真緑色	細砂	真緑塗装	管付	13.6	-	14.0	C140-築坪25%	1.1.1	
53	317	311-23A, 24B,25D	5,7-10,14	成線	真	赤褐色	無細砂、白砂含む	真緑塗装	管付	12.3	-	13.0	C140-築坪25%		
54	318	311-13C 15A,16B	3,1,6-7	成線	真	真緑色	白砂多量に含む	真緑塗装	管付	30.2	-	28.0	C140-築坪30%	積製	
54	319	311-35A	3-4	成線	真	真緑色	細砂、白砂多量に含む	真緑塗装	管付	-	20.0	28.0	30%		
54	320	311-36A	7	成線	真	真緑色	大粒砂粒多量に含む	真緑塗装	管付	-	22.1	築坪60%			
54	321	311-13A, 13B,14B	10,1-6,3	線	真	赤褐色	細砂	真緑塗装	管付	23.0	-	12.9	C140-築坪30%	積製	
54	322	311-10,11B, 12A,13A,14B	1-2-12,13,1-2A	成線	真	真緑色	細砂	真緑塗装	管付	25.2	9.6	11.7	50%	積行積	
54	323	311-13C 13D	8,10	成線	やや真	真緑色	大粒砂粒多量に含む	真緑塗装	管付	12.7	-	8.2	C140-40%		
54	324	311-3C, 10,12,13,1A	1,1,1,2,2,2	成線	真	真緑色	無細砂	真緑塗装	管付	17.3	9.6	8.1	30%		
54	325	311-14D	8	線	真	真緑色	細砂、白砂多量に含む	真緑	管付	-	5.0	11.1	築坪-成坪40%		
54	326	311-20C 24D	6,17	付付線	真	真緑色	細砂、スコリア含む	真緑塗装	管付	-	16.8	13.0	築坪55%		
54	327	311-20B	1	付付線	真	真緑色	白色砂多量に含む	真緑塗装	管付	-	13.0	13.0	築坪30%		
54	328	311-11D	9	付付線	真	真緑色	無細砂	真緑塗装	管付	-	10.1	8.2	築坪60%		
54	329	311-9C	4	付付線	やや真	真緑色	大粒砂粒、白砂多量に含む	真緑塗装	管付	-	13.0	9.1	築坪30%	1.1.1	
55	330	311-15A, 15B	1,2	成線	やや真	真緑色	無細砂	真緑塗装	管付	1	22.8	4.8	33.1	90%	
55	331	311-20C 24D,15D	6,18,4	成線	真	真緑色	無細砂	真緑塗装	管付	1	-	10.1	築坪60%		
55	332	1-1-1	1	成線	真	真緑色	無細砂	真緑塗装	管付	1	24.0	-	24.0	C140-管付7-20%	ペンダラ
55	333	311-22D	3	成線	真	真緑色	細砂	真緑塗装	管付	1	18.0	-	27.0	C140-築坪20%	
55	334	1-1-1	1	成線	真	真緑色	細砂	真緑塗装	管付	1	23.0	-	14.1	C140-管付7-20%	
55	335	311-24D	10	成線	真	真緑色	細砂、石炭灰含む	真緑塗装	管付	1	-	14.3	築坪10%		
55	336	311-24D	10-11	成線	真	真緑色	細砂、白砂、スコリア	真緑塗装	管付	1	28.0	-	27.2	C140-築坪20%	
55	337	311-20B, 24A	7,3-6	成線	やや真	真緑色	細砂、石炭灰多量に含む	真緑塗装	管付	1	26.3	-	17.8	C140-築坪25%	
55	338	311-20C 25A,30A,30B	6-5-6,15-15, 20,21A	成線	真	真緑色	細砂、白砂多量に含む	真緑塗装	管付	1	35.3	-	38.0	C140-管付7-50%	
55	339	311-20C 25A,30A,30B	2-12-4,5,1-2-3	成線	やや真	真緑色	細砂、石炭灰含む	真緑塗装	管付	1	12.2	-	38.2	C140-築坪40%	
55	340	311-14D	1-2-8	成線	真	真緑色	細砂、スコリア	真緑塗装	管付	1	28.3	-	27.0	C140-管付7-50%	
55	341	311-24A, 24D	9,15-17	成線	真	真緑色	細砂、白砂多量に含む	真緑塗装	管付	1	32.0	-	32.0	C140-管付7-60%	
55	342	311-13C	1-3-1-12-14	成線	やや真	真緑色	細砂、スコリア	真緑塗装	管付	1	25.0	-	28.6	C140-管付7-50%	
55	343	311-24D	2	成線	真	真緑色	無細砂	真緑塗装	管付	1	30.0	-	13.6	C140-築坪35%	
55	344	311-25D	3	成線	真	真緑色	細砂	真緑塗装	管付	1	31.6	-	25.1	C140-築坪40%	
55	345	311-20B, 22C	7-8-9,8	成線	真	真緑色	細砂、白砂多量に含む	真緑塗装	管付	1	18.0	-	22.5	C140-築坪45%	
55	346	311-34A, 33B,32C	7-9,4-5,7,6	成線	真	真緑色	細砂	真緑塗装	管付	1	32.2	-	38.2	C140-築坪25%	△
55	347	311-24A, 24B,15D	7,3,1	成線	真	真緑色	細砂、スコリア多量に含む	真緑塗装	管付	1	36.3	-	19.0	C140-築坪75%	
55	348	311-23C	8	成線	真	真緑色	細砂	真緑塗装	管付	1	33.1	25.7	13.3	築坪20%	1.1.1
55	349	311-20C 21B,24D	3,4,15-18	成線	真	真緑色	白砂多量に含む	真緑塗装	管付	1	28.6	-	17.0	C140-築坪40%	
57	400	311-4D	1	成線	真	真緑色	細砂	真緑塗装	管付	1	-	積大坪 (35.5)	13.8	築坪30%	△
57	401	311-13C	6	成線	真	真緑色	大粒砂粒、スコリア含む	真緑塗装	管付	1	12.0	-	17.8	C140-築坪25%	
57	402	1-1-1	1	成線	真	真緑色	無細砂	真緑塗装	管付	1	27.0	-	21.6	C140-築坪10%	
57	403	1-1-1	1	成線	真	真緑色	無細砂	真緑塗装	管付	1	24.5	-	21.1	C140-築坪20%	
58	404	311-24B, 24D	11-15,17,2-4	成線	真	赤褐色	細砂、スコリア	真緑塗装	管付	1	14.9	-	22.3	C140-築坪40%	
58	405	311-24D	1-4	成線	真	真緑色	無細砂、白砂含む	真緑塗装	管付	1	27.0	-	22.0	C140-築坪20%	
58	406	311-24D	10	成線	真	真緑色	無細砂、白砂多量に含む	真緑塗装	管付	1	22.0	-	24.8	C140-築坪25%	
58	407	311-34A	3-7-9	成線	真	真緑色	無細砂	真緑塗装	管付	1	23.8	-	22.2	C140-築坪60%	
58	408	315-8	1	線	真	真緑色	無細砂	真緑塗装	管付	1	17.2	-	17.4	法17号 成坪不足	
58	409	311-3C,3,4D	1,1	成線	真	真緑色	大粒砂粒多量に含む	真緑塗装	管付	1	16.7	-	14.2	C140-築坪40%	
58	410	311-20C	2	成線	真	真緑色	細砂、大粒砂粒多量に含む	真緑塗装	管付	1	25.1	-	14.5	C140-築坪25%	
58	411	311-14D	2-4	成線	やや真	真緑色	細砂、白砂含む	真緑塗装	管付	1	18.0	-	13.4	C140-築坪35%	

種別	No.	道標番号	道路番号	区画	地味	色調	加工	時期	形式	口幅 (cm)	奥行 (cm)	高さ (cm)	設置状況	備考
59	442	31U-348	3・4	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行1	268	-	300	70%	
59	443	31U-226	1	漆黒	黒	炭黒色	無塗装・白粉多量に含む	無装飾	安行1	243	-	270	100-側面20%	
59	444	31U-20	1	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行1	227	-	227	100	
59	445	31U-228	5	漆黒	黒	炭黒色	大粒砂・白粉を含む	無装飾	安行1	210	-	123	100-側面25%	
59	446	31U-240	11	漆黒	黒	炭黒色	無塗装・石炭粉を含む	無装飾	安行1	164	-	34	100-側上7.20%	E京
59	447	31U-242	7・9	漆黒	黒	炭黒色	大粒砂・スクリア含む	無装飾	安行1	260	-	270	20%	
59	448	31U-242	2	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行1	225	-	122	100-側面10%	
59	449	31U-228	9・10	漆黒	黒	炭黒色	無塗装・白粉多量に含む	無装飾	安行1	220	-	114	100-側面25%	
59	450	31U-226	5	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行1	210	-	134	100-側面25%	
59	451	31U-136	4・5	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行1	212	-	30	100-側面30%	概装
59	452	31U-328	1	漆黒	黒	炭黒色	無塗装・スクリア含む	無装飾	安行1	228	-	114	100-側上17.15%	概装
59	453	31U-348	4	漆黒	黒	炭黒色	無塗装・大粒砂を含む	無装飾	安行1	180	-	123	100-側上7.20%	
60	454	31U-24A	7・9	漆黒	黒	炭黒色	大粒砂多量に含む	無装飾	安行1	226	-	220	100-側面4.0%	概装
60	455	31U-228	5	漆黒	黒	炭黒色	大粒砂多量に含む	無装飾	安行1	287	-	353	100-側面30%	
60	456	31U-26A 360.36	3.11	漆黒	黒	黄褐色	砂(多)	無装飾	安行1	300	2.5	365	30%	概装
60	457	31U-328	5	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行1	234	3.4	380	60%	
60	458	31U-13C	7	漆黒	や中粒	炭黒色	大粒砂多量に含む	無装飾	安行1	134	-	200	100-側面40%	概装
60	459	31U-20	1	漆黒	黒	炭黒色	大粒砂・白粉・スクリア	無装飾	安行1	-	-	-	100	
60	460	31U-22C	11	漆黒	黒	炭黒色	大粒砂・白粉・スクリア	無装飾	安行1	280	-	273	100-側面25%	概装
61	461	31U-14C	2	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行1	365	-	283	100-側面30%	概装
61	462	31U-14D	4	漆黒	黒	炭黒色	白粉	無装飾	安行1	-	-	-	100	
61	463	31U-25A	1・6	漆黒	黒	炭黒色	無塗装・スクリア含む	無装飾	安行1	1194	-	187	100-側面50%	
61	464	31U-12B 12B	1.1・2	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行1	211	3.6	249	30%	
61	465	31U-2C	1	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行1	-	4.0	173	側面-底面40%	
61	466	2・1レ	1	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行1	143	3.3	188	85%	無文
61	467	10・1レ	1	漆黒	黒	炭黒色	大粒砂多量に含む	無装飾	安行1	234	-	233	100-側面30%	
61	468	2・1レ	1	漆黒	や中粒	炭黒色	大粒の砂を含む	無装飾	安行1	238	-	285	100-側面30%	無文・設置
62	469	31U-2C.2D 14D	1・2.1	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行1	328	-	180	100-側面40%	
62	470	31U-13C 14D	10.6	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行1	279	-	381	100-側面15%	
62	471	31U-22B	6・7	緑	黒	炭黒色	無塗装・白粉多量に含む	無装飾	安行1	196	-	119	100	
62	472	31U-94D	1	漆黒	黒	炭黒色	無塗装・小石を含む	無装飾	安行1	169	8.2	92	90%	
62	473	3・1レ	1	漆黒	黒	赤褐色	無塗装	無装飾	安行1	260	9.6	95	20%	
62	474	31U-30C.3C	1.1	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行1	157	5.6	81	75%	
62	475	31U-22C	2・3	緑	黒	炭黒色	無塗装・石炭粉多量に含む	無装飾	安行1	158	-	176	100-側面25%	
62	476	31U-24D	8	白付漆	黒	炭黒色	無塗装・スクリア多量に含む	無装飾	安行1	245	-	160	100-側面100% 側面底面	
62	477	31U-22B	7	白付漆	黒	炭黒色	無塗装・白粉多量に含む	無装飾	安行1	191	-	175	100-側面30%	
62	478	31U-13D	1	緑	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行1	155	5.6	81	85%	
62	479	31U-22C	8	白付漆	黒	炭黒色	無塗装・白粉多量に含む	無装飾	安行1	270	-	71	100-側上20%	
62	480	31U-13C 13D	1.4	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行1	80	-	102	100-側上側面80%	
62	481	31S-94	1	白付漆	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行1	164	-	53	100-側面25%	
62	482	31U-24A 94A	1.1	白付漆	や中粒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行1	172	-	164	100-底面75% 白付底面	無文
62	483	31U-22B	6・10	白付漆	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行1	-	176	147	側面25%	
62	484	31U-13C 13D.2A	1.8.1	白付漆	や中粒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行1	-	130	126	側面30%	スクリ
62	485	3・1レ	1	白付漆	や中粒	炭黒色	無塗装・石炭粉多量に含む	無装飾	安行1	-	107	81	側面50%	
63	486	31U-24D	11	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行2	333	-	281	100-側面15%	
63	487	1・1レ	1	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行2	288	-	243	100-側面25%	
63	488	31U-13D	1	漆黒	黒	炭黒色	大粒砂・白粉・石炭粉	無装飾	安行2	254	-	220	100-側面30%	
63	489	31U-4A	1	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行2	224	-	223	100-側上7.20%	
63	490	31U-22C 21D	2・4.2・15	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行2	143	-	181	100-側面40%	
63	491	31U-22C 22B	4.1	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行2	140	-	99	100-側面40%	
63	492	31U-4D	1	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行2	220	-	170	100-側面25%	
63	493	31U-12D	1	漆黒	黒	炭黒色	無塗装・白粉多量に含む	無装飾	安行2	245	-	127	100-側面10%	
63	494	31U-94D	10・17	緑	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行2	-	-	102	側面25%	
63	495	2・1レ	1	漆黒	黒	炭黒色	大粒砂・白粉多量に含む	無装飾	安行2	220	-	224	100-側上側面30%	
64	496	31U-6C	2・4	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行2	218	-	174	100-側面15%	
64	497	31U-4A.4D	1.1	漆黒	黒	炭黒色	大粒砂多量に含む	無装飾	安行2	257	-	180	100-側面20%	
64	498	31U-3	1	漆黒	や中粒	炭黒色	無塗装・白粉多量に含む	無装飾	安行2	191	-	178	100-側面30%	
64	499	31U-14D	3・4	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行2	180	-	167	100-側面25%	
64	500	31U-4D	1	漆黒	や中粒	炭黒色	無塗装・大粒砂多量に含む	無装飾	安行2	168	-	140	100-側面30%	
64	501	31U-4A	4	漆黒	黒	炭黒色	無塗装・大粒砂多量に含む	無装飾	安行2	160	-	123	100-側面50%	
64	502	31U-4D	1	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行2	221	-	180	100-側面30%	
64	503	31T-2	1	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行2	177	-	83	100-側面10%	
64	504	31U-4	1	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行2	284	-	98	100-側面20%	
64	505	31U-24C 24D	2・10.6.17	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行2	1139	1.4	141	30%	
64	506	31U-13C 14D	10・12.4	漆黒	黒	炭黒色	無塗装・白粉を含む	無装飾	安行2	281	-	280	100-側上7.20%	幅寄せ4.6式
64	507	31T-14	1	漆黒	黒	赤褐色	無塗装・スクリアを含む	無装飾	安行2	-	4.2	143	60%	
64	508	31U-25D	1	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行2	140	-	132	100-側面40%	
65	479	31T-14	1	漆黒	黒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行2	283	-	173	100-側面25%	概装
65	480	31U-24D	5	漆黒	や中粒	炭黒色	無塗装	無装飾	安行3	38	-	166	100	

種別	No.	規格番号	造物番号	部材	地底	包鋼	筋工	時期	形式	口径 (mm)	埋深 (mm)	深高 (mm)	造作状況	備考	
65	04	31U-26A	1・3	鉄鋼	や中規	炭素鋼	大粒砂粒多量に含む	後期後葉	安行2	275	-	1941	口縁一部腐50%	複製	
65	02	31U-24D	4	鉄鋼	や中規	炭素鋼	細砂・大粒砂粒含む	後期後葉	安行2	293	-	1866	口縁15%		
65	03	31U-24D	4	鉄鋼	や中規	炭素鋼	大粒砂粒多量に含む	後期後葉	安行2	256	-	2110	口縁一部腐40%	複製	
65	04	31U-22D	7	鉄鋼	や中規	炭素鋼	大粒砂粒多量に含む	第一後葉	安行2	255	3.4	277	30%	複製	
65	05	31U-25A 24D	1.4	鉄鋼	品	炭素鋼	大粒の砂含む	後期後葉	安行2	228	-	2007	口縁一部下25%		
65	06	31U-13A 3C15A	1・2.4.3	鉄鋼	品	炭素鋼	細砂・白砂含む	後期後葉	安行2	228	-	2313	口縁一部下80%	複製	
65	07	31U-26A	2	鉄鋼	や中規	炭素鋼	細砂	後期後葉	安行2	-	-	722	腐片		
65	08	31U-24D	10	鉄	品	炭素鋼	細砂	後期後葉	安行2	-	-	382	腐片		
65	09	31S-94	3	鉄 (縦円型)	品	炭素鋼	細砂	後期後葉	安行2	1322	7.2	43	25%		
65	10	31U-23A	1	鉄鋼	品	炭素鋼	細砂	後期後葉	安行2	-	-	72	腐片		
66	01	31T-14	1	鉄鋼	品	炭素鋼	細砂	後期後葉	安行2	273	-	158	口縁10%		
66	02	31U-28	1	鉄鋼	品	炭素鋼	大粒砂・白砂・スコリア	後期後葉	安行2	-	-		口縁腐片	複製	
66	03	31U-13C	8	鉄鋼 (縦円型)	品	炭素鋼	細砂・スコリア多量に含む	後期後葉	安行2	216・ 251	8.9	166	40%		
66	04	31U-28 4A, 21T 3C24D	1.1.2	鉄鋼	品	炭素鋼	細砂・スコリア含む	後期中葉	安行2	243	-	72	口縁一部下腐80%	縦円型	
66	05	1・1・1	1	鉄鋼	品	炭素鋼	後期後葉	安行2	2348	-	185	口縁一部腐30%			
66	06	31U-14D	1・2・4	鉄	品	炭素鋼	後期後葉	安行2	1241	-	1146	口縁一部下腐25%			
66	07	31U-103	1	合金鉄	品	炭素鋼	細砂・スコリア含む	後期後葉	安行2	1900	-	1246	口縁一部腐30%		
66	08	31U-20.0D	1.1	合金鉄	品	炭素鋼	細砂・白砂多量に含む	後期後葉	安行2	-	-	387	断面10%		
66	09	31U-22D	6・7・9	鉄鋼	品	炭素鋼	細砂・白砂多量に含む	後期後葉	安行2	-	3.2	1220	断面11・中一底腐45%		
66	10	31U-4 D	3	合金鉄	品	炭素鋼	白砂多量に含む	後期後葉	安行2	-	1339	131.6	断面30%		
66	101	31U-14D	1	鉄鋼	品	炭素鋼	白砂多量に含む	後期後葉	安行2	-	-		口縁腐片	直径 300・304円 一複製	
66	102	31U-13C	1	鉄鋼	品	炭素鋼	白砂多量に含む	後期後葉	安行2	-	-		口縁腐片	直径 300・304円 一複製	
66	103	31U-24C	2	鉄鋼	品	炭素鋼	大粒砂粒・スコリア	後期後葉	安行2	-	-		口縁腐片		
66	104	31T-14	1	鉄鋼	品	炭素鋼	スコリア	後期後葉	安行2	-	-		口縁腐片		
66	105	31U-13C	8	鉄鋼	品	炭素鋼	スコリア	後期後葉	安行2	-	-		口縁腐片		
66	106	31U-25	1	鉄	品	炭素鋼	細砂・白砂含む	後期後葉	安行2	-	-		口縁腐片		
67	1	31U-28	4・5	鉄鋼	品	炭素鋼	後期後葉	安行3a	2260	162	287	50%		1.0	
67	2	31T-94D194	1.3	鉄鋼	品	炭素鋼	後期砂・石灰岩含む	後期後葉	安行3a	1723	-	1533	口縁一部腐20%		
67	3	31U-25A	2	鉄鋼	や中規	炭素鋼	細砂・白砂含む	後期後葉	安行3a	-	-	1316	腐片		
67	4	31U-28	1	鉄鋼	品	炭素鋼	後期後葉	安行3a	221	-	1532	口縁20%		1.0	
67	5	31U-24D	2	鉄鋼	品	炭素鋼	後期後葉	安行3a	1345	-	1311	口縁一部腐25%			
67	6	31U-14A, 14.2D	5・A.3.7	鉄鋼	品	炭素鋼	後期後葉	安行3a	1346	-	1111	口縁一部腐30%		1.0	
67	7	31U-2C	1	鉄鋼	品	炭素鋼	後期後葉	安行3a	147	1.8	186	25%			
67	8	31U-28	1	鉄鋼	品	炭素鋼	細砂・スコリア含む	後期後葉	安行3a	2241	-	1319	口縁一部腐30%		
67	9	31U-25A, 25D	1.3・4	鉄鋼	品	炭素鋼	大粒砂・白砂含む	後期後葉	安行3a	148	2.6	219	30%		
67	10	31U-4D.2C	1.1	鉄鋼	品	炭素鋼	後期後葉	安行3a	1254	-	1309	口縁一部腐20%			
67	11	31U-28	1	鉄鋼	品	炭素鋼	後期後葉	安行3a	1354	-	1333	口縁一部腐25%			
68	12	31U-25A	2	鉄鋼	や中規	炭素鋼	大粒砂粒・スコリア含む	後期後葉	安行3a	1321	-	2722	口縁一部腐20%	複製	
68	13	31U-4D	2	鉄鋼	品	炭素鋼	大粒白砂・スコリア	後期後葉	安行3a	227	1.6	94	90%		
68	14	31U-4D	1・2	鉄	品	炭素鋼	細砂・白砂多量に含む	後期後葉	安行3a	2640	-	1583	口縁一部腐20%		
68	15	31U-14D	2	鉄鋼	品	炭素鋼	細砂・白砂多量に含む	後期後葉	安行3a	2220	-	1300	口縁一部腐20%		
68	16	31U-28	1	鉄	品	炭素鋼	後期後葉	安行3a	1462	-	72	口縁一部下25%			
68	17	31U-21D.4D	1.1	鉄鋼	品	炭素鋼	後期後葉	安行3a	156	4.6	90	90%		1.0	
68	18	31U-22D	10	鉄鋼	品	炭素鋼	細砂・白砂多量に含む	後期後葉	安行3a	2241	-	1301	口縁一部腐25%		
68	19	31U-4D	1	鉄	品	炭素鋼	細砂・白砂多量に含む	後期後葉	安行3a	223	-	1033	口縁20%		
68	20	31U-24A	6	鉄鋼	品	炭素鋼	後期後葉	安行3a	2148	-	1311	口縁一部腐20%			
68	21	31U-13D	2・4	鉄	品	炭素鋼	細砂・白砂多量に含む	後期後葉	安行3a	199	-	187	口縁15%		
68	22	31U-4A	1	鉄	品	炭素鋼	後期後葉	安行3a	1333	-	366	口縁一部腐30%		1.0	
68	23	31U-24.4D	1.1.2	鉄	品	炭素鋼	細砂・白砂多量に含む	後期後葉	安行3a	2230	-	1233	口縁一部腐20%		1.0
68	24	31U-24D	2	合金鉄	品	炭素鋼	後期後葉	安行3a	-	-	141	断面10%		5.0.0.0	
68	25	31U-24C	9	鉄	品	炭素鋼	大粒砂粒多量に含む	後期後葉	安行3a	186	1.6	60	40%		
68	26	31U-2C	1	合金鉄	品	炭素鋼	細砂・白砂多量に含む	後期後葉	安行3a	1322	14.2	43	30%		
69	27	31T-14	1	鉄鋼	品	炭素鋼	細砂・スコリア含む	後期後葉	安行3a	-	-		口縁一部腐片		
69	28	31T-94 31U-4	1.1	鉄鋼	品	炭素鋼	細砂・スコリア含む	後期後葉	安行3a	-	-		口縁腐片	口縁内腐・粉色	
69	29	31U-28	1	鉄鋼	品	炭素鋼	細砂・白砂含む	後期後葉	安行3a	-	-		口縁一部腐片		
69	30	31T-72	1	鉄鋼	品	炭素鋼	大粒砂粒多量に含む	後期後葉	安行3a	-	-		口縁腐片		
69	31	31U-4D	1	鉄	品	炭素鋼	大粒のスコリア含む	後期後葉	安行3a	-	-		口縁腐片	口縁内腐、またき 三文字、五砂字孔	
69	32	31T-94A	4	鉄鋼	品	炭素鋼	細砂・石灰岩含む	後期後葉	安行3a	-	-		口縁腐片	口縁内腐	
69	33	31U-4D	1	鉄鋼	品	炭素鋼	後期後葉	安行3a	-	-			口縁一部腐片	1.0・地文字部腐 縦文で区画	
69	34	31T-94D	2	鉄鋼	品	炭素鋼	細砂・スコリア・石灰岩含 む	後期後葉	安行3a	-	-		口縁腐片	口縁内腐	
69	35	31U-25A	4	鉄鋼	品	炭素鋼	細砂・白砂多量に含む	後期後葉	安行3a	-	-		口縁腐片		
69	36	6・1・1	1	鉄鋼	品	炭素鋼	後期後葉	安行3a	-	-			口縁腐片		
69	37	31U-28	1	鉄鋼	品	炭素鋼	細砂・石灰岩多	後期後葉	安行3a	-	-		口縁腐片		
69	38	31U-20	2	鉄鋼	品	炭素鋼	細砂・石灰岩多	後期後葉	安行3a	-	-		口縁腐片		
69	39	31T-94D	1	鉄鋼	品	炭素鋼	細砂・スコリア含む	後期後葉	安行3a	-	-		口縁腐片		
69	40	31U-14D	2	鉄鋼	品	炭素鋼	細砂・スコリア含む	後期後葉	安行3a	-	-		口縁腐片		
69	41	31U-4D	1	鉄鋼	品	炭素鋼	細砂・白砂・石灰岩含む	後期後葉	安行3a	-	-		口縁腐片	複製	
69	42	31U-13C	4・8	鉄鋼	品	炭素鋼	細砂・白砂・スコリア含む	後期後葉	安行3a	-	-		口縁腐片		

種別	No.	規格番号	造物番号	品名	材質	色調	加工	時期	形式	口径 (cm)	口径 (cm)	高さ (cm)	取付穴	備考
	69	31U-4A	1	浅鉢	瓦	灰褐色	縹紗・白砂多量に含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	31U-12B	1	浅鉢	瓦	深褐色	縹紗・白砂多量に含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	31U-2B	1	浅鉢	瓦	深褐色	縹紗・白砂を含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	底面
	69	31U-4D	1	深鉢	瓦	黒褐色	縹紗・石炭粉を含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁・縁部片	底面に縹紗片が 残存
	69	47-3S-93	1	浅鉢	瓦	灰褐色	縹紗・白砂多量に含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁・縁部片	L.R. 56.1と同じ一 体
	69	31U-4C	1	浅鉢	瓦	赤褐色	縹紗・白砂を含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁・縁部片	
	69	31U-14B	6	鉢	瓦	灰褐色	縹紗・白砂多量に含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁・縁部片	
	69	31U-22B	7	鉢	瓦	深褐色	縹紗・白砂多量に含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	31U-4A	1	鉢	瓦	灰褐色	縹紗・白砂多量に含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	31U-22D	6	鉢	瓦	黒褐色	縹紗・白砂多量に含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	31U-4C	4	鉢	瓦	深褐色	縹紗・白砂多量に含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	31U-22B	7	鉢	瓦	灰褐色	縹紗・白砂多量に含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	31U-4C	4	鉢	瓦	深褐色	縹紗・白砂多量に含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁・縁部片	縁上部一 部欠
	69	31U-13D	12	鉢	瓦	灰褐色	縹紗・石炭粉	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁・縁部片	
	69	31U-14D	9	鉢	瓦	深褐色	縹紗	晩期前葉	安行3a	-	-	-	縁部片	
	69	31U-15A	16	鉢	瓦	黄褐色	縹紗	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	31U-22D	1	深鉢	瓦	黄褐色	大粒砂粒・石炭粉を含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁・縁部片	L.R.
	69	31T-96D	1	鉢	瓦	灰褐色	白砂を含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	31T-94C	1	鉢	瓦	深褐色	白砂	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	31U-22C	4	鉢	瓦	赤褐色	白砂	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	L.R.
	69	31T-96D	2	深鉢	瓦	灰褐色	縹紗	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	1-1レ	1	深鉢	瓦	黄褐色	縹紗・スコリアを含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	16-1レ	1	深鉢	瓦	灰褐色	スコリアを含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	31U-33B	5	鉢	瓦	灰褐色	縹紗	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	底面
	69	31U-13C	8	鉢	瓦	黄褐色	縹紗	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	1-1レ	1	深鉢	瓦	赤褐色	白砂・石炭粉を含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	2-1レ	1	鉢	瓦	赤褐色	大粒砂粒	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	71-3S-91	1	鉢	瓦	深褐色	白砂	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	72-31U-2B	1	鉢	瓦	深褐色	白砂	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	L.R.
	69	73-31T-96D	2	鉢	瓦	赤褐色	白砂	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	L.R.
	69	74-31U-26D	47	鉢	瓦	深褐色	縹紗・白砂	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	75-31U-4	1	鉢	瓦	黄褐色	縹紗	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	76-31U-3C	1	鉢	瓦	深褐色	白砂・石炭粉を含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	77-1-1レ	1	深鉢	瓦	深褐色	縹紗	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	78-31U-24B	3	鉢	瓦	深褐色	白砂	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	79-31U-24C	4	鉢	瓦	深褐色	縹紗	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	80-31U-16D	1	深鉢	瓦	深褐色	縹紗・白砂	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	L.R.
	69	81-31U-2B	1	鉢	瓦	灰褐色	縹紗	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	底面
	69	82-31U-13B	1	鉢	瓦	灰褐色	縹紗・白砂	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	83-31U-2B	1	鉢	瓦	深褐色	縹紗・石炭粉を含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	84-31U-4D	1	浅鉢	瓦	深褐色	縹紗・石炭粉	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	L.R.
	69	85-31U-13C	1	浅鉢	瓦	赤褐色	白砂	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	86-1-1レ	1	鉢	瓦	灰褐色	白砂	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	87-2-1レ	1	鉢	瓦	深褐色	石炭粉	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	88-31U-15A	5	鉢	瓦	黄褐色	縹紗	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	L.R.
	69	89-31U-2B	1	鉢	瓦	赤褐色	白砂多量に含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	90-31T-72	1	深鉢	瓦	深褐色	大粒砂粒・白砂	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	底面
	69	91-1-1レ	1	鉢	瓦	深褐色	スコリアを含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	92-31U-22C	3	鉢	瓦	深褐色	縹紗・白砂	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	93-3S-94	1	鉢	瓦	黄褐色	砂粒・スコリア	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	L.R.
	69	94-31U-4D	1	深鉢	瓦	灰褐色	縹紗	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	L.R.
	69	95-31T-96B	2	浅鉢	瓦	灰褐色	縹紗	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	96-31U-4A	1	浅鉢	瓦	深褐色	白砂・石炭粉	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	97-31U-22B	2	浅鉢	瓦	黄褐色	縹紗	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	98-31U-4D	1	深鉢	瓦	灰褐色	縹紗・スコリアを含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	99-31U-15D	1	深鉢	瓦	赤褐色	縹紗・白砂	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	底面
	69	100-31T-96C	1	深鉢	瓦	深褐色	縹紗・石炭粉を含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	底面
	69	101-31U-24A	6	浅鉢	瓦	赤褐色	石炭粉	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁・縁部片	
	69	102-31U-24A	7・8	浅鉢	瓦	灰褐色	縹紗	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁・縁部片	
	69	103-2-1レ	1	浅鉢	瓦	黄褐色	縹紗	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁・縁部片	L.R.
	69	104-31U-2B	1	浅鉢	瓦	深褐色	石炭粉	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁・縁部片	底面
	69	105-31U-13C	2	浅鉢	瓦	深褐色	縹紗・白砂多量	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁・縁部片	
	69	106-31T-96C	1	浅鉢	瓦	赤褐色	大粒砂・スコリアを含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁・縁部片	
	69	107-3S-92	1	浅鉢	瓦	灰褐色	白砂・石炭粉を含む	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	底面
	69	108-31T-94C	1	浅鉢	瓦	深褐色	石炭粉	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁・縁部片	L.R.
	69	109-31U-2B	1	鉢	瓦	黄褐色	スコリア	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	110-31T-96D	1	浅鉢	瓦	黄褐色	白砂	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	111-2-1レ	1	浅鉢	瓦	灰褐色	白砂	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	L.R.
	69	112-31U-14A	5	浅鉢	瓦	灰褐色	白砂	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	113-31T-14	1	鉢	瓦	灰褐色	大粒砂粒・白砂	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	114-31T-4A	1	深鉢	瓦	黄褐色	縹紗・スコリア	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	115-31U-14B	4・6	鉢	瓦	深褐色	大粒砂・白砂	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	116-3S-81	1	浅鉢	瓦	灰褐色	白砂	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	
	69	117-31U-4A	3	浅鉢	瓦	灰褐色	縹紗	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	中心凹状
	69	118-31U-22	1	鉢	瓦	黄褐色	石炭粉	晩期前葉	安行3a	-	-	-	口縁部片	底面

種別	No.	品名	規格番号	品物番号	品名	規格	材質	色調	加工	時期	形式	口径 (cm)	口径 (cm)	高さ (cm)	所在地	備考
73	270	2 トレ	1	漆	藍	黄褐色	大形砂粒・スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	口縁部片	
73	271	3H-4C	2	漆	藍	灰褐色	石瓦粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	口縁部片	
73	272	3H1-50H	3	漆	藍	黄褐色	砂粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	口縁部片	
73	273	3H1-22H	3	漆	藍	灰褐色	大形砂粒・白砂	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	口縁部片	
73	274	3H1-14H	3	漆	藍	黄褐色	白砂・スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	口縁部片	
73	275	3H1-14A	4	漆	漆	黄褐色	白砂・石瓦粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	276	6 トレ	1	漆	藍	灰褐色	砂粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	277	3 トレ	1	漆	藍	黄褐色	藍砂粒・スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	278	3 トレ	1	漆	藍	黄褐色	砂粒・スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	279	1 トレ	1	漆	藍	灰褐色	石瓦粒・スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	280	3H1-23C	12	漆	藍	灰褐色	砂粒・スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	281	1 トレ	1	漆	藍	灰褐色	砂粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	282	3H1-12B	4	漆	漆	灰褐色	白砂	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	283	3H1-5D	2	漆	藍	黄褐色	砂粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	284	3H1-2D	2	漆	藍	赤褐色	白砂・石瓦粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	285	3H1-4	1	漆	藍	黄褐色	白砂	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	286	6B-1	1	漆	藍	黄褐色	石瓦粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	287	3H1-12D	2	漆	藍	黄褐色	石瓦粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	288	3H1-5B	1	漆	藍	黄褐色	砂粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	288と同一番号
73	289	6 トレ	1	漆	藍	黄褐色	石瓦粒・白砂	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	290	3H1-4C	2	漆	藍	灰褐色	スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	291	3H1-4D	1	漆	藍	黄褐色	石瓦粒・スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	292	3 トレ	1	漆	藍	灰褐色	砂粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	293	3H1-15A	3	漆	藍	黄褐色	砂粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	294	3 トレ	1	漆	藍	黄褐色	白砂	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	295	3H1-72	1	漆	藍	灰褐色	大形白砂・スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	296	3H1-4	1	漆	藍	黄褐色	大形白砂・石瓦粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	297	3S-81	1	漆	藍	灰褐色	スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	298	2 トレ	1	漆	藍	灰褐色	砂粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	299	14 トレ	1	漆	藍	黄褐色	スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	300	2 トレ	1	漆	藍	黄褐色	白砂・スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	301	3H1-3	1	漆	藍	赤褐色	スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	302	3H1-94D	1	漆	藍	黄褐色	砂粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	303	3H1-94	1	漆	藍	灰褐色	白砂・石瓦粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	304	3H1-13B	2	漆	藍	黄褐色	白砂	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	305	3H1-25C	2	漆	藍	黄褐色	白砂・スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	306	3H1-4	1	漆	藍	黄褐色	石瓦粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	307	3H1-94D	1	漆	藍	灰褐色	石瓦粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	308	3 トレ	1	漆	藍	灰褐色	スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	309	3H1-14B	3	漆	藍	黄褐色	砂粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	310	3H1-12B	7	漆	藍	灰褐色	白砂	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	311	2 トレ	1	漆	藍	黄褐色	石瓦粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	312	3H1-3C	1	漆	藍	黄褐色	大形砂粒・白砂	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	313	3H1-6A	2	漆	藍	灰褐色	石瓦粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	314	3H1-94D	4	漆	藍	黄褐色	白砂	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	315	3H1-94A	4	漆	藍	黄褐色	白砂・石瓦粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	316	3H1-94C	1	漆	藍	灰褐色	白砂	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	317	3H1-4	1	漆	藍	黄褐色	砂粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	318	3H1-4A	1	漆	藍	灰褐色	スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	319	3H1-2	1	漆	藍	黄褐色	スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	320	3H1-47	1	漆	藍	灰褐色	白砂	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	321	3H1-4	1	漆	藍	灰褐色	石瓦粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	322	3H1-4D	1	漆	藍	黄褐色	白砂	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	323	16 トレ	1	漆	藍	赤褐色	砂粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	324	3H1-2D	1	漆	藍	黄褐色	石瓦粒・スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	325	1 トレ	1	漆	藍	灰褐色	白砂	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	326	6 トレ	1	漆	藍	黄褐色	スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	327	3S-82	1	漆	藍	灰褐色	白砂・石瓦粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	328	3H1-22D	7	漆	藍	黄褐色	白砂・石瓦粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	329	3H1-15B	2	漆	藍	黄褐色	大形砂粒・白砂	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	330	3H1-2D	1	漆	藍	黄褐色	大形砂粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	331	3H1-2B	1	漆	藍	黄褐色	大形白砂・スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	332	3H1-94D	4	漆	藍	灰褐色	白砂	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	333	3H1-14B	3	漆	藍	黄褐色	白砂・石瓦粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	334	3H1-94C	1	漆	藍	黄褐色	石瓦粒・白砂	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	335	3H1-94D	2	漆	藍	黄褐色	石瓦粒・白砂	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	336	3 トレ	1	漆	藍	灰褐色	大形砂粒・白砂	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	337	3S-91	1	漆	藍	黄褐色	砂粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	製成片	
73	338	3H1-29	1	漆	藍	赤褐色	スコリア	焼物前	安行36	-	-	250	-	1320	口縁・縁部片	
73	339	3H1-15D	1	漆	藍	黄褐色	スコリア・石瓦粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	口縁・縁部片	
73	340	3H1-18C 14D	13	漆	藍	黄褐色	砂粒・白砂	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	口縁部片	
73	341	2 トレ	1	漆	藍	灰褐色	スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	口縁部片	
73	342	3H1-5D	4	漆	藍	灰褐色	スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	口縁部片	
73	343	3H1-4C	1	漆	藍	灰褐色	砂粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	口縁部片	
73	344	3S-81	1	漆	藍	黄褐色	石瓦粒	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	口縁部片	
73	345	1 トレ	1	漆	藍	灰褐色	白砂	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	口縁部片	
73	346	2 トレ	1	漆	藍	黄褐色	藍砂粒・白砂・スコリア	焼物前	安行36	-	-	-	-	-	口縁・縁部片	

種別	No.	規格番号	造形番号	品名	組成	色調	加工	時期	形式	口径 (mm)	口径 (cm)	高さ (cm)	形状	備考	
75	347	310-4	1	鉢	甎	灰褐色	大形白砂多量	焼酎前産	安行3c	-	-	-	口縁一周彫片		
75	348	2トレ	1	浅鉢	瓦	灰褐色	焼酎砂・白砂	焼酎前産	安行3c	-	-	-	口縁一周彫片		
75	349	385-04	1	鉢	甎	灰褐色	大形赤砂・白砂	焼酎前産	安行3c	-	-	-	口縁一周彫片		
75	350	2トレ	1	浅鉢	瓦	灰褐色	焼酎砂	焼酎前産	安行3c	-	-	-	口縁一周彫片		
75	351	2トレ	1	鉢	瓦	灰褐色	焼酎砂	焼酎前産	安行3c	-	-	-	口縁一周彫片		
75	352	310-28C	8	浅鉢	甎	赤褐色	白砂	焼酎前産	安行3c	-	-	-	口縁一周彫片		
75	353	385-01	1	浅鉢	甎	灰褐色	白砂	焼酎前産	安行3c	-	-	-	口縁一周彫片		
75	354	385-01	1	鉢	瓦	灰褐色	焼酎砂	焼酎前産	安行3c	-	-	-	口縁一周彫片		
75	355	1トレ	1	鉢	瓦	灰褐色	大形白砂	焼酎前産	安行3c	-	-	-	口縁一周彫片		
75	356	310-14A	6	鉢	瓦	灰褐色	焼酎砂	焼酎前産	安行3c	-	-	-	口縁一周彫片		
75	357	310-4	1	浅鉢	甎	灰褐色	白砂・石炭粉	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	358	317-6	1	浅鉢	甎	黒褐色	焼酎砂	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	359	317-2	1	浅鉢	瓦	灰褐色	焼酎砂	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	360	310-13C	12	浅鉢	瓦	黒褐色	白砂・石炭粉	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	361	310-4C	8	浅鉢	瓦	灰褐色	石炭粉	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	362	310-4	1	浅鉢	瓦	灰褐色	焼酎砂	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	363	310-4	1	浅鉢	甎	灰褐色	石炭粉	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	364	310-3A	1	浅鉢	瓦	灰褐色	焼酎砂	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	365	310-4C	8	浅鉢	甎	黒褐色	白砂	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	366	385-01	1	浅鉢	瓦	黒褐色	大形赤砂	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	367	317-2	1	浅鉢	瓦	灰褐色	スコリア	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	368	385-00	1	浅鉢	甎	灰褐色	スコリア	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	369	2トレ	1	鉢	瓦	灰褐色	石炭粉	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	370	385-01	1	浅鉢	瓦	黒褐色	焼酎砂	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	371	385-02	1	浅鉢	甎	灰褐色	砂多量	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	372	385-01	1	浅鉢	甎	灰褐色	スコリア	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	373	6トレ	1	浅鉢	瓦	灰褐色	大形スコリア	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	374	385-01	1	浅鉢	瓦	灰褐色	スコリア	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	375	310-4	1	浅鉢	瓦	黒褐色	石炭粉	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	376	310-6A	1	浅鉢	瓦	赤褐色	白砂	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	377	310-08	2	浅鉢	瓦	黒褐色	石炭粉	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	378	385-01	1	浅鉢	瓦	灰褐色	白砂	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	379	310-3	1	鉢	瓦	黒褐色	焼酎砂	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	380	310-14A	9	鉢	瓦	赤褐色	大形赤砂	焼酎前産	安行3c	-	-	-	製成片		
75	381	310-28A	8	鉢	瓦	黒褐色	大形白砂・スコリア	焼酎前産	安行3c+3d	-	-	-	口縁一周彫片		
75	382	310-13A	11	浅鉢	甎	黒褐色	スコリア	焼酎前産	安行3c	-	-	-	口縁一周彫片		
75	383	310-24B	3	鉢	瓦	黒褐色	白砂・石炭粉多量に含む	焼酎前産	安行3d	-	-	-	製成片	安行表	
75	384	310-15D	3	鉢	甎	黒褐色	大形赤砂	焼酎前産	安行3d	-	-	-	製成片		
75	385	310-14D	1	浅鉢	瓦	灰褐色	大形砂・白砂	焼酎前産	安行3	27.6	-	20.3	口縁一周彫片	底面	
75	386	310-24D	10-11-15	浅鉢	中々甎	黒褐色	大形赤砂・スコリア含む	焼酎前産	安行3	(22.1)	-	(14.3)	口縁一周彫片	製成片	
75	387	310-23B	9	浅鉢	瓦	黒褐色	焼酎砂	焼酎前産	安行3	23.5	-	(14.1)	口縁一周彫片	製成片	
75	388	310-24A	1	浅鉢	瓦	黒褐色	小砂	焼酎前産	安行3	-	-	-	口縁一周彫片		
75	389	310-15A	4	鉢	瓦	黒褐色	焼酎砂・スコリア	焼酎前産	安行3	-	-	-	口縁一周彫片		
75	390	85-10	605	鉢	瓦	灰褐色	焼酎砂	焼酎前産	安行3	-	-	-	口縁一周彫片		
75	391	2トレ	1	鉢	瓦	黒褐色	大形赤砂・スコリア	焼酎前産	安行3	-	-	-	口縁一周彫片	底面	
75	392	310-4	1	浅鉢	瓦	灰褐色	焼酎砂	焼酎前産	安行3	-	-	-	口縁一周彫片		
75	393	1トレ	1	浅鉢	甎	灰褐色	焼酎砂	焼酎前産	安行3	-	-	-	口縁一周彫片		
75	394	5トレ	1	鉢	瓦	黒褐色	白砂	焼酎前産	安行3	-	-	-	口縁一周彫片		
75	395	310-24D	17	浅鉢	瓦	黒褐色	大形砂・白砂・石炭粉・スコリア	焼酎前産	安行3	-	-	-	口縁一周彫片	製成片	
75	396	310-24D	10	浅鉢	瓦	黒褐色	焼酎砂・白砂・石炭粉・スコリア	焼酎前産	安行3	-	-	-	口縁一周彫片	製成片	
75	397	310-4D	1	浅鉢	甎	赤褐色	白砂・スコリア	焼酎前産	安行3	-	-	-	口縁一周彫片	396と同一致	
75	398	310-4D	1	浅鉢	甎	赤褐色	白砂・スコリア	焼酎前産	安行3	-	-	-	口縁一周彫片	397と同一致	
75	399	310-24A	2	浅鉢	瓦	黒褐色	大形砂・白砂・石炭粉・スコリア	焼酎前産	安行3	-	-	-	製成片	製成片	
75	400	310-13C	2	浅鉢	瓦	黒褐色	大形赤砂	焼酎前産	安行3	-	-	-	製成片	製成片	
75	401	310-24D	17	浅鉢	瓦	黒褐色	焼酎砂・白砂・石炭粉	焼酎前産	安行3	-	-	-	製成片	製成片	
75	402	310-24D	11	浅鉢	瓦	灰褐色	焼酎砂・白砂・石炭粉	焼酎前産	安行3	-	-	-	製成片	製成片	
75	403	310-24D	11-15	浅鉢	瓦	灰褐色	焼酎砂・スコリア含む	焼酎前産	安行3	-	-	-	製成片	製成片	
75	404	310-13C	2	浅鉢	瓦	灰褐色	焼酎砂・大形赤砂多量に含む	焼酎前産	建山	25.1	4.0	33.9	65%	口縁一周彫片	
75	405	310-3C 18トレ	1,3	浅鉢	瓦	灰褐色	焼酎砂・白砂多量に含む	焼酎前産	建山	(21.1)	-	(17.0)	口縁一周彫片		
75	406	310-13C	1	浅鉢	瓦	灰褐色	焼酎砂	焼酎前産	建山	(23.0)	-	(17.8)	口縁一周彫片		
75	407	317-04D	1	浅鉢	瓦	灰褐色	焼酎砂	焼酎前産	建山	(30.0)	-	(17.1)	口縁一周彫片		
75	408	310-28D	1	浅鉢	瓦	灰褐色	焼酎砂	焼酎前産	建山	(25.4)	-	(8.3)	口縁一周彫片		
75	409	310-13A	1	浅鉢	瓦	黒褐色	焼酎砂	焼酎前産	建山	(11.4)	2.5	14.0	20%		
75	410	310-3C	1	浅鉢	瓦	黒褐色	焼酎砂	焼酎前産	建山	(17.7)	-	(8.7)	20%		
75	411	385-03	1	浅鉢	瓦	赤褐色	白砂・スコリア	焼酎前産	建山	-	-	-	口縁一周彫片		
75	412	310-24D	15	浅鉢	瓦	灰褐色	焼酎砂・白砂・石炭粉	焼酎前産	建山	-	-	-	口縁一周彫片	赤砂	
75	413	310-24D	11	浅鉢	瓦	灰褐色	焼酎砂・白砂・石炭粉	焼酎前産	建山	-	-	-	口縁一周彫片	1.5多量含む	
75	414	385-04	1	鉢	瓦	赤褐色	白砂	焼酎前産	建山	-	-	-	口縁一周彫片		
75	415	310-4	1	浅鉢	瓦	灰褐色	スコリア	焼酎前産	建山	-	-	-	口縁一周彫片		
75	416	310-4	1	鉢	瓦	黒褐色	白砂・スコリア	焼酎前産	建山	-	-	-	口縁一周彫片		
75	417	310-14C	3	浅鉢	瓦	灰褐色	焼酎砂・白砂・石炭粉	焼酎前産	建山	-	-	-	口縁一周彫片		
75	418	310-4D	1	鉢	瓦	黒褐色	白砂・石炭粉・スコリア	焼酎前産	建山	-	-	-	口縁一周彫片		
75	419	385-03	1	鉢	瓦	赤褐色	白砂・石炭粉	焼酎前産	建山	-	-	-	口縁一周彫片		

種別	No.	品名	規格番号	数量	品名	規格	材質	色調	加工	時期	形式	口径 (mm)	口径 (mm)	高さ (mm)	用途	備考
77	438	317-14	1	板	黒	炭素鋼	白粉・石炭粉・スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	439	317-23B	2	板	黒	炭素鋼	白粉・石炭粉・スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	440	317-14	1	板	黒	炭素鋼	白粉・スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	442	317-2	1	洋鉄	黒	炭素鋼	白粉・スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	441	317-14A	5	鉄	黒	炭素鋼	白粉・スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	445	317-4C	4	洋鉄	黒	炭素鋼	スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	446	317-14	1	鉄	黒	炭素鋼	スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	427	6ト	1	鉄	黒	炭素鋼	スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	428	317-23C	12	洋鉄	黒	炭素鋼	白粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	429	317-14B	2	洋鉄	黒	炭素鋼	白粉・石炭粉・石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	430	317-2	1	洋鉄	黒	炭素鋼	白粉・スクリヤ・石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	431	317-9C	3	洋鉄	黒	炭素鋼	白粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	432	1ト	1	鉄	黒	炭素鋼	白粉・スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	433	307-29	1	洋鉄	黒	炭素鋼	スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	434	317-4D	2	鉄	黒	炭素鋼	白粉・スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	435	317-4	1	洋鉄	黒	炭素鋼	白粉・石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	436	317-2	1	洋鉄	黒	炭素鋼	白粉・スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	437	317-4	1	鉄	黒	炭素鋼	白粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	438	317-9	1	洋鉄	黒	炭素鋼	白粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	439	317-3	1	板	黒	炭素鋼	白粉・石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	440	317-4	1	鉄	黒	炭素鋼	白粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	441	317-15A	4	鉄	黒	炭素鋼	白粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	442	1ト	1	鉄	黒	炭素鋼	白粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	443	317-3	1	鉄	黒	炭素鋼	白粉・石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	444	1ト	1	洋鉄	黒	炭素鋼	白粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	445	317-2C-4D	11	洋鉄	黒	炭素鋼	白粉・石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	446	317-23D	10	洋鉄	黒	炭素鋼	白粉・石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	447	317-42	1	白付鉄	黒	炭素鋼	白粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	448	317-2 1ト	11	鉄	黒	炭素鋼	白粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	449	317-13C	2	洋鉄	黒	炭素鋼	白粉・石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	450	317-2B	1	鉄	黒	炭素鋼	白粉・石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	451	31-20	1	鉄	黒	炭素鋼	白粉・石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	452	317-41-3C	11	鉄	黒	炭素鋼	白粉・石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	453	31-21	1	鉄	黒	炭素鋼	スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	454	317-15A	4	鉄	黒	炭素鋼	スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	455	317-2B	1	鉄	黒	炭素鋼	白粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	456	317-15A	3	鉄	黒	炭素鋼	白粉・スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	457	3ト	1	鉄	黒	炭素鋼	石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	458	317-1ト	1	鉄	黒	炭素鋼	白粉・石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	459	317-1A	1	鉄	黒	炭素鋼	白粉・石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	460	2ト	1	鉄	黒	炭素鋼	白粉・石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	461	317-23C	2	板	黒	炭素鋼	白粉・スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	462	317-15A	4	鉄	黒	炭素鋼	石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	463	317-23D	7	鉄	黒	炭素鋼	スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	464	317-3C	1	鉄	黒	炭素鋼	白粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	465	317-21A	5	鉄	黒	炭素鋼	石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	466	317-22	1	鉄	黒	炭素鋼	白粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	467	317-14	1	鉄	黒	炭素鋼	スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	468	317-3C	1	鉄	黒	炭素鋼	石炭粉・白粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	469	317-4D	1	鉄	黒	炭素鋼	石炭粉・白粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	470	317-4	1	鉄	黒	炭素鋼	石炭粉・白粉・スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	471	317-4D	1	鉄	黒	炭素鋼	石炭粉・白粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	472	3ト	1	鉄	黒	炭素鋼	石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	473	317-24D	19	鉄	黒	炭素鋼	石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	474	2ト	1	鉄	黒	炭素鋼	石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	475	6ト	1	鉄	黒	炭素鋼	白粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	476	317-13D	1	鉄	黒	炭素鋼	石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	477	317-4D	1	鉄	黒	炭素鋼	白粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	478	317-16C	2	鉄	黒	炭素鋼	白粉・スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	479	317-2	1	鉄	黒	炭素鋼	スクリヤ	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	480	317-23C	1	鉄	黒	炭素鋼	白粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	481	317-3C	1	鉄	黒	炭素鋼	白粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	
77	482	317-18C	14	白付鉄	黒	炭素鋼	石炭粉・スクリヤ・石炭粉	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	焼物	

第5表 ミニチュア土器観察表

() 推定値, () 現存値

標本 No.	遺構番号	遺物 番号	器 種	形状	色調	胎土	時期	形式	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	保存状況	備考		
79	311-3	311-94C-90D	11.4	弥生型土器	赤	明褐色	織師	前期	-	79.0	141.3	48.1	表面付込一筋先	無文	
79	2	311-24D	10	漆鉢	赤	明褐色	石丸製	前期	-	198.0	-	180.5	11-胴底1/4		
79	3	311-96D	1	漆鉢	赤	灰褐色	白粉	前期	-	179.0	-	138.2	口縁1/5		
79	4	311-15A	4	漆鉢	赤	明褐色	織師	前期	-	185.1	-	205.1	口縁1/8		
79	5	311-25A, 25B	1.15	漆鉢	赤	灰褐色	織師	前期	-	198.0	-	174.2	11-胴底1/3		
79	6	311-03D	1	鉢	赤	明褐色	織師	前期	-	189.1	-	208.1	11-胴底1/4		
79	7	311-05D	4	鉢	赤	灰褐色	織師	前期	-	198.0	-	128.5	11-胴底1/6		
79	8	311-04D	1	台付鉢	赤	明褐色	織師	前期	-	39.2	49.2	49.0	胴縁1/2	台付鉢	
79	9	311-04D	1	台付石	赤	褐色	白粉	前期	-	49.0	-	28.5	口縁一筋先	無文 平縁	
79	10	311-23A	3	鉢型	赤	褐色	白粉	前期	-	159.5	-	55.5	口縁1/3	無文	
79	11	311-13C	14	台付石	赤	赤褐色	織師	前期	-	141.5	-	130.8	11-胴底1/5		
79	12	311-13C	4	台付石	赤	赤褐色	織師	前期	-	158.1	133.3	30.7	1/5		
79	13	311-14	1	台付石	赤	灰褐色	織師	前期	-	185.1	-	120.1	口縁部		
79	14	311-04D	2	台付石	赤	褐色	石丸製	前期	-	183.1	-	230.1	1/4		
79	15	311-13A	3	台付石	赤	灰褐色	織師	前期	-	154.1	-	123.0	1/5		
79	16	311-12B	3	台付石	赤	赤褐色	織師	前期	-	110	-	30.0	定形	無文 3筋付縁部	
79	17	3トレ	1	台付石	赤	赤褐色	石丸製	前期	-	54.1	-	30.5	胴底2次面	無文 6筋付縁部	
79	18	311-03D	1	台付石	赤	褐色	石丸製	前期	-	44.5	-	24.8	定形	無文	
79	19	311-24A	7	台付石	赤	暗赤褐色	織師	前期	-	136.0	-	160.5	1/3		
79	20	311-03C	1	台付石	赤	灰褐色	白粉	前期	-	177.8	-	133.0	1/4		
79	21	SK-013	3	台付石	赤	褐色	織師	前期	-	188.1	-	139.0	11-胴底1/4		
79	22	311-14D	1	異形台付土器	赤	灰褐色	白粉	前期?	-	-	-	-	口縁部		
79	23	311-94A	4	台付之型	赤	暗褐色	白粉	前期	-	138.1	-	146.0	11-胴底1/5		
79	24	SK-013	1	台付土器	赤	赤灰褐色	白粉、石丸製	前期	-	-	-	125.5	胴縁部		
79	25	311-06C	2	漆鉢	赤	灰褐色	織師	前期	-	-	-	171.0	胴縁1/4		
79	26	311-14C	1	漆鉢	赤	赤褐色	白粉、石丸製	前期	-	-	-	-	胴縁部		
79	27	311-04B	2	台付石(台付)	赤	灰褐色	白粉	前期	-	-	-	133.1	1/5		
79	28	315-81	1	蓋形?	赤	暗褐色	織師	前期	-	-	-	-	胴一底面片		
79	29	311-24D	18	台付石	赤	灰褐色	白粉、石丸製	前期	-	-	-	126.5	胴一底面片		
79	30	311-24D	15	台付石(台付)	赤	暗褐色	白粉	前期	-	-	-	128.0	胴底2/3		
79	31	311-13C	12	台付石	赤	赤褐色	織師	前期	-	-	-	-	11-胴底片		
79	32	2トレ	1	漆鉢	赤	灰褐色	白粉	前期	-	-	30.5	124.0	胴底2/5		
79	33	311-04B	3	漆鉢	赤	褐色	織師	前期	-	-	-	131.5	1/5		
80	34	311-23D	4	漆鉢	赤	灰褐色	白粉、石丸製	前期	-	-	183.0	145.2	胴一底面1/4	片断非形 底面木製	
80	35	311-23B	7	鉢	赤	灰褐色	織師	前期	-	-	-	144.0	底面		
80	36	311-25A	4	台付石	赤	灰褐色	織師	前期	-	-	42.0	110.2	胴底2次面	無文 底面	
80	37	315-81	1	台付石	赤	赤褐色	織師	前期	-	-	137.0	126.1	胴一底面1/4		
80	38	311-03C	1	台付土器	赤	灰褐色	織師	前期	-	-	156.0	138.2	胴底2/5		
80	39	311-23D	1	台付石	赤	暗赤褐色	石丸製	前期	-	-	140	123.0	1/2	底面削代	
80	40	317-14	1	台付鉢	赤	赤褐色	白粉	前期	-	-	42.5	135.5	台部の内底	無文 縄文 削代痕有り	
80	41	315-81	1	台付石(台付)	赤	灰褐色	白粉	前期	-	-	46.5	142.0	1/3		
80	42	311-04A	1	台付鉢	赤	明褐色	白粉	前期	-	-	40.3	129.1	台部の内底	無文 縄文 5次厚底	
80	43	311-04A	1	台付鉢	赤	暗褐色	織師	前期	-	-	-	-	-	胴底片	
80	44	311-24D	10	台付石	赤	灰褐色	織師	前期	-	-	-	-	-	胴底片	
80	45	311-03C	2	鉢	赤	灰褐色	織師	前期	-	-	-	-	-	胴底片	研究文
80	46	311-04B	3	漆鉢	赤	赤褐色	織師	後期中葉	加付器目	187.8	-	169.2	11-胴底1/6		
80	47	311-14D	6	漆鉢	赤	褐色	織師	後期中葉	加付器目	360	402	75.2	口縁2/3	平縁 胴底木製	
80	48	317-14	1	漆鉢	赤	明褐色	織師	後期中葉	加付器目	-	-	-	11-胴底片		
80	49	311-25A	1	北口甕	赤	暗褐色	白粉	後期中葉	加付器目	32.0	-	136.0	口縁部のみ		
80	50	311-23A	1	漆鉢	赤	灰褐色	織師	後期中葉	加付器目	1390.0	-	146.1	口縁1/8		
80	51	311-23B	7	漆鉢	赤	暗褐色	織師	後期中葉	加付器目	-	-	-	11-胴底片		
80	52	311-03C	2	鉢	赤	灰褐色	織師	後期中葉	加付器目	-	-	-	11-胴底片	基礎	
80	53	311-12B	2	漆鉢	赤	赤褐色	織師	後期中葉	加付器目	-	-	-	-	定形	
80	54	311-31A	7	鉢型	赤	赤褐色	白粉	後期中葉	加付器目	71.0	-	175.0	胴縁1/2	口縁大 5次(1.5単位)	
80	55	311-53B	3	鉢型	赤	灰褐色	織師	後期中葉	加付器目	192.1	-	131.1	11-胴底1/6		
80	56	SK-013	3	漆鉢	赤	暗褐色	石丸製	後期中葉	加付器目	175.1	-	136.1	口縁1/5		
80	57	311-24D	11	鉢	赤	灰褐色	白粉	後期中葉	加付器目	48.5	32.5	59.0	定形	口縁下2本平流線中 底面	
80	58	311-26A	1	漆鉢	赤	灰褐色	白粉	後期中葉	加付器目	198.0	-	120.1	11-胴底1/2	流線口縁	
80	59	317-92	1	鉢	赤	赤灰褐色	織師	後期中葉	加付器目	130.5	93.0	125.0	1/6		
80	60	311-33B	4	漆鉢	赤	赤褐色	白粉、石丸製	後期中葉	加付器目	191.2	-	139.1	口縁1/3		
80	61	SK-003, 311-08B	1.2	水甕	赤	赤褐色	織師	後期中葉	加付器目	155.1	-	28.1	1/6	赤印	
80	62	311-03D	5	漆鉢	赤	暗褐色	白粉、石丸製	後期中葉	加付器目	30.0	42.0	55.0	定形		
80	63	311-13C	10	漆鉢	赤	灰褐色	白粉	後期中葉	加付器目	-	-	-	11-胴底片	基礎物子	
80	64	3トレ	1	台付石	赤	灰褐色	織師	後期中葉	加付器目	146.1	-	138.2	11-胴底1/4		
80	65	311-25A	1	鉢	赤	暗赤褐色	白粉、石丸製	後期中葉	加付器目	-	-	137.1	胴底片	71.72と同一形状	
80	66	311-24D	18	鉢	赤	灰褐色	織師	後期中葉	加付器目	-	-	147.0	胴底片		
80	67	311-25A	1	鉢	赤	暗赤褐色	織師	後期中葉	加付器目	-	-	134.1	胴底片		
80	68	311-24D	4	鉢	赤	暗赤褐色	白粉	後期中葉	加付器目	-	-	136.1	胴底片		
80	69	311-25A	1	台付石	赤	灰褐色	織師	後期中葉	加付器目	-	-	130.1	胴底片	口縁付	
80	70	311-33B	4	鉢	赤	灰褐色	織師	後期中葉	加付器目	-	-	132.0	胴底片	口縁付	
80	71	311-34B	4	鉢	赤	褐色	織師	後期中葉	加付器目	-	-	132.0	胴底片		
80	72	311-23B	10	水甕	赤	明褐色	石丸製	後期中葉	加付器目	-	32.2-34	33.0	1/3		

種別 No.	遺構番号	遺物番号	器 種	焼成	色 調	胎 土	時 期	形 式	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	保存状況	備 考	
81	73	311-35	2	ひし型	黒	褐色	白砂	晩期後葉	押付(実行1)	41.7	32.5	620	完好	平縁・縁部斜上穿孔
81	74	311-33A	1	鉢型器	黒	灰黒褐色	石灰質	晩期後葉	押付	190	-	157.2	1/3	
81	75	311-21A	4	鉢	黒	赤褐色	白砂	晩期後葉	実行1	175.0	130.0	350	1/3	
81	76	311-21B	9	鉢	黒	赤褐色	白砂	晩期後葉	実行1	-	-	403.5	縁部片	胴部
81	77	311-04B	3	異形付上部	黒	赤褐色	白砂	晩期後葉	実行2	-	-	-	口縁片	
81	78	311-04D	1	付付鉢	黒	黄褐色	磁砂	晩期後葉	実行2	-	-	388.0	縁部1/4	
81	79	311-33B	3	浅鉢	黒	灰褐色	白砂	-	実行	168.5	-	131.5	口縁部1/6	底面片破欠
81	80	311-25D	3	浅鉢	黒	赤褐色	白砂	-	実行	-	-	121.5	縁部片	
81	81	311-13A	2	浅鉢	黒	赤褐色	白砂	-	実行	143.5	-	136.5	口縁部1/3	
81	82	311-22B	12	煎形	黒	赤褐色	磁砂	晩期中葉	加付料B	140.0	-	155.2	口縁部・内部	
81	83	1 トレ	1	異形上部	黒	褐色	磁砂	-	実行	130.5	-	25.0	1/2	
81	84	311-29C	10	異形付上部	黒	灰褐色	白砂	-	実行	176.5	140.0	92.5	口縁部・内部	一部欠
81	85	311-33C	1	異形付上部	黒	赤褐色	磁砂	-	実行	-	-	-	口縁片	
81	86	311-32	1	異形付上部	黒	赤褐色	白砂	-	実行	-	-	-	縁部片	穿孔
81	87	311-03	1	異形付上部	黒	赤褐色	白砂	-	実行	-	-	-	縁部片	赤粉・穿孔
81	88	311-23B	10	異形付上部	黒	黒褐色	磁砂	-	実行	-	-	-	縁部片	縁部片
81	89	311-14D	3	異形付上部	黒	褐色	白砂	-	実行	-	52.5	76.0	口縁部・内部	一部欠
81	90	1 トレ A	1	異形付上部	黒	灰褐色	白砂	前期	実行	-	-	15.0	縁部1/3	
82	91	311-02C	22	付付鉢	黒	黄褐色	磁砂	晩期後葉	実行3b	-	-	165.5	台部の片残	
82	92	311-24C	6	付付鉢	黒	黒褐色	磁砂	晩期後葉	実行3b	-	174.0	130.5	縁部片	底面による施文 穿孔を中央に三叉文 縁付有り
82	93	311-13C	12	浅鉢	黒	褐色	白砂	晩期後葉	実行3b	198.0	137.0	34.0	1/6	縁部口縁
82	94	311-15D	1	鉢	黒	灰黒褐色	白砂	晩期後葉	実行3b	-	-	-	口縁片	
82	95	3 トレ	1	鉢	黒	灰黒褐色	白砂	晩期後葉	実行3b	-	-	125.5	縁部片	底部斜上

第6表 特殊土器観察表

() 測定値、() 現存値

種別 No.	遺構番号	遺物番号	器 種	焼成	色 調	胎 土	時 期	形 式	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	保存状況	備 考	
83	1	311-20B	3	駒手上部	黒	灰黒褐色	磁砂	-	-	-	-	-	-	
83	2	311-21A	3	駒手上部	黒	黒褐色	磁砂	-	-	-	-	-	-	
83	3	311-04D	5	駒手上部	黒	灰褐色	白砂	-	-	-	-	-	-	
83	4	311-23B	2	異形付上部?	黒	黒褐色	磁砂	晩期中葉	加付料B	-	-	-	-	
83	5	311-04C14C	4,3	駒手上部	黒	黄褐色	白砂・石灰質	-	-	-	-	-	-	
83	6	311-24D	10	駒手上部	黒	赤褐色	白砂	-	-	-	-	-	-	
83	7	311-41	1	駒手上部	黒	灰褐色	磁砂	-	-	-	-	-	-	
83	8	311-14D,24D	4,10	駒手上部	黒	灰褐色	磁砂	-	-	-	-	-	-	
83	9	311-22	1	手摺形上部	黒	黒褐色	磁砂	-	-	-	-	-	-	
83	10	311-25B	3	駒手上部	黒	灰褐色	磁砂	-	-	-	-	-	-	
83	11	3 トレ	1	駒手上部	黒	明赤褐色	白砂	-	-	-	-	-	-	
83	12	311-03	1	駒手上部	黒	灰褐色	磁砂	前期	三ヶ輪	-	-	-	-	
84	13	311-24C	8	注口上部	黒	灰黒褐色	白砂	晩期中葉	加付料B	-	29	17.5	-	
84	14	311-24D	14	中々形上部	黒	明褐色	磁砂	前期	-	6.0	-	4.0	-	
84	15	311-04C	2	注口上部	黒	赤褐色	白砂・石灰質	晩期後葉	実行2	-	-	-	-	
84	16	裏1 トレ・ブ	-	注口上部	黒	赤褐色	磁砂	-	-	-	-	-	-	
84	17	311-25D	2・3	注口上部	黒	灰褐色	白砂・石灰質	晩期後葉	実行2	-	-	113.0	-	
84	18	311-23B	6・7	注口上部	黒	褐色	白砂	-	-	-	-	-	-	
84	19	311-24D	7	注口上部	黒	明赤褐色	白砂	-	-	-	-	-	-	
84	20	311-24D	7	注口上部	黒	褐色	白砂	-	-	-	-	-	-	
84	21	311-33B	5	注口上部	黒	灰褐色	磁砂	-	-	-	-	-	-	
84	22	311-5A	7	注口上部	黒	褐色	磁砂	-	-	-	-	-	-	
84	23	311-23B	3	注口上部	黒	灰褐色	白砂	-	-	-	-	-	-	
84	24	311-13C	12	注口上部	黒	褐色	白砂	-	-	-	-	-	-	
84	25	311-33B	1	注口上部	黒	褐色	白砂	-	-	-	-	-	-	
84	26	311-9C	1	注口上部	黒	黒褐色	白砂	晩期中葉	加付料B	-	-	-	-	黒色物質
84	27	311-13C	4	注口上部?	黒	黒褐色	白砂	晩期中葉	実行3b	-	-	-	-	
85	28	311-23C	4	異形付上部?	黒	褐色	磁砂	前期	-	-	-	-	-	
85	29	311-21A	1	異形付上部?	黒	黒褐色	磁砂	前期	-	-	-	-	-	
85	30	311-22	1	異形付上部?	黒	褐色	白砂	前期	-	-	-	-	-	
85	31	311-14D	2	駒手上部	黒	明褐色	磁砂	-	-	-	-	-	-	赤粉?
85	32	311-02D	2	把手	黒	黄褐色	磁砂	晩期後葉	実行2	-	-	-	-	
85	33	311-23C	3	把手	黒	灰褐色	白砂	晩期後葉	実行2	-	-	-	-	
85	34	6 トレ	1	異形付上部?	黒	黒褐色	磁砂	晩期中葉	加付料B	-	-	-	-	
85	35	311-03B	1	異形付上部?	黒	褐色	白砂	晩期中葉	加付料B	-	-	-	-	
85	36	311-04D	1	駒手上部	黒	灰褐色	白砂	晩期後葉	実行3a	-	-	-	-	
85	37	311-13A	10	駒手上部	黒	褐色	白砂	-	-	-	-	-	-	赤粉
85	38	311-14	1	駒手上部	黒	灰褐色	白砂	晩期後葉	実行2	-	-	-	-	
85	39	311-03D	1	蓋形	黒	灰褐色	磁砂	前期	-	-	-	139.0	1/4	赤粉
85	40	16 トレ	1	手摺形上部	黒	黒褐色	磁砂	前期	-	-	-	-	-	

第4節 土偶及び土製品

1 土 偶 (第10図, 第86～94図1～122, 第7表, 図版41～46)

破損品のみ130点の出土である。そのうち126点を図示した。

a. 頭部を持つもの (1～33・41)

山形土偶の上半身 (1～5・32)

1は頭部が三角形をなすもので、顔がハート形で顎が仮面状に張り出す。目・口は刺突文で表現されている。左腕が肘立てられて、右手は欠けているが右肘を支えて交差しているようである。背面の弧状沈線区画に磨消し縄文が施されている。2は頭上部が欠け、鼻・口・顎が貼付文で表現されている。目の部分の貼付文が剝離している。3は目・鼻・口・顎が貼付文で表現されている。乳房・体中線の貼付が剝落している。4は鼻・口・顎が貼付文で表現されている。二本組の沈線が施されている。5は半円形の頭をなし、目・鼻・口・顎が貼付文で表現されている。乳房は剝落している。首回りに刺突文、体中線に貼付文を有する。後頭部・体部に縄文が施されている。32は小型のものであり、貼付文で顔を表現する。口の位置が顎線の下になっている。胎土にスコリアを含む。

山形土偶の頭部 (6～14・16・17)

6は眉・顎が隆線、目・鼻・口が貼付文で表現されている。後頭部が広く張り出し、縄文が施文されている。首には刺突文がある。7は楕円形頭部をなす。眉・顎が隆線化するが、目・鼻が小貼付、口が浅い凹みで表現され退化感がある。表側のナデは顕著である。裏面に後頭部の隆起と十字沈線文が施されている。8は透かしの入った三角形頭部を持ち、全体的に菱形をなす。顔面は下半部に集約され、目が凹み、円形刺突と小凹みで口を表現する。眉と顎は隆帯で張り出している。9は半円形のものである。目・鼻・口が貼付文で、眉・顎が隆線で表現される。耳は貫通孔で表現されている。首に細刺突文がある。10は楕円形をなす。眉が隆線、目・鼻・口が貼付線、耳は刺突文が施される。後頭部に隆起がある。また鋭い沈線と十字沈線が表裏に付されている。11は楕円形の頭部で、顔の輪郭と鼻は隆起線、目・口が刺突文で付けられている。また鼻孔が細い刺突で表現されている。山形土偶の末期のものか。12は球形の頭部をなし、眉・鼻を隆帯で表す。目は横長の凹みで、耳は刺突文、口は環状隆起線に刻みが付く。鼻孔の表現がある。眉後が高く写実的で、デスマスクに似ている。13は目・鼻を貼付文で、眉・顎が隆線、口は顎線を少し凹めて作る。耳は貫通孔で表現されている。裏面に後頭部の張り出しが付され、縄文が施されている。14は立体的で、隆起線で眉・目・鼻・口を表現する。耳は貫通している。晩期浮線文の時期のものと思われる。16は半円形をなすもので、眉・顎が隆起線、目が貼付文で表されている。また両面に細沈線が施されている。17は小型の半円形をなすもので、隆帯で眉・顎を作り、目を円形貼付文で表す。細い沈線で曲線文がみられる。

みみずく土偶の頭部 (15・18～30)

15は沈線・隆線・小突起がみられるもので、頭頂部の破片であろう。18は平板な作りのもので、隆起線によるハート形顔輪郭をなす。目・口・耳にボタン形貼付文(刻み目入り)を有する。胴部表面に縄文地の弧状・入組沈線が施される。翼状になり、瘤状の手が付く左腕部を持つ。19は立体的な頭部である。上部に条線を施し、傘形隆帯と頭頂部突起を持つ。顔は隆起線でハート形輪郭(刻み目入り)をなし、目・口・鼻・耳が貼付文で表現されている。また鼻には対孔が有り、口脇に縦沈線が伴う。20は頭上部片で、目・鼻が貼付文で付けられており、条線文の入った前髪状隆起と頭頂部突起がみられる。表面に押し引き条線、

裏面に弧線文がみられる。21は、円弧隆起線で顔輪郭、目・鼻・口が貼付文、背面に連弧線文が施される。押し引き条線を施す髪状隆起線と突起を有する。22は隆起線によるハート形顔輪郭を持つものである。目がボタン形貼付文、耳が貫通孔になる。表裏に髪部の条線装飾がある。後頭部には環状貼付が付されている。23は隆起線によるハート形顔輪郭部片で、目はボタン状文、鼻が隆起線で鼻孔がある。裏面はナデが入っているだけで無文である。24は赤彩品で、顔上部が残る。隆起線によるハート形顔輪郭、目がボタン形貼付文である。大きい髪状突起を持ち、裏面に沈線が密に施文されている。25は中空のもので顔左下部である。耳はボタン状文、髪部は刻線入り貼付文で表現される。押し引き沈線、隆起線も施されている。26は頭上部で、条線・押し引き条線および沈線を施す突起や貼付文で髪が表現がされる。

27～30は隆起部に沈線ないし条線が施される。髪が表現された頭部の突起とみられる。28は安行式の波状口縁把手と共通な作りである。30はX字に交差するものであろう。

その他の頭部 (33・41)

33は頭が丸い立体的なもので、顔面が隆起して耳から眉稜が繋がりが、刺突文で目・鼻・口を表現し、猿のような顔をしている。一見、仮面を付けているようでもある。獣面把手片かもしれない。41は頭部を省略した板状品で、手先が上反りする。通常の上偶の首から胸の位置に目・鼻・口の表現があるので、いわゆる変形上偶である。

b. 頭部を欠く胴体部のもの (34～40・42～44)

上・下半身 (34・35・40)

34は弧状沈線が密に施文されている中空土偶の小破片で、角部に刺突文がみられる。肩から腰の部分であろうか。35は上・下半身が大きく残る。縄文地に榊掛け・入組文沈線を施し、磨消しする文様を持つ。腰下に円形刺突を伴う。腹部の隆起があり、乳房は剥落している。体中線に連続刺突文入りの貼付文がある。また右足先が切断され摩滅している。40は肩から腰まで残る無文のものである。乳房・腹部の影らみがある。体中線は刺突文入りの短い貼付文でなされている。

上半身のみ (36・39・42～44)

36は沈線と縄文が施文されるもので、乳房の影らみがある。体中線に円形刺突文を添えた貼付線が施されている。39は横位沈線(2本組)が主文様となる。連続刺突文を伴う乳房貼付、連続刺突文入りの貼付文による体中線を持つ。42は板状品で、顔輪郭・口と体中線に貼付線がみられる。裏面に後頭部の隆起がある。胴部刺突列を持つ。43は板状の小片で、沈線文が施文されている。44は肩部で、横位・鋸歯状の沈線が施文されている。榊状の構成をなす可能性もある。

胴部破片 (37・38)

37は腹部の影らみを隆帯で表現し、上面に縄文を施す。体中線が沈線で施され、腹部中央に刺突文がある。38は無文で、腹部隆起がある。

c. 肩～手部 (46・48～52・54～56・61・63・65・67)

46・50は太沈線・磨消状文がみられる中空土偶の肩部とみられる。48は縄文と沈線が施文されている。肩から上腕部のものである。49・51・52・54・55・61・63は手先が上反りする。49は刻目列および沈線・縄文が施される。加曽利B式期のものである。51は沈線・縄文、52は沈線と連続刺突文、54は連続刺突文が施されている。55は手先が反り気味のもので、沈線が施文されている。56は沈線施文で、肩か腰部の破片である。61は無文のものである。63は赤彩・沈線が施されている。65は無文の肩破片である。67

は沈線施文されている。

d. 手部 (53・62・64・66・69～72・94・108・122)

53は手先が上反りする手部片で、沈線が施文されている。62・64・69・70は内側へ反るものである。62・64は沈線施文で、晩期みみずく形土偶の破片とみられる。66は無文で、直線的な形のものである。69・70は無文である。71・72は手先が上反りする手部片である。71は押し引き沈線文を持つ。72は縄文がみられる。94は手先が上反りする小型のもので、縄文と沈線施文を持つ。みみずく形土偶の手先部であろう。108は先が反ってつま先のような形をしているが手部とした。122は沈線・連続刺突文を施文した翼状品である。みみずく形土偶の右腕である。

e. 腰下部 (45・47・57～60・89)

45は腰から下半身のもので、縄文・沈線・鋸歯状細沈線を持つ。47は縄文・沈線が施される。57は沈線に押し引き刺突文を有する。赤彩痕がある。58は鋸歯文・格子目沈線がみられる。59・60は無文のもの、89は腰部片で沈線施文である。

f. 腹部から下半身部 (73・74・84・88・119)

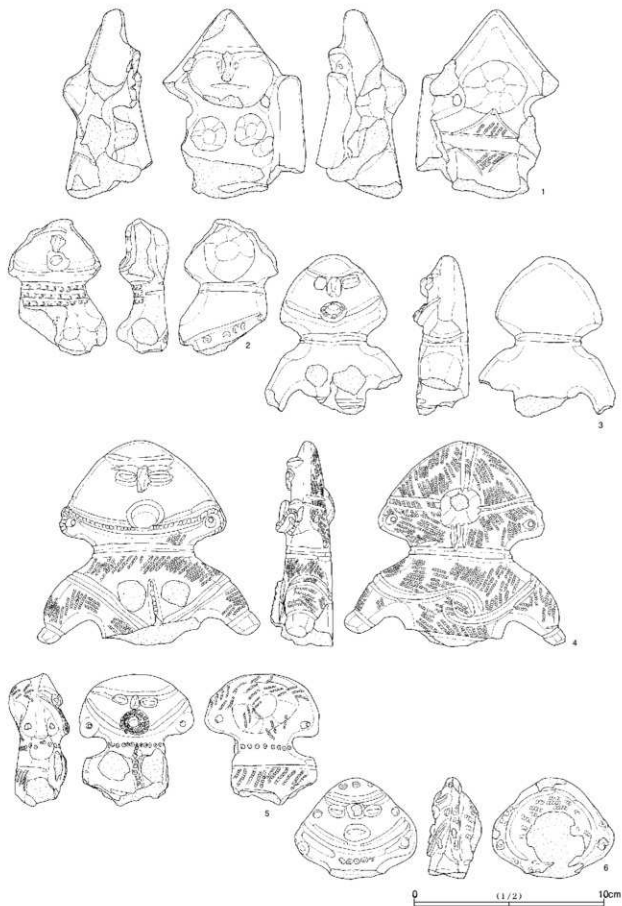
73は腹部隆起と貼付(刺突文入り)線による体中線がある。腰下に沈線で鋸歯状文が施される。74は右の腰から足の部位で、沈線と縄文に加え、腰部には連続して円形刺突文・短刻線が施されている。84は沈線・縄文・連続刺突文・浮線を持つものである。U字形に開いた脚形になる。88は右下半身で赤彩がある。沈線文が主体に施され、背面には斜縄文や刺突文がみられる。119は中空の土偶左脚部で、太い沈線で三叉文・磨消し縄文が施されている。O脚で、つま先があり、沈線で刻んだ指の表現がある。安行3a式期のものであろう。

g. 足破片のもの (68・75～83・85・87・90～93・95～107・109～118・120・121)

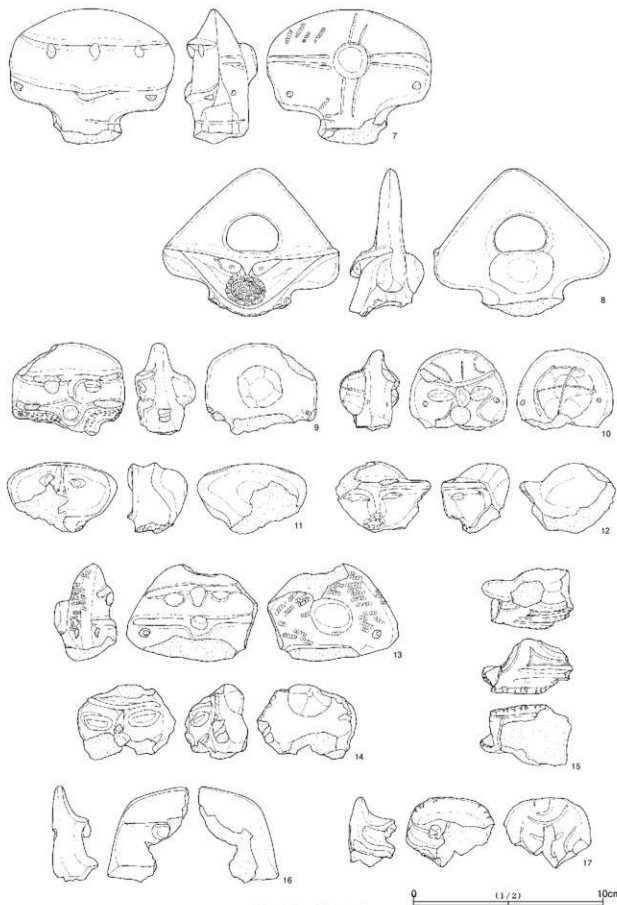
68は足端部である。75～78は沈線と縄文が施されている。77には赤彩がある。78はみみずく形土偶の脚部で、横沈線および縄文がみられる。79・80・82・83は沈線が施文される。81は沈線と押し引き刺突文がみられる。86・87の脚は断面菱形をなすもので、みみずく形土偶の脚部とみられ、85は隆帯が施され、沈線と刺突文が施される。87には縄文が施されている。90～93・98～101は沈線が施文されたもので、つま先部の表現がある。95・96は沈線に連続刺突文を持つ。先端が外反しており、かつ96には指先の表現か端部に刻みがある。97は格子目沈線を持つ。102は無文で中空の脚部である。土器底部に類似した形をとる。大洞系遮光器土偶のものであろうか。103～107・109・111～115は無文のもので、106・110以外には、つま先のように出る部分がある。108は手の部分かもしれない。114は無文の中空土偶脚部破片である。116～118はみみずく形土偶の脚部で、縦・横沈線・縄文がみられ、118は沈線のみである。120は浮線文・貼付文を持つもので、晩期大洞式である。121は細かい刺突文を持つ中空のもので、脚部片とみられる。

2 土版 (第94図123～128, 第7表, 図版46)

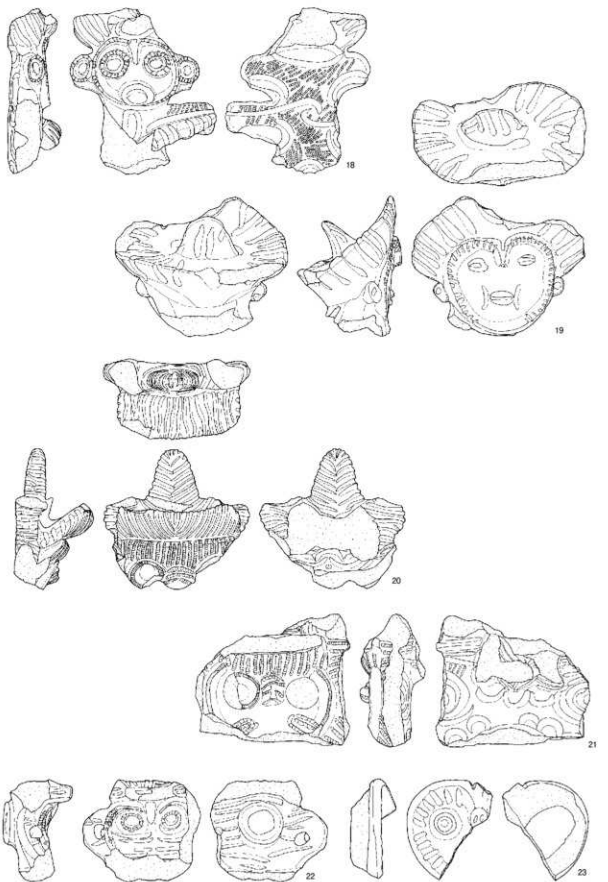
123は縦区画線と弧線が組み合わせられる。区画内には縄文や細条線が充填される。晩期安行3b式期のものであろう。124は弧線と斜線の組み合わせ文様がみられ、縄文も加えられている。125は曲線文、126は弧線文がみられる。127は厚手で、斜沈線と縄文を施文している。128は斜沈線区画内に細刺突文を充填した文様がみられる。これらの時期は晩期で、124・127は安行3a式期、123・126・128は安行3b式期であろう。



第86图 土偶(1)

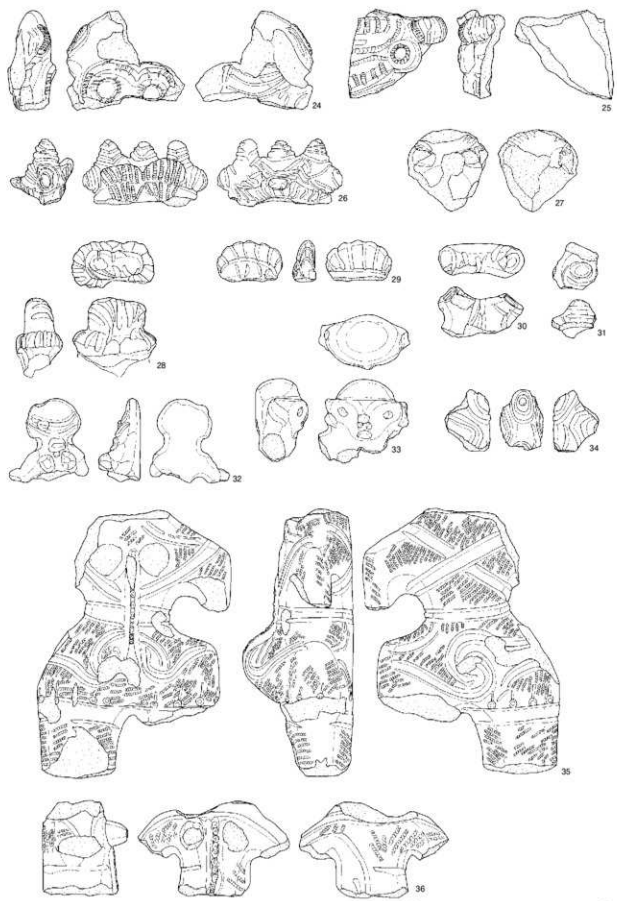


第 87 图 土偶 (2)



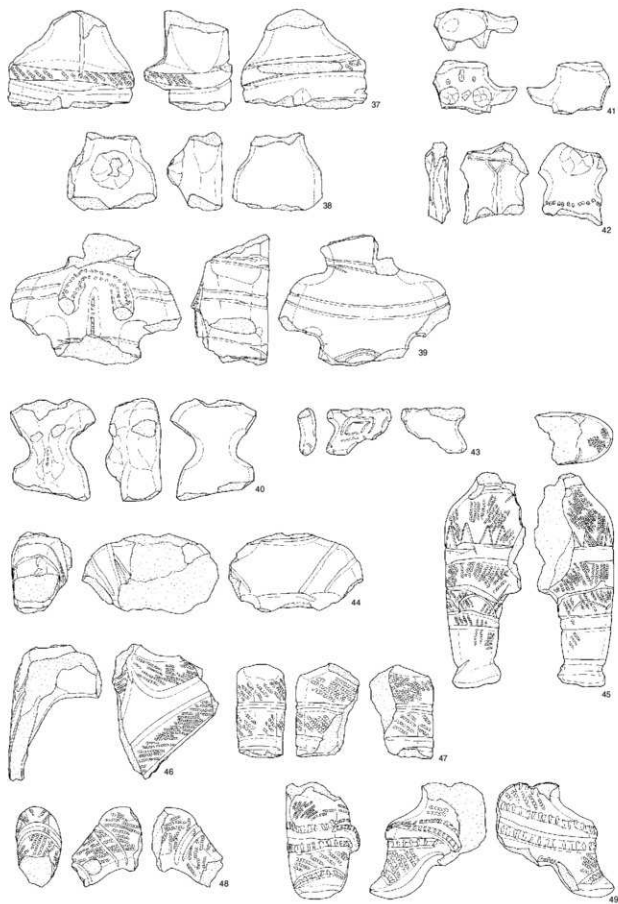
第88图 土偶 (3)

0 (1/2) 10cm



第89图 土偶(4)

0 (1/2) 10cm



第90圖 土偶 (5)



第91图 土偶(6)



第92図 土偶(7)



第93图 土偶(8)



第94図 土偶(9). 土版

種別	%	種 別	遺構番号	高物 番号	材 質	位 置	長さ (m)	幅 (m)	厚み (m)	位置 (m)	備 考
91	97	土構	2トロ	1	後期	北	19.5	21.5	19.5	93	沈積
91	98	土構	3IU-09C	5	後期	足	22.0	30.0	30.0	15.5	築文、つぎ先?
91	99	土構	3IU1	—	安行	手	21.5	17.0	11.5	15	内圧、築文
91	70	土構	2IU-14D	2	後期	左腕	20.0	21.5	19.5	17.2	内圧、築文
91	71	土構	3IU-14A	5	安行3b	腕?	22.0	23.0	14.5	5.1	手先上反り、押行土沈積
91	72	土構	3IU-08	1	安行3a	手	15.5	20.0	23.0	10.1	手先上反り、築文、後継み
91	73	土構	3IU-06D	4	安行3b	下半身	50.6	47.5	27.0	40.0	縦筋状沈積、軌行線、斜交文
92	74	土構	3IU-35A-2D	8-2	安行3b	右下半身	105.0	40.5	35.0	138.1	築文、沈積、円形軌交
92	75	土構	3IU-13A	4-5	安行3a	右下半身	90.0	39.0	31.0	76.1	赤鉄、沈積
92	76	土構	3IU-23D	12	安行3a	左足首	69.0	40.0	35.5	94.3	赤鉄、沈積
92	77	土構	3IU-05D	4	加群材料B	右足	43.0	25.5	33.0	29.1	築文、沈積、赤鉄
92	78	土構	3IU-29	1	加群材料B	右足	61.5	40.0	33.7	40.4	築文、沈積、後継み
92	79	土構	3IU-23C	1	安行	右足	73.0	33.0	35.0	54.1	沈積、ヒギキ
92	80	土構	3IU-12D	2	後期	右足	61.0	31.5	32.3	39.5	沈積、斜筋み目
92	81	土構	3IS-61	1	安行3a	左足	44.0	28.1	26.8	37.3	沈積、築文、斜交
92	82	土構	3IU-01D	8	後期	左足	59.0	25.0	21.0	34.1	沈積、斜筋み目
92	83	土構	3IU-14D	8	後期	左足	45.0	22.4	20.0	19.2	沈積
92	84	土構	1トロ	1	安行3a	足	61.5	35.5	40.5	36.7	築文、沈積
92	85	土構	3IU-14D	5	安行3	右足	64.5	47.0	35.0	67.5	沈積、斜交、築文、斜筋み目
92	86	土構	3IU-01D	2	安行3a	右足	43.0	41.5	24.5	32.4	築文、沈積、みみずく?
92	87	土構	3IS-81	1	後期	右足?	25.0	38.0	53.0	45.1	築文、築造部分の可能性もある。
93	88	土構	3IU-24A	1	加群材料B	右足	63.0	38.0	19.0	36.6	赤鉄、沈積、築文、斜筋み目
93	89	土構	3IT-05	1	後期	左腕	50.0	50.5	—	58.0	沈積、ナギ
93	90	土構	1トロ	1	安行	左足	42.0	28.5	34.0	33.2	沈積、安否文、ナギ、横筋
93	91	土構	3IU-13A	4	安行3a	左足	43.7	25.0	28.2	22.5	沈積、築文、後継み
93	92	土構	3IU-23D	7	安行3a+	足	38.4	27.4	30.9	36.3	築文、沈積、なで
93	93	土構	34トロA	70	後期	左足	33.0	23.5	23.5	11.5	沈積
93	94	土構	3IU-04D	1	安行	手	23.0	17.0	17.5	6.1	沈積、築文、みみずく
93	95	土構	3IU-14D	—	安行3b	足	28.0	28.0	27.0	14.0	沈積、赤鉄
93	96	土構	3IU-23C	5	安行3b	右足	23.0	19.0	29.5	12.7	沈積、斜交、足跡跡み
93	97	土構	3IS-82	2	後期	右足	42.2	34.1	38.5	34.2	斜筋土沈積
93	98	土構	2トロ	1	安行	右足	25.5	29.0	24.0	22.2	沈積
93	99	土構	3IU-23D	6	加群材料B	右足	30.0	25.0	21.0	19.1	沈積
93	100	土構	3IU-01D	13	中期	右足	47.0	29.5	33.0	43.3	沈積
93	101	土構	3IU-04	1	後期	左足	48.1	27.8	27.7	27.6	沈積
93	102	土構	3S-03	1	後期	足	49.0	54.5	50.0	66.2	中宇 ナギ
93	103	土構	2トロ	1	後期	右足	56.0	30.5	27.5	62.8	ヒギキ
93	104	土構	3IU-13D	10	後期	右足	48.8	36.3	35.8	62.9	ヒギキ
93	105	土構	3IU-04A	1	加群材料B	足	49.5	32.0	46.0	31.2	ヒギキ
93	106	土構	3IU-05C	1	後期	足	33.0	24.0	25.5	22.2	—
93	107	土構?	3IU-24D	17	後期	足?	24.5	23.5	34.0	13.7	ナギ、把手の可能性もある。
93	108	土構	3IU-14D	4	後期	足	22.0	23.0	25.0	7.5	—
93	109	土構	1トロ	1	後期	左足下	26.5	18.5	20.5	9.7	—
93	110	土構	1トロ	1	後期	足	41.0	18.0	20.0	13.3	—
93	111	土構?	3IU-25A	1	後期	足?	31.0	24.0	12.5	7.4	—
93	112	土構	34トロA	70	安行3a	右足	21.0	20.5	20.0	11.7	—
93	113	土構	16トロ	1	安行3a	左足	25.5	22.0	19.5	10.1	—
93	114	土構	3IU-24D	18	後、後期	足	36.0	29.0	22.0	12.5	中宇 ナギ
93	115	土構	3IS-96	1	後期	左足	46.0	32.2	39.0	47.1	—
93	116	土構	3IU-13A	4	安行	左腕	73.4	37.0	39.0	41.2	ヒズク跡、沈積、築文、押し引き沈積、連続赤鉄文
94	117	土構	3S-07	1	後期	足	50.0	15.5	19.5	11.1	ヒズク跡、沈積、斜筋み目、築文
94	118	土構	3IU-13C	4	安行2	右足	36.0	29.0	22.5	20.8	ヒズク跡、沈積、斜筋み目
94	119	土構	3IU-13A	6	安行3a	左足	117.0	79.0	56.5	230.0	中宇 三文文、築文
94	120	土構	3IT-94A	5	大綱A	左足	36.0	31.0	36.8	31.3	浮線文、軌行文
94	121	土構	1トロ	1	後期	足	23.0	29.0	26.0	2.7	中宇土質跡部か、斜交
94	122	土構	3IU-23C	8	安行3a	右腕	23.0	39.0	55.0	66.0	沈積、斜交文、ヒズク土構
94	123	土構	3IU-03B	1-2	安行3b	—	84.0	53.5	18.0	63.5	縦筋状、築造組み合わせ、区画内築文、縦線赤鉄、同一築造5点
94	124	土構	3IS-91	1	安行3a	—	49.5	49.0	15.0	36.7	縦筋、斜筋の組み合わせ、斜筋築文
94	125	土構	3IU-01D	9	安行3a	—	36.0	46.0	12.0	28.8	築造文
94	126	土構	2トロ	1	安行3a	—	28.0	40.5	14.8	18.9	築造文
94	127	土構	3S-019	1	安行3a	—	46.0	53.0	25.0	62.5	縦筋、斜筋築文
94	128	土構	3IU-04	1	安行3b	—	29.5	31.5	26.0	23.4	斜筋、縦斜交文、斜筋文

3 土製品

環状土製品 (第95図1, 第8表, 図版47)

1は環状をした破片で、垂飾になるか、あるいは土器のつまみ部片であろう。

耳飾 (第95図2～96図, 第8表, 図版47)

a. 中央に穴があり、滑車形をしたもの (2～41)

2は無文で、厚手で幅があるものである。粗雑な調整で、胎土に砂礫が多い。後期堀之内式期のものであろう。3～13は薄手で、外面にほとんど装飾が施されないものである。3は小型品である。6は縁に刻目列と外周(装着面)に沈線が施されている。13は縁に刻目列がみられる。14～30は薄手で、側面の外縁側に意匠的な文様が施されるものである。14～16・18は外縁に浮文がある。17・19・20・22・29・30は沈線で浮文を形成する。21は外縁に沈線で入組文と浮文を施し、内側に沈線を伴う。なお15は外縁に細かい刻み、20には赤彩がある。23・24は沈線を持つもので、24は工字文沈線になる。25・26は外縁に沈線で浮文があり、26は外縁に細かい刻みがある。27・28は沈線で入組文と浮文が施されている。

31～38は側面が内側に突出するもので、側面の外縁側に意匠的な文様が施される。31は入組文と曲線文が施される。32は33と同一と思われる。35は外縁上部に工字状沈線と沈線間浮文を有する。36～38は、入組文・三叉文が施文されている。なお31・37は外縁に細かい刻みがある。39～41は側面が内側へ突出する。39は無文で、側面が漏斗状に凹む。40は大型で、側面がやや漏斗形に出て、弧状の沈線・刻文を加えた掘縄浮線が施されている。41は、側面が内側に太鼓状に張り出す。透かし孔を伴い、細刺突を加えた沈線が施文される。

b. 耳栓 (第97図42～47)

42～45は中央に円孔がない鼓形をした小型品である。42・44・45は赤彩されている。46は側面側が大きい耳栓形(スタンプ形)をした小型品で、凹みは側面のみである。47は鼓形のやや大型のもので、溝部に沈線を持つ。

スタンプ形土製品 (第97図48・49, 第8表, 図版47)

48は長楕円形をした版面部に細かい沈線で曲線文が描かれる。裏面にキノコの柄状のつまみがある。柄部には孔はない。49は円形の版面部に太い沈線で同心円文が施されたものである。つまみ部は欠けている。

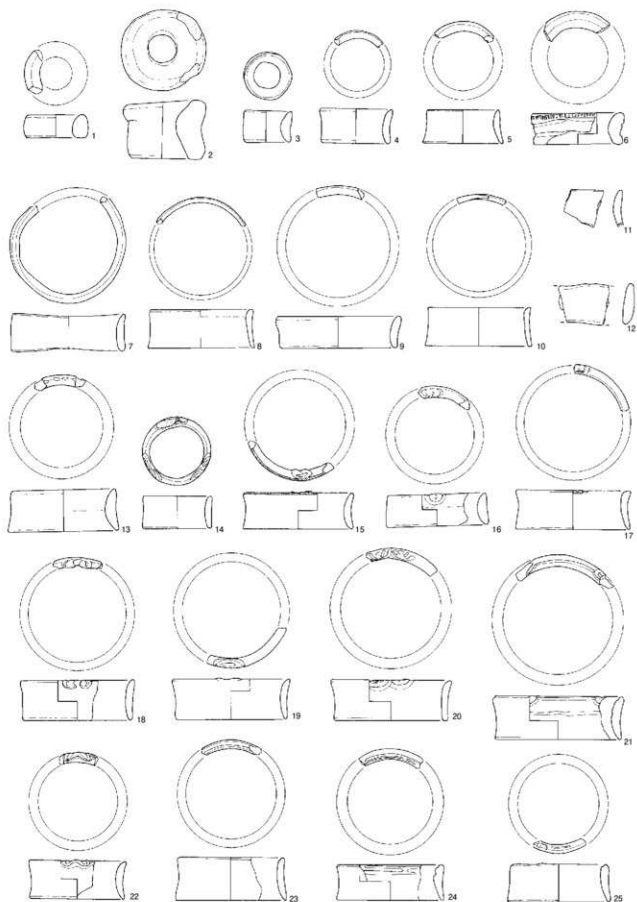
蓋形土製品 (第97図50～53, 第8表, 図版47)

50は円形で、断面がレンズ状をした厚手のものである。中心につまみ部が作られるが、上部を欠損している。側縁に一对の孔が開けられている。堀之内式期のものであろう。51・52は湾曲し、浅い伏せた皿状をなす。欠損しているが環状のつまみ部を持つとみられる。51は刺突文を伴う貼付線が円形に施される。52は小型の無文のものである。いずれも堀之内式期のものであろう。53は平板な円形をした破片で、透かし孔を持ち、外面に斜縄文と沈線がみられる。特殊な土器口縁の一部かもしれない。

土器片錘・土製円板 (第12・98～102図, 第9・10表, 図版48～52)

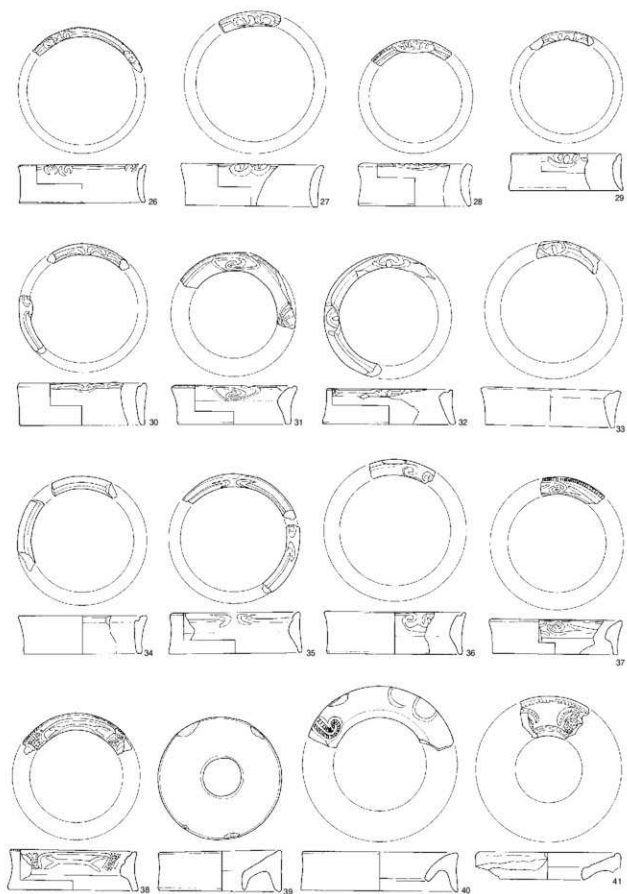
これらに分類されるものは土器片錘183点、土製円板142点を数える。

土錘に関しては、その形態および二側面あるいは四側面に対しての切り込みや、擦れ痕などにより概ね漁労具、網に付される錘として理解されている。当遺跡は現鹿島川に面し、縄文時代各時期の土器片を利用していることを考えれば、縄文時代各時期において漁労が行われていたとする証左となろう。時期につ

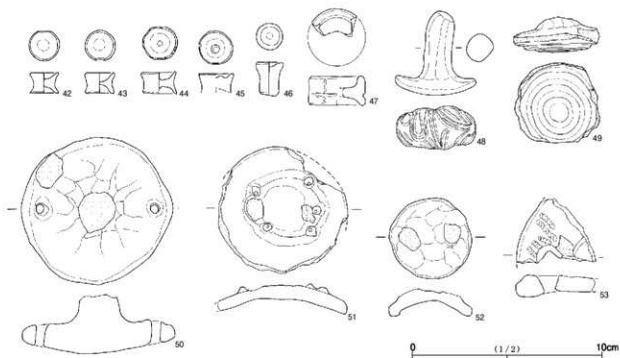


第95图 耳饰(1)

0 (1/2) 10cm



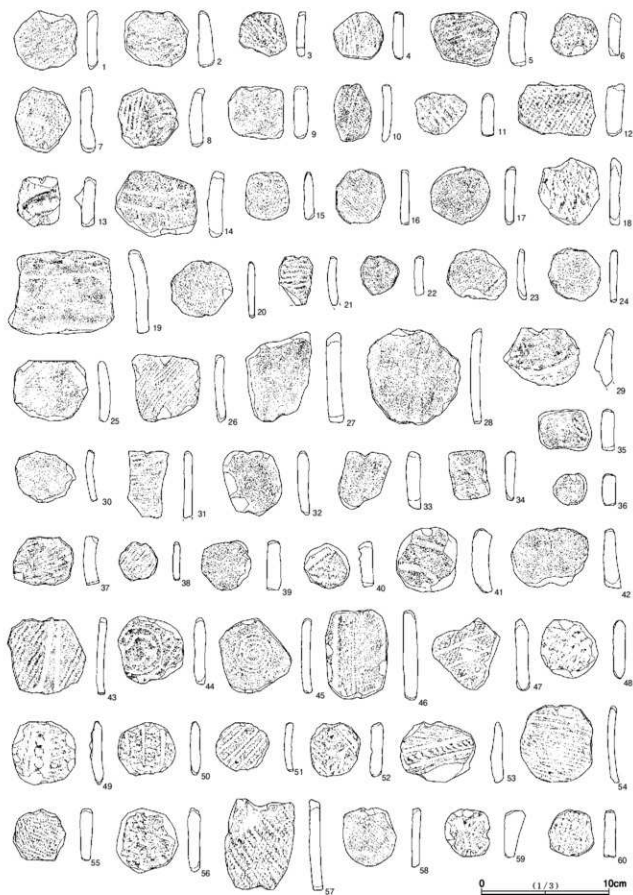
第96图 耳饰(2)



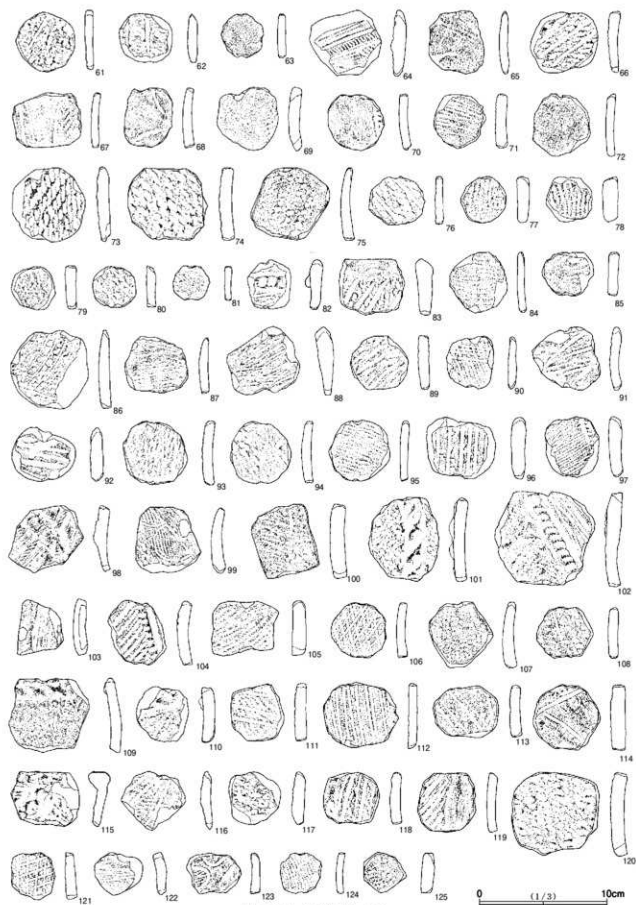
第97図 耳飾り(3)、耳栓、スタンプ形土製品

いは第9表にみられる様に、縄文時代後期加曾利B及び安行系のものが主となっている。個々に関しては一覧表を参照されたい。

土製円板に関してはそのあり方が不明な存在である。よく紡錘車的な意味合いを検討されるが、中心部に穿孔されなければ目的を果たせず、ものによっては中心部にやや凹みを持つものも存在するが穿孔されたものではない。またこれだけの数量が出土しているが、紡錘車作製のためのパーツとして用意されたものとしては、未製品としても不十分な感は否めない。1個単位ではなく複数を利用する何らかのおもりのな使用方法も考えられる。



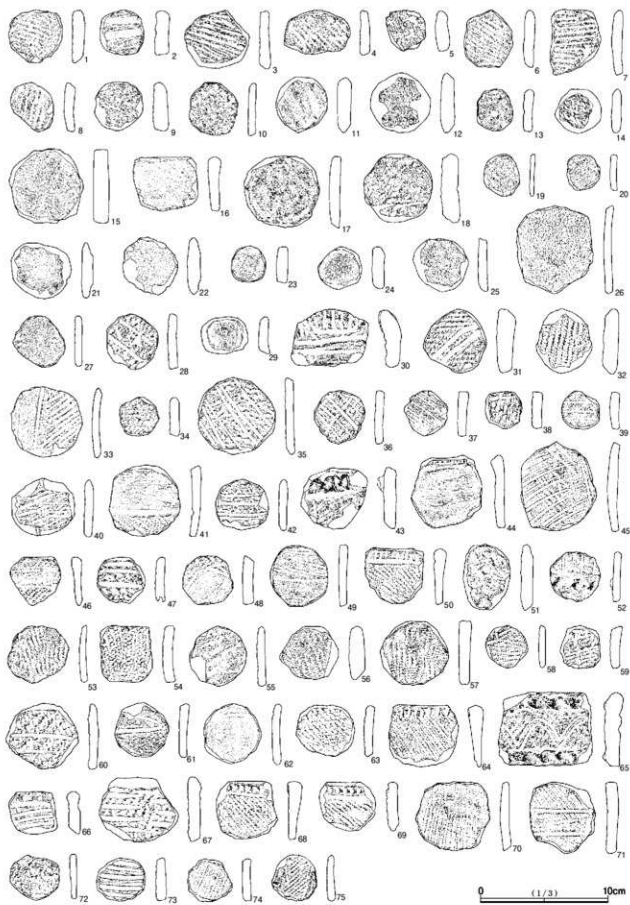
第98图 土器片(1)



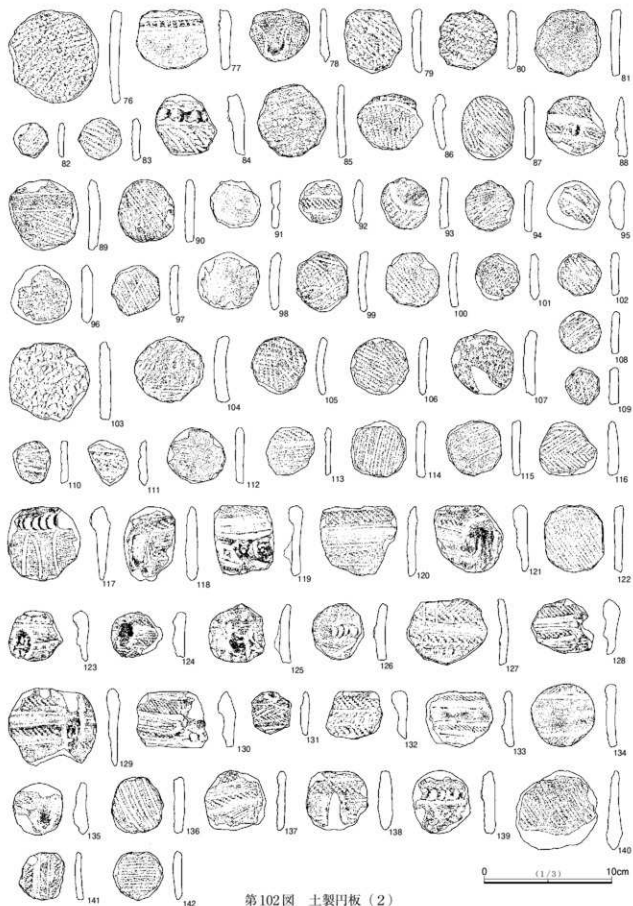
第99图 土器片鉢(2)



第100図 土器片錘 (3)



第101图 土製円板(1)



第102図 土製円板(2)

第8表 土製品・耳飾り観察表

() 現存値

種別	No.	種類	時期	遺物番号	遺物 単位	発見率 (%)	内径 (mm)	最大径 (mm)	最大高 (mm)	重量 (g)	調査	出土	備考
90	1	遺物形跡類	縄文内式?	31U-24D	18	25	170	340	120	2.3	-	-	種別、土器のつまみ部の可能性もある
90	2	遺物形跡類	縄文内式?	SI-083	1	95	150	450	210	31.41	-	-	種別不明
90	3	遺物形跡類	後・縄期	31U-26A	4	交配	140	255	170	8.2	-	-	種別不明
90	4	遺物形跡類	後・縄期	31U-24D	15	30	280	300	180	2.7	ナリ	-	種別不明
90	5	遺物形跡類	縄期	31S-83	1	25	320	420	175	2.7	ナリ	-	種別不明
90	6	遺物形跡類	縄期	31T	?	25	320	490	160	5.4	-	-	種別不明
90	7	遺物形跡類	後・縄期	31U-13C	1	75	300	600	200	161	ナリ	-	種別不明
90	8	遺物形跡類	後・縄期	31U-29C	3	30	475	560	265	6.6	ナリ	-	種別不明
90	9	遺物形跡類	後・縄期	31T-94D	2	15	340	660	170	2.5	-	-	種別不明
90	10	遺物形跡類	後・縄期	31U-29C	3	20	475	560	265	2.4	ナリ	-	種別不明
90	11	遺物形跡類	後・縄期	31U-04D	1	破片	-	-	2000	1.9	ナリ	-	種別不明
90	12	遺物形跡類	後・縄期	31U-29C	5	破片	-	-	225	4.5	ナリ	-	種別不明
90	13	遺物形跡類	後・縄期	31U-22	1	20	300	580	220	4.1	ナリ	-	種別不明
90	14	遺物形跡類	後・縄期	31U-13C	11	100	200	370	170	11.7	ナリ	-	種別不明
90	15	遺物形跡類	縄期	31U-23B	4	25	480	580	200	6.3	ナリ	-	種別不明
90	16	遺物形跡類	縄期	31U-01	1	20	420	540	170	2.6	ナリ	-	種別不明
90	17	遺物形跡類	縄期	31U-15D	1	20	380	600	200	4.0	ナリ	-	種別不明
90	18	遺物形跡類	縄期	31U-13C	8	15	300	600	215	2.7	ナリ	-	種別不明
90	19	遺物形跡類	縄期	31U-13C	14	25	320	620	220	6.0	ナリ	-	種別不明
90	20	遺物形跡類	縄期	31U-15B	2	25	330	640	210	4.9	ナリ	-	種別不明
90	21	遺物形跡類	縄期	31U-29C	1	25	550	685	225	7.9	ナリ	-	種別不明
90	22	遺物形跡類	縄期	31T-85	-	15	410	520	200	1.8	ナリ	-	種別不明
90	23	遺物形跡類	縄期	31U-14B	6	20	480	560	225	3.3	ナリ	-	種別不明
90	24	遺物形跡類	縄期	31U-01	5	25	480	560	190	4.0	ナリ	-	種別不明
90	25	遺物形跡類	縄期	31U-04D	1	20	430	540	200	3.5	ナリ	-	種別不明
90	26	遺物形跡類	縄期	31U-13C	1	20	375	660	265	6.9	ナリ	-	種別不明
90	27	遺物形跡類	縄期	31U-04D	1	20	300	730	220	4.5	ナリ	-	種別不明
90	28	遺物形跡類	縄期	31U-24D	13	25	480	600	230	7.2	ナリ	-	種別不明
90	29	遺物形跡類	縄期	31U-14D	-	20	480	600	200	3.6	ナリ	-	種別不明
90	30	遺物形跡類	縄期	31U-22, 31U-24A	1,2	40	570	680	220	12.6	ナリ	-	種別不明
90	31	遺物形跡類	縄期	31U-12A, 31U-05D	1,2	30	320	660	202	15.5	ナリ	-	種別不明
90	32	遺物形跡類	縄期	31U-01	1	55	320	700	185	19.9	ナリ	-	種別不明
90	33	遺物形跡類	縄期	31U-01	1	20	360	740	200	5.8	ナリ	-	種別不明
90	34	遺物形跡類	縄期	31U-13C, 31U-23B	14,7	40	540	600	200	10.0	ナリ	-	種別不明
90	35	遺物形跡類	縄期	31U-13C, 31U-23B	1,1	50	560	707	215	17.9	ナリ	-	種別不明
90	36	遺物形跡類	縄期	31U-13C	8	20	555	740	220	6.5	ナリ	-	種別不明
90	37	遺物形跡類	縄期	31T-14	1	20	520	700	185	4.8	ナリ	-	種別不明
90	38	遺物形跡類	縄期	31S-83	1	30	480	680	210	14.2	ナリ	-	種別不明
90	39	遺物形跡類	縄期	31U-03B	2	95	210	655	220	26.3	ナリ	-	種別不明
90	40	遺物形跡類	縄期	31S	1	35	480	620	205	28.8	ナリ	-	種別不明
90	41	遺物形跡類	縄期	31T-95C	1	15	360	762	140	6.0	-	-	種別不明
90	42	耳飾	後・縄期	-	-	75	360	110	2.0	ナリ	-	-	未詳
90	43	耳飾	後・縄期	-	-	50	350	110	1.8	ナリ	-	-	未詳
90	44	耳飾	後・縄期	31U-22B	8	40	-	190	120	30	ナリ	-	種別不明
90	45	耳飾	後・縄期	31U-24D	12	70	-	180	100	2.3	ナリ	-	種別不明
90	46	耳飾	後・縄期	31U-05D	3	交配	-	140	170	3.7	-	-	種別不明
90	47	耳飾	後・縄期	31T-94	1	70	-	300	150	4.3	-	-	種別不明
90	48	スタンプ型	後期	31T-14-2 H4	-	交配	長44.0	幅42.5	厚21.0	18.9	-	-	種別不明
90	49	スタンプ型	後期	16 H	1	破欠欠陥	長18.5	幅43.5	厚42.0	25.6	-	-	種別不明
90	50	蓋	縄文内式	31U-34B	5	破欠欠陥 90%	長78.0	幅98.0	厚21.0	115.79	-	-	種別不明
90	51	蓋	縄文内式	31U-12C	2	破欠欠陥 80%	長96.0	幅98.0	厚15.0	43.07	ナリ	-	種別不明
90	52	蓋	縄文内式	1 T-1	1	破欠欠陥 90%	長43.0	幅43.0	厚15.0	18.11	-	-	種別不明
90	53	蓋?	後期	31U-12D	1	-	長34.0	幅41.5	厚42.0	12.02	-	-	種別不明

第9表 土器片錘・土製平板平均値

形 式	土器片錘				
	平均長 (mm)	平均幅 (mm)	平均厚 (mm)	平均重量 (g)	点 数
板形内	5.00	4.60	0.84	21.50	1
板形外	5.09	4.49	1.19	28.50	1
平山	4.41	3.81	1.04	18.21	9
腰山	5.46	4.43	1.21	28.75	2
阿玉台	5.90	5.55	1.57	19.00	1
加賀利玉	6.50	5.05	1.19	40.70	1
中腹	5.35	4.94	0.85	26.00	1
板之内	5.62	4.95	1.09	33.33	9
加賀利玉	5.09	4.59	0.89	25.84	107
加賀利玉-骨付	5.80	5.00	1.00	31.70	1
骨付-骨付	5.82	4.97	1.07	34.95	2
空行	5.05	4.67	1.10	29.71	52
空行3ヶ	4.80	4.05	1.18	19.90	1
合 計	5.20	4.52	1.12	28.31	180

形 式	土製平板				
	平均長 (mm)	平均幅 (mm)	平均厚 (mm)	平均重量 (g)	点 数
平山	4.12	3.73	0.99	15.28	15
阿玉台	3.79	3.20	1.20	16.60	1
加賀利玉	7.51	5.76	1.40	66.80	1
板之内	3.39	3.52	0.82	12.30	1
板之内	4.60	3.91	1.14	22.67	16
加賀利玉	4.72	3.85	0.77	17.46	168
骨付-空行	3.68	3.41	0.69	9.94	5
空行	4.15	4.00	0.96	20.11	107
後腹	6.51	4.30	1.05	29.10	2
空行3ヶ	4.76	3.99	1.10	18.30	1
合 計	4.75	3.99	1.03	23.22	725

第10表 土器片鏢・土製門板観察表

群別	No.	遺物番号	遺物番号	器種	地産	色澤	胎土	時期	型式	最大径 (cm)	最大幅 (cm)	重量 (g)	備考	
98	1	311-130	1	土器片鏢	産	黄褐色	織物・野布文	後期中葉	加群付品	5.06	4.60	0.81	21.5	
98	2	311-200	2	土器片鏢	産	黄褐色	織物・野布文	後期中葉	加群付品	5.00	4.40	1.19	28.5	
98	3	315-94	1	土器片鏢	産	赤褐色	スコリア・織物	早期後葉	李山	3.75	3.55	0.67	10.3	
98	4	311-050	9	土器片鏢	産	黄褐色	スコリア・織物	後期中葉	加群付品	2.00	1.70	0.82	15.0	
98	5	311-15A	1	土器片鏢	産	赤褐色	織物・織物	後期中葉	加群付品	5.40	4.30	1.22	29.4	
98	6	311-050	8	土器片鏢	産	赤褐色	織物・織物	後期中葉	加群付品	3.75	3.35	0.92	12.0	
98	7	311-13A	16	土器片鏢	産	灰褐色	織物・織物	後期中葉	加群付品	5.15	4.25	1.10	24.2	
98	8	311-13A	16	土器片鏢	産	赤褐色	織物・織物	後期	-	4.80	4.60	1.08	24.4	
98	9	311-13A	13	土器片鏢	産	赤褐色	織物・織物	-	発行	4.40	4.15	1.20	24.8	
98	10	311-240	9	土器片鏢	産	黄褐色	織物	後期	-	発行	4.45	3.95	0.72	11.1
98	11	311-15A	5	土器片鏢	産	黄褐色	織物・織物	後期中葉	加群付品	4.65	3.25	0.96	12.7	
98	12	311-200	-	土器片鏢	産	灰褐色	織物・織物	後期	-	6.10	4.10	1.27	41.3	
98	13	311-15C	6	土器片鏢	産	灰褐色	スコリア・大粒白砂	後期中葉	織之内	3.00	2.55	1.37	19.0	
98	14	311-050	1	土器片鏢	産	黄褐色	織物・白砂	後期中葉	加群付品	6.50	5.05	1.19	30.7	
98	15	SI-012	1	土器片鏢	産	黄褐色	スコリア	後期中葉	加群付品	2.30	2.45	0.77	10.9	
98	16	SI-020	1	土器片鏢	産	赤褐色	織物・スコリア	後期	-	4.30	3.90	0.62	15.0	
98	17	315-81	1	土器片鏢	産	灰褐色	織物	後期前葉	織之内	4.65	4.45	0.78	17.4	
98	18	315-94	1	土器片鏢	産	灰褐色	織物	-	発行	5.30	4.80	0.83	23.8	
98	19	311-41	1	土器片鏢	産	黄褐色	白砂	後期中葉	加群付品	8.25	6.60	1.10	72.8	
98	20	2 トロ	1	土器片鏢	産	黄褐色	スコリア	後期中葉	加群付品	4.90	4.45	0.60	15.1	
98	21	311-14	1	土器片鏢	産	灰褐色	織物	後期中葉	加群付品	3.00	2.60	0.73	8.8	口縁
98	22	311-14	1	土器片鏢	産	灰褐色	織物	後期前葉	織之内	3.10	3.00	0.70	7.5	
98	23	311-94	1	土器片鏢	産	灰褐色	白砂	発行	-	4.75	4.00	0.62	13.9	
98	24	311-03D	1	土器片鏢	産	灰褐色	織物	後期	-	4.10	4.10	0.80	13.5	
98	25	16 トロ	1	土器片鏢	産	赤褐色	白砂・石炭灰	後期中葉	加群付品	5.80	4.75	0.77	30.0	
98	26	311-14C	3	土器片鏢	産	灰褐色	織物	後期中葉	加群付品	5.25	5.30	0.73	24.2	
98	27	311-03D	1	土器片鏢	産	黄褐色	大粒砂	後期中葉	加群付品	7.10	5.50	1.19	30.4	
98	28	311-02C	1	土器片鏢	産	黄褐色	白砂	後期中葉	加群付品	7.60	7.25	0.71	26.2	
98	29	311-22D	2	土器片鏢	産	灰褐色	大粒砂・石炭灰	-	発行	5.95	4.55	1.26	33.3	
98	30	311-04	1	土器片鏢	産	黄褐色	白砂・石炭灰	後期中葉	織之内	4.65	4.00	0.60	14.1	
98	31	311-13B	2	土器片鏢	産	灰褐色	織物	後期中葉	加群付品	5.25	3.25	0.70	13.3	
98	32	311-06A	2	土器片鏢	産	黄褐色	スコリア・大粒砂	後期	-	5.00	4.65	0.95	24.3	口縁
98	33	311-13B	2	土器片鏢	産	赤褐色	大粒白砂	後期中葉	加群付品	4.50	4.15	1.07	19.8	
98	34	311-24A	2	土器片鏢	産	灰褐色	大粒砂	-	発行	3.80	3.35	0.73	11.4	
98	35	311-25D	2	土器片鏢	産	灰褐色	大粒砂	後期	-	4.15	3.25	1.02	18.7	
98	36	311-25D	3	土器片鏢	産	灰褐色	織物	後期	-	2.70	2.50	1.01	8.1	
98	37	311-34D	1	土器片鏢	産	黄褐色	織物	-	発行	4.75	3.85	1.01	24.5	
98	38	311-13C	3	土器片鏢	産	灰褐色	織物・石炭灰	-	発行	3.05	3.05	0.51	5.5	
98	39	311-36	1	土器片鏢	産	黄褐色	スコリア	後期前葉	織之内	3.55	3.00	1.12	15.7	
98	40	SI-012	1	土器片鏢	産	黄褐色	白砂	後期前葉	加群付品	3.55	3.55	1.13	16.0	
98	41	2 トロ	1	土器片鏢	産	赤褐色	白砂	後期	-	5.10	4.70	1.45	30.4	口縁
98	42	6 トロ	1	土器片鏢	産	黄褐色	石炭灰・白砂	-	発行	6.05	4.70	1.25	28.0	口縁
98	43	2 トロ	1	土器片鏢	産	黄褐色	織物	後期中葉	加群付品	6.10	4.10	0.66	27.5	口縁
98	44	311-14	1	土器片鏢	産	黄褐色	白砂・スコリア	中期	加群付品	5.30	5.20	0.94	30.2	
98	45	311-15C	1	土器片鏢	産	灰褐色	織物	後期	-	5.85	5.70	0.78	26.2	
98	46	311-24D	7	土器片鏢	産	灰褐色	大粒砂・スコリア	-	発行	7.65	5.60	1.13	30.2	
98	47	311-20C	1	土器片鏢	産	灰褐色	スコリア	-	発行	5.65	5.30	1.00	27.1	
98	48	SI-010	1	土器片鏢	産	灰褐色	織物	後期	-	4.60	4.35	0.94	21.8	
98	49	SI-040	1	土器片鏢	産	灰褐色	織物・石炭灰	後期中葉	加群付品	5.00	4.95	0.96	24.7	
98	50	SI-012	1	土器片鏢	産	灰褐色	織物	後期中葉	加群付品	4.60	4.20	0.78	16.8	附みきり
98	51	SI-012	3	土器片鏢	産	灰褐色	白砂	後期	-	4.25	3.80	0.56	11.3	
98	52	SI-021	1	土器片鏢	産	赤褐色	白砂	後期中葉	加群付品	4.25	3.95	1.01	20.3	
98	53	1 トロ	1	土器片鏢	産	赤褐色	織物	-	発行	5.90	4.70	0.95	27.7	
98	54	1 トロ	1	土器片鏢	産	灰褐色	織物・白砂含む	後期中葉	加群付品	6.65	5.65	0.55	24.5	
98	55	1 トロ	1	土器片鏢	産	黄褐色	織物・白砂	後期中葉	加群付品	4.15	4.05	0.95	17.3	
98	56	1 トロ	1	土器片鏢	産	灰褐色	石炭灰	-	発行	6.05	4.85	1.25	28.0	口縁
98	57	1 トロ	1	土器片鏢	産	黄褐色	大粒の砂粒・白砂	後期中葉	加群付品	7.10	5.40	0.85	41.9	
98	58	315-83	1	土器片鏢	産	赤褐色	スコリア	-	発行	4.60	4.20	0.63	15.5	
98	59	315-83	1	土器片鏢	産	赤褐色	織物	後期	-	3.70	3.50	1.60	18.9	
98	60	315-83	1	土器片鏢	産	灰褐色	織物	後期	-	2.70	3.55	0.99	15.3	
98	61	315-82	1	土器片鏢	産	灰褐色	織物	-	発行	4.75	4.45	0.68	18.0	口縁
98	62	315-94	1	土器片鏢	産	灰褐色	織物	後期中葉	加群付品	4.20	3.80	0.77	14.7	
98	63	2 トロ	1	土器片鏢	産	灰褐色	白砂	後期中葉	加群付品	3.45	3.30	0.70	9.3	
98	64	2 トロ	1	土器片鏢	産	灰褐色	スコリア	後期中葉	加群付品	5.60	5.20	1.13	31.3	
98	65	3 トロ	1	土器片鏢	産	灰褐色	白砂	後期中葉	加群付品	5.00	4.35	0.70	17.9	
98	66	6 トロ	1	土器片鏢	産	黄褐色	織物	-	発行	5.80	4.80	0.99	24.7	
98	67	311-41	1	土器片鏢	産	灰褐色	白砂・石炭灰	後期	-	5.45	4.30	0.82	24.4	
98	68	6 トロ	1	土器片鏢	産	灰褐色	白砂	後期前葉	織之内	4.70	3.75	0.80	17.6	
98	69	17 トロ	1	土器片鏢	産	赤褐色	白砂	後期	-	5.00	4.85	0.94	21.7	
98	70	34 トロ	70	土器片鏢	産	赤褐色	大粒白砂	早期後葉	李山	4.40	4.00	0.73	17.8	
98	71	16 トロ	1	土器片鏢	産	黄褐色	白砂	-	発行	4.20	4.10	0.94	18.4	
98	72	16 トロ	1	土器片鏢	産	黄褐色	白砂	後期	-	4.90	4.55	0.66	13.0	
98	73	16 トロ	1	土器片鏢	産	黄褐色	白砂	後期中葉	加群付品	5.90	5.45	1.00	37.2	
98	74	311-26A	7	土器片鏢	産	灰褐色	スコリア・織物	-	発行	6.30	5.70	1.01	40.5	
98	75	311-03D	1	土器片鏢	産	黄褐色	白砂	-	発行	6.25	5.75	0.80	31.7	

種別	%	遺精番号	遺物番号	部 種	地産	色 質	組 上	時期	加工	最大長 (cm)	最大厚 (cm)	遺精 (1g)	備 考	
99	76	311-030	1	上器片断	瓦	灰褐色	白砂	早期産後	手山	4.45	3.85	0.66	14.3	
99	77	311-060	2	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂	-	発行	3.65	3.00	0.99	15.5	
99	78	311-060	1	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂	後期	-	3.65	3.55	1.26	16.2	
99	79	311-120	1	上器片断	瓦	灰褐色	白砂	-	発行	2.45	3.45	0.84	11.7	
99	80	311-120	1	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂	後期中葉	加納村田	3.45	3.35	0.71	10.1	
99	81	311-120	6	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂	後期	-	2.90	2.70	0.56	4.6	
99	82	311-120	1	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂	-	発行	2.90	3.30	1.25	14.6	
99	83	311-030	2	上器片断	瓦	灰褐色	白砂	-	発行	5.10	4.45	1.33	33.8	
99	84	311-030	1	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂	-	発行	4.80	4.55	0.62	15.9	口縁
99	85	311-130	8	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂	-	発行	4.15	3.45	0.76	13.5	
99	86	311-040	1	上器片断	瓦	黄褐色	縞砂	後期中葉	加納村田	6.15	6.10	0.91	38.2	
99	87	311-050	2	上器片断	瓦	黄褐色	白砂	後期中葉	加納村田	5.00	4.45	0.77	21.2	
99	88	311-110	1	上器片断	瓦	黄褐色	スコリア・縞砂	後期	-	5.75	5.80	1.25	35.6	
99	89	311-030	2	上器片断	瓦	灰褐色	白砂・石黄鉄	-	発行	4.55	4.25	0.86	20.2	口縁
99	90	311-13A	2	上器片断	瓦	黄褐色	スコリア	-	発行	4.10	3.65	0.62	13.2	
99	91	311-030	2	上器片断	瓦	灰褐色	白砂	後期中葉	加納村田	5.35	5.00	0.80	22.6	
99	92	311-13A	1	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂	-	発行	5.05	4.25	0.98	21.3	口縁
99	93	311-06A	1	上器片断	瓦	灰褐色	石黄鉄・白砂	-	発行	5.05	5.00	0.80	20.4	口縁
99	94	311-050	5	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂	後期中葉	加納村田	4.55	4.85	0.79	22.6	
99	95	311-120	1	上器片断	瓦	黄褐色	大粒砂・スコリア	後期中葉	加納村田	4.80	4.75	0.63	17.3	
99	96	311-13A	2	上器片断	瓦	黄褐色	スコリア・縞砂	後期中葉	加納村田	5.45	4.85	1.11	31.2	
99	97	311-13C	14	上器片断	瓦	黄褐色	縞砂	後期中葉	加納村田	4.75	4.70	1.01	34.4	
99	98	311-13C	4	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂	後期中葉	加納村田	5.90	5.20	1.03	31.6	口縁
99	99	311-13D	1	上器片断	瓦	黄褐色	スコリア	後期産後	併合・発行	5.20	5.15	0.93	28.5	口縁
99	100	311-05A	4	上器片断	瓦	灰褐色	スコリア・縞砂	後期中葉	加納村田	5.65	5.40	1.20	39.8	
99	101	311-13D	4	上器片断	瓦	黄褐色	縞砂	後期	-	6.60	5.55	1.26	44.4	
99	102	311-13C	4	上器片断	瓦	黄褐色	白砂・スコリア	後期	-	7.65	7.40	1.31	83.4	
99	103	311-13C	1	上器片断	瓦	灰褐色	白砂	-	発行	4.40	3.65	1.00	14.7	口縁
99	104	311-140	3	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂	後期	-	5.05	4.80	0.95	24.8	
99	105	311-140	6	上器片断	瓦	黄褐色	白砂	後期中葉	加納村田	5.35	4.30	1.11	29.5	
99	106	311-140	2	上器片断	瓦	灰褐色	白砂・石黄鉄	後期	-	4.55	4.35	0.71	17.1	
99	107	311-150	2	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂・スコリア	-	発行	5.20	5.05	0.90	25.9	口縁
99	108	311-15A	6	上器片断	瓦	赤褐色	粗い石黄鉄	-	発行	4.45	4.40	0.75	18.1	
99	109	311-250	1	上器片断	瓦	灰褐色	大粒砂	後期中葉	加納村田	6.30	5.85	0.91	35.6	
99	110	311-13D	1	上器片断	瓦	黄褐色	スコリア	後期中葉	加納村田	4.50	4.10	1.27	21.0	
99	111	311-15C	1	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂	後期中葉	加納村田	4.50	4.20	0.96	22.5	
99	112	311-31A	3	上器片断	瓦	灰褐色	白砂	後期中葉	加納村田	5.90	5.15	0.68	38.0	
99	113	311-250	1	上器片断	瓦	灰褐色	白砂	後期中葉	加納村田	5.15	4.05	0.88	24.5	
99	114	311-240	17	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂・スコリア	-	発行	5.30	5.15	1.21	39.9	
99	115	311-15C	6	上器片断	瓦	黄褐色	大粒砂	後期中葉	加納村田	5.30	4.80	1.61	32.1	
99	116	311-22A	2	上器片断	瓦	灰褐色	スコリア	-	発行	5.10	4.05	0.71	16.4	
99	117	311-24A	7	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂	早期産後	手山	4.15	4.10	0.91	17.0	
99	118	311-25C	5	上器片断	瓦	灰褐色	白砂	早期産後	手山	4.40	4.00	0.82	21.0	
99	119	311-24A	6	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂	早期産後	手山	4.65	4.50	0.75	21.2	
99	120	311-260	4	上器片断	瓦	黄褐色	大粒砂・石黄鉄	早期産後	手山	6.85	6.55	1.69	62.7	
99	121	311-130	2	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂	後期	-	3.70	3.45	0.90	13.8	
99	122	311-25C	8	上器片断	瓦	黄褐色	縞砂	後期中葉	加納村田	3.80	3.35	0.83	12.4	
99	123	311-240	3	上器片断	瓦	黄褐色	白砂	後期中葉	加納村田	4.30	3.20	0.76	10.7	口縁
99	124	311-25D	1	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂	早期産後	橋本台	3.25	3.20	0.51	6.4	
99	125	311-13D	1	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂	後期中葉	加納村田	3.45	3.15	0.96	10.4	
100	126	311-25C	3	上器片断	瓦	赤褐色	大粒砂	後期中葉	加納村田	8.75	8.70	0.91	66.8	
100	127	311-24D	7	上器片断	瓦	灰褐色	石黄鉄・縞砂	後期中葉	加納村田	4.70	4.30	0.97	22.3	
100	128	311-25C	2	上器片断	瓦	赤褐色	スコリア	後期中葉	加納村田	4.20	4.00	0.62	14.8	
100	129	311-26C	3	上器片断	瓦	赤褐色	縞砂	早期産後	手山	5.05	4.80	0.74	22.6	
100	130	311-30A	2	上器片断	瓦	灰褐色	白砂	後期中葉	加納村田	4.30	3.80	1.45	25.0	
100	131	311-33A	1	上器片断	瓦	灰褐色	白砂	後期中葉	加納村田	4.35	3.75	0.95	17.1	
100	132	311-25D	3	上器片断	瓦	黄褐色	縞砂	後期中葉	加納村田	4.75	4.70	0.78	17.1	
100	133	311-25D	3	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂	後期中葉	加納村田	4.50	3.95	0.75	13.6	
100	134	311-300	2	上器片断	瓦	黄褐色	縞砂	後期	-	4.50	4.25	1.07	20.0	
100	135	311-30A	2	上器片断	瓦	灰褐色	スコリア	後期中葉	加納村田	5.85	5.80	1.90	65.6	
100	136	311-14	1	上器片断	瓦	黄褐色	縞砂	後期中葉	加納村田	5.80	5.00	1.00	31.7	
100	137	311-14D	2	上器片断	瓦	黄褐色	縞砂	-	発行	6.15	5.30	1.26	39.9	
100	138	311-03	1	上器片断	瓦	黄褐色	縞砂	後期	-	5.50	4.65	1.28	31.0	
100	139	SI-012	1	上器片断	瓦	灰褐色	スコリア	-	発行	2.35	3.35	0.62	7.8	
100	140	SI-022	1	上器片断	瓦	赤褐色	スコリア	-	発行	5.15	4.15	0.69	17.7	
100	141	SI-032	1	上器片断	瓦	灰褐色	白砂	後期中葉	加納村田	3.65	3.60	0.69	12.8	
100	142	SX-012	1	上器片断	瓦	黄褐色	縞砂	早期産後	手山	4.60	4.20	1.02	16.5	
100	143	1 トロ	1	上器片断	瓦	灰褐色	白砂	後期産後	併合・発行	4.40	3.95	1.05	17.0	
100	144	1 トロ	1	上器片断	瓦	赤褐色	縞砂	早期産後	手山	5.35	4.50	0.78	23.6	
100	145	315-93	1	上器片断	瓦	灰褐色	白砂	早期産後	手山	5.80	5.70	1.58	62.2	
100	146	315-94	1	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂	早期産後	手山	5.40	5.15	0.80	32.8	
100	147	315-95	1	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂	早期産後	手山	5.30	5.20	0.60	7.7	口縁
100	148	315-96	1	上器片断	瓦	赤褐色	縞砂	早期産後	手山	5.80	5.65	0.81	32.9	
100	149	317-910	2	上器片断	瓦	灰褐色	白砂	-	発行	5.90	5.80	1.90	65.6	口縁
100	150	317-14	1	上器片断	瓦	赤褐色	縞砂	後期	-	5.35	5.30	1.15	35.9	
100	151	317-44	1	上器片断	瓦	灰褐色	白砂	-	発行	7.80	6.45	0.91	69.6	
100	152	317-14	1	上器片断	瓦	灰褐色	縞砂・スコリア	後期中葉	加納村田	8.40	8.40	0.53	47.2	

種別	%	通称番号	造物番号	部 種	地味	色 調	組 上	時 数	架 式	最大入尺 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (kg)	備 考
100	103	3117-96D	2	上型円板	汎	黒褐色	スクリヤ	後期中等	加付円板	5.20	3.10	1.35	26.2	口縁
100	104	7 トロ	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	加付円板	7.60	3.50	1.27	30.4	口縁
100	105	14 トロ	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	加付円板	4.70	4.35	0.66	17.1	
100	106	3117-04D	1	上型円板	汎	黒褐色	スクリヤ	後期中等	実行	4.55	3.90	0.68	15.6	口縁
100	107	3117-08C	1	上型円板	汎	黒褐色	スクリヤ	後期前葉	堀之内	5.10	3.60	0.87	20.3	
100	108	3117-08C	3	上型円板	汎	黒褐色	大形砂・石瓦葺	-	実行	4.20	3.45	0.30	7.4	
100	109	3117-01	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	加付円板	5.05	4.05	0.79	20.0	口縁
100	100	3117-25D	2	上型円板	汎	赤褐色	スクリヤ・白砂	後期中等	加付円板	4.80	4.25	0.94	24.2	
100	101	3117-08C	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	加付円板	6.05	3.35	1.00	40.0	
100	102	3117-05D	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	加付円板	4.20	4.15	0.60	15.5	
100	103	3117-13A	1	上型円板	汎	赤褐色	白砂	後期中等	加付円板	3.70	3.60	0.49	10.4	
100	104	3117-04	1	上型円板	汎	黒褐色	大形砂	後期中等	加付円板～ 部分	5.45	3.40	1.28	29.0	
100	105	3117-12C	1	上型円板	汎	赤褐色	白砂	後期中等	加付円板	5.40	3.30	1.30	20.3	
100	106	3117-05D	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	加付円板	5.30	4.55	1.48	28.1	蟹高に欠
100	107	3117-28C	10	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	実行	4.80	4.45	1.27	25.5	口縁
100	108	3117-28C	2	上型円板	汎	黒褐色	白砂・石瓦葺	-	実行	5.10	3.00	0.83	27.2	
100	109	3117-13A	2	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	加付円板	5.40	3.10	0.98	24.0	
100	120	3117-08D	5	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	加付円板	4.55	3.95	0.68	12.6	
100	171	3117-04A	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	加付円板	4.70	4.25	0.78	18.5	口縁
100	172	3117-05D	2	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	実行	5.00	4.30	1.54	25.5	
100	173	3117-15D	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	加付円板	4.00	3.80	0.82	14.2	
100	174	3117-14A	4	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期	実行	4.55	3.35	0.91	13.9	
100	175	3117-05D	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	加付円板	4.20	4.00	0.80	18.3	
100	176	3117-15A	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	加付円板	4.60	3.20	1.39	21.2	
100	177	3117-28C	8	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	部分～実行	5.85	3.80	0.80	21.0	口縁
100	178	3117-05D	2	上型円板	汎	黒褐色	石瓦葺	後期中等	加付円板	3.35	3.35	0.60	10.0	
100	179	3117-13A	6	上型円板	汎	黒褐色	スクリヤ・白砂	後期中等	実行	6.00	3.65	0.73	27.7	
100	180	16 トロ	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期	実行	8.10	7.80	0.70	37.1	
100	181	3117-13C	1	上型円板	汎	赤褐色	白砂	後期中等	加付円板	7.25	3.70	1.44	60.0	
100	182	3117-22	1	上型円板	汎	黒褐色	スクリヤ・白砂	後期中等	加付円板	5.00	3.00	1.51	44.0	
100	183	3117-24D	11	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	実行	4.40	4.05	1.18	19.9	口縁
101	1	SK-012	1	上型円板	汎	黒褐色	磯砂・石瓦葺	後期中等	加付円板	4.20	4.20	1.01	19.0	
101	2	SK-013	252	上型円板	汎	黒褐色	石瓦葺	後期中等	加付円板	3.55	3.45	1.11	15.4	
101	3	3117-05D	9	上型円板	汎	黒褐色	スクリヤ・磯砂	後期中等	加付円板	5.05	3.55	0.89	20.4	
101	4	3117-12A	3	上型円板	汎	黒褐色	大形砂・スクリヤ	-	実行	5.20	3.30	0.82	14.1	
101	5	3117-13A	2	上型円板	汎	赤褐色	磯砂・磯砂	-	実行	3.20	3.10	1.04	9.9	
101	6	3117-13D	5	上型円板	汎	黒褐色	磯砂・磯砂	後期	実行	4.50	3.80	0.81	15.7	
101	7	3117-15D	2	上型円板	汎	黒褐色	石瓦葺・スクリヤ・磯砂	後期	実行	5.15	4.08	0.81	17.7	
101	8	3117-28C	1	上型円板	汎	黒褐色	スクリヤ・磯砂	後期中等	加付円板	3.80	3.35	0.77	13.0	口縁
101	9	3117-28D	5	上型円板	汎	赤褐色	磯砂・磯砂	後期中等	実行	4.20	3.80	1.21	17.6	
101	10	SK-012	1	上型円板	汎	黒褐色	スクリヤ	後期中等	加付円板	4.10	4.00	0.63	13.3	
101	11	1 トロ	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	加付円板	4.35	4.00	1.00	20.0	
101	12	3117-90	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期	実行	4.70	4.70	1.13	25.6	口縁
101	13	2 トロ	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	加付円板	2.30	2.85	0.70	7.8	
101	14	14 トロ	1	上型円板	汎	黒褐色	スクリヤ	後期前葉	堀之内	3.65	3.55	0.77	10.6	
101	15	3117-08D	3	上型円板	汎	黒褐色	白砂多量	後期	実行	5.85	3.80	1.21	50.2	
101	16	3117-04	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	中期	阿玉台	5.05	3.80	0.98	26.4	
101	17	3117-04A	1	上型円板	汎	黒褐色	大形砂	後期中等	加付円板	5.00	3.65	0.88	36.6	口縁
101	18	3117-32A	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期	実行	5.40	3.00	1.37	47.2	
101	19	3117-04	1	上型円板	汎	黒褐色	スクリヤ	後期中等	加付円板	3.35	2.85	0.31	4.6	
101	20	3117-28C	1	上型円板	汎	黒褐色	石瓦葺	後期中等	加付円板	2.85	2.60	0.54	5.3	口縁
101	21	3117-13A	2	上型円板	汎	黒褐色	スクリヤ・磯砂	後期中等	加付円板	4.70	4.40	0.80	19.5	
101	22	3117-25A	1	上型円板	汎	黒褐色	スクリヤ	後期中等	加付円板	4.50	3.00	1.03	19.6	
101	23	3117-10D	3	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	加付円板	2.80	2.75	0.83	7.4	
101	24	3117-12C	2	上型円板	汎	黒褐色	磯砂	後期	早野橋	3.20	3.25	0.58	12.8	
101	25	3117-25D	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期	早野橋	4.30	4.20	0.71	16.7	
101	26	3117-12C	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期前葉	部分～実行	4.95	4.05	0.62	35.0	
101	27	3117-14D	4	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	加付円板	4.10	4.00	0.57	10.6	
101	28	3117-50D	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	加付円板	4.55	4.05	0.79	14.8	
101	29	3117-33D	7	上型円板	汎	黒褐色	磯砂	後期	実行	3.70	3.95	0.75	10.2	口縁
101	30	3117-13C	8	上型円板	汎	黒褐色	磯砂	後期	実行	6.10	4.90	1.33	41.2	
101	31	3117-22	1	上型円板	汎	黒褐色	磯砂	後期	実行	5.05	4.95	1.29	34.1	口縁
101	32	1 トロ	1	上型円板	汎	黒褐色	磯砂	後期	実行	5.15	4.40	1.16	28.5	
101	33	2 トロ	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期前葉	堀之内	5.60	3.50	0.58	23.0	
101	34	3117-17	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	加付円板	3.15	3.05	0.80	9.7	
101	35	3117-04A	1	上型円板	汎	黒褐色	磯砂	後期中等	加付円板	6.05	4.00	0.63	29.7	
101	36	3117-05D	1	上型円板	汎	黒褐色	磯砂	後期中等	加付円板	4.20	4.00	0.60	15.1	
101	37	16 トロ	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	加付円板	3.35	3.40	0.78	13.0	
101	38	16 トロ	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期	後期	2.90	2.90	0.78	8.8	磯高
101	39	3117-04	1	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期	実行	3.00	2.95	0.75	7.9	
101	40	3117-04	1	上型円板	汎	黒褐色	磯砂・スクリヤ	後期	実行	4.90	4.50	0.68	18.3	口縁
101	41	3117-12C	1	上型円板	汎	黒褐色	磯砂	後期中等	加付円板	5.60	3.40	0.78	31.0	
101	42	3117-08C	2	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期中等	加付円板	4.10	4.00	0.63	13.0	
101	43	16 トロ	1	上型円板	汎	黒褐色	スクリヤ	後期	実行	5.25	4.85	1.41	30.0	
101	44	3117-14D	4	上型円板	汎	黒褐色	磯砂	後期中等	加付円板	5.75	3.40	0.93	32.6	口縁
101	45	3117-14D	8	上型円板	汎	黒褐色	白砂	後期	実行	7.00	6.00	0.79	38.9	
101	46	3117-13C	12	上型円板	汎	黒褐色	磯砂	後期中等	加付円板	4.00	3.85	0.78	11.4	

種別	%	道路番号	道路番号	部 種	地況	色 質	組 上	時期	架式	最大径 (cm)	最大径 (cm)	最大径 (cm)	重量 (kg)	備 考
101	47	310-14A	4	上型円板	汎	真黒色	線砂	-	実行	3.80	3.80	0.73	11.5	
102	48	310-14A	4	上型円板	汎	灰白色	線砂	真黒中重	加付円板	2.90	3.85	0.84	11.8	口縁
103	49	310-14B	3	上型円板	汎	灰白色	白砂	-	実行	4.85	4.85	0.66	10.9	
104	50	310-14D	4	上型円板	汎	赤黒色	線砂	-	実行	4.40	4.40	0.99	21.2	
105	51	310-15A	3	上型円板	汎	真黒色	石炭粉・スクリヤ	-	実行	5.50	5.70	0.95	22.3	
106	52	310-15C	14	上型円板	汎	灰白色	白砂	真黒中重	加付円板	2.95	3.90	0.74	11.2	口縁
107	53	310-14D	4	上型円板	汎	赤黒色	線砂	真黒中重	加付円板	4.80	5.00	0.50	13.5	口縁
108	54	310-13A	16	上型円板	汎	真黒色	線砂	-	実行	4.50	4.15	0.80	22.0	口縁
109	55	310-15C	1	上型円板	汎	黒藍色	大粒砂	真黒中重	加付円板	4.75	4.85	0.69	17.3	
110	56	310-15A	6	上型円板	汎	灰白色	線砂	真黒中重	加付円板	4.60	4.20	1.20	23.2	口縁
111	57	310-15D	1	上型円板	汎	黒藍色	線砂	-	実行	5.35	5.05	0.91	30.3	
112	58	310-14D	-	上型円板	汎	真黒色	線砂・スクリヤ	真黒中重	加付円板	3.35	3.35	0.52	6.4	
113	59	310-22A	2	上型円板	汎	真黒色	線砂	真黒	-	3.55	3.15	0.81	11.3	
114	60	310-23A	1	上型円板	汎	赤黒色	白砂	-	実行	5.65	6.15	0.80	23.4	
115	61	310-16D	3	上型円板	汎	灰白色	スクリヤ	早期積雪	茅山	4.25	4.25	0.72	13.4	
116	62	310-02D	2	上型円板	汎	黒藍色	白砂	真黒中重	加付円板	4.70	4.55	0.69	18.6	
117	63	310-23A	6	上型円板	汎	真黒色	線砂	真黒中重	加付円板	4.60	4.65	0.75	17.6	
118	64	310-22D	6	上型円板	汎	赤黒色	白砂	真黒中重	加付円板	5.45	4.85	1.20	31.1	
119	65	310-23A	3	上型円板	汎	灰白色	大粒砂	-	実行	7.40	5.85	1.43	76.6	
120	66	310-15D	1	上型円板	汎	黒藍色	線砂	真黒中重	加付円板	3.80	3.35	0.98	13.7	
121	67	310-23A	9	上型円板	汎	灰白色	スクリヤ・石炭粉	真黒中重	加付円板	6.20	5.65	1.00	26.2	
122	68	310-23D	6	上型円板	汎	黒藍色	石炭粉・白砂	真黒中重	加付円板	4.85	4.55	1.13	25.4	
123	69	310-23D	9	上型円板	汎	灰白色	線砂	真黒中重	加付円板	4.45	3.85	0.87	19.5	
124	70	310-16D	3	上型円板	汎	灰白色	白砂	真黒中重	加付円板	5.80	5.80	0.70	20.0	
125	71	310-22D	4	上型円板	汎	灰白色	白砂	真黒	-	5.60	5.20	0.86	29.3	
126	72	310-15D	1	上型円板	汎	灰白色	スクリヤ	真黒	-	3.80	3.55	0.53	8.5	
127	73	310-25A	1	上型円板	汎	黒藍色	石炭粉	真黒	-	3.60	3.35	0.80	12.9	
128	74	310-15D	4	上型円板	汎	灰白色	白砂・石炭粉	真黒中重	加付円板	3.55	3.35	0.63	9.7	
129	75	310-25A	1	上型円板	汎	赤黒色	白砂	真黒	-	3.60	3.55	0.63	9.3	四ノ木中洞
130	76	310-23D	9	上型円板	汎	黒藍色	スクリヤ・線砂	真黒中重	加付円板	7.20	7.00	0.79	40.1	
131	77	310-23D	14	上型円板	汎	赤黒色	大粒砂	真黒中重	加付円板	5.45	4.80	1.00	22.9	
132	78	310-22C	8	上型円板	汎	黒藍色	線砂	真黒中重	加付円板	4.75	4.15	0.67	11.6	
133	79	310-22	1	上型円板	汎	灰白色	大粒砂・石炭粉	真黒中重	加付円板	5.00	4.50	0.71	20.8	
134	80	310-22C	12	上型円板	汎	灰白色	白砂	真黒中重	加付円板	4.65	4.65	0.78	20.0	
135	81	310-23D	1	上型円板	汎	黒藍色	大粒砂・石炭粉	真黒中重	加付円板	5.25	5.15	0.70	31.4	
136	82	310-23D	1	上型円板	汎	灰白色	線砂	真黒中重	加付円板	2.70	2.70	0.43	3.7	
137	83	310-23D	2	上型円板	汎	黒藍色	線砂・スクリヤ	真黒中重	加付円板	4.40	3.30	0.67	7.8	口縁
138	84	310-24A	5	上型円板	汎	灰白色	スクリヤ	真黒中重	加付円板	3.80	4.80	1.51	28.5	
139	85	310-23D	12	上型円板	汎	灰白色	線砂・スクリヤ	真黒中重	加付円板	5.70	5.35	0.60	23.3	
140	86	310-24C	2	上型円板	汎	灰白色	線砂	真黒中重	加付円板	5.20	4.35	0.96	21.1	口縁
141	87	310-23A	1	上型円板	汎	真黒色	スクリヤ	真黒前重	兼之内	5.00	4.10	0.68	16.9	
142	88	310-24D	15	上型円板	汎	黒藍色	石炭粉・線砂	早期積雪	茅山	4.70	4.70	0.70	16.5	口縁
143	89	310-25D	2	上型円板	汎	真黒色	スクリヤ・石炭粉	真黒前重	実行3ヶ	5.55	5.35	0.82	29.2	雪孔
144	90	310-25	1	上型円板	汎	灰白色	線砂	-	実行	4.80	4.45	0.73	19.9	
145	91	310-23D	6	上型円板	汎	黒藍色	線砂	-	実行	3.85	3.75	0.70	12.4	雪孔兼中
146	92	310-24D	13	上型円板	汎	真黒色	線砂	真黒中重	加付円板	3.45	3.40	0.71	9.4	四ノ木中洞
147	93	310-25A	1	上型円板	汎	黒藍色	線砂	真黒中重	加付円板	4.65	3.85	0.65	11.8	
148	94	310-25A	1	上型円板	汎	灰白色	白砂	真黒中重	加付円板	4.00	3.80	0.53	10.7	
149	95	310-25A	1	上型円板	汎	灰白色	線砂	真黒中重	加付円板	4.15	3.85	1.16	18.2	
150	96	310-26C	2	上型円板	汎	黒藍色	白砂	真黒中重	加付円板	4.75	4.60	0.81	21.9	
151	97	310-25C	3	上型円板	汎	灰白色	線砂	真黒中重	加付円板	3.95	3.80	0.60	11.4	
152	98	310-25C	2	上型円板	汎	灰白色	スクリヤ	真黒中重	加付円板	4.85	4.50	0.72	20.7	
153	99	310-24C	1	上型円板	汎	黒藍色	線砂	真黒中重	加付円板	4.75	4.60	0.59	14.2	
154	100	310-25C	3	上型円板	汎	灰白色	線砂	真黒中重	加付円板	4.25	4.20	0.57	13.8	
155	101	310-34D	1	上型円板	汎	黒藍色	線砂	真黒中重	加付円板	3.65	3.45	0.70	10.0	
156	102	310-24A	7	上型円板	汎	黒藍色	線砂	真黒中重	加付円板	3.25	3.25	0.71	9.0	四ノ木中洞
157	103	310-36D	1	上型円板	汎	真黒色	線砂	真黒中重	加付円板	6.35	6.15	0.85	40.0	
158	104	310-23D	8	上型円板	汎	灰白色	スクリヤ	真黒中重	加付円板	5.45	5.20	0.95	32.4	口縁
159	105	310-26A	1	上型円板	汎	灰白色	白砂	真黒	-	4.30	4.35	0.56	11.0	
160	106	310-24D	3	上型円板	汎	黒藍色	石炭粉・線砂	真黒中重	暫定-実行	5.10	4.55	0.89	20.6	
161	107	310-43D	1	上型円板	汎	灰白色	白砂	真黒中重	加付円板	5.10	4.55	0.91	25.8	
162	108	310-24C	6	上型円板	汎	黒藍色	白砂	真黒中重	加付円板	3.35	3.35	0.57	8.6	
163	109	310-33A	1	上型円板	汎	灰白色	スクリヤ	真黒中重	加付円板	2.90	2.65	0.73	6.4	口縁 四ノ木中洞
164	110	310-13A	1	上型円板	汎	灰白色	線砂	-	実行	3.20	3.00	0.58	7.0	
165	111	310-16C	2	上型円板	汎	赤黒色	白砂	早期積雪	茅山	3.20	3.20	0.61	6.5	
166	112	310-25D	1	上型円板	汎	黒藍色	線砂	真黒中重	加付円板	4.80	4.20	0.60	13.9	
167	113	SI-047	1	上型円板	汎	灰白色	白砂	真黒	真黒	3.85	3.70	0.49	7.1	真黒雪孔兼中
168	114	3ト	1	上型円板	汎	黒藍色	線砂	真黒前重	兼之内	4.40	4.30	0.68	17.2	
169	115	217-94C	2	上型円板	汎	灰白色	線砂	真黒中重	加付円板	4.40	4.20	0.61	14.8	
170	116	310-23A	1	上型円板	汎	黒藍色	大粒砂	真黒中重	加付円板	4.55	4.25	0.86	17.5	
171	117	310-02D	1	上型円板	汎	真黒色	スクリヤ	-	実行	5.60	5.60	1.45	80.0	
172	118	310-13A	2	上型円板	汎	黒藍色	線砂	真黒中重	加付円板	5.85	4.65	0.95	27.0	
173	119	310-13A	2	上型円板	汎	黒藍色	線砂	-	実行	5.50	4.70	1.20	20.5	
174	120	310-14D	4	上型円板	汎	灰白色	白砂	-	実行	6.05	5.50	0.89	20.6	
175	121	310-25A	1	上型円板	汎	赤黒色	大粒砂	真黒	-	5.40	5.25	1.10	34.5	
176	122	310-26A	9	上型円板	汎	灰白色	スクリヤ	真黒中重	加付円板	5.25	4.70	0.60	30.8	
177	123	310-13C	8	上型円板	汎	真黒色	線砂	真黒前重	茅山	4.35	3.95	1.13	16.0	

標本	%	遺物番号	遺物番号	部 類	地産	色 澤	組 上	時期	型式	最大幅 (cm)	最大長 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備 考
102	104	311-14A	5	土製刀版	真	黒褐色	白砂	前期中期	加群41	4.65	3.55	0.97	16.2	
102	105	311-15C	8	土製刀版	真	黒褐色	白砂	前期中期	加群41	4.60	4.45	1.20	16.5	口縁
102	108	311-14D	4	土製刀版	真	黒褐色	細砂	-	実行	4.43	4.05	0.90	17.8	
102	107	311-22A	6	土製刀版	真	黒褐色	細砂	-	実行	6.30	5.20	0.66	25.4	
102	108	311-16D	5	土製刀版	真	灰褐色	細砂	-	実行	4.85	4.30	1.23	23.0	
102	109	311-25A	3	土製刀版	真	黒褐色	大粒砂、石炭粒・スクリヤ	後期中葉	加群43	6.85	6.30	1.02	38.0	
102	130	311-25B	5	土製刀版	真	黒褐色	スクリヤ・細砂	後期	-	5.55	4.40	1.24	33.8	
102	131	311-04A	2	土製刀版	真	灰褐色	白砂	後期	-	3.40	3.10	0.62	6.9	
102	102	311-25B	6	土製刀版	真	灰褐色	白砂	後期中葉	加群41	4.40	3.80	1.11	18.1	
102	103	311-25B	6	土製刀版	真	黒褐色	炭粉	後期中葉	加群41	5.30	4.40	0.86	21.2	
102	104	311-25B	5	土製刀版	真	黒褐色	石炭粒・細砂	後期中葉	加群41	5.00	4.95	0.86	21.9	
102	105	311-25B	3	土製刀版	真	灰褐色	細砂	早期	志輪台	4.05	3.95	1.05	14.0	
102	136	311-33B	5	土製刀版	真	黒褐色	細砂	-	実行	4.40	4.05	0.80	18.7	
102	137	311-34B	10	土製刀版	真	灰褐色	細砂	後期	-	4.80	4.05	0.63	17.8	痕跡
102	138	311-33B	1	土製刀版	真	黒褐色	大粒白砂	後期中葉	加群41	4.90	4.60	1.14	22.4	
102	139	311-34A	7	土製刀版	真	黒褐色	白砂	後期中葉	加群41	4.90	4.55	1.13	24.8	
102	140	311-25B	10	土製刀版	真	赤褐色	白砂	後期中葉	加群41	6.25	6.20	1.28	30.9	
102	141	311-22	1	土製刀版	真	赤褐色	細砂・スクリヤ	後期中葉	加群41	2.73	3.40	0.50	6.7	
102	142	311-25B	6	土製刀版	真	黒褐色	白砂	後期中葉	加群41	3.95	3.80	0.60	10.2	

第5節 縄文時代の石器

当遺跡では早期熱系文系土器から晩期土器・弥生土器まで出土しているが、石器はほぼ縄文時代に所属するものとみてよからう。

複数の使用痕・加工痕を持つものが多い。破損品を再利用しているものが目立つ。

(1) 石鎌 (第103図1～35, 第11表, 図版53)

1～16・18～23・35は凹基鎌である。1は小型のもので、4・5は主要剥離面を多く残す。8～12は挟りが浅い。18～21は挟りが深い。35は小型で調整が少なく、主要剥離面を多く残す剥片鎌である。17・22・24～30は三角鎌である。25・26は平基、他は若干基部が凹む。31～34は有茎鎌である。31は基部に横方向からの小さな挟りが入る。アメリカ式石鎌に近い。

(2) 石匙 (第104図36・39, 第11表, 図版53)

36は縦長のもので、刃部は両面押圧剥離で成形されている。39は小型品で、つまみがあるため石匙としたが、刃部の細部加工はほとんどない。

(3) 搔器 (第104図37・40～42, 第11表, 図版53)

37は有柄で鉋状をなす。側縁が両面剥離、上部に片面剥離で直線的な刃部がみられる。40は小型・厚手のものである。片側縁に両面押圧剥離がみられる。また下縁を打面として小剥離がされ、石核的になっている。41は小型縦長品で、片端部が細くなっている。一縁は片面加工でノッチ状に挟りがあり、他周縁は細かい両面剥離をしている。42は楕円形の小型品で、両極石器的な加工がある。

(4) 尖頭状石器 (第104図38・43・44・46, 第11表, 図版53・54)

38は有茎の大型鎌ないし石鎌未製品であろう。43は片面加工の尖頭部を持つ。44は縁を加工している。46は大まかな押圧剥離で尖頭部が作られており、端部は欠損している。基部は鉋状をなす。石鎌破損品ないし石鎌未製品であろう。

(5) 二次加工のある剥片 (第104図45・47～50, 第11表, 図版54)

45は石鎌未製品かと思われる。47はノッチ的な大きな剥離がみられる。48は端部に細長い剥離がみられる。49は樫面を一部残した厚めで大き目のもので、側縁に調整痕・使用痕がみられる。50は大き目の縦長剥片で、両側縁に細かい調整痕がある。49・50は搔器としてもよいかもしれない。

(6) 石核 (第105図51～62, 第11表, 図版54)

51は極小品で、礫面から2か所の剝離がある。52～54は小型の素材のもので、礫面側から1か所の剝離がみられる。55は剝離面を打面として1か所の剝離がある。56は縦長の素材で、打面を替えて2か所の剝離がある。側縁に刮器様の使用痕がある。57は剥片状で1か所の小剝離がある。58は縦長で、節理面で割れている。端部が剝離を受けて搔器状をなす。59・60は小型の多面体石核で、打面を替えての剝離がみられる。特に59では打面が多数ある。61は厚手の剥片素材の残核である。62は小型転石を切断し、切断面と礫面を打面とし剝離している。

(7) 楔形石器 (第105図63～66, 第11表, 図版54)

いずれも礫面を残す。63は小型で細いものである。64は小型品である。65は側縁にはノッチ状剝離がみられる。66は小型のもので、側縁にノッチがみられる。

(8) 磨製石斧 (第106図1～16・第107図17, 第12表, 図版55)

1は極小型で短冊形に成形されている。ネフライト製で、実用と言うより装飾品等の特殊な用途のものであろう。2は透閃石裂の三角撥形をなす定角式のもので、刃部に使用痕(縦擦痕)がみられる。3は小型の転石を利用して側縁・刃部を磨って長楕円形に成形した、片刃のものである。4は短冊形(棒状)で、刃部は片刃的である。5は刃部に再剝離がなされている。6は片刃的で、剝離痕が残る。刃部が摩滅している。

7～13は刃部を残すものである。7は1次剝離が残る。8～10は定角式のもので、8は1次剝離が多く残る。9は透閃石裂の撥形で、きれいなハマグリ刃をなす。10は刃が摩滅している。11・12は整美な両刃のもので、側縁に剝離痕が磨消されずに残る。13は定角式のもので、刃先が使用により潰れている。14・15は定角式のもので、14は刃部を、15は基部・刃部とも欠損するが、割れ面の後部が摩滅しており、二次使用されている。16は中央部破片の両端を剝離しており、側縁とともに再利用している。17は大型品の刃部付近の破片で、両面が磨られている。

(9) 打製石斧 (第107図18～25・第108図26～36, 第12表, 図版55)

18・19は礫面を大きく残す片刃の礫石斧である。18の両側縁上部は抉り状に若干凹む。20は短冊形のもので、U字形の刃部をなす。21～33・35は分銅形の打製石斧である。23は薄い礫面部分を素材としている。24・26・27は器面(特に抉り部)が磨られている。31は折損しているが、折れ面に加工がある。35は器面と刃部が磨られている。34は棒状石斧の柄の破片で、側縁に剝離加工がみられる。36は一端に大きな剝離で刃部が形成された礫器で、一応打製石斧に分類した。

(10) 磨石 (第109図1～12・第110図13～28・第111図29～42・第112図43・44・50・第113図72, 第13表, 図版55～57)

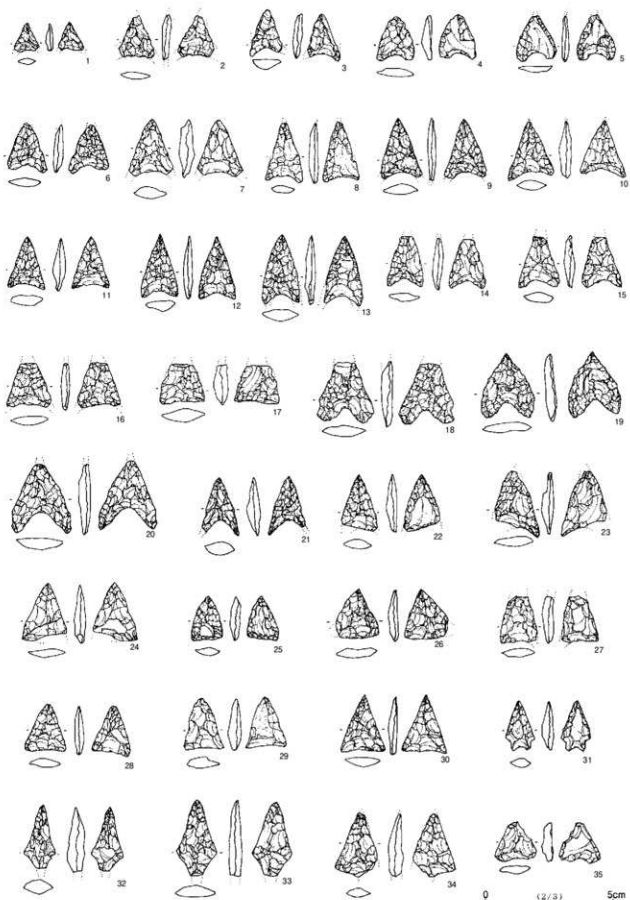
対象物をすり潰したり、敲いたり、あるいはこすったりする用途で用いられた手持ち礫石器で、多面的に用いられて複数の異なった使用痕を持つものが目立つ。する作業に代表されるが、「する」という漢字は音読みでは同じだが、以下の3種類に区別して記述した。

磨る: 磨かれるようにする(こする)。平滑で、著しいものは光沢を持つ。

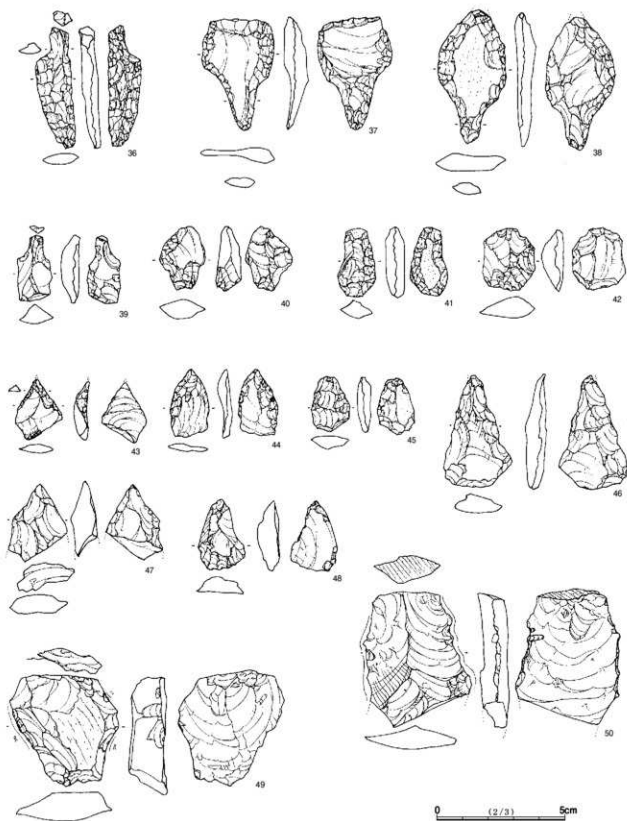
擦る(する): 細かい擦り傷がつく感覚で、こすりつけるようにする。通常のするの語感にあたろう。

判定できないものも含め、ひらがなですると表記した。

搦る: 臼ですりつぶす作業による。擦痕や細かい凹凸が目立つ。



第103図 縄文時代石器(1)石鏃



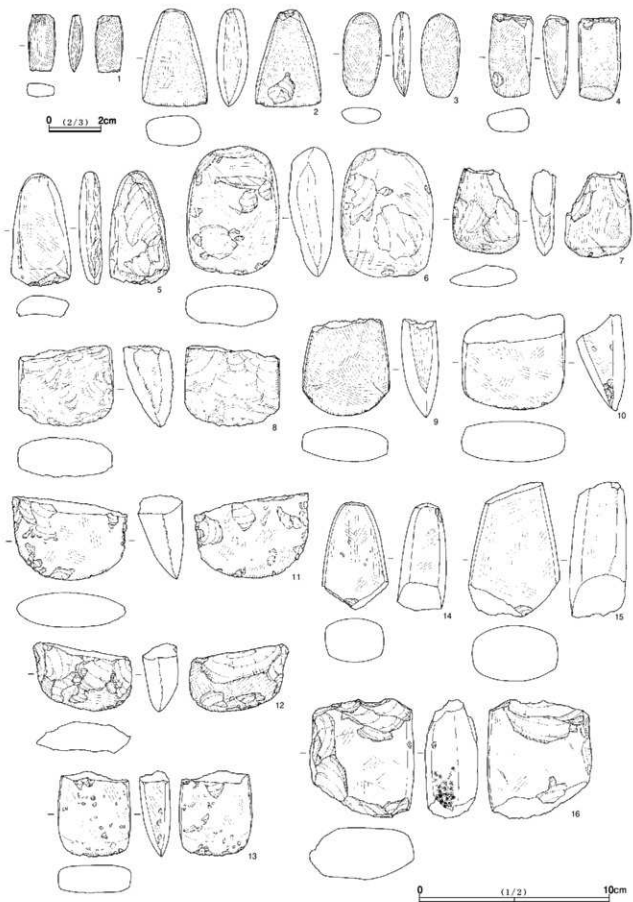
第104图 縄文時代石器(2)石匙、搔器、尖頭状石器、剥片類



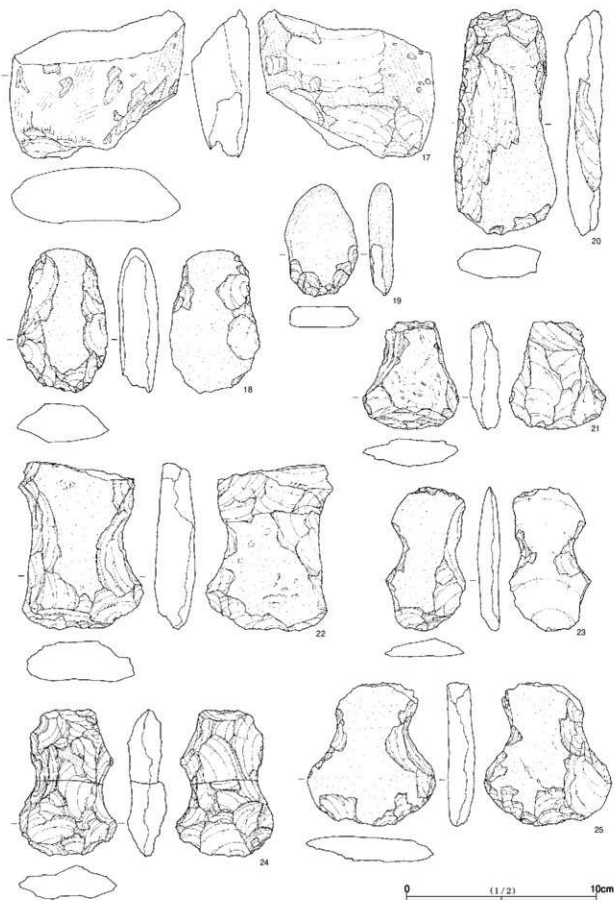
第105図 縄文時代石器(3)石核、楔形石器

第11表 縄文時代石器(1) 石類観察表

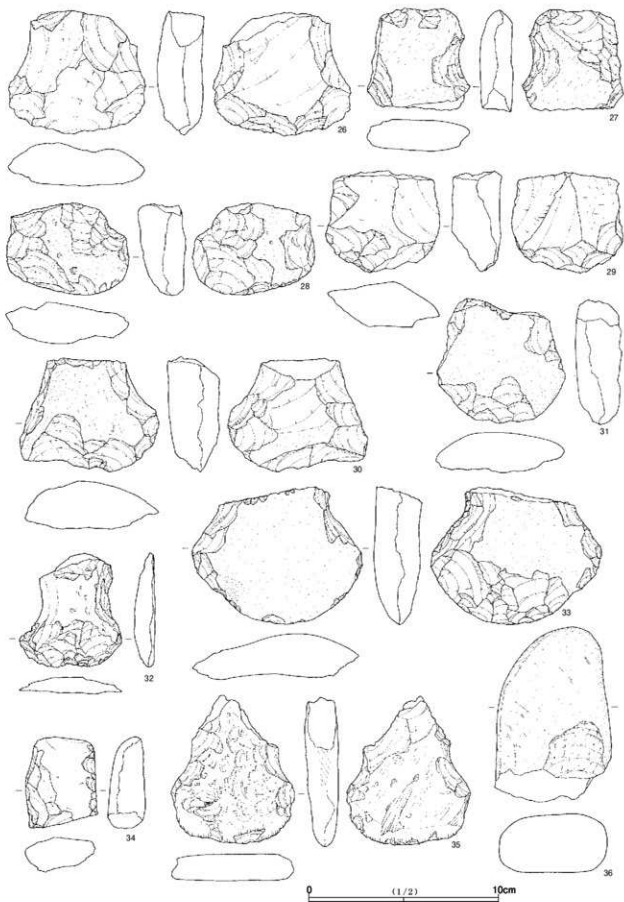
種別 No.	種 類	石 材	通称番号	遺物番号	形状	素材	状 態	長さ (mm)	最大幅 (mm)	厚さ (mm)	備 考
103-1	石類	黒曜石	SI-020	7	円錐	調子	両端欠損(ゴツロ)	10	10	2	信州黒曜石
103-2	石類	黒曜石	3IU-12A	1	円錐	調子	丸、腰削れ	17	14	4	高尾山系黒曜石、先端部に磨器状調整
103-3	石類	黒曜石	3IU-25A	2	円錐	調子	一部欠	18	13	4	信州黒曜石、先端部に磨器状調整
103-4	石類	黒曜石	SX-010	135	円錐	調子	尖形	17	14	3	神津山系黒曜石
103-5	石類	黒曜石	3IU-36A	3	円錐	調子	先端部削れ	17	15	3	神津山系黒曜石
103-6	石類	黒曜石	3IU-09C	4	円錐	調子	尖形	18	15	3	信州黒曜石
103-7	石類	ゴツロ貫透色安山岩	3IU-25D	6	円錐	調子	両端部削れ	22	17	5	1.6
103-8	石類	トドロ石	3IU-30D	6	円錐	調子	丸	23	14	4	1.1
103-9	石類	黒曜石	3IU-25A	2	円錐	調子	尖形	23	16	3	0.9
103-10	石類	チャート	3IU-25A	2	円錐	調子	尖形	21	18	4	1.3
103-11	石類	チャート	3IU-15D	2	円錐	調子	尖形	20	14	4	0.9
103-12	石類	チャート	3IU-12D	2	円錐	調子	尖形	24	14	3	1.0
103-13	石類	黒曜石	3IU-14	2	円錐	調子	両端部削れ	27	14	4	1.4
103-14	石類	チャート	3IU-14D	1	円錐	調子	先端部削れ	20	14	3	0.8
103-15	石類	ゴツロ貫透色安山岩	3IU-14D	9	円錐	調子	先端部削れ	20	16	4	1.1
103-16	石類	チャート	3IU-14	1	円錐	調子	先端部削れ	17	16	3	1.1
103-17	石類	チャート	3IU-29C	10	三角	調子	先端部削れ	15	17	3	1.3
103-18	石類	黒曜石	3IU-23D	12	円錐	調子	先端部削れ	23	21	5	2.0
103-19	石類	黒曜石	3IU-13D	2	円錐	調子	尖形	25	20	3	1.6
103-20	石類	ゴツロ貫透色安山岩	3IU-29C	3	円錐	調子	先端部削れ	27	23	4	1.9
103-21	石類	黒曜石	3IU-36A	1	円錐	調子	片側欠損	22	14	5	1.0
103-22	石類	チャート	3IU-25D	4	円錐	調子	片側欠損	22	14	4	1.2
103-23	石類	黒曜石	3IU-25A	2	円錐	調子	丸、片側削	25	18	4	1.5
103-24	石類	チャート	3IU-13D	4	三角	調子	片側欠損	22	16	3	1.0
103-25	石類	チャート	3IU-07	1	三角	調子	尖形	18	12	4	0.8
103-26	石類	黒曜石	3IU-25D	4	三角	調子	片側欠損	29	18	4	1.0
103-27	石類	ゴツロ貫透色安山岩	3IU-13D	4	三角	調子	先端部削れ	18	14	4	1.1
103-28	石類	チャート	3IU-05D	8	三角	調子	尖形	18	15	3	0.8
103-29	石類	チャート	3IU-25A	2	三角?	調子	尖形	20	15	4	1.1
103-30	石類	チャート	3IU-36A	3	三角	調子	尖形	22	17	3	0.9
103-31	石類	チャート	3IU-12D	10	四角有角	調子	尖形	19	11	4	0.7
103-32	石類	チャート	3IU-04	1	有角	調子	基部に削れ	25	12	6	1.4
103-33	石類	チャート	3IU-25A	1	有角	調子	基部に削れ	29	16	4	1.8
103-34	石類	ノゾク	3IU-03	1	有角	調子	基部に削れ	24	16	5	1.7
103-35	石類	チャート	3IU-22D	10	円錐	調子	尖形	15	15	4	1.0
104-36	石類	チャート	3IU-23C	5	縦長	調子	尖形	47	14	6	4.3
104-37	緑岩	チャート	3IU-23C	14	有角	調子	尖形	44	29	8	7.7
104-38	尖頭状石器	ゴツロ貫透色安山岩	3IU-22D	3	有角	調子	尖形	52	27	8	9.9
104-39	石類	黒曜石	3IU-45A	1	長形	調子	尖形	26	13	7	2.2
104-40	緑岩	黒曜石	3IU-36C	3	短形	調子	尖形	24	18	9	2.8
104-41	緑岩	黒曜石	3IU-23C	14	長形	調子	尖形	27	15	7	2.3
104-42	緑岩	チャート	3IU-23C	1	短形	調子	尖形	24	13	8	4.2
104-43	尖頭状石器	黒曜石	3IU-24D	10	長形	調子	尖形	22	18	5	2.5
104-44	石類未製品	チャート	3IU-14C	4	長六角形	調子	尖形	27	16	5	2.1
104-45	石類未製品	チャート	SX-011	204	長六角形	調子	尖形	21	14	5	1.8
104-46	石類未製品	ゴツロ貫透色安山岩	3IU-29C	2	長六角形	調子	尖形	44	26	7	6.6
104-47	二次加工ある調子	チャート	3IU-29C	4	-	調子	一部欠	30	22	8	4.7
104-48	二次加工ある調子	チャート	3IU-29C	9	長六角形	調子	尖形	27	17	8	3.1
104-49	二次加工ある調子	チャート	SI-008	1	六角形	調子	尖形	44	42	13	25.9
104-50	二次加工ある調子	黒曜石	3IU-14C	4	縦長	調子	端部欠	53	41	10	22.1
105-51	石類	黒曜石	3IU-14D	2	-	塊状	尖形	13	22	10	2.1
105-52	石類	黒曜石	3IU-25A	2	-	削片	尖形	28	15	10	4.0
105-53	石類	黒曜石	SK-30	37	-	塊状	尖形	24	26	13	6.6
105-54	石類	黒曜石	3IU-25A	13	-	塊状	尖形	17	27	15	3.5
105-55	石類	黒曜石	3IU-15D	2	-	削片	尖形	17	20	8	5.4
105-56	石類	黒曜石	3IU-25A	11	-	削片	尖形	26	15	9	5.4
105-57	石類	チャート	3IU-22	1	-	削片	尖形	41	25	9	8.0
105-58	石類	チャート	3IU-23D	4	-	削片	尖形	44	26	14	14.6
105-59	石類	チャート	7トドレ	1	-	多面体	尖形	20	26	23	13.1
105-60	石類	チャート	3IU-25	1	-	多面体	尖形	22	27	17	10.0
105-61	石類	チャート	3IU-31A	11	-	断面状	尖形	27	36	15	14.5
105-62	石類	チャート	3IU-15A	6	-	断面	尖形	36	21	25	32.1
105-63	磨形石器	チャート	3IU-15C	1	-	削片	尖形	24	13	9	3.2
105-64	磨形石器	ゴツロ貫透色安山岩	3IU-29C	2	-	削片	尖形	25	17	9	4.0
105-65	磨形石器	チャート	3IU-25A	12	-	削片	尖形	36	27	19	13.9
105-66	磨形石器	チャート	3IU-24B	8	-	削片	尖形	30	22	15	9.2



第106図 縄文時代石器(4)石斧



第107図 縄文時代石器(5)石斧



第108図 縄文時代石器(6)石斧

第12表 縄文時代石器(2)石斧観察表

種別 No.	種 類	石 材	遺構番号	遺物 番号	形状	素材	状 態	長さ	幅(最大)	厚み (最大)	重さ	備 考
106-1	磨製石斧	キウライ石	SX-011	309	短楕形	-	定形	226	11.1	6.2	26	短小型
106-2	磨製石斧	渡四石	31U-130	7	三角扁形	-	定形	515	34.2	16.7	429	定角式。調整痕あり。刃部磨光
106-3	磨製石斧	安山岩	31J30	1	小楕形	転石?	定形	446	20.5	10.3	127	片刃磨光。刃部磨光
106-4	磨製石斧	石英閃緑岩	31U-210	7	短楕形	-	基部折損	458	22.9	15.8	230	刃部片刃磨光。背面磨光。背面の縁を磨光し
106-5	磨製石斧	頁岩	31U-24C	4	楕形	-	一部欠	595	31.1	11.9	330	片刃片刃磨光。基部片刃?
106-6	磨製石斧	安山岩	SX-007	2	小楕形	-	定形	679	48.7	24.3	136.8	片刃。表面磨光。刃部磨光。調整痕あり
106-7	磨製石斧	鮎炭岩	31U-129	4	楕形	-	基部欠	449	35.3	12.7	25.1	調整痕あり。片刃的
106-8	磨製石斧	砂岩	31U-20D	3	-	-	左端のみ	433	40.1	20.3	84.5	定角式。転石。表面磨光
106-9	磨製石斧	渡四石	16 トレ	1	楕形	-	基部欠	513	46.1	20.2	70.4	定角式。きれいな磨光。転石。刃部磨光に調整痕
106-10	磨製石斧	砂岩	31U-24B	4	-	-	基部	309	54.2	26.1	96.7	定角式。転石。刃部磨光
106-11	磨製石斧	鮎炭岩	31U-25C	3	-	-	基部	446	60.2	23.9	91.4	転石。調整痕あり
106-12	磨製石斧	渡四石	31U-15D	1	-	-	基部欠	382	31.3	19.9	36.7	転石。調整痕あり
106-13	磨製石斧	砂岩	SX-025	1	-	-	基部	449	28.4	16.1	33.6	定角式。片刃磨光
106-14	磨製石斧	パンドイ岩	31U-11D	3	楕形	-	基部	565	34.8	20.7	36.1	定角式。基部片刃。調整痕あり
106-15	磨製石斧	輝緑岩	31U-25B	2	-	-	両端欠	708	47.9	30.2	157.8	定角式。一部磨光。転石
106-16	磨製石斧	砂岩	31U-13B	9	-	-	基部欠	626	54.8	27.8	146.9	転石に転石。表面磨光。刃部片刃。調整痕あり。転石
107-17	磨製石斧	砂岩	31T-02	1	-	-	刃部欠	776	91.9	30.7	380.2	大型。調整痕あり。両面片刃磨光。調整痕あり
107-18	行製石斧	鮎炭岩	31U-13A	2	楕形	転石	1/2 定形	751	47.6	21.3	106.8	調整。刃部片刃磨光。調整痕あり。調整痕あり
107-19	行製石斧	鮎炭岩	31U-13B	12	楕円形	転石	定形	586	38.3	13.8	41.6	片刃磨光。片刃磨光。刃部片刃磨光
107-20	行製石斧	チャート	31U-22	1	楕円形	転石	定形	1181	54.3	20.9	167.9	片刃磨光。表面磨光
107-21	行製石斧	緑色片岩	SX-010	1	分楕形	転石	半欠	569	49.8	16.4	50.8	片刃。片刃磨光。調整痕あり
107-22	行製石斧	安山岩	6 トレ	1	分楕形	転石	一部欠	882	66.1	21.8	159.5	片刃磨光。調整痕あり。調整痕あり
107-23	行製石斧	安山岩	SX-010	353	分楕形	転石	定形	739	41.8	12.1	38.3	片刃磨光。調整痕あり。調整痕あり
107-24	行製石斧	頁岩	31U-02B, 31U-22B	4	分楕形	-	定形	773	51.4	21.3	81.3	片刃磨光。調整痕あり。調整痕あり
107-25	行製石斧	流紋岩	31U-14B	7	分楕形	転石	一部欠	756	66.4	14.5	91.1	片刃磨光。調整痕あり。調整痕あり
108-26	行製石斧	閃緑岩	31U-13C	15	分楕形	-	1/2	647	71.7	24.3	152.2	片刃磨光。調整痕あり。調整痕あり
108-27	行製石斧	安山岩	31U-21A	3	分楕形	転石	1/2	530	53.8	18.1	57.7	調整。片刃磨光。調整痕あり
108-28	行製石斧	安山岩	31U-12B	1	分楕形	転石	刃部折	487	64.1	25.5	28.4	片刃磨光。調整痕あり
108-29	行製石斧	砂岩	31U-30D	1	分楕形	-	半欠	534	59.3	36.1	163.7	調整痕あり。調整痕あり
108-30	行製石斧	砂岩	SX-013	4	分楕形	転石	1/2	566	73.1	27.9	145.5	片刃磨光。調整痕あり。調整痕あり
108-31	行製石斧	安山岩	SX-002	2	分楕形	転石	1/2 基部欠	652	66.7	24.4	130.7	調整痕あり。調整痕あり。調整痕あり
108-32	行製石斧	緑色片岩	31U-22A	1	分楕形	-	破欠	608	53.7	11.3	30.2	調整。片刃磨光。調整痕あり。調整痕あり
108-33	行製石斧	安山岩	31U-23A	10	分楕形	転石	1/2	719	89.1	24.4	175.4	調整痕あり。調整痕あり
108-34	行製石斧	ホムツクス	31U-23C	12	短楕形	-	調整	482	30.4	20.1	66.9	調整痕あり。調整痕あり
108-35	行製石斧	デイサイト	SX-025	1	分楕形	転石	一部欠	779	64.7	17.9	107.3	調整痕あり。調整痕あり
108-36	行製石斧	輝緑岩	SX-001	1	楕形	転石	定形	934	59.9	31.5	208.0	片刃磨光。調整痕あり。調整痕あり

a. 周縁のすり面と器面に凹みを持つ(1~29)

1~5, 9~16, 23・26・27は小判形(隅丸長方形)礫を素材とするものである。両端部が使用により面取り状となる。1~5は両面磨面で縁がすり面になる。1・2は両面に小さな凹み、3は片面にわずかな凹み、4は両面に小さな凹み、5は小型で両面に浅い凹みを持つ。9は両端と一側縁が使われている。10は焼けている。両面の磨きが顕著である。11は割れているが、割れ口の角を敲いている。12は両端が割れ、割れ面や縁もすりに使われている。13・14は両面の凹みが大きく、また側面にも凹みがみられる。15は小型である。16はすられた大きな凹みを持つ。被熱し割れており、割れ口もすりに使われている。23は大型の磨石である。おそらく球形品の両端が割れたものを再利用しているものとみられる。円錐形凹みが残り、割れ面もすられている。26は小型で、1面と端部が良くすりされている他、他面にも凹みがある。27は小型で、凹みが両面と側縁にある。

6~8, 20・22・29は楕円形礫が素材となる。6は小型で両面に凹みを持つ。7は亀甲形に近い。両面がすられ中央が浅く凹む。全周縁がすりされている。頂部の両側縁に凹みがある。8は両面に磨りと小凹みが、また端部にすり敲き痕がある。20は片面中央に凹みになりかけた敲き痕を有する。22は断面三角形で端部と縁がすり敲かれている。29は両端と1側縁の3面がすりされている。17~19・21・24・25は円形礫を用いている。17は周縁に割れ面があるが、その縁まですられている。両面に凹みを持つ。18・19は両面が良く磨られている。凹みは片面にある。21は軟質砂岩で、中央に凹みを持つ。石質からみて小型のすり鉢的な用途による凹みかと思われる。24は側縁に凹みがある。25は片面に小凹みを持つ。28は不整形の礫を用いるもので、石皿の小片を利用した可能性がある。周縁がすり、小凹みが残されている。

b. 器面の凹みがわずらか、あるいはないもの (30～42)

30・34・39は円形礫を用いる。30の掘りは周縁の3/4に入っている。おそらく掌の当たる部分は加工が入らなるとみられる。34は周縁の4/5が掘られている。39は両面が軽く磨られ、周縁が掘られている。31～33・35～38・40は楕円形礫を素材とする。31は両側縁および1端部に弱い掘りがみられる。32は赤色顔料が付着している。周縁に弱い掘り痕がみられる。33は両面がよく磨られている。細かい敲き痕があり、特に片面中央に集中する。周縁に掘り痕がある。35は片端部に掘りがみられる。36は両面と周縁の一部が磨られている。37は両面磨りがみられる。38の周縁の一部は確実に掘られているが、全体的に使用痕が明瞭でない。40は周縁が若干用いられている。特に側縁部の掘りの度合いが多い。66は両面が平滑に磨られている。

42・44は隅丸方形の礫を素材とする。42は両面磨りが入る。また一面が広く剝離を受け、その面が潰れるほど更に磨られている。側縁全周が掘り面になっている。44は平たい転石の破片を用いている。隅丸長方形の磨石を再利用した可能性がある。41は断面三角形に近い棒状礫が用いられている。側縁と端部に小凹み・掘り面がある。

c. その他 (43・50・72)

43は片端部が剝離を受け、刃部も掘られている。表は良く磨かれ、また裏面は敲きにより、広い範囲で凹んでいる。小さな石皿的な使用法も顧慮すべきかもしれない。50は一端部が切断された細長い礫(断面三角形)の形状をしている。切断面及び縁が掘られ、スタンプ形石器的な使用痕がある。また一側縁(断面三角形の頂部稜)が掘られている。他側縁には敲き凹みがある。72は裾が開いた短柱状の形(スタンプの柄形)に成形されており、磨石の一種である石冠状石器の柄部とみられる。前期頃のものであろう。

(11) 敲石 (第112図45～49・51～54・第113図55～70, 第13表, 図版57)

礫の端部に掘り・敲き状の主使用面を持つものである。

a. 厚めの転石を素材とするもの (45～49・51～63・68)

45～49は磨石を兼用している。45は細長いおむすび形の石冠状をなす。46は器面の摩滅が著しく、断面三角形で端部の稜にも磨面がある。47は先端部に敲き痕がある。48は両側縁に掘り面がある。また裏面に使用による剝離痕があり、その刃部が掘られている。49は先端部に敲き痕があり、裏面に使用による剝離痕がある。51・52, 61～63は縦長の棒状礫を用い、端部に敲き痕を持つ。51は端部に掘り痕及び、両面中央に敲き痕を持つ。52は断面三角形で、片端部が掘り面になっている他、稜・端部の一部に敲き痕がある。61は両端部に掘り(敲き)面がある。62は両端部を若干掘り、一面に敲きがある。63は端部がわずかに使われている。53・54は薄い転石を用いている。53は楕円形礫の縁を敲き・掘りに利用している。一面は良く磨られている。54は平らな礫で、涙滴形をなし、その先端部と底面にあたる部位に掘り痕がある。また一面が顕著に磨られて凹んでおり、砥石も兼ねていたとみられる。55～57のスタンプ形石器で、逆三角形をなし、上部が切断されている。55は切断された縁が若干すりされている。端部も敲かれていそうだが明瞭ではない。56は逆三角形の平石で、砥石の破片の一端部を敲き・掘っている。57の形は55と同様である。割れ面には加工がみられない。端部及び側縁が磨られている他、側縁の端部に敲き痕がある。58～60は厚めの縦長礫を素材とする。58は破損した磨製石斧状品を再利用し、刃部の角を剝離・敲いており、また一面に敲きによる小さな凹みがある。59は、折れた縦長礫の割れ縁が掘られるものである。両面磨りと浅い敲きによる凹み、端部・側縁に掘り痕がみられる。スタンプ形石器の類

に入れても良い。60は断面三角形で、端部と稜部にすり痕がある。68は厚めの円形礫を用い、端部に敲き痕がある。

b. 偏平礫の先端を使用するもの (64～67・69～71)

64は先端部に剝離とすり痕があるほか、縁も若干播られる。一面が浅い溝状の研面をなす。65・69は小型の縦長礫で、折断されている。65は端部にすり、側縁に剝離痕がある。69は表面が磨かれて両刃の剣状になっている。端部の縁が播られている。66は楕円形礫で、両面が平滑に磨かれている。縁端部が若干敲かれている。67は周縁が敲き播られている。70・71は三角形に近い形で、端部縁が敲き播られている。

(12) 砥石 (第114図1～27・第115図28～36, 第14表, 図版58)

1～15・17・21は小型で、側縁が両面からすられ、断面が両刃の剣形をなすものである。稜の形成されるものもある。1・4・6・7・14は、側縁が浅くU字状に凹む。8はノッチを有する。21はやや厚手で、全体的に粗割痕が残されており、また端部に剝離痕がある。16は厚手で、複数面が砥石として使われている。また縁には細種状の溝がみられる。19は薄く、片面は剝落している。わずかに面がすられており、側縁はノッチ状に凹む。22は薄く、ヘラ状をなす。側縁に刃部状に鋭くなる部分やノッチ的に凹む箇所がある。18・20・23・26はやや厚い平板状のものである。18は両面と側面に、研ぎによる浅く細長い凹みが付けられている。20は両面が弱く凹む他、側縁も使われ、ノッチ状に若干凹む。23は一面が若干すられ、また側面も用いられている。26は小型の長方形をなすもので、両面がすられている。

24・25は棒状品である。24は4面がすられている。25は片側縁が両刃状にすられており、端部も砥石状に使われている。27は厚手で、両面が良くすられている。周縁が磨石用に使われている。28～31は薄手の板状のものである。28は1側縁が両刃状にすられている。29・30は同一石材で、1面が若干すられており、29は側縁にノッチ状のすり痕、30は小凹みが1個みられる。31は全面が良くすられており、側縁にノッチ状の凹みがみられる。32～36は軟質砂岩製で、厚みのある塊状品である。32は鋭い刻み目が加えられている。33・35は大型で、据え置きに石皿的な使用がされたものであろうか。33は両面がよく研がれており、一面は石皿状に凹んでいる。また裏面には浅い細溝がみられる。35は全体的に凹んでいる。34・36は欠けて小さくなったものの周囲を擦って用いている。33以外は同質の石で、西側の攪乱部出土であり、所属時期は明確ではない。

(13) 石皿 (第116図1～15・第117図16～27・31, 第15表, 図版59・60)

完形のものはない。再利用されているものが多い。安山岩あるいは多孔質安山岩(玄武岩)製が主で、片岩や砂岩製が若干認められる。小さな凹孔(V形)を持つものが多い。

1～5・7・12・15は円形ないし楕円形の石皿の大型の破片である。1はよく使い込まれている。2は縁が土手状になる。12は厚手の砂岩製で、砥石的な使用痕がある。8・9・10・19は小型の破片である。11は縁が直線的で土手が付いている。14は破片がさらに使用され、凹んでいる。17は薄手で角張った大型のものである。18は片岩製で、砥石的な使用が主になろう。20は小型の破片で、土手の部位である。21～26は中型のもので、小凹孔がみられない。24・25は穴が開くほどよく使い込まれている。27は非常に軟らかい石を用いている。6・13・16・31は小型で磨石転用品である。

(14) 台石 (第117図28～30, 第15表, 図版60)

大型の礫器で、主に据え置いて台的に使われたとみられる。28は両面が磨られている。29は両面が磨られる他、多数の円錐状小孔がみられる。30は稜・縁部を中心に磨石的な使用痕がある。

(15) 石棒・石剣・石製品 (第118図1～15, 第16表, 図版61)

1は独鈷石で、片端部が欠損している。両面・凹部が磨かれている。

2～4・7～9は石棒である。2は頭部に沈線が刻まれている。3は大型で尖頭形をしている。被熱により細かく割れている。4は柄の部分で、頭部に浮彫りがなされている。7は石棒端部片、8は中央部片で、先端部に敲打痕がある。9は中央部の破片である。5・6・10・11は刃が意識されているとみえるもので、石剣の可能性がある。5は中央部の破片、6は頭部で、断面偏平であり、石剣の柄部と思われる。先端が平に擦られている。10は石剣先端部で末端が擦られている。11は末端部に敲打痕がある。12・13は翡翠製の玉である。12は小型の半月形、13は丸玉である。14・15は石錘である。14は十文字の挟りを持つ。器面を磨って成形している。15は偏平な転石の両端を打ち欠いて挟りを入れている。

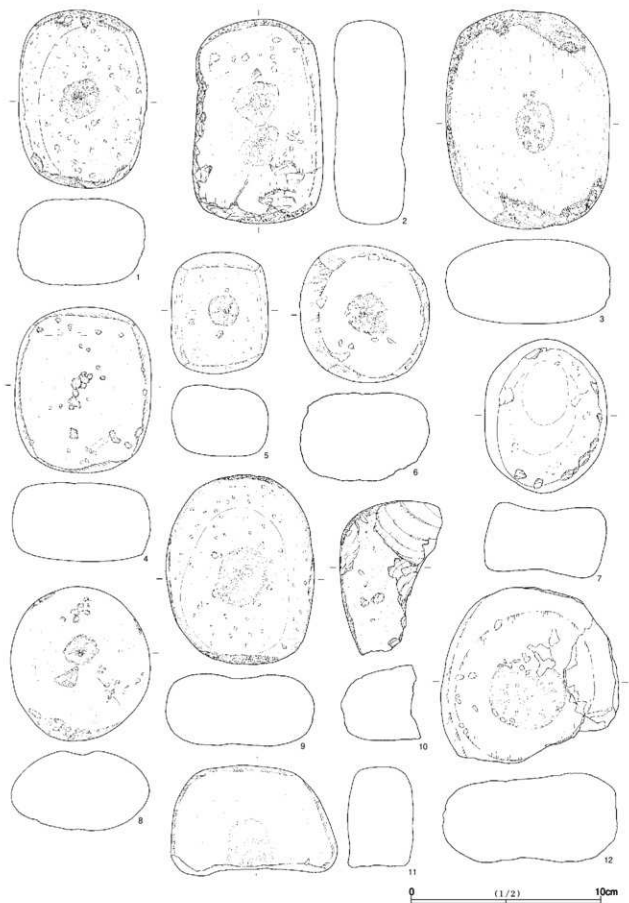
(16) 板状石製品 (第119図16～21, 第16表, 図版61)

16・21は片岩製の分銅形石製品で、周縁が擦られている。16は側縁に剝離があり打製石斧的な形状をしている。21は切断面を擦っているようで、石棒の再利用品であろうか。17は薄く割れる軟らかい石材で、角の丸い三角形に成形されている。18～20は片岩製の円板で、周縁が擦られている。

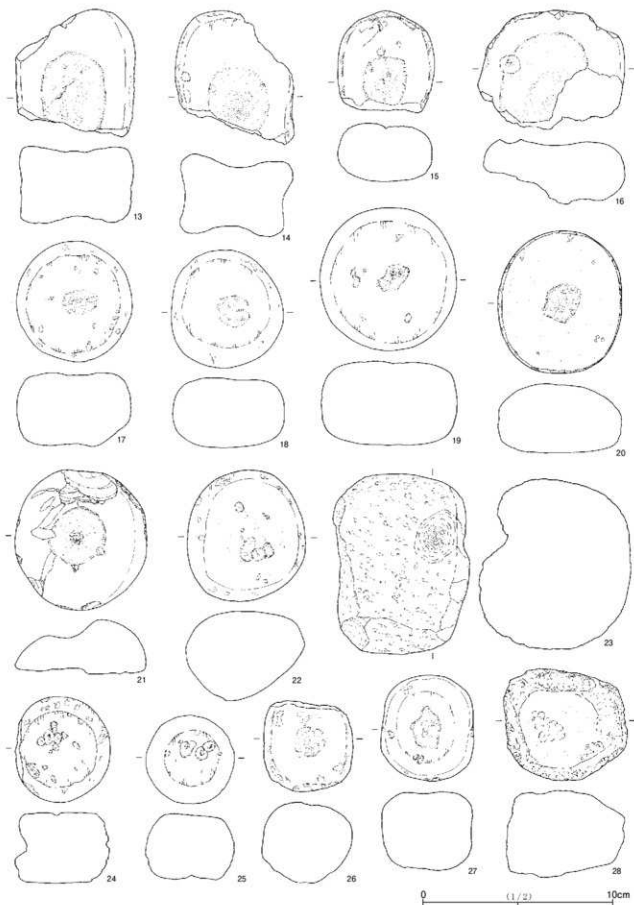
(17) 軽石製品 (第119図22～25, 第16表, 図版61)

加工痕の明らかなもののみ掲載した。表面は平らに擦られている。

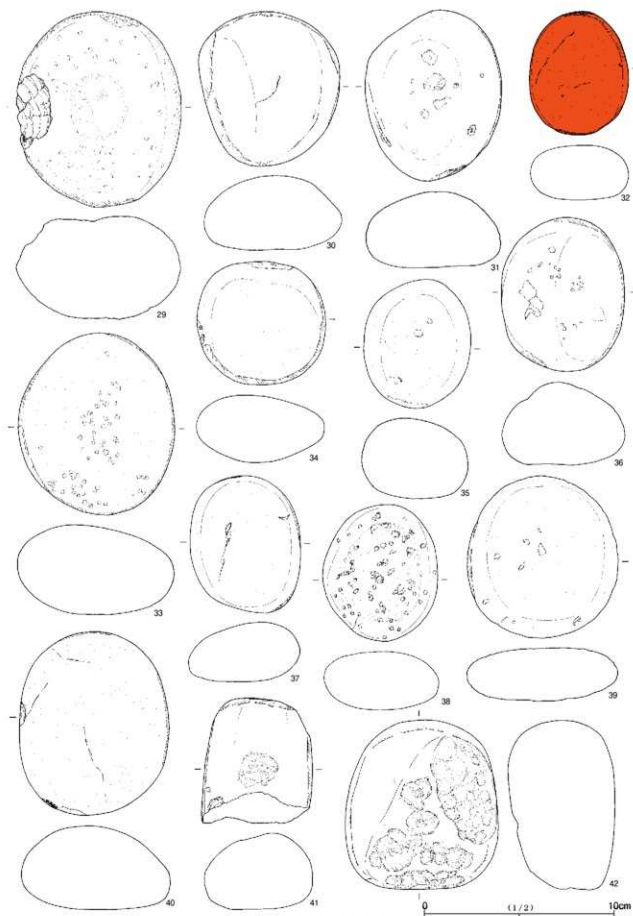
22・23は上部に孔の開くものである。22は板状、23は棒状を呈する。24は板状品で、上部を欠損する。もとは孔があった可能性がある。これらは浮子とみられる。25は小型の偏平な球状品で、磨石的な用いられ方をしたものであろうか。



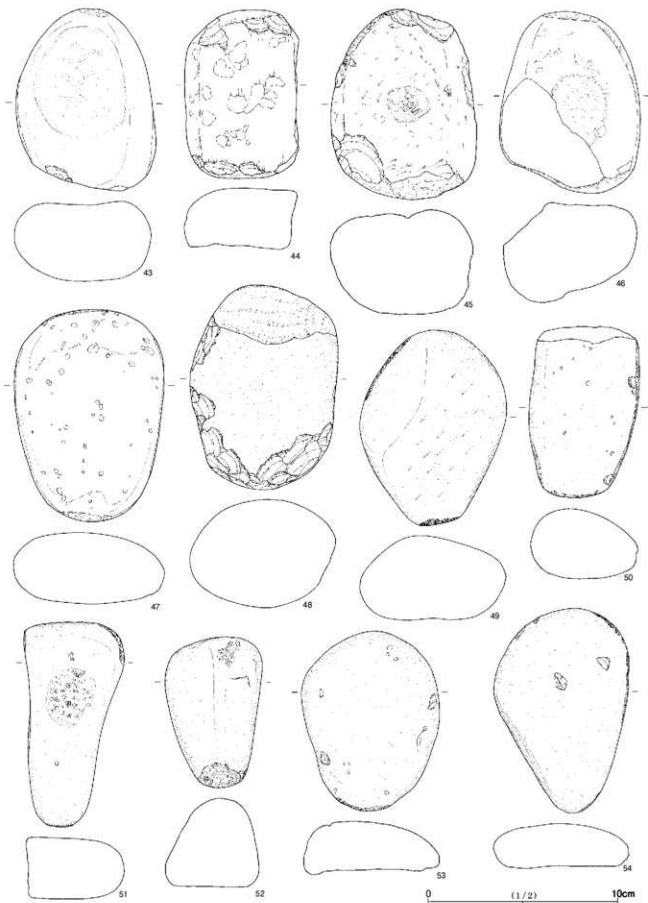
第109圖 縄文時代石器（7）磨石類



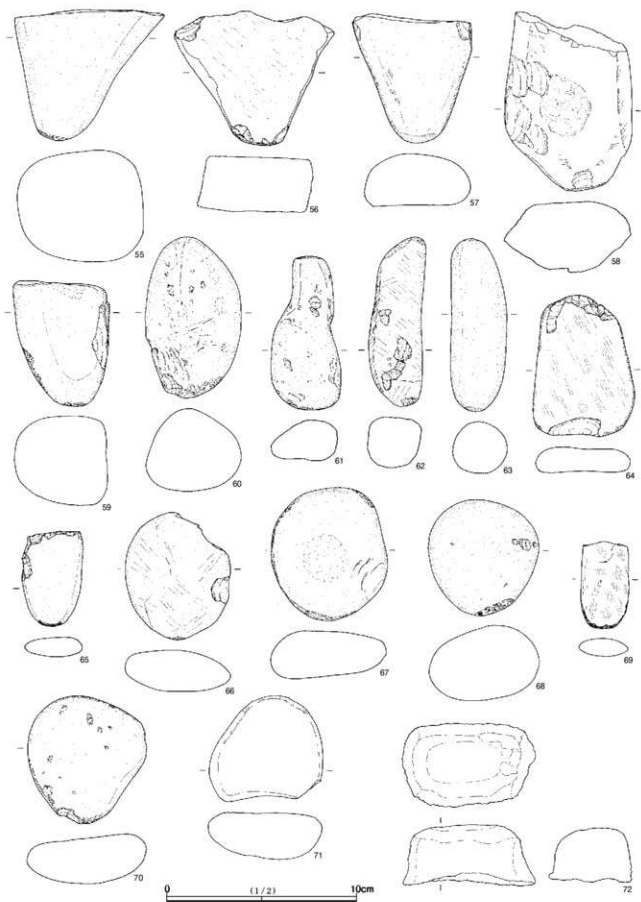
第110図 縄文時代石器(8)磨石類



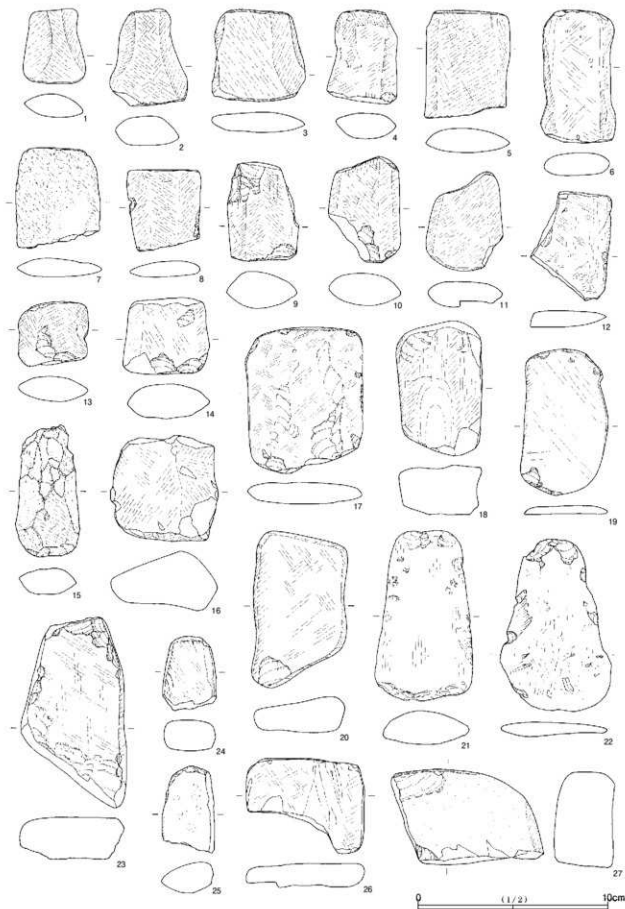
第111図 縄文時代石器(9)磨石型



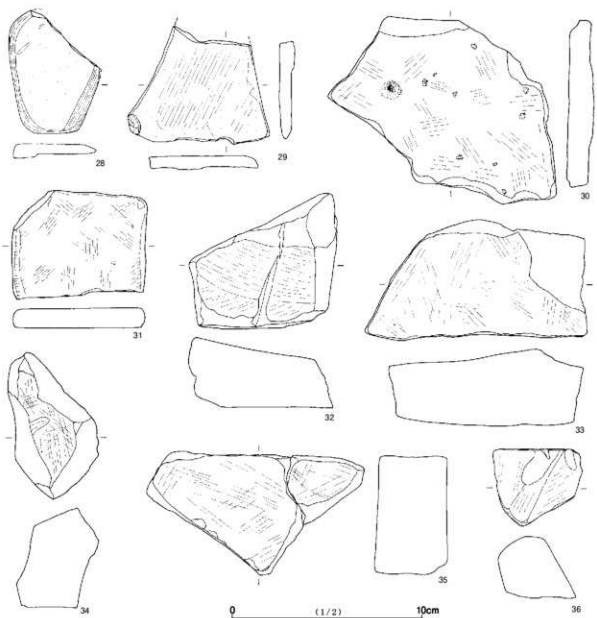
第112図 縄文時代石器 (10) 磨石類



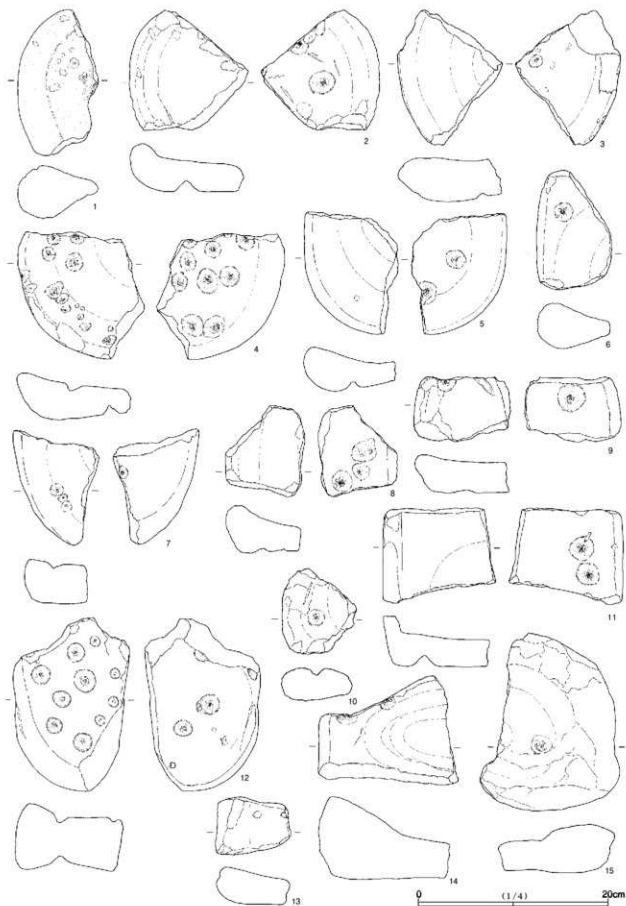
第113図 縄文時代石器 (11) 磨石類



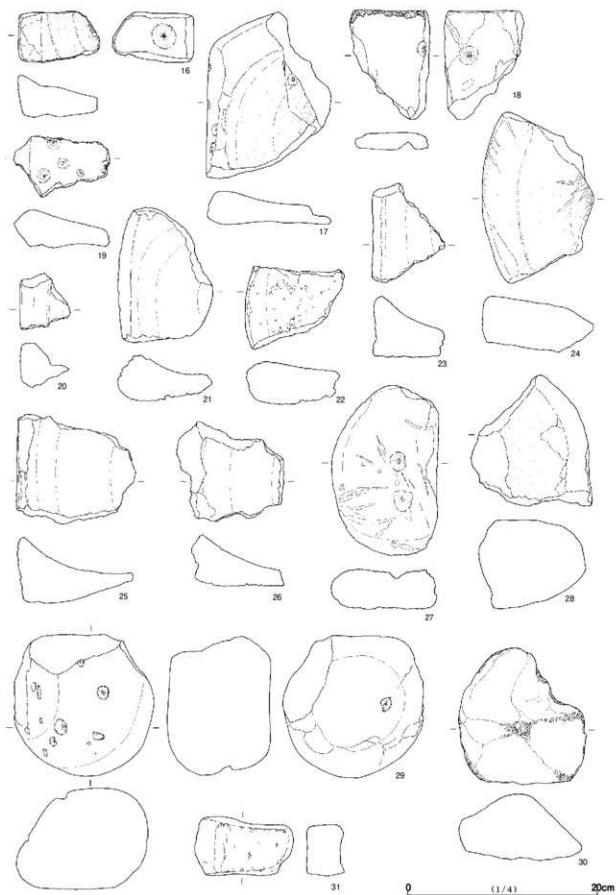
第114図 縄文時代石器 (12) 砥石



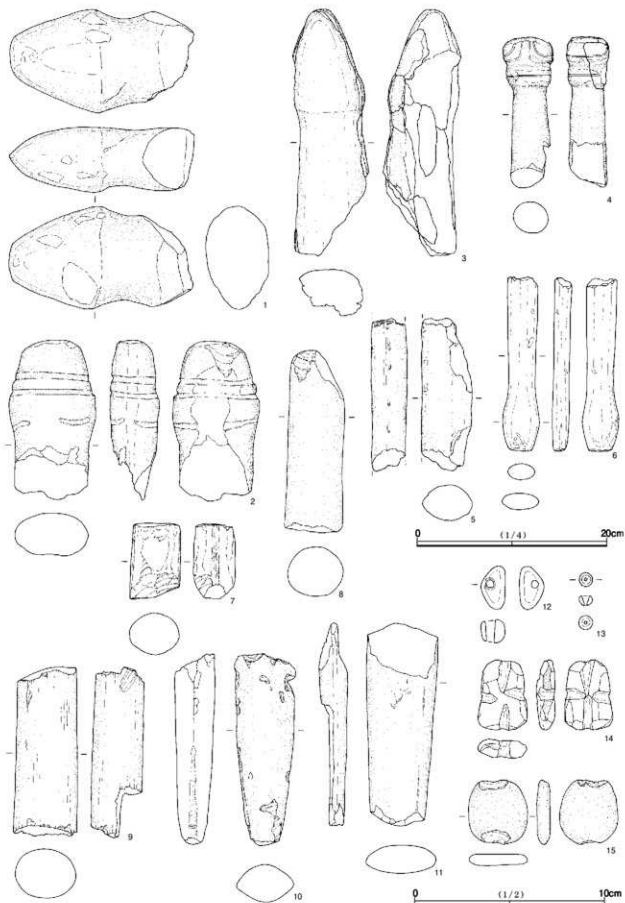
第115圖 縄文時代石器 (13) 砥石



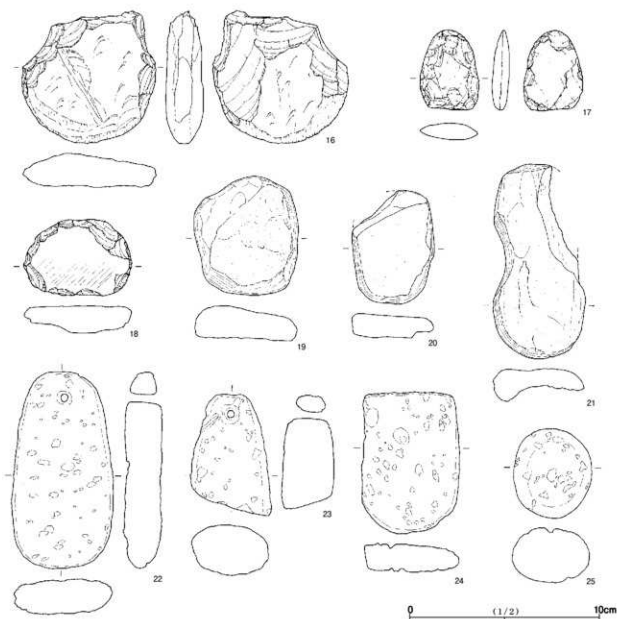
第116図 縄文時代石器 (14) 石皿



第117図 縄文時代石器 (15) 石皿, 台石



第118圖 縄文時代石器石製品 (1) 独鈷石, 石棒, 王, 石錘



第119図 縄文時代石器石製品（2）板状石製品，浮子，槌石

第13表 縄文時代石器(3) 磨石類観察表

種別 No.	種 類	石 材	遺物番号	遺物番号	形状	素材	状態	長さ (mm)	最大幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備 考	
109-1	磨石	安山岩	18-ト	1	楕円角形	粘土	完好	93.7	69.0	46.9	493.2	両面磨り跡あり。小穴、両縁磨り面。一凹み	
109-2	磨石	斑岩	18-ト	1	長方形	粘土	完好	107.5	66.2	79.4	616.3	両面磨り跡あり。小穴、両縁磨り面。一凹み	
109-3	磨石	安山岩	1-ト	1	楕円形	粘土	完好	115.6	66.0	46.3	482.7	両面磨り跡あり。両縁一凹み。一部磨り面あり	
109-4	磨石	安山岩	310-33A	8	楕円角形	粘土	完好	87.8	72.0	42.5	413.9	両面磨り跡あり。中央凹み、両縁磨り面、両面磨り面	
109-5	磨石	安山岩	1-ト	1	長方形	粘土	完好	64.3	51.1	39.1	229.8	両面磨り、中央凹み、両縁磨り面	
109-6	磨石	安山岩	1-ト	1	楕円形	粘土	完好	73.1	68.4	46.8	504.1	両面磨り跡あり。中央凹み、両縁磨り面、凹み	
109-7	磨石	流紋岩	18-ト	1	楕円形	粘土	完好	80.7	64.3	38.1	314.9	両面磨り跡あり。中央凹み、両縁磨り面	
109-8	磨石	砂岩	31U-23C	12	楕円形	粘土	完好	81.4	73.0	42.4	506.6	両面磨り跡あり。中央凹み、両縁磨り面、凹み	
109-9	磨石	安山岩	6-ト	1	楕円形	粘土	完好	100.2	78.2	38.9	453.9	1面磨り、中央凹み、両縁磨り面、両面磨り面	
109-10	磨石	安山岩	5X-013	93	小楕円形	磨石片	破片	82.3	63.5	34.8	208.4	1面、中央凹み、両縁磨り面、凹み	
109-11	磨石	砂岩	31U-39D	4	台形	粘土	1/2	96.4	87.4	36.4	274.5	磨石片内側、両面磨り跡あり。小穴、両縁磨り面、両面も凹み、磨り面	
109-12	磨石	安山岩	真保	-	楕円形	粘土	4/5	92.0	93.1	47.9	638.2	両面磨り、凹み、両縁磨り面、両面磨り面	
110-13	磨石	安山岩	31U-13C	8	長方形	-	一部欠	67.1	62.1	45.8	202.1	1面磨り、凹み、両縁磨り面、小穴、両縁磨り面	
110-14	磨石	安山岩	31U-03B	1	長方形	-	2/3	49.9	61.4	55.4	35.0	両面磨り、凹み、両縁磨り面、小穴、両縁磨り面	
110-15	磨石	安山岩	31U-34A	7	楕円形	-	2/3	54.1	50.5	29.1	118.7	両面磨り、上面小凹み、両縁磨り面、両面磨り面	
110-16	磨石	安山岩	31U-02	1	楕円形	粘土	破片	62.6	72.5	34.7	180.0	1面磨り、凹み、小凹み、両縁磨り面、両面磨り面、両面も凹み、磨り面	
110-17	磨石	安山岩	31U-24D	11	円形	粘土	完好	64.0	60.9	39.2	218.4	両面磨り、小凹み、両縁磨り面	
110-18	磨石	安山岩	31U-03B	1	円形	-	完好	62.8	58.7	49.3	256.0	両面磨り、上面小凹み、両縁磨り面	
110-19	磨石	安山岩	18-ト	1	円形	粘土	完好	75.0	71.1	44.7	343.3	両面磨り跡あり。上面小凹み、両縁磨り面	
110-20	磨石	砂岩	31U-02	1	楕円形	粘土	完好	75.3	62.5	36.7	286.9	両面磨り、上面中央凹み、両縁磨り面、凹み	
110-21	磨石	軟質砂岩	31U-03C	4	楕円形	粘土	破片	74.1	69.3	29.2	165.0	1面中央凹み、中央凹み、両縁一凹み、磨り面に小凹み、小縁磨り面	
110-22	磨石	安山岩	31U-03C	1	楕円形	粘土	完好	69.3	61.7	49.4	278.9	断面三角形、両面一凹み磨り面、両縁一凹み	
110-23	磨石	多孔質安山岩	31U-03	1	長方形	-	完好	96.0	71.1	79.4	720.2	両面、両縁磨り面、磨り面あり。小穴、上面内側磨り面の凹みあり	
110-24	磨石	安山岩	5C-00	1	円形	-	完好	35.8	49.1	37.8	156.5	両面磨り跡あり。両縁一凹み、磨り一凹み磨り面	
110-25	磨石	安山岩	31U-04D	1	円形	粘土	完好	48.8	46.3	38.3	98.8	両面磨り、上面磨り面、両縁磨り面	
110-26	磨石	砂岩	31U-13A	4	楕円形	-	一部欠	48.4	47.2	42.3	96.7	磨石片内側、上面中央凹み、両面一凹み磨り面あり	
110-27	磨石	安山岩	1-ト	1	楕円形	粘土	完好	59.8	45.5	41.4	171.8	両面磨り、小凹み、両縁磨り面、両面磨り面	
110-28	磨石	安山岩	31U-24B	1	楕円形	-	完好	76.3	65.5	47.7	358.0	上面磨り、凹み、両縁磨り面、両縁に凹み	
111-29	磨石	安山岩	5C-02	86	楕円形	粘土	完好	103.3	96.7	54.8	614.2	両面磨り、中央凹み、両縁磨り面	
111-30	磨石	安山岩	31U-44D	3	円形	粘土	完好	81.5	77.8	41.3	333.5	両面磨り跡あり、両縁磨り面	
111-31	31	磨石	流紋岩	31U-22D	9	楕円形	粘土	完好	90.0	71.9	40.7	376.0	両面磨り、両縁一凹み磨り面
111-32	磨石	砂岩	3-ト	1	楕円形	粘土	完好	67.6	54.4	29.5	150.5	両面磨り、両縁一凹み、両縁磨り面	
111-33	31	磨石	砂岩	31T-1	1	楕円形	粘土	完好	95.8	81.6	48.3	534.7	両面磨り、中央凹み、両縁磨り面
111-34	磨石	アズライト	31U-03C	5	円形	粘土	破片	45.3	47.5	36.2	231.1	両面磨り、両縁磨り面	
111-35	磨石	アズライト	1-ト	1	楕円形	粘土	完好	49.2	55.8	42.8	233.6	両面磨り、両縁一凹み磨り面	
111-36	磨石	流紋岩	31U-13A	2	楕円形	粘土	完好	81.2	64.5	46.3	324.5	両面磨り跡あり、両縁一凹み磨り面	
111-37	磨石	礫岩	31U-24D	17	楕円形	粘土	完好	72.5	58.1	32.3	212.2	両面磨り跡あり、両縁一凹み磨り面	
111-38	磨石	アズライト	31U-03D	4	楕円形	粘土	完好	72.1	60.3	32.1	181.4	1面磨り、上面磨り面、両縁一凹み磨り面	
111-39	磨石	安山岩	31U-03D	1	円形	粘土	完好	65.8	72.3	42.9	327.7	両面磨り、凹み、両縁磨り面	
111-40	磨石	砂岩	31U-22D	3	楕円形	粘土	完好	87.2	78.8	45.6	353.6	両面磨り、凹み、両縁磨り面、両面磨り面	
111-41	磨石	安山岩	31U-22D	10	長方形	-	一部欠	66.4	58.0	40.1	204.0	両面磨り、小凹み、両縁磨り面、両面磨り面	
111-42	磨石	砂岩	31U-22D	9	楕円形	粘土	完好	88.9	80.4	56.7	599.8	両面磨り跡あり、両縁磨り面	
112-43	磨石・凹石	砂岩	31U-24C	4	楕円形	粘土	完好	96.8	73.5	43.4	440.8	1面磨り跡あり。裏面中央凹み、上面一凹み磨り面、1面磨り面、凹み、小凹み磨り面あり	
112-44	磨石	閃岩	1-ト	1	長方形	粘土	完好	88.0	60.1	33.3	322.9	3面、1面磨り面あり。1面磨り、小凹み、裏面小凹み、磨り、両縁磨り面、上面磨り面、両面磨り面	
112-45	磨石・磨石	安山岩	1-ト	1	台形	粘土	完好	100.7	76.5	60.9	576.9	両面磨り跡あり。上面中央凹み、両縁磨り面、1面磨り面、両面磨り面、両面磨り面	
112-46	磨石・磨石	流紋岩	31U-04A	1	台形	粘土	完好	95.8	74.0	53.8	504.7	両面磨り、小凹み、両縁磨り面、両面磨り面、片縁磨り面	
112-47	磨石・磨石	安山岩	3-ト	1	楕円形	粘土	完好	111.8	78.5	38.3	515.8	両面磨り跡あり、片縁磨り面、片縁一凹み磨り面	
112-48	磨石・磨石	砂岩	3-ト	1	楕円形	粘土	完好	107.3	71.4	44.3	673.5	両面磨り、1面磨り面あり、片縁磨り面あり、片縁一凹み磨り面	
112-49	磨石	流紋岩	31U-22D	9	小楕円形	粘土	完好	103.2	72.4	44.2	515.7	両面、片縁磨り跡あり、片縁一凹み磨り面	
112-50	磨石	砂岩	31U-03	4	長方形	粘土	完好	91.0	37.7	40.9	305.6	1面磨り、両面磨り面、両縁磨り面、両面磨り面、1面磨り面、両縁磨り面、両面磨り面	
112-51	磨石	砂岩	31U-33A	8	へろ形	粘土	完好	109.1	32.6	32.7	302.1	両面磨り、両面磨り面あり、両縁一凹み磨り面	
112-52	磨石	砂岩	31T-06	1	長方形	粘土	完好	79.8	31.1	49.4	288.6	両面磨り跡あり、1面磨り面あり、多面磨り面あり	
112-53	磨石	砂岩	5C-003	188	楕円形	扁平粘土	完好	96.3	72.6	28.2	286.1	1面磨り、1面磨り面あり、ステップ形磨り面	
112-54	磨石・磨石	砂岩	31U-22A	1	へろ形	粘土	完好	108.2	71.1	28.4	286.6	片縁磨り面、両縁磨り面あり、片縁一凹み磨り面	
112-55	磨石	砂岩	31U-22B	10	三角形	粘土	破片	69.7	78.1	41.7	382.5	一面磨り面あり。裏面中央凹み、両縁一凹み磨り面、ステップ形磨り面	
112-56	磨石	砂岩	31U-04D	2	三角形	粘土	破片	71.1	82.6	33.2	208.4	上面中央凹み、両面磨り面、一面磨り面あり、ステップ形磨り面	
112-57	磨石	アズライト	31U-23D	5	-	粘土	破片	67.5	62.6	29.6	174.7	凹み、両縁磨り面あり、両面磨り面あり、両面磨り面あり、ステップ形磨り面	
112-58	磨石・磨石	安山岩	31U-12D	4	楕円形	粘土	破片	94.0	66.4	49.9	301.0	両面磨り、片縁磨り面、上面中央凹み、両縁磨り面、磨り面(裏)、片縁磨り面、磨り面	
112-59	磨石	アズライト	31T-90C	1	(楕円形)	粘土	1/2	66.0	31.5	47.4	233.4	1面磨り、断面、1面磨り面あり、断面、片縁磨り面あり、両面磨り面、片縁磨り面	
113-60	磨石	礫岩	5X-00	1	楕円形	粘土	完好	84.9	50.7	44.4	253.7	1面磨り面、断面三角形、2面磨り面	
113-61	磨石	安山岩	31S-81	1	-	粘土	完好	81.7	36.9	22.4	83.0	両面磨り(裏)面、上面磨り面	
113-62	磨石	砂岩	31U-33A	6	四角形状	粘土	完好	89.5	28.5	25.8	113.7	1面磨り(2面磨り面、1面磨り面、片縁磨り面)	
113-63	磨石	砂岩	31U-23C	13	楕円形	粘土	完好	90.7	29.4	27.3	113.3	1面磨り(片縁磨り面)	
113-64	磨石・磨石	砂岩	31U-14B	3	楕円形	粘土	完好	73.9	33.7	15.5	93.1	片縁磨り、磨り、片縁一凹み磨り面、一面磨り面	
113-65	磨石	砂岩	5C-012	1	楕円形	粘土	完好	49.1	39.1	16.3	27.3	両面磨り面、両縁一凹み磨り面、断面あり	
113-66	磨石・磨石	黒色安山岩	5C-013	9	楕円形	扁平粘土	一部欠	96.9	55.5	22.6	122.9	片縁磨り面、断面あり	
113-67	磨石	砂岩	31U-33A	4	楕円形	扁平粘土	完好	70.8	41.6	21.6	133.8	1面磨り(片縁磨り面)、片縁磨り面	
113-68	磨石	砂岩	31U-34A	10	小楕円形	粘土	完好	60.8	37.6	39.1	178.3	両面磨り面	

種別	No.	種 類	石 材	遺構番号	遺物 番号	形状	素材	状態	長さ (mm)	最大幅 (mm)	厚み (mm)	重さ (g)	備 考
113	08	基石	砂岩	31U-011	1	楕圓形	内磨	破片	457	253	9.8	19.5	両面磨削、透通線り有り、磨面緑字有り
113	70	基石	凝灰岩	SK-007	1	不整形片形	私有	完整	47.8	68.3	25.4	129.1	丸磨面線り有り
113	71	磨石	砂岩	31U-012	2	台形	私有	完整	36.2	40.2	24.9	116.2	線磨
113	72	石尾形石器	安山岩	31U-010	13	台形	-	アツト	34.3	70.1	44.2	126.8	上磨面有り

第14表 縄文時代石器（4）砥石観察表

種別	No.	種 類	石 材	遺構番号	遺物 番号	形状	素材	状態	長さ (mm)	最大幅 (mm)	厚み (mm)	重さ (g)	備 考	
114	1	砥石	軟質砂岩	31U-25A	2	塊状	-	一部欠	26.0	33.1	12.2	30.7	両面、磨削上下、一端線磨、磨削跡のみ	
114	2	砥石	軟質砂岩	31U-25	1	塊状	-	完整	52.2	41.2	16.5	39.6	両面、磨削上下砥面、1端磨き、1面削磨	
114	3	砥石	軟質砂岩	31U-24D	10	台形	-	完整	48.3	48.8	11.8	38.4	両面、磨削上下、両端磨削、一部削磨	
114	4	砥石	軟質砂岩	31U-94	1	塊状	-	一部欠	49.7	36.4	13.9	30.9	両面、磨削上下、一端線磨、一部削磨、1端削磨	
114	5	砥石	軟質砂岩	31U-13D	4	片磨	-	一部欠	56.6	44.2	12.8	47.8	両面、磨削上下、一端線磨、両端磨削	
114	6	砥石	軟質砂岩	31U-14	1	片磨	-	完整	70.2	29.9	12.2	42.0	両面線磨、磨削跡有り、凹み、1端磨削	
114	7	砥石	安山岩	31U-22D	10	片磨	-	一部欠	53.2	45.0	10.8	27.0	両面線磨、線磨跡のみ、磨削上下、一端線磨	
114	8	砥石	凝灰岩	31U-43C	1	片磨	-	一部欠	43.1	39.9	8.6	19.9	両面、磨削上下、一端線磨、1磨削跡有り、凹み、1磨削跡有り	
114	9	砥石	軟質砂岩	31U-28C	1	片磨	-	完整	52.1	27.8	20.2	54.9	両面、磨削上下砥面、一端磨削跡有り	
114	10	砥石	軟質砂岩	31U-22D	1	片磨	-	一部欠	56.3	27.8	17.0	42.1	両面、磨削上下、一端線磨	
114	11	砥石	軟質砂岩	31U-22D	1	片磨	-	一部欠	4.7	25.5	40.7	124.8	30.1	両面、磨削上下砥面、両端磨削
114	12	砥石	砂岩	31U-13	1	片磨	-	線磨	37.1	41.7	5.8	27.0	両面、磨削上下砥面	
114	13	砥石	軟質砂岩	31U-05A	1	片磨	-	破片	23.5	38.3	12.1	29.7	両面、一端線磨	
114	14	砥石	軟質砂岩	31U-02	1	-	-	一部欠	40.6	45.9	19.2	43.4	両面、磨削上下、一端線磨、磨削跡のみ	
114	15	砥石	軟質砂岩	31U-24D	17	-	-	一部欠	69.2	33.6	14.4	32.3	両面、磨削上下砥面、一端磨削	
114	16	砥石	軟質砂岩	1ト	1	-	-	一部欠	56.1	56.5	23.2	111.0	5面線磨、線こ	
114	17	砥石	軟質砂岩	31U-13A	11	長方形	-	ほぼ完整	76.6	67.7	11.2	85.0	両面、磨削上下、一端線磨、磨削跡	
114	18	砥石	砂岩	31U-28C	1	長方形	-	一部欠	71.1	65.1	26.0	117.2	4面線磨、凹み、透通線り	
114	19	砥石	軟質砂岩	31U-19C	3	-	-	完整	77.4	46.6	5.7	30.3	一面線磨、凹線磨跡、透通線り、両端磨削	
114	20	砥石	砂岩	31U-19C	3	台形	-	完整	83.0	49.5	19.6	113.6	両面線磨、磨削跡、ゆるく凹み	
114	21	砥石	軟質砂岩	31U-35A	1	楕圓形	-	ほぼ完整	89.9	53.5	19.6	97.1	磨削跡、透通線り、線、両面磨削、1端磨削	
114	22	磨石・砥石	砂岩	SK-013	4	楕圓形	-	完整	90.7	38.8	10.5	86.1	片磨削磨、透通線り、両面磨削、磨削跡両面あり、1磨削跡有り、凹み	
114	23	砥石	軟質砂岩	31U-95A	2	不整形片形	-	完整	101.1	56.1	22.6	135.5	1面削磨線磨、磨削跡有り、一部ノコ	
114	24	砥石・磨石	アツト	18ト	1	楕圓形	私有	完整	46.8	56.7	42.8	233.6	両面磨削、両端線磨線り、透通線り有り	
114	25	砥石・磨石	軟質砂岩	31U-13D	6	楕圓形	私有	完整	45.2	28.1	16.8	28.3	両面線磨、両端磨削	
114	26	砥石	軟質砂岩	1ト	1	長方形	線磨	2.2	30.0	42.5	12.9	6.2	両面線磨、線こ	
114	27	砥石・磨石	軟質砂岩	31U-02D	5	片磨	破片	破片	80.6	59.6	25.2	109.2	両面線磨、磨削跡	
115	28	砥石	砂岩	18ト	1	-	-	一部欠	44.8	64.3	49	39.6	1面削上下、透通線磨	
115	29	砥石	砂岩	31U-94D	1	-	-	一部欠	71.3	70.3	66	47.5	一面線磨、線こ、凹み	
115	30	砥石	軟質砂岩	31U-04A	1	-	-	一部欠	120.6	93.0	14.0	180.8	一面小欠砥面、小凹み	
115	31	砥石	軟質砂岩	31U-33A	8	-	-	一部欠	58.0	72.0	10.8	80.9	両面、両端線磨、一端凹み、凹み	
115	32	砥石	軟質砂岩	SK-007	1	-	-	一部欠	71.3	76.9	38.8	220.2	6面線、4面線跡、凹みのみ、磨削	
115	33	砥石	軟質砂岩	31U-04A	1	-	-	平欠	116.6	63.8	40.8	303.0	両面線磨、線磨跡、表面磨削、凹凸石磨	
115	34	砥石	軟質砂岩	SK-010	803	-	-	完整	47.9	77.4	32.1	175.3	6面線、4面線跡	
115	35	砥石	軟質砂岩	SK-010	4-399	-	-	破片	113.1	65.4	38.4	292.9	両面、5面線	
115	36	砥石	軟質砂岩	SK-006	1	-	-	完整	51.9	29.8	20.4	65.0	多面線、5面線跡	

第15表 縄文時代石器（5）石皿類観察表

種別	No.	種 類	石 材	遺構番号	遺物 番号	形状	素材	状態	長さ (mm)	最大幅 (mm)	厚み (mm)	重さ (g)	備 考
116	1	石皿	多孔質安山岩	SK-013	204	楕圓形	-	2-5	154.3	96.1	61.7	899.8	両面凹、中心線磨、透り、線磨
116	2	石皿	安山岩	SD-002	3	円形	-	1-4	177.2	134.4	53.8	703.4	1面凹、裏面凹、裏面線磨、透り
116	3	石皿	2面凹	31U-22C	12	円形	私有	1-4	141.8	116.6	54.6	607.1	1面凹、両面線磨、裏面小凹
116	4	石皿	安山岩	31U-09C	1	円形	-	1-4	134.6	133.0	55.2	665.5	1面凹のみ、線磨、裏面透れのみ、裏面多孔多面、透れ一部線磨
116	5	石皿	安山岩	31U-34A	9	楕圓形	-	1-5	128.5	99.3	50.2	690.2	1面凹のみ、裏面透れ、小凹、線磨
116	6	磨石 (石皿)	安山岩	31U-34A	9	長方形	石磨片	完整	125.5	79.5	51.4	967.3	石磨跡、片磨のみ、小凹、裏面平削磨跡、磨削跡有り、両端磨き、透り
116	7	石皿	安山岩	SK-004	4	楕圓形	-	破片	129.5	90.1	33.3	591.8	1面凹のみ、両面、磨削小凹、両面線磨
116	8	石皿	安山岩	31U-22D	7	-	-	-	95.9	43.2	51.9	349.7	1面凹のみ、裏面、裏面中央凹み、平凹、線磨一部磨削
116	9	石皿	内磨安山岩	31U-22D	4	-	-	破片	88.1	101.7	42.7	398.7	1面凹のみ、裏面平凹、両面、磨削小凹、線磨
116	10	石皿	安山岩	SK-013	7	-	-	破片	90.5	76.6	30.2	302.1	両面凹のみ、1面小凹、線磨
116	11	石皿	安山岩	31U-33A	9	-	-	-	109.0	119.9	59.8	628.5	1面凹のみ、1面付、裏、裏面平削、磨削、1端線磨、透れ
116	12	石皿	軟質砂岩	18ト	-	楕圓形	-	1-3	183.2	123.4	73.2	1861.3	両面凹、線磨、磨削跡、線磨、磨削磨削跡、透れ、透れ使用、線磨
116	13	磨石 (石皿)	内磨	31U-33A	10	台形	石磨片	完整	77.7	60.3	38.4	296.3	両面凹、磨削跡有り、石磨跡
116	14	石皿	アツト	31U-12B	3	-	-	破片	115.6	147.7	87.6	1495.7	大型凹石磨跡、片磨のみ、両面小凹、線磨内線磨
116	15	石皿	砂岩	31U-28C	2	不整形片形	私有	1-2	188.5	146.3	56.0	1399.0	両面凹、中央線磨、1面小凹、線磨一部磨削、透り
117	16	磨石 (石皿)	安山岩	31U-24D	10	不整形片形	石磨片	完整	84.1	86.0	43.7	206.9	1面凹、線磨、裏面小凹、透磨跡、一部磨削
117	17	石皿	磨石片磨	31U-09C	1	-	-	2-5	175.8	131.1	38.5	955.7	両面凹、磨削跡、小凹
117	18	石皿	緑色片岩	31U-11C	1	-	-	破片	115.4	84.0	25.2	310.0	1面凹のみ、両面小凹、線磨、透れ、透れ
117	19	石皿	安山岩	31U-08D	2	-	-	破片	64.4	103.5	40.6	221.4	両面凹のみ、1面線磨、裏面小凹、透れ
117	20	石皿	多孔質安山岩	31U-33A	8	-	-	線磨跡	60.4	51.3	50.2	111.4	1面付
117	21	石皿	多孔質安山岩	31U-02C	2	-	-	破片	143.0	100.7	46.0	731.0	1面凹のみ、線磨、裏面中央凹み
117	22	石皿	多孔質安山岩	31U-24D	18	-	-	破片	87.5	104.4	46.8	474.6	1面凹のみ
117	23	石皿	多孔質安山岩	31U-13A	14	-	-	破片	105.0	77.0	66.8	345.6	1面凹のみ、磨削跡、小凹、透れ、透れ

標本 No.	種類	石材	遺構番号	遺物番号	形状	素材	状態	長さ (mm)	最大幅 (mm)	厚み (mm)	重さ (g)	備考
117 24	石鏃	軟質砂岩	31U-13C	14	穂形鏃	-	1/4	1822	117.2	78.1	1,436.4	1面凹み、側面砥痕、両面・側面細溝
117 25	石鏃	準石英安山岩	31U-13	-	-	-	-	135.4	126.3	72.6	407.8	1面凹み、砥痕、裏面中央部へ凹み
117 26	石鏃	準石英安山岩	31U-20D	4	-	-	-	104.5	115.9	54.1	520.9	1面凹み、砥痕、側面細溝、中央部へ凹み
117 27	石鏃	軟質砂岩	35S-013	4	穂形鏃	-	-	179.1	112.3	42.7	1,070.4	軟さへい、1面凹み、小凹み、側面細溝
117 28	白石	石英砂岩	31U-13C	9	-	粘土	破片	137.7	127.8	95.4	2,100	両面細溝、側面細溝、
117 29	白石	花崗岩	31U-12B	3	穂形鏃	粘土	完形	146.3	148.4	112.9	3,240	両面・1面磨削、凹み、縁一底磨削、鋭角?
117 30	白石	安山岩	2-3トレ	1	不磨削	粘土片	完形	143.7	133.5	68.9	1,756.3	磨石・緑石面、両面一底磨削、縁・縁一底磨削、ノブナ
117 31	磨石 (花崗)	軟質砂岩	35-002	3	方形?	-	平欠	62.8	103.8	45.7	410.7	3面磨削、2面磨り?、石鏃用

第16表 縄文時代石器 (6) 石製品観察表

標本 No.	種類	石材	遺構番号	遺物番号	形状	素材	状態	長さ (mm)	最大幅 (mm)	厚み (mm)	重さ (g)	備考
118 1	磨盤石	安山岩	3-1トレ	1	-	-	片磨盤片	95.8	53.3	37.7	234.5	C字凹み 44.7mm、厚さ 20.7mm
118 2	石鏃	緑色片岩	31U-20D	6	穂形鏃	-	磨削	42.5	45.5	28.5	132.1	縁欠砥痕
118 3	石鏃	雲母片岩	18-1トレ	1	穂形鏃	-	磨削	250.4	80.1	34.9	1,128.7	縁欠凹み有
118 4	石鏃	緑色片岩	31U-24A 31U-13A	2-8	穂形鏃	-	磨削	156.6	52.9	44.9	392.4	側面凹み
118 5	石鏃	雲母片岩	3-1トレ	1	穂形	-	中央部折	160.0	53.5	38.8	456.0	側面凹み
118 6	石鏃	緑色片岩	31U-42	2	美状	-	砥石	182.9	26.4	14.2	201.0	石鏃用?、先端磨削
118 7	石鏃	緑色片岩	2-1トレ	1	穂形	-	破片	40.4	26.3	31.9	37.0	未磨削部、14と石質近似、側面凹み
118 8	石鏃	緑色片岩	31U-22A	3	穂形	-	破片	96.2	30.4	26.2	132.3	未磨削部打痕
118 9	石鏃	千枚岩	23-1トレ	1	穂形	-	破片	89.1	33.4	36.8	116.7	穂先、両端欠、取付痕、側面凹み
118 10	石鏃	緑色片岩	3-1トレ	1	穂形	-	先端部	100.8	32.2	33.5	90.5	石鏃?、先端磨削、側面、側縁折み
118 11	石鏃	雲母片岩	31U-25A	4	楕円棒状	-	破片	106.0	37.4	15.2	77.6	石鏃?、端部につぶれ有
118 12	玉	翡翠	31U-02D	8	半月形	-	-	2.2	1.2	1.2	6.0	穴あり
118 13	玉	翡翠	31U-02D	8	円球状	-	-	1.5	0.7	0.7	0.5	
118 14	石鏃	軟質砂岩	31U-02D	1	方形	-	完形	36.9	25.8	9.2	14.4	10字断面入り
118 15	石鏃	砂岩	31U-28C	7	穂形鏃	粘土	完形	53.8	30.7	7.9	11.9	両面磨削入り入り
118 16	板状石製品	緑色片岩	31U-20D	5	分銅形	-	-	70.9	70.3	19.7	129.1	先端磨削
118 17	板状石製品	緑色片岩	31U-20D	10	三角形	-	-	42.4	31.2	8.9	14.5	短辺に凹み有、両縁磨削・磨減
118 18	板状石製品	雲母片岩	31U-04	1	円形	-	一底欠	41	36.7	13.7	44.0	縁が磨かれている
118 19	板状石製品	雲母片岩	31U-50	1	穂形鏃	-	-	82.8	55.8	17.7	82.8	縁が磨かれている
118 20	板状石製品	雲母片岩	31U-64D	2	穂形鏃	-	-	90.1	42.6	12.1	40.7	縁が磨かれている
118 21	板状石製品	雲母片岩	34-1トレ	38	分銅形	-	一底欠	102.8	46.8	18.0	94.2	縁縁・片磨削痕
118 22	浮子	輝石	31U-38B	6	長楕円形	-	完形	104.3	53.9	30.5	21.4	一方凹み凸あり
118 23	浮子	輝石	31U-62D	2	楕円形	-	平底欠	64.3	42.9	20.9	12.2	一方凹み凸あり
118 24	浮子	輝石	31U-14D	9	舌形	-	一底欠	74.8	51.5	13.7	8.9	片縁部切痕、一底欠
118 25	輝石製品	輝石	31S-03	1	円形	-	完形	47.0	40.9	20.7	47.1	

第4章 弥生時代

堅穴住居跡1軒、堅穴状遺構1基が遺跡北半部31S区から検出された。ともに調査区最北端部、標高20mライン上に検出されている。いずれも後世の削平および斜面の崩落などにより一部を確認したのみである。時期的には弥生時代中期後半の宮ノ台式期から後期の久ヶ原式期にかけての所産と考えられる。

第1節 堅穴住居跡

SI-004 (第120・121図, 第17表, 図版5・62)

弥生時代の堅穴住居跡と確認できる1軒である。現存しているのはコーナーの一边と柱穴2本に朽跡である。残された2本の柱穴の位置および壁から想定し、一边が6m~7m程度を計るやや角丸の方形であろうと考える。主軸は南北に対して45度ほどずれる。柱穴はともに床面から40cm程度の掘り込みである。柱穴の配置からみて、堅穴住居跡としての遺存度は全体の1/4程度であろうか。掘り込みは、遺構確認面より床面まで、現状で40cmほどとしっかりとした掘り込みがみられる。しかしながら地形図上では床面を基準としても上下1m以上の高低差のある斜面への掘り込みとなっているため東側が相当程度崩落しており、自然地形への掘り込みを考えた場合いささか不自然な感が残る。床面を盛り土していた可能性もあるものと考えられないだろうか。炉跡は直径60cm、深さは18cmの浅い掘り込みみであるが、全面に赤変硬化している。

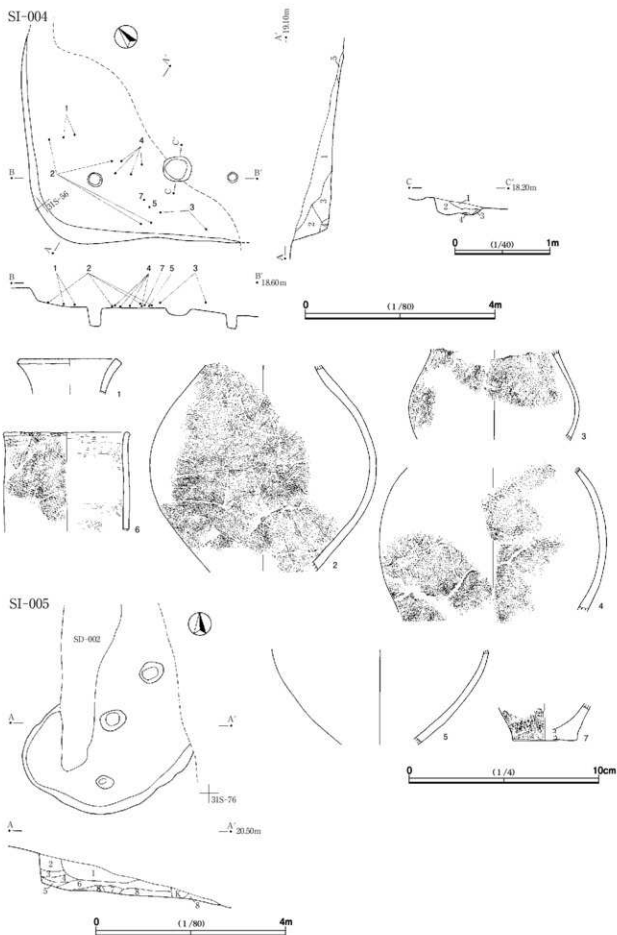
出土遺物 1は壺の口頸部片である。全体に摩耗が激しいが、部分的にハケ目痕がみられる。2~5は壺の胴部破片である。2は全体に器面の摩耗が激しいが、無文の頸部下に単節LRの羽状縄文が廻り、以下には細かい斜縄文が全体に施されるようである。胴部下半に黒斑が確認される。3は細かい単節LRの斜縄文が全体に認められる。4は摩耗が著しいが、部分的に確認される文様や胎土等から、2と同一個体となる可能性がある。5は胴部下半で、無文となるようである。6は筒状となる土器の上半部で、口縁部がやや肥厚し、口唇部に雑な刻みが加えられる。胴部の摩耗が顕著であるが、ハケ目が全体的に観察される。7は甕の底部である。

第2節 その他の遺構と遺物

SI-005 (第120図, 図版5)

中~近世の溝状遺構に大半を切られており、また攪乱および谷側の流出等により全体の1/3程度の遺存と思われる。調査時点では住居跡として扱っているが、底面は緩やかな皿状となり、住居床面のような平坦面を作り出しているとは言いがたく、堅穴状の遺構としておく。平面形は短辺が2.7m、長辺が約5.0mの長方形を呈すると思われる。主軸は、SI-004号跡と同じく南北に対して45°ほどずれるようである。柱穴状のピットが3本検出されているが、性格は不明である。

遺物の出土はなかった。



第120図 弥生時代 SI-004・出土遺物、SI-005

第3節 遺構外出土遺物

弥生土器 (第121図1～13, 第17表, 図版62)

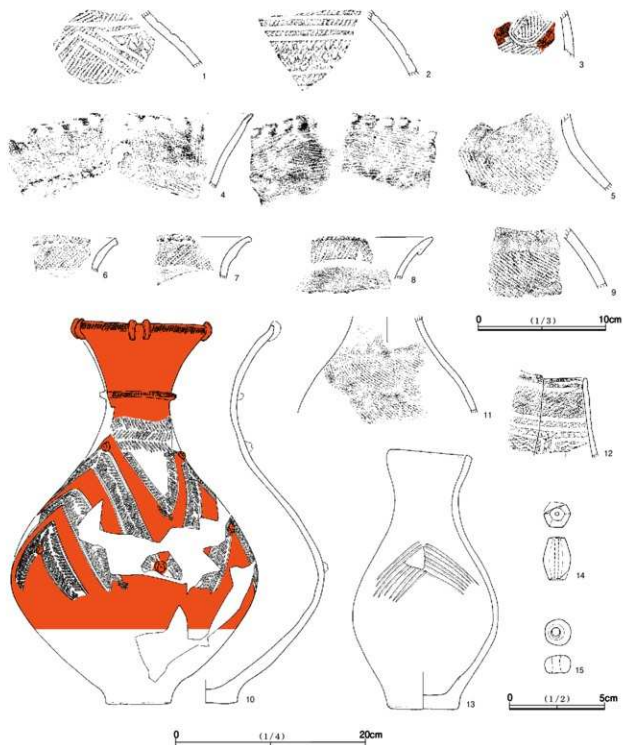
遺構外から出土した弥生土器は、弥生時代中期から後期にかけてと考えられる。

1は壺の胴部片である。小片であるが、単節LRの斜縄文を地文とし、横位の沈線下に三角形の区画が形成され、部分的に刺突が充填される。2も1と同様の縄文を地文とする。沈線間に刺突列が充填される。3は壺の胴部片で、単節LR縄文を地文とし、楕円形の沈線による区画が加えられる。明確ではないが、無文となる磨消し部分に赤彩がみられる。4は甕の口縁部で、指頭押捺による波状を呈する。内外面とも粗いハケ目が施される。被熱による器面の荒れが著しい。5は壺の肩部片で、胴部には単節RLの斜縄文がみられる。胎土中に砂粒を多く含む。6・7は甕の口縁部破片で、同一個体となろうか。口縁部外面および口唇部に附加条縄文が施される。8は折り返し口縁の甕の小片である。口縁部外面と口唇部に燃糸文が施される。9は附加条縄文が施された甕の胴部破片である。10は、口径14.0cm、器高40.7cmを測る壺である。口頸部はハの字状に開き、口縁部が内傾気味となる。口縁部外面および口唇部には、細かな単節LR縄文が施される。口縁部にはさらに、2個1単位の棒状突起が4単位貼り付けられる。頸部中央には、先端部に刻みを施した突帯が巡り、頸下端部には、細かな3段の羽状縄文(RL-LR-RL)が施される。口縁部内面から羽状縄文上端部に赤彩が施される。頸部下端から胴部最大径以上には、羽状縄文を地文とし、磨消しによる重層の三角形文を胴部全体に3単位施した文様が施される。磨消し部は、原則的に二重の沈線で区画され、内部に赤彩が加えられる。3単位の三角形文の頂部には各1個の頂部に刺突を加えた円形浮文が貼り付けられる。胴部最大径付近にも円形浮文が巡らされるが、頂部の刺突はみられない。胴部最大径以下は無文であるが、ミガキ様の丁寧なナデが施される。底部は突出する。焼成は全体に良好で、胴部最大径以下には、焼成時と思われる黒斑が顕著に残る。11は甕の頸部から胴部片で、頸部は無文となる。胴部には、無文帯を挟んで単節RLの縄文がみられる。12は長頸壺の頸部である。無節縄文を地文とし、太沈線が加えられる。頸部下には縦位の沈線が確認されることから、長方形の区画が巡るものと思われる。区画内には、鋸歯状の沈線が充填されるようである。13は細身の壺で、口縁部の開きは少なく、やや受け口状となる。地文となる縄文はみられないが、胴部上半に相対して2単位の沈線による山形文が施される。沈線の本数は、7本と8本の両者が認められる。底部はやや突出する。胎土中に砂粒を多く含み、ざらついた器表面となる。器面の摩耗もみられるが、特に口縁部から頸部にかけて顕著に観察される。14は水晶製の切子玉、15はガラス玉である。15は腐食が激しく白色化している。いずれも古墳時代の所産と思われる。

第17表 弥生土器観察表

() 測定値, () 現存値

標記 No.	遺物番号	遺物番号	器種	焼成	色調	胎土	時期	型式	口径 (cm)	口径 (cm)	器高 (cm)	器高 (cm)	保存状況	備考
120 1	SI-004	L24											胴部75%, 頸部20%	
120 2	SI-004	12.7.17.19	壺											
120 3	SI-004	1.20.28	甕								30.0		胴部25%	
120 4	SI-004	1A3.11.12										33.3	胴部30%	
120 5	SI-004	1.16											胴部7下20%	
120 6	SI-004	1	甕					13.0			30.0		口縁-胴部50%	
120 7	SI-004	15							10.91		3.0		底面25%	
121 1	3H-94	1												
121 2	3H-95	1												
121 3	3H-14D	2												赤彩
121 4	3H-14E	3												
121 5	3H-14E	5												
121 6	3H-14E	2												
121 7	3H-14E	2												
121 8	3H-14E	3												
121 9	3H-14E	5												
121 10	3H-20B, 16C, 33A	13-35	長頸壺					14.0		31.0	40.7		80%	赤彩
121 11	3H-14E	5									30.3			
121 12	3H-20E	1	壺								24.1		胴部80%	
121 13	3H-14E	4	長頸壺					8.8		7.2	27.3		80%	



第121図 弥生時代遺構外出土遺物

第5章 ま と め

第1節 縄文時代

1 嶋越遺跡と周辺の遺跡

本遺跡の所在する四街道市北部地区、特に物井地区における大規模な発掘調査は昭和46年、千葉県住宅供給公社により開発が着手された「四街道町千代田団地」の建設に伴う発掘調査を嚆矢として幕を開ける。この千代田団地計画区域内の遺跡の発掘調査は、遺跡区域を大きくⅠ～Ⅵ区（第5図①～⑥）に分け調査が実施された。

この結果、四街道町（当時）北部域周辺における古墳群と、縄文時代後期、晩期を中心とする縄文時代の遺跡について発掘調査が行われ、知られることの少なかった当地区における縄文時代～古代にかけての一大遺跡群の存在が知られることとなった。すでに発掘調査が終了してから約40年が過ぎたが、この団地の中心に千代田遺跡群の一部である八木原貝塚（第5図⑦）が公園として保存されている。

その後、物井地区および内黒田地区（昭和60年～62年）の発掘調査により、主要な遺跡のほぼ全域が発掘調査されることとなり、四街道市北部における縄文時代の各時期ごとの様相についてかなり明瞭になってきた。これらの遺跡は、開発事業主体者における事業名称がそれぞれに異なりはするが、四街道市北部域遺跡群（第4図）とも呼べる存在であり、印旛沼に注ぐ鹿島川と手繰川とに挟まれた広大な台地上に立地する遺跡群であると言える。

これらの発掘調査の成果として、物井地区においては、縄文時代の早期～前期にかけての小規模な集落が中心であり、大規模な拠点集落などの形成を見ることはない。小屋ノ内遺跡から早期燃糸文系の小型土偶（木の根系）4点の出土があるのが目立つ程度である。

縄文時代中期前半期は、千代田地区にはⅠ～Ⅱ地点を中心に小規模集落の存在が想定され、内黒田地区においても多少の存在が見られるも大規模化せずに小規模な居住地が点在している状況である。当遺跡においても同様の状況である。

中期前半期においては阿玉台式～加曾利E式期にかけては数点みられたものの、ほとんど存在がうかがえないという、いささか時期的な特異さがみられる。他地区の遺跡においてはこの時期に集落の大規模化がみられるが、物井地区では当遺跡も含め、点在する集落的な密度の薄さが目立つ、と言うべき時期である。

後期前半期においては、千代田Ⅳ区および内黒田地区の大割遺跡（称名寺式期住居跡1軒）に居住地が継続している様子がみて取れる。当遺跡においても堀之内式期よりいささか土器の出土数量の増加傾向がみて取れる。加曾利B式期に至ると、物井地区・内黒田地区ともに遺跡数が増加する。しかし単独の住居あるいは土坑などの検出を除けば、いわゆる拠点集落となり得る存在ではない。

晩期安行式系の土器を検出する遺跡は、当遺跡のほか、小屋ノ内遺跡、千代田遺跡Ⅴ区、内黒田地区池花遺跡などで地域的な広がりを確認することができる。

安行3a式期においては、千代田遺跡Ⅴ区において遺物量も多くみられるが、住居跡1軒のみで、それ以降の集落の展開は確認されていない。千代田遺跡群における晩期の存在は前浦式期までを主たるものとしていると思われる。安行式後半期に関しては周辺地域においてもその影は薄く、嶋越遺跡に多少の比重

をみるものと考えられる。この後の時期、荒海式期においては、物井地区御山遺跡に住居を伴う遺物の検出があり、晩期終末期においては、池花南遺跡から千網式期の土坑を検出するなど縄文時代終末期の生活痕跡を残している。

このように嶋越遺跡の周辺には縄文時代後期より晩期最終末期に至るまで各遺跡において少量の土器の出土がみられるものの、本遺跡においてのみ、土偶を初めとする、特殊土器などを中心とする痕跡を残しているという点が注視されることである。特に主たる生活痕跡である住居跡は単独に近い状態でしか発見されておらず、またこれらは集落と称し得る存在でもない。この地域周辺を通過キャンプ地として考えた場合、嶋越遺跡においては加曾利B式期から安行2式期・3式期までをピークとし、規模を縮小しつつ、大洞A式期に至るまで、長期にわたりこの特定の斜面へ土器のみならず、土偶をも投棄し続けるという事例は、周辺に存在すると想定しうる集落との関わりを想定しなければならない。しかしながら、周辺遺跡を併せてみても、縄文時代後期中半以降各時期においても、千代田遺跡群および内黒田遺跡群、物井遺跡群と移動しながら小規模なムラあるいはキャンプサイトの的に継続している以上の集落はみられない。遺構をとまわず、包含層を検出している他の周辺遺跡はそのほとんどが台地上からの出土であり、また総量としてはその規模はずっと小さい。

このように周辺において、近隣遺跡が発掘調査により、その全容をみられる状況下においてすら、当遺跡の主となる、縄文時代後期後半から晩期中葉にかけて、この狭い谷（傾斜地）に大量の土器の集積・投棄の総量をまかなえるであろう集落の存在をみる事が出来ない。この類似時期の大規模な集落としては、埼玉県桶川市所在「高井東」遺跡をあげることが出来るであろう。5000㎡という限られた調査面積から、縄文時代後期、加曾利B式期から晩期安行3式期にかけて、住居跡35軒、土坑150基以上という集落が存在していることが知られている。

このことから鑑みれば、わずかに加曾利B式期の堅穴住居跡が1軒ではあるが、確認されていることから、台地上に同様の集落の存在した可能性を捨てきれない。あるいは居住集落としてではなく、土偶等の特殊系遺物の数量を考えると、この地は、定期的に巡回してきて、何らかの祭事を行い、土器を投棄して行く場であったと考える必要もある。現在、遺跡周辺には旧来の集落が存在し、近世の開発における削平から免れている可能性のあるエリアも十分に残る。また弥生の項でも取り上げるが、相ノ谷遺跡には縄文時代晩期から弥生時代中期にかけて本遺跡と同時期の遺物が検出されることが知られている。

同じ谷筋であり、対岸に所在する遺跡群に住居集落の可能性を期待するものである。

2 土製品

土偶

縄文時代後期後半には、関東でも土偶が盛行する。本遺跡での出土は破片も含め130点で、その内126点を掲載した。分布は調査区北側斜面にやや集中があるものの、大半は遺物集中地点での出土である。

UR物井地区事業地内で見ると、清水遺跡で2点（みみずく?）、小屋ノ内のみみずく土偶1点、内黒田遺跡では晩期末土偶（髭面を含む）2点が出土している。また北隣にある千代田遺跡Ⅳ区（八木原貝塚）では山形・みみづく土偶、土版状など、多数の土偶・土製品の出土がある。さらに北側の佐倉市吉見台遺跡（1）・同市井野長割遺跡（2）などでも多数の土偶を出土している。一方、遺跡南方の同市宮内井戸作遺跡（3）では遮光器のものを含む700点以上の土偶の出土があった。

当遺跡で特筆すべきは拳手土偶が1点出土していることである。第86図1は頭部が三角形をなし、左手を肘から挙げ、右手を横に添える珍しい例である。手を組む土偶は福島県飯坂町上岡遺跡の著名な例のように、蹲踞土偶にみられる(4)。1の例は下半身が欠けているので蹲踞するか否かは断定できないが、事例から見て可能性が高いと思われる。顔輪郭はハート形であるが、他は山形土偶のものをなぞっており、中間的である。背面の文様は曾谷式期から安行1式期土器と共通であり、その時期のものともいたい。県内の蹲踞土偶の事例は匝瑳市中台貝塚にある加曾利B式期に伴うと思われるものがあり(5)、それに次ぐ例であろう。

また第90図41は頭部が平坦ないわゆる変容土偶である。佐倉市吉見台遺跡に類例がある(6)。

スタンプ形土製品

縄文時代後期中葉を主に、東北地方中心に分布がみられる。近隣では佐倉市吉見台遺跡で6例(印面が長方形1、方形1、楕円形2、円形2)(7)、井野長割遺跡で1例ある(8)。他に県内では酒々井町墨古沢遺跡で円形のもの4例(9)、匝瑳市(旧横芝町)中台貝塚で楕円形のもの1点(10)、市川市曾谷貝塚等で例がある程度で、出土点数は多くない。柄の部分に孔があり、呪いの意味を持った垂飾あるいは垂らして用いたものと考えられている(11)。楕円形で鋸歯状などの沈線文を持つもの、円形で渦巻文や同心円文を持つもの、異形のものなどがある。細沈線文様は、渦巻文・弧状文など、晩期の土版に共通するものがあるが、系統的には別で、東北地方の後期中葉土器の流れか、あるいは独自に発展した文様であろう(12)。土版には吊り下げ使用が想定される有孔のものがあり、晩期にはスタンプ形土製品から土版に用途が取って替わられているのであろうか。なお当遺跡から出土した土版は6点で、安行3a・3b式期か晩期のもので、孔の有無は不明であった。

3 石器

石器は総数523点、石製品21点であった。加えて遺物収納箱(長さ54cm×幅33cm×深さ15cm)で10箱の跡が出土した。石器類の出土量は土器と比べると非常に少ないが、集落跡の場所と遺物投棄の場所とでは遺跡の性格が異なるので、土器と石器の比率が異なって当然だろう。また近隣に石材の供給源がないことも出土量に反映していると思われる。分布は土器同様、遺物集中区に密度が濃くなっている。石器の所属する時期は土器から見て、早・前期、後・晩期と幅広いものが含まれている。

石鏃は総数39点出土のうち、図示したものは破片を除いた35点である。晩期に象徴的なアメリカ式石鏃の出土が時期的な特徴であろう。石鏃以外の剥片石器類は総数39点のうち、31点を掲載した。磨製石斧は総数26点のうち、17点を掲載した。完形品は少ない。軟玉製の小形品(第106図1)が出土しているのが特徴的である。打製石斧は総数39点のうち、破片を除く19点掲載した。刃部や挾部に摩擦が見られるものが多い。おそらく、使用方(皮なめし等)に関係ありそうである。

磨石類は破片を含めると222点あり、そのうち50点を掲載した。扁平・球状や棒状のもの、楕円形・円形のもの、表面に磨痕・凹み、個縁すり等の使用痕が組み合わされたりで分類が難しい。また転用や、破損したものの再利用も目立つ。石皿転用のものは石皿の項で掲載した。

石冠の把手部と思われるものが1点出土している。いわゆる北海道式石冠の頭部に共通するもので、磨石の1種であろう。時期は前・中期のものとしてされている。敲石は、磨石のように広い面をすり使用、擦るのではなく、細長いもの、薄い扁平のものの端部や縁を部分的に叩いて使用している。総点数56点のうち、

破片等を除く21点を掲載した。特徴的なものとして、スタンプ形石器と言われる一端を削って縁や面に弱い使用痕のあるものが数例みられた。早期（特に撫糸文期）のものであろう。

砥石は総点数91点のうち、36点を掲載した。石質は砂岩が主である。小形で断面菱形的のものが17点と多い。SX・SK出土の軟質砂岩製で厚手のものは、砥面が広く平坦なこと、後世の遺構から出土していることからみて、縄文時代のものではないかもしれない。石皿は総点数53点のうち、28点を図示した。完形品の出土はない。またうち4点は破片を磨石に転用されている。石質は安山岩が支配的で、多孔質のものが目立つ。軽石製品を出土した48点のうち、4点を掲載した。全体的に残りが悪く、図示できるものが少なかった。遺物集中区の他、1トレンチでの出土が多かった。

石棒は片岩系の石が主であり、総数30点のうち、10点の掲載である。扁平のものは（第118図6・10・11）石剣とした方がよからう。独鈷石が1点出土している（第118図1）。扁平な片岩の加工品が6点ある（第119図16～21）。特殊な用途のものの可能性もあるのでこのように分類した。他に特殊石製品として翡翠の玉が2点、石錘が2点出土している。これらの遺物の出土は遺跡の持つ、性格の一面を表していると思われる。

第2節 弥生時代

鶴越遺跡では、弥生時代の堅穴住居跡1軒のみが斜面部から検出された。近世以降の物井集落の造成工事に伴う大規模な削平が台地平坦面全面に行われた結果、遺構が確認されたのは、削平を免れた斜面部のみに限られた結果であり、本来は堅穴住居跡をはじめとした弥生時代の遺構が少なからず存在していたものと思われる。

弥生時代の堅穴住居跡から出土した土器は、破片がほとんどで、時的な特徴を捉えることは困難であるが、唯一器形がうかがえる小型の甕は、口唇部に刻みを有し、胴部にハケ状の痕跡が見える。また、壺は胴部の膨らみが少なく、斜縄文が主体となることから、弥生時代中期後半、宮ノ台式期の新しい時期の所産と考えられる。

一方、遺構外から出土した弥生土器は、中期中葉から後期までの土器がみられる。最も古い時期と思われるものは、長頸壺の頸部破片である（第121図12）。頸部のみで全体は不明であるが、縄文を地文とし、横位の太沈線と長方形の区画がみられることから、出流原式期の土器と考えられる。第121図1・2も小片であるが、沈線間に刺突が充填される文様構成となることから、出流原式期の新段階あるいは池上式期の古段階に相当する可能性がある。第121図5～9は、折り返し口縁や附加状縄文が施されていることから、下総地域特有の後期後半の土器と思われる。

遺構外出土の弥生土器の中で注目されるのが、全形をうかがえる2点の壺である（第121図10・11）。10は、胴部上半に沈線で区画した結紐文が重帯化して施され、円形浮文が貼り付けられるのが大きな特徴である。ほぼ無文となる13の長胴化した小型壺とともに、弥生時代中期後半の宮ノ台式期新段階に含まれるものと思われる。この2点の壺は、隣り合ったグリッドから出土しており、本来は何らかの遺構に伴っていた可能性が高い。

このことを考える上で参考となるのが、四街道市山梨に所在する相ノ谷遺跡（13）と、鶴越遺跡と同様、物井地区に所在する馬場No1遺跡（14）である。相ノ谷遺跡の調査はきわめて小範囲であるが、7軒の堅穴住居跡のうち、5軒が弥生時代中期後半の宮ノ台式期に属する。特に相ノ谷1号住居跡では、当該期の

良好なセットが出土している。頸部の隆帯と胴部上半に結紐文による文様構成は本遺跡の弥生土器（第121図10）と類似する。一方、嶋越遺跡の北400mほどに所在する馬場No1遺跡からは、埋葬施設を伴う方形周溝墓が9基まとまって調査されている。出土遺物がほとんどないため、明確な時期比定は困難であるが、周溝の四隅が切れる形状と、頸部に斜縄文を施す細身の壺の出土から、嶋越遺跡とはほぼ同時期の宮ノ台式期に相当する方形周溝墓群と想定される。馬場No1遺跡の調査範囲の中では、弥生時代の集落が検出されておらず、9基まとまった方形周溝墓群は、当該期の墓域としてとらえることができる。

嶋越遺跡、検出された弥生時代の堅穴住居跡は1軒のみである。遺構外から出土した弥生式土器も少ないが、中期出流原式期や中期後葉の宮ノ台式期、後期後半の東関東形土器と多時期にわたっている。中でも弥生時代中期の土器は注目される。出流原式期の土器は、一般的に再葬墓に使用されることが多く、嶋越遺跡に再葬墓が存在していた可能性も否定できない。物井地区の小屋ノ内遺跡では、時期が新しくなるが、弥生時代後期前葉の土器を利用した再葬墓が検出されている。また、宮ノ台式期の土器は、参考とした相ノ谷遺跡と馬場No1遺跡の様相から、堅穴住居跡あるいは方形周溝墓の存在を想定させるものである。

- (1) 林田利之 1999 『千葉県佐倉市吉見台遺跡 A 地点-縄文時代後・晩期を主体とする集落跡と貝塚の調査(本文編)』財団法人印旛郡市文化財センター
- (2) 飯島伸一 2002 『千葉県四街道市郷野遺跡-四街道市成台中土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(1)-』財団法人印旛郡市文化財センター
山岸良二ほか 1983 『佐倉市吉見台遺跡発掘調査 概要Ⅱ』
- (3) 戸谷敦司ほか 2004 『千葉県佐倉市野長沼遺跡(第4次調査)』財団法人印旛郡市文化財センター
小倉和重 2004 『千葉県佐倉市宮内井戸作遺跡-ちばリサーチパーク開発事業予定地内埋蔵文化財調査(8)-』(縄文時代遺物図版編) 財団法人印旛郡市文化財センター
堀越正行 2014 『佐倉市史 考古編(本編)第2章 縄文時代』佐倉市史編さん委員会
安井健一 2010 千葉県 2008年度～2009年12月土偶情報 栃木県地域文化芸術振興プラン推進事業 シンポジウム「土偶研究の現状と課題-関東・東北の事例を中心に-」資料集 栃木県立博物館
- (4) 小野美代子・江坂輝弘 1984 『土偶の知識』考古学シリーズ18 東京美術
- (5) 宮重行ほか 1987 『主要地方道成田松尾線V 中台貝塚 松尾東雲遺跡 八田太田台遺跡』財団法人千葉県文化財センター
- (6) 林田利之 2012 変容する土偶-吉見台遺跡の事例- 大久保忠和考古学振興資金2008年度奨励研究B-2 研究成果Ⅰ「千葉の土偶 研究会資料集」千葉県縄文研究会
- (7) (1) 文献
- (8) (2) 文献
- (9) 横山仁ほか 2007 『東関東自動車道水戸線酒々井PA埋蔵文化財調査報告書 酒々井町黒古沢遺跡 旧石器・縄文時代編4』千葉県教育振興財団
- (10) (5) 文献
- (11) 岡村道雄 2009 『縄文人の祈りの道具-その形と文様-』日本の美術 第515号 藤至文堂
「祭壇に吊り下げたり、置いて供えたものでしょう」との指摘がある。確かに穴の部分には携帯してできる擦れ痕はない。単なるネックレスのような垂飾ではなさそうだ。
栃木県立博物館 1988 第23回企画展『祈りの原像-縄文時代のまつりと道具-』
宮宏明 1988 『スタンプ状土製品に関する若干の問題』『北海道考古学』第24輯 名取武光先生追悼特集 北海道考古学会
堀越正行 2014 『第2章 縄文時代』『佐倉市史 考古編(本編)』佐倉市史編さん委員会
スタンプ形土製品・「東日本の太平洋岸に分布し千葉県は南限の一角にあたり」、「北海道では中期後葉から後期後葉まで存続」、曾谷貝塚例貝層上後期中葉初頭にあたるとしている。
- (12) 円形品の同心円文様は、堀之内式期の把手部に同様のものがある。
- (13) 田川 良ほか 1982 『相ノ谷遺跡 第2節2』『北総報』東京電力北総線遺跡調査会
- (14) 松田富美子 2007 『馬場No1遺跡-物井の里宅地造成地内埋蔵文化財調査-』財団法人印旛郡市文化財センター

写 真 图 版



筒盤遺跡



調査区近景，調査状況



調査状況、出土石器



調査状況, SI-026



SI-004 遺物出土状況
南西から



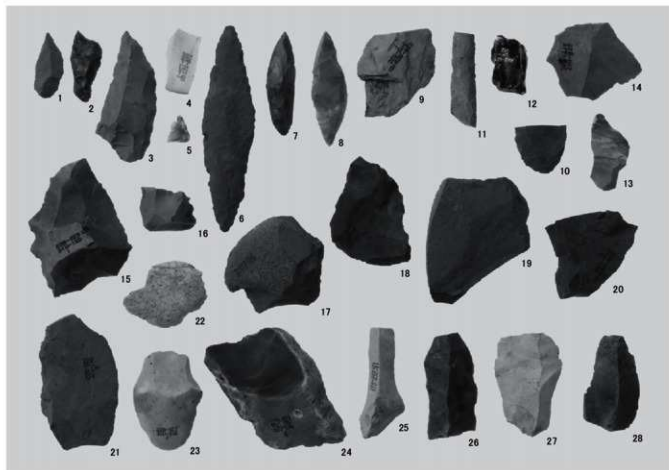
SI-004 伊
北東から



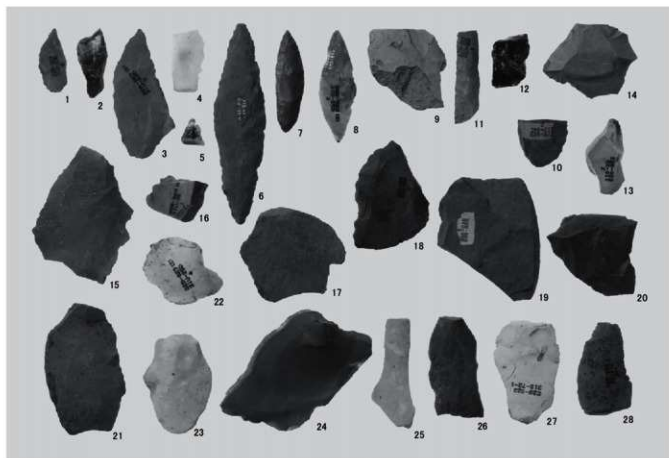
SI-004 北から



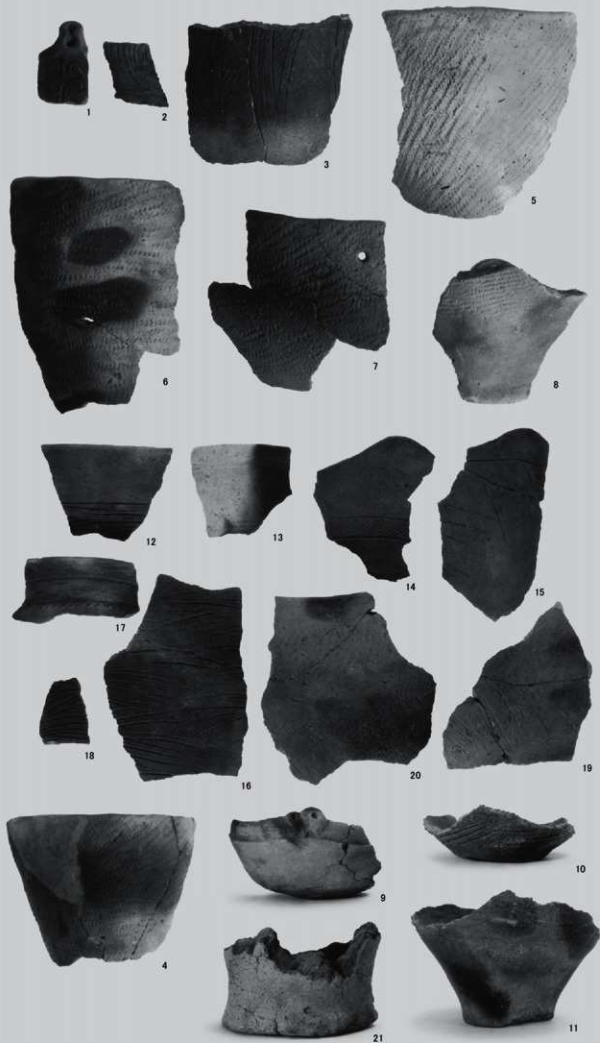
SI-005 北から



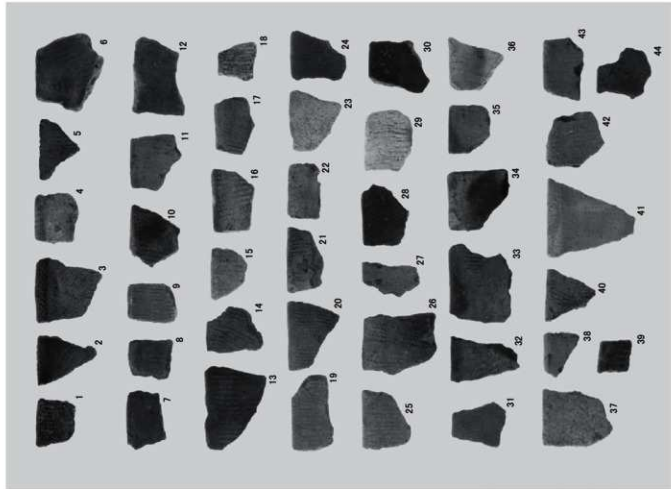
旧石器時代石器 (表)



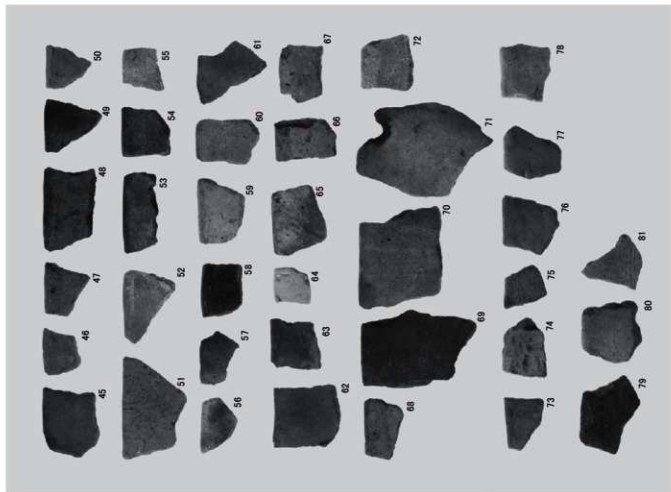
旧石器時代石器 (裏)



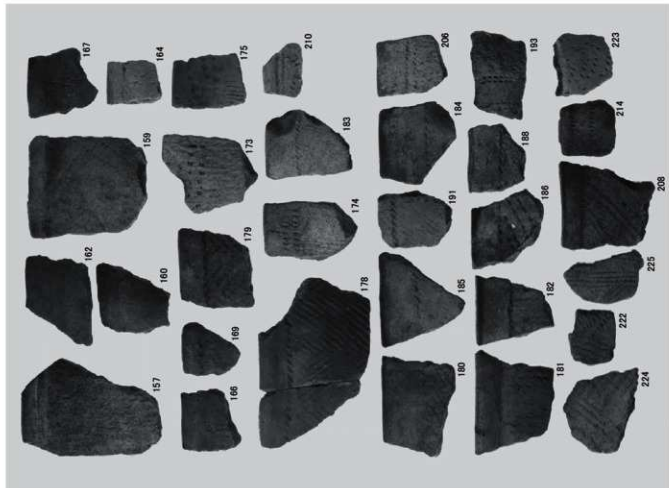
SI-026 出土遺物



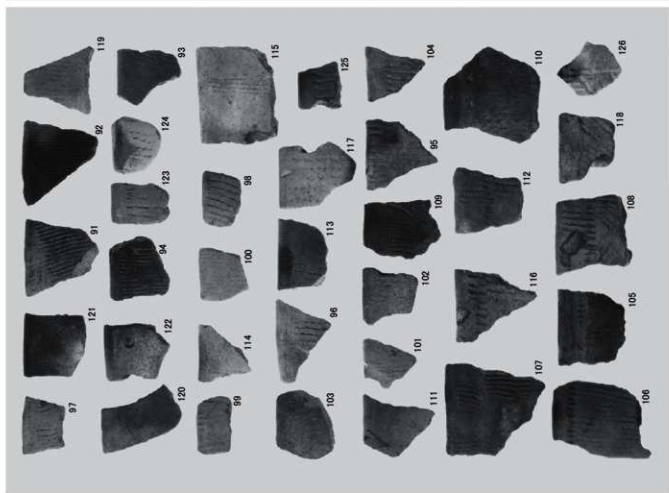
縄文土器 (1)



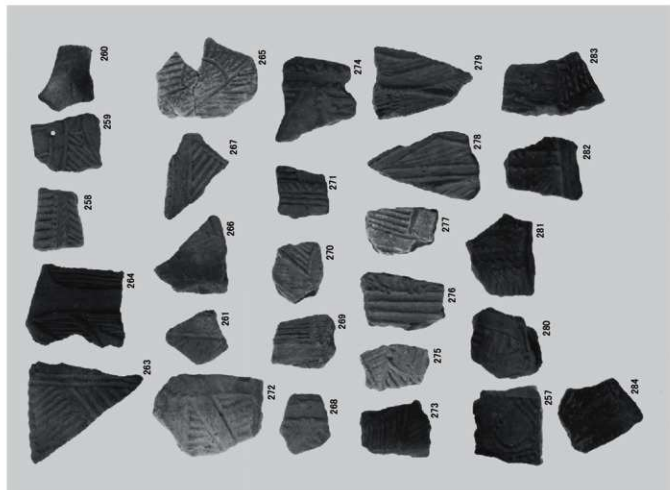
縄文土器 (2)



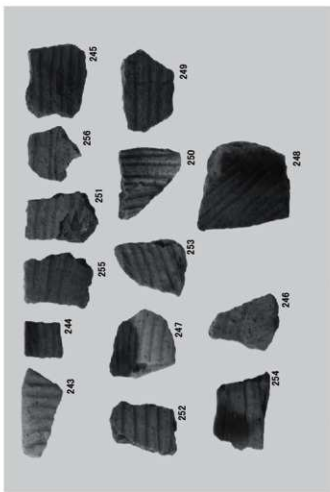
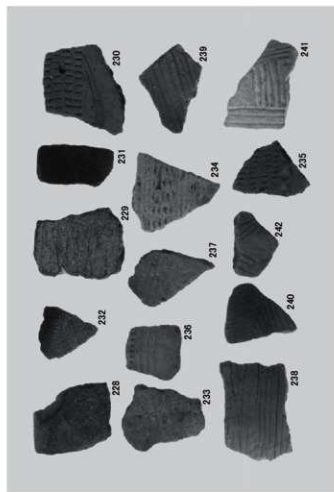
繩文土器 (4)



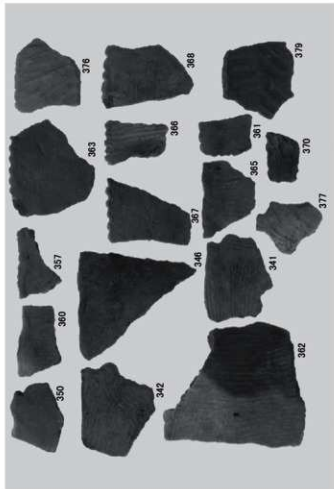
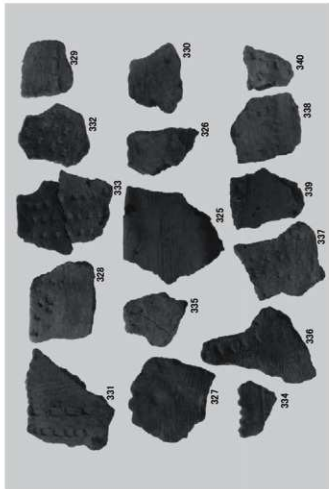
繩文土器 (3)



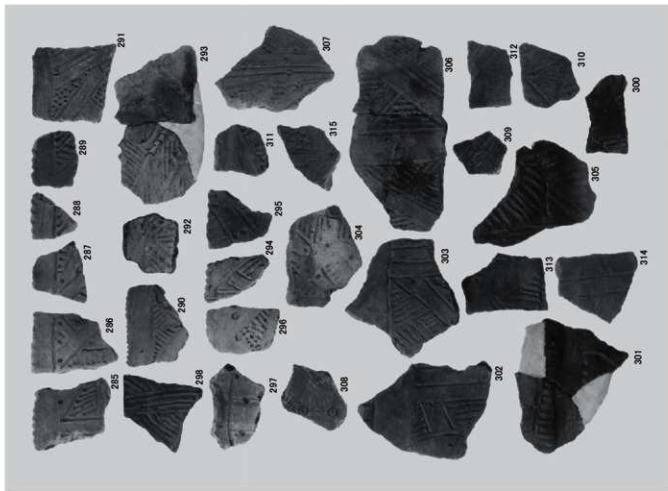
編文土器 (6)



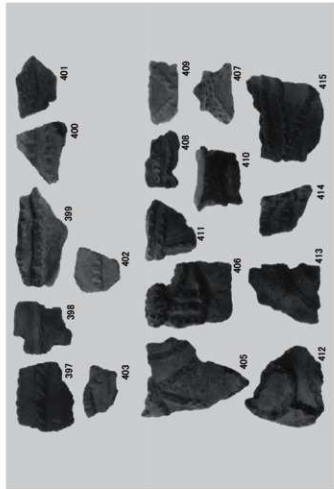
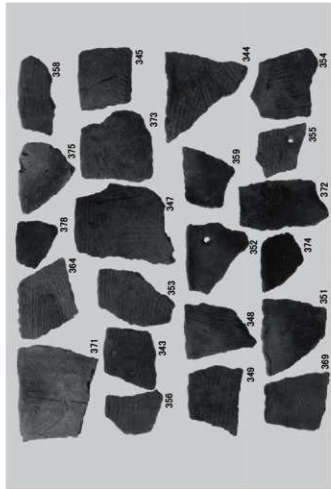
編文土器 (5)



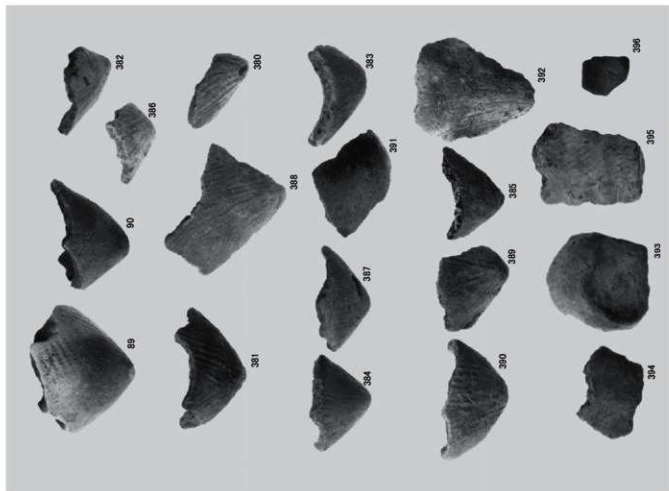
绳文土器 (8)



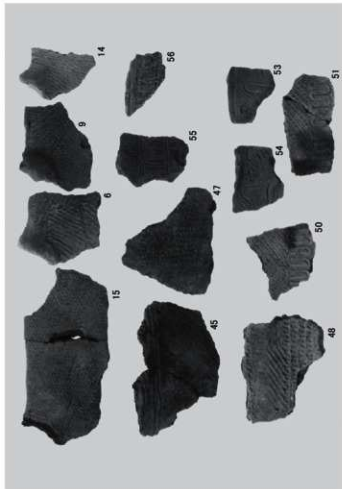
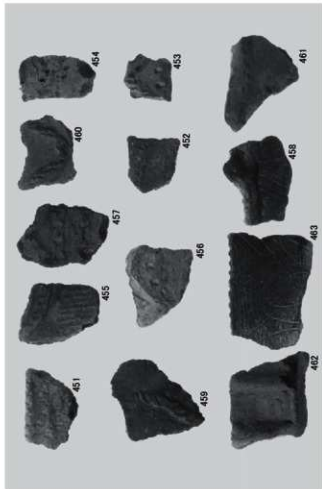
绳文土器 (7)



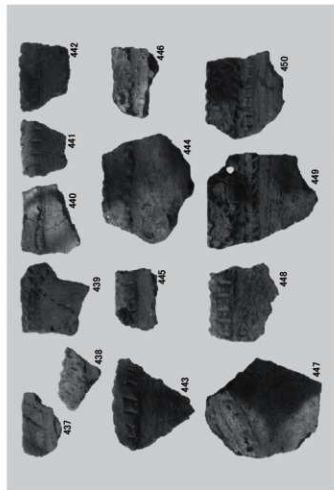
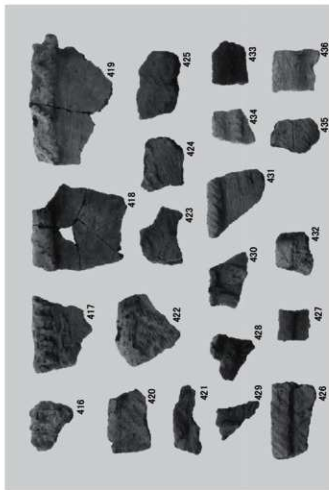
縄文土器 (9)



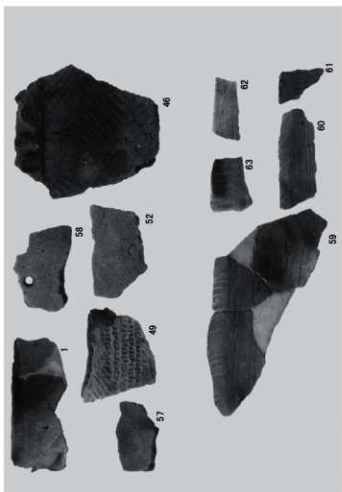
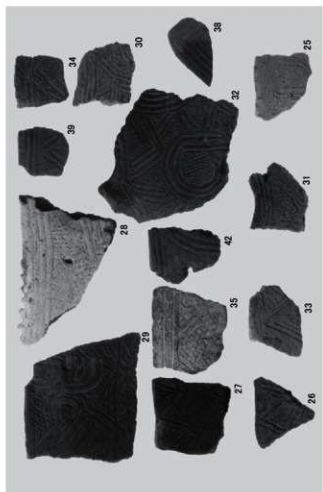
縄文土器 (10)



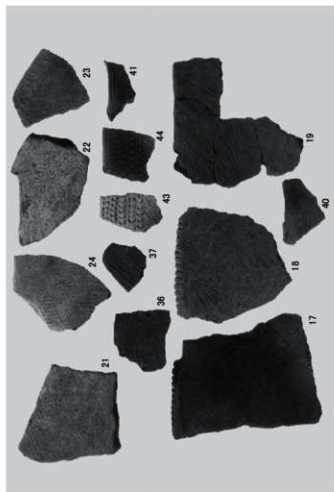
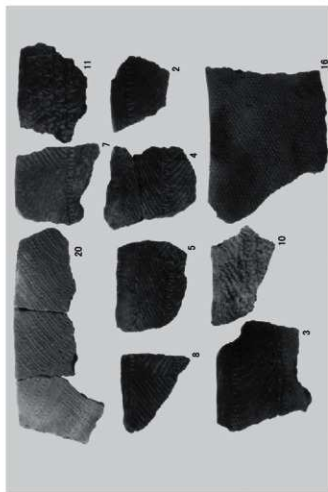
縄文土器 (12)



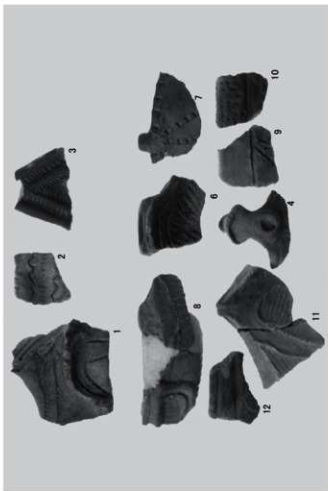
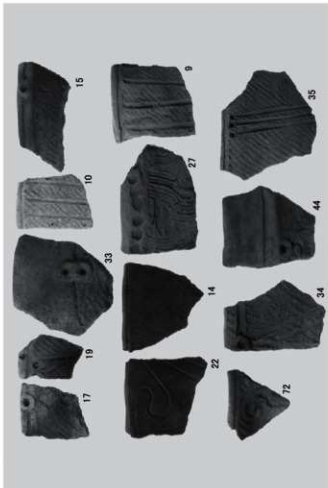
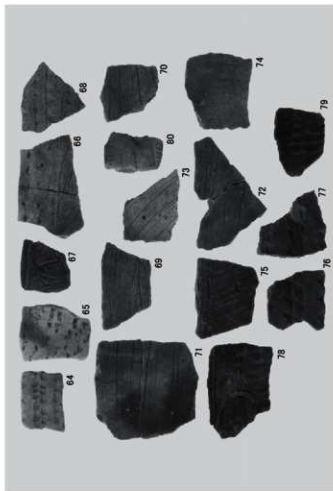
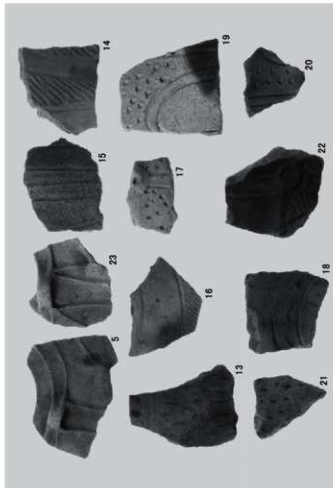
縄文土器 (11)



绳文土器 (14)



绳文土器 (13)

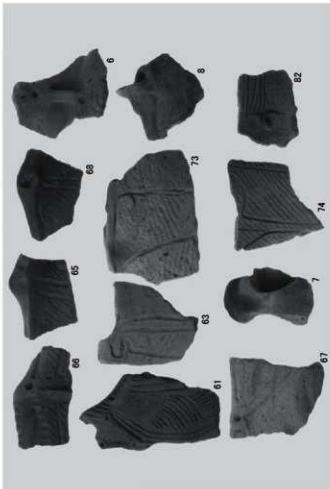
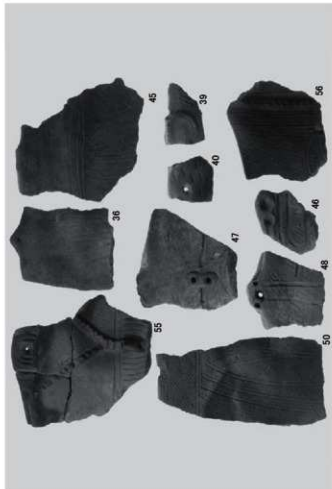


繩文土器 (16)

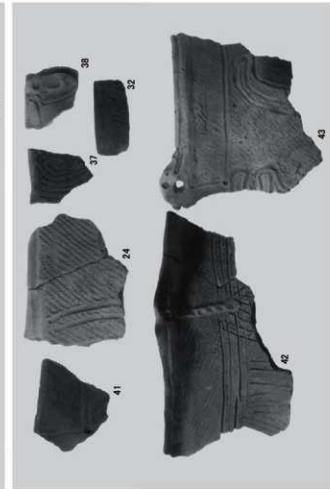
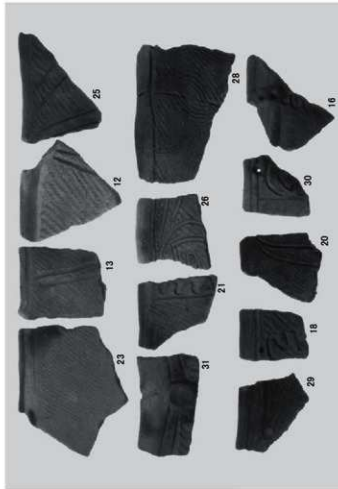
繩文土器 (15)



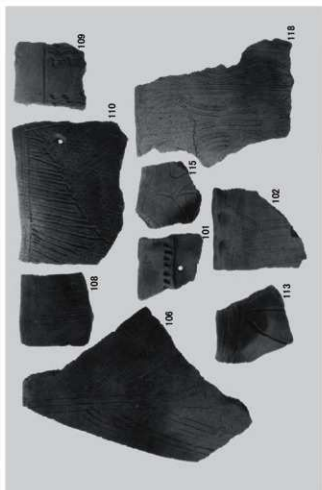
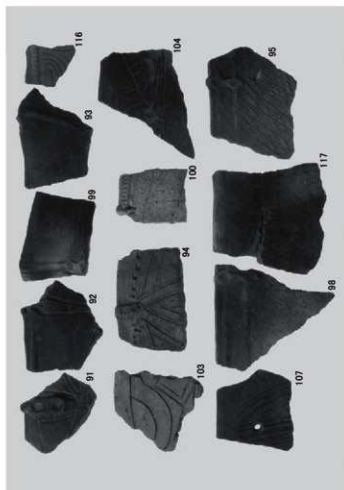
縄文土器 (17)



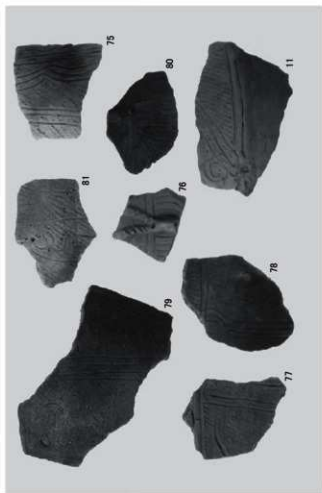
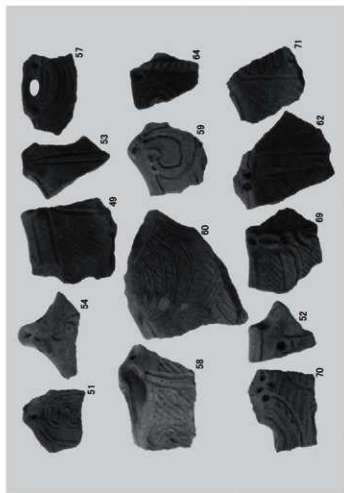
縄文土器 (19)



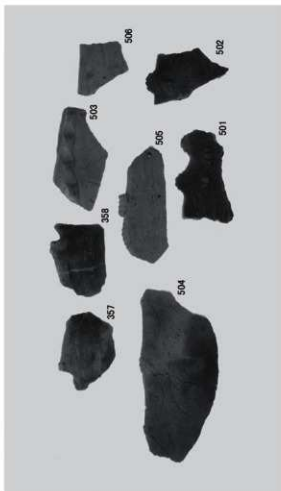
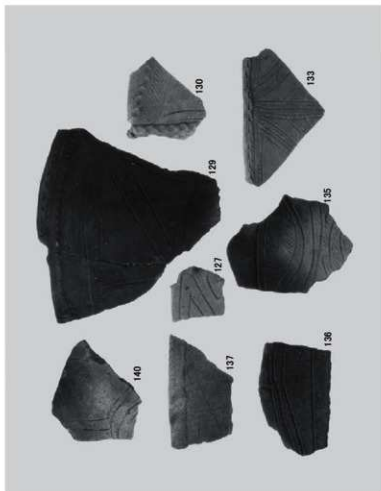
縄文土器 (18)



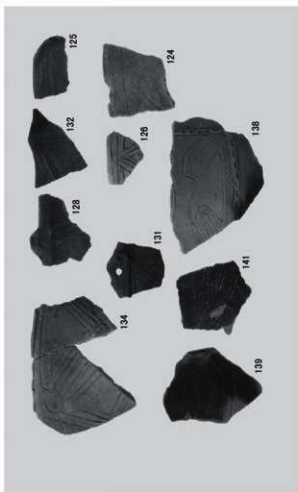
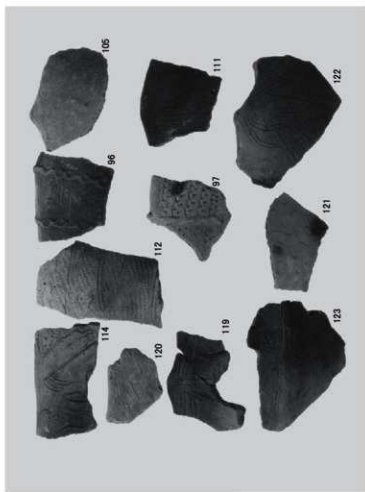
縄文土器 (21)



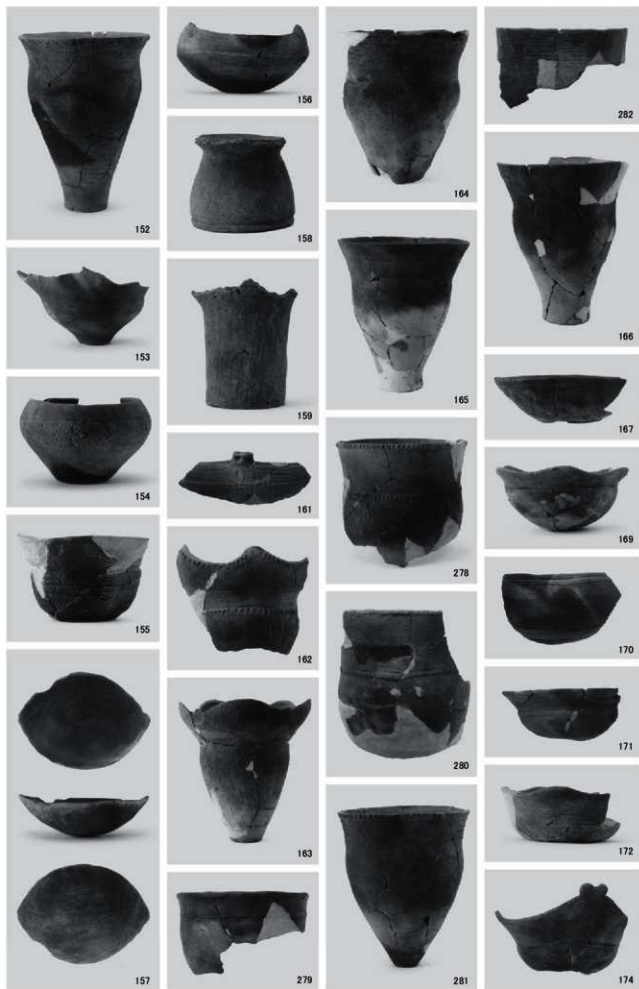
縄文土器 (20)



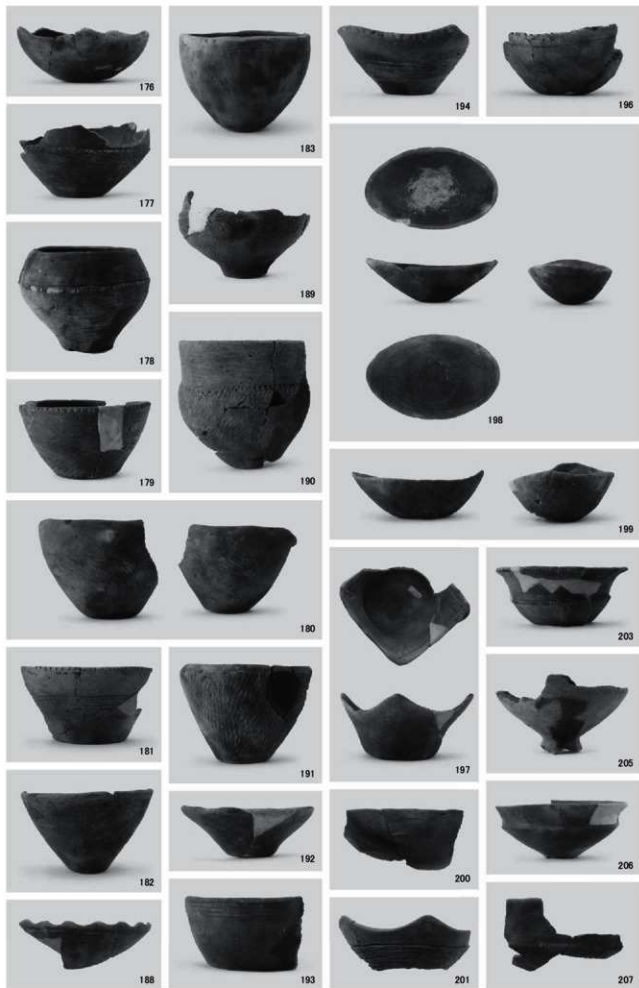
縄文土器 (23)



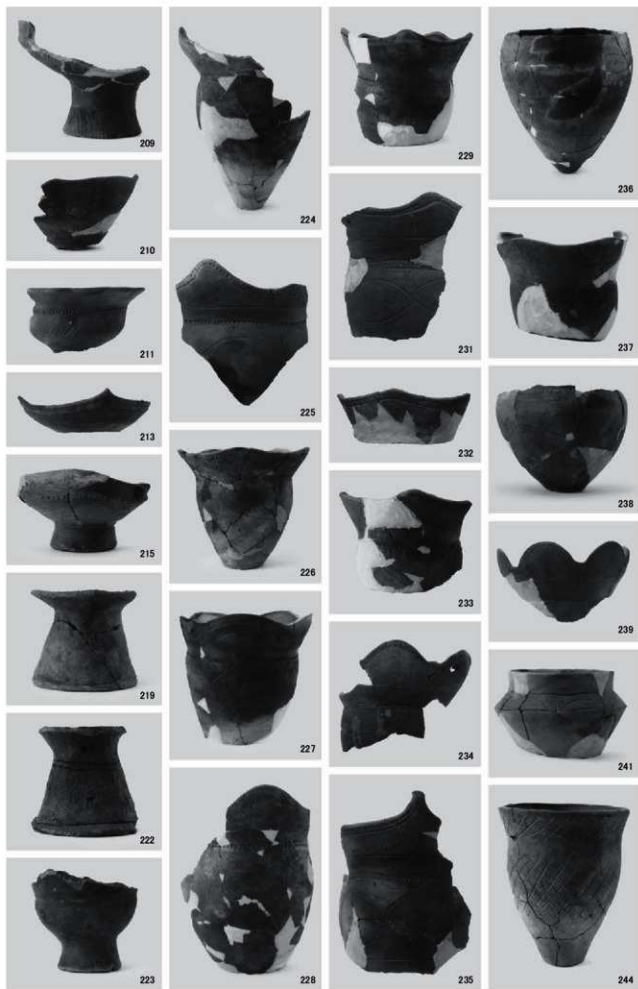
縄文土器 (22)



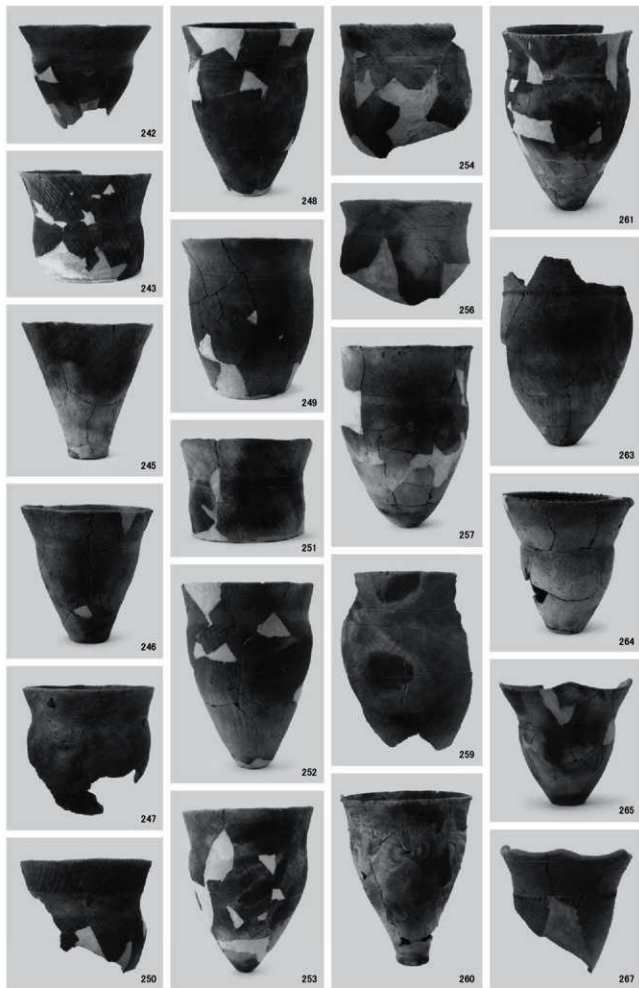
縄文土器 (24)



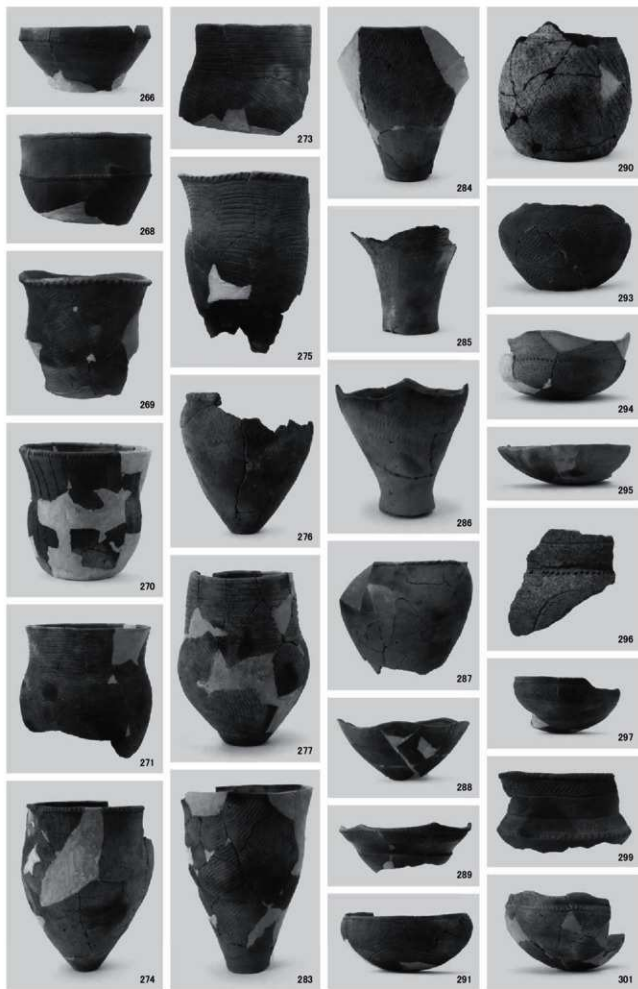
绳文土器 (25)



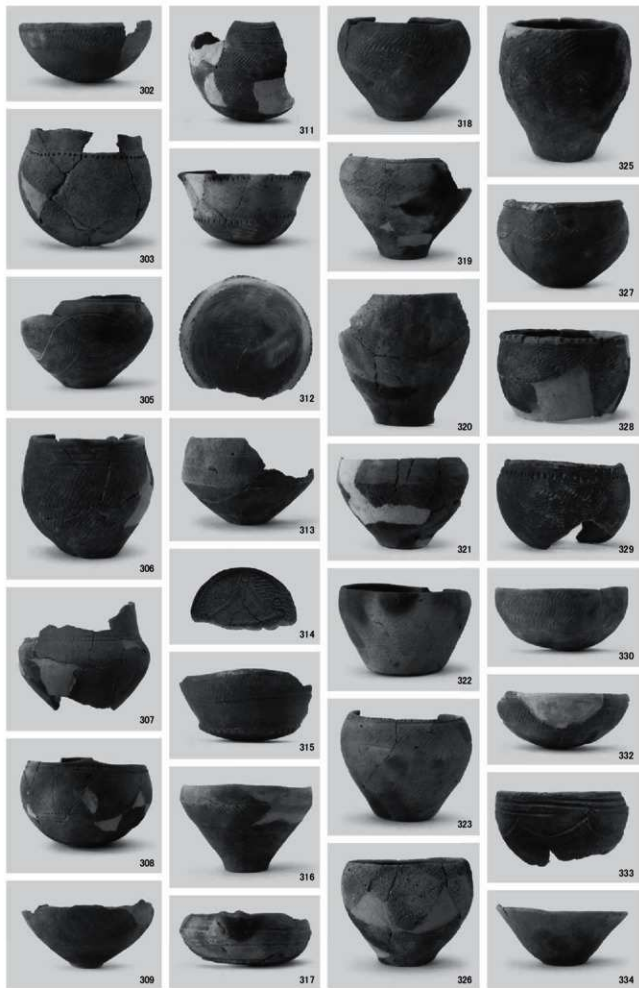
绳文土器 (26)



繩文土器 (27)



縄文土器 (28)



绳文土器 (29)



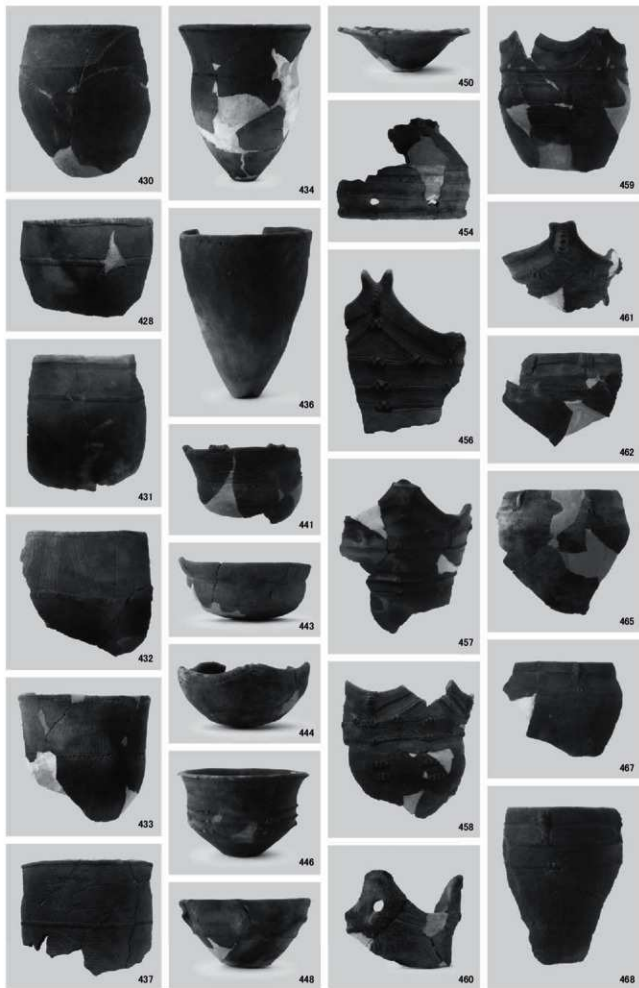
縄文土器 (30)



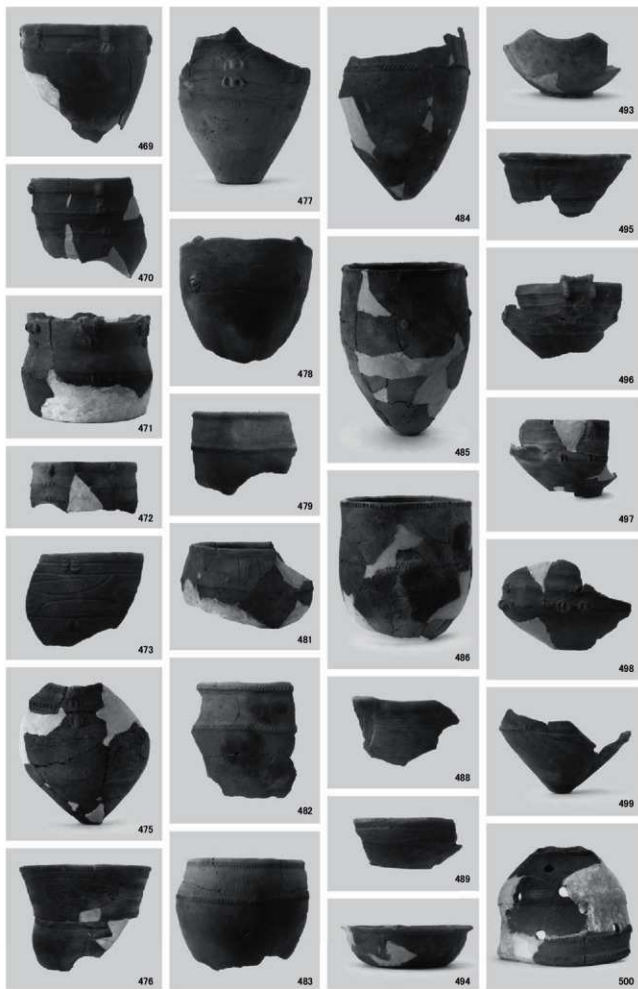
绳文土器 (31)



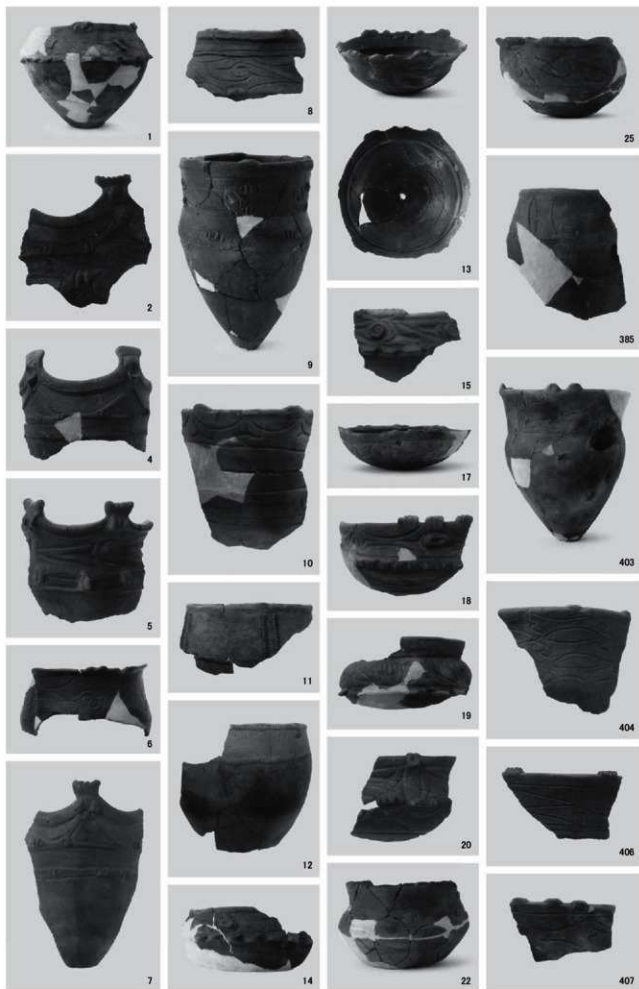
縄文土器 (32)



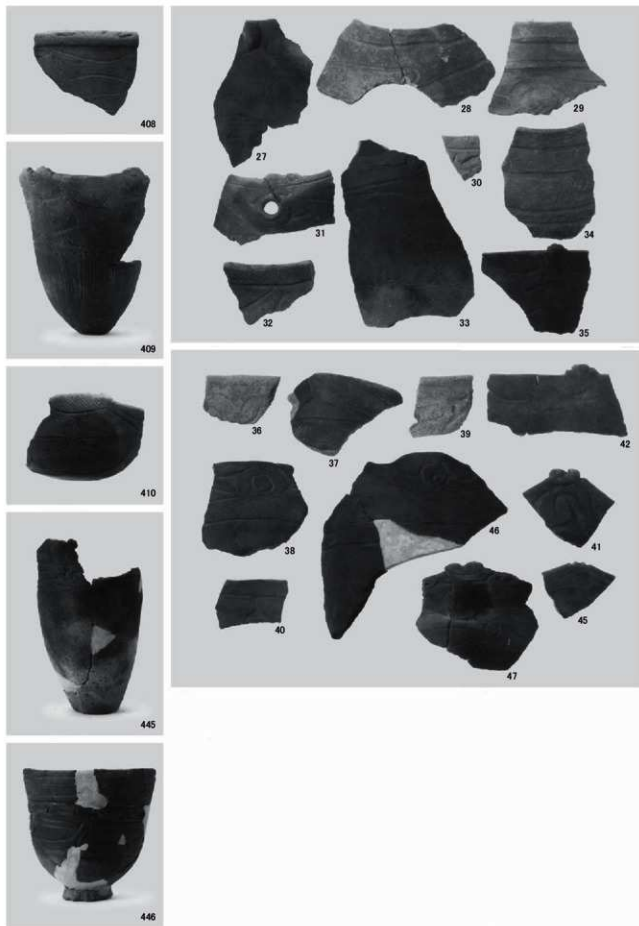
繩文土器 (33)

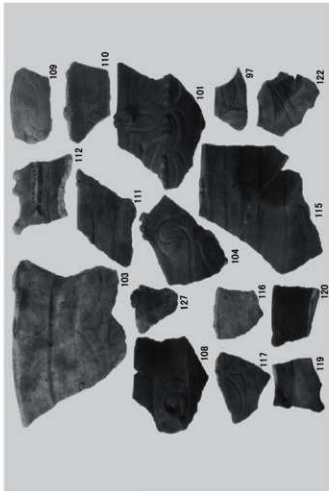
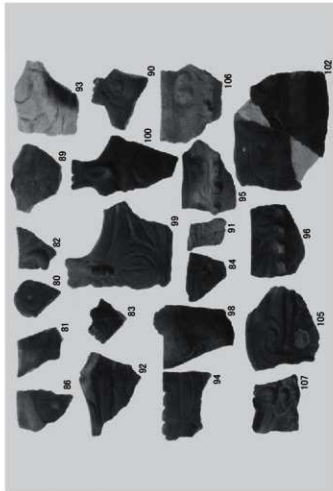


縄文土器 (34)

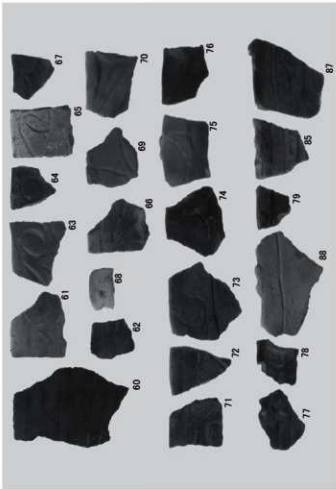
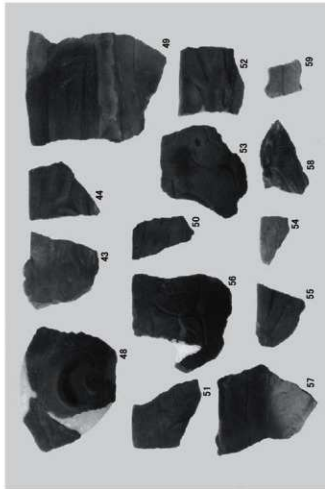


绳文土器 (35)

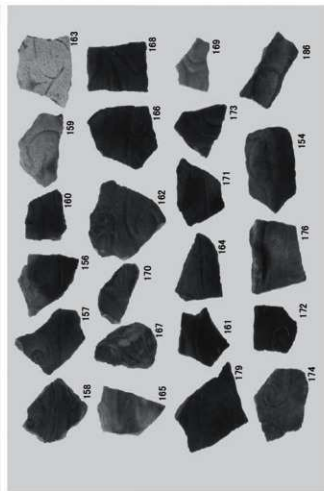
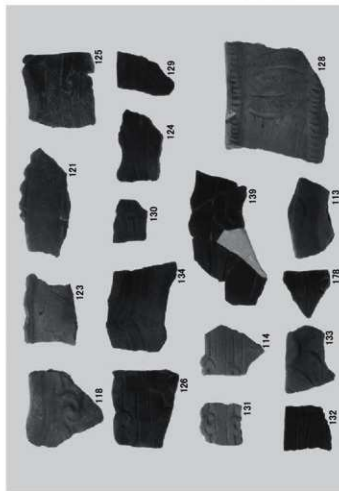
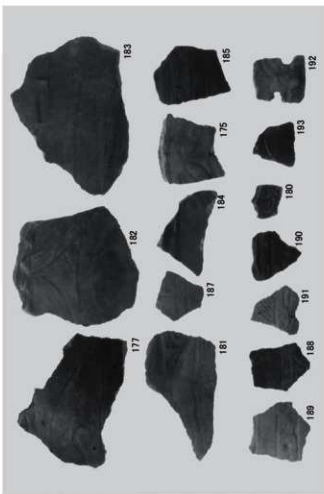
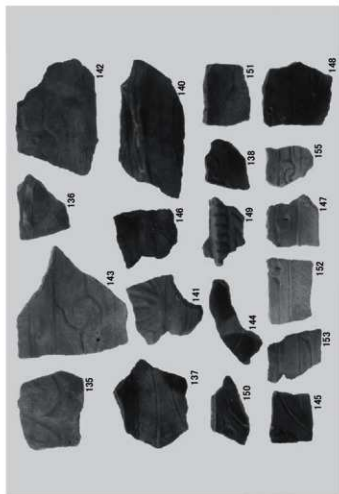




縄文土器 (38)

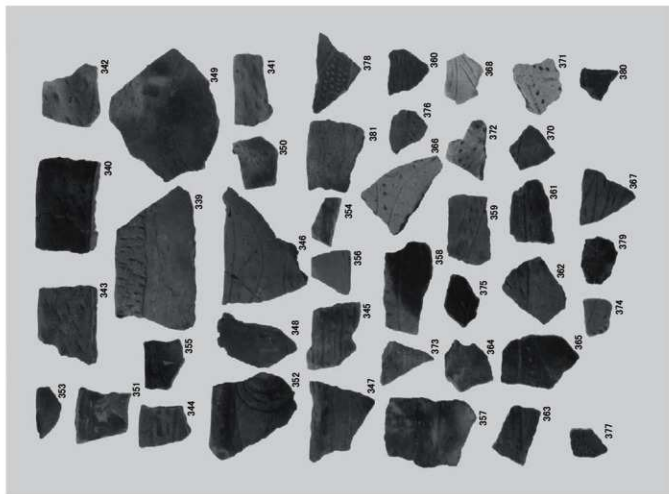


縄文土器 (37)

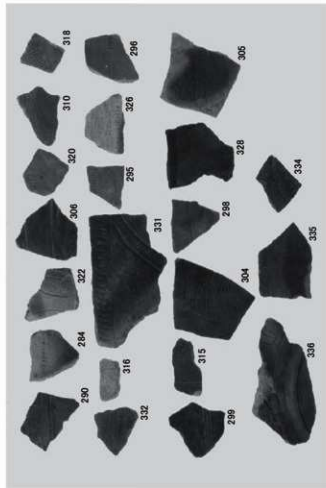
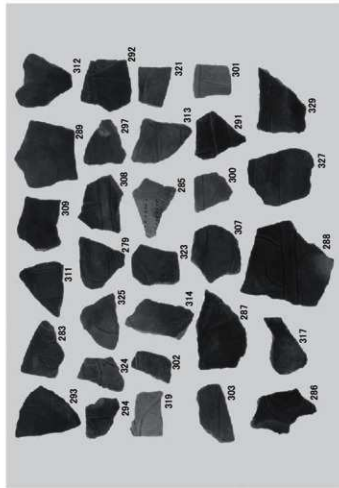


縄文土器 (40)

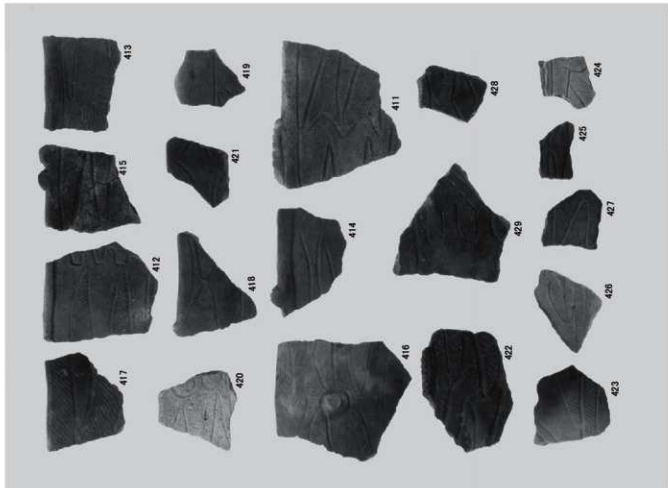
縄文土器 (39)



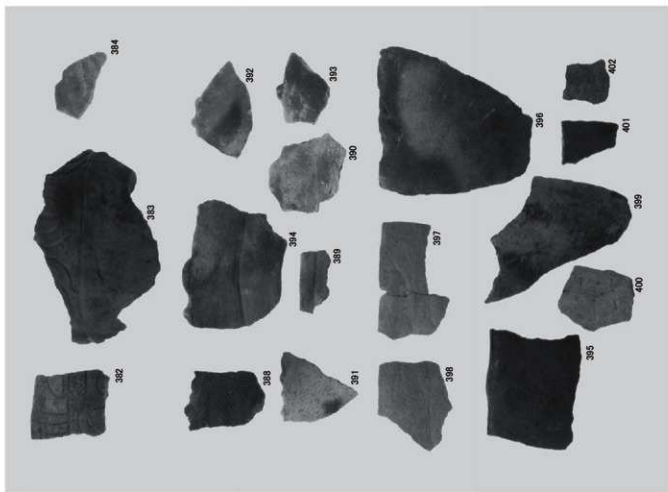
縄文土器 (44)



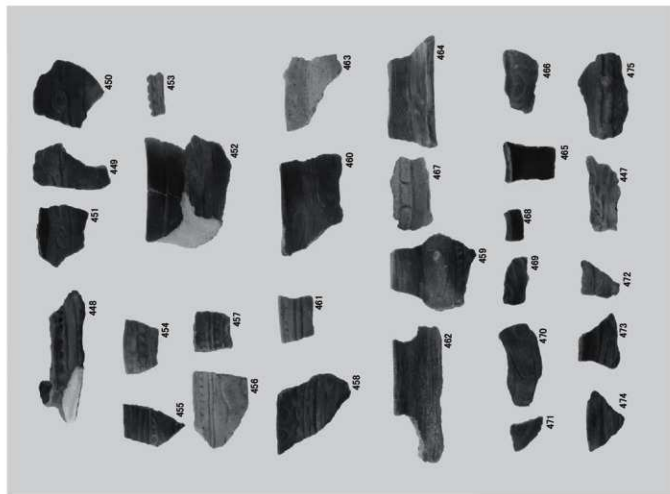
縄文土器 (43)



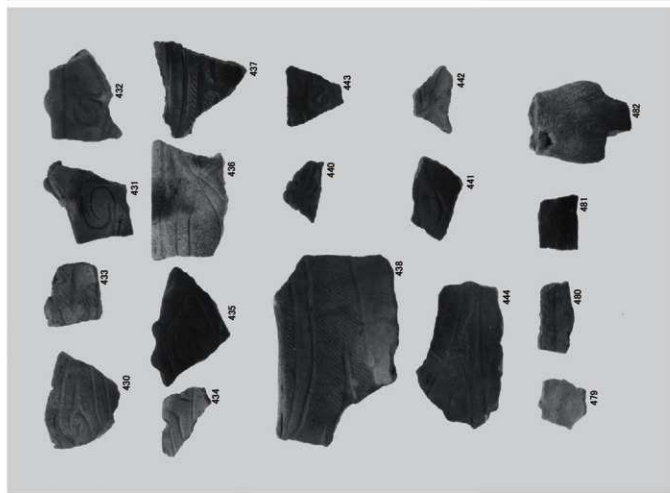
縄文土器 (46)



縄文土器 (45)



縄文土器 (48)



縄文土器 (47)



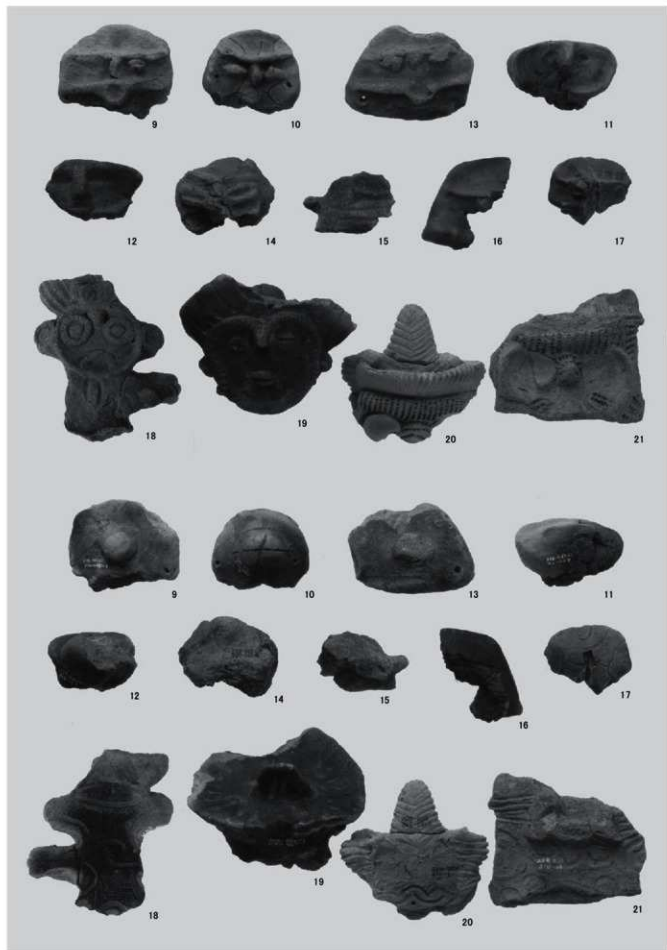
ミニチュア土器



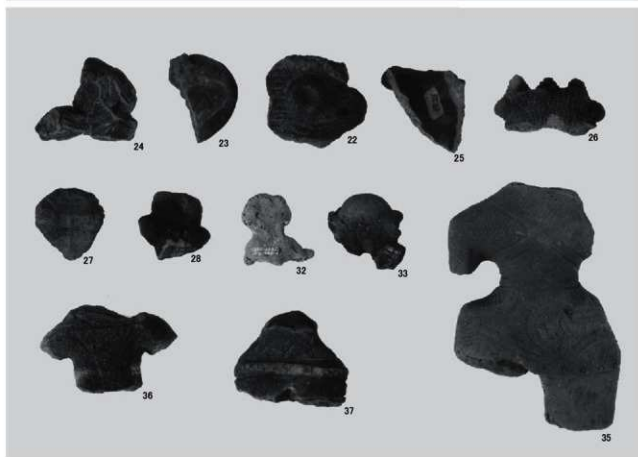
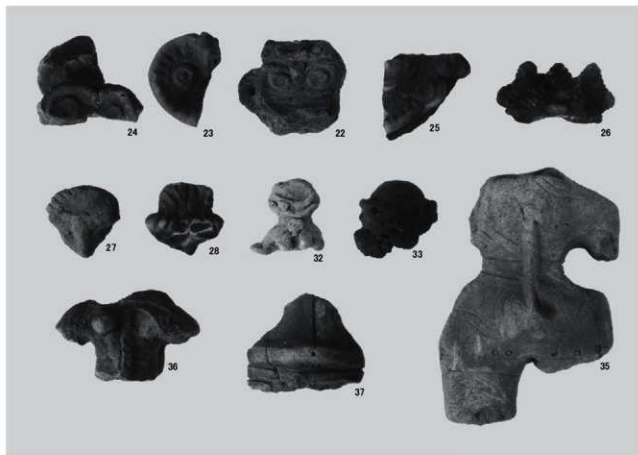
特殊土器



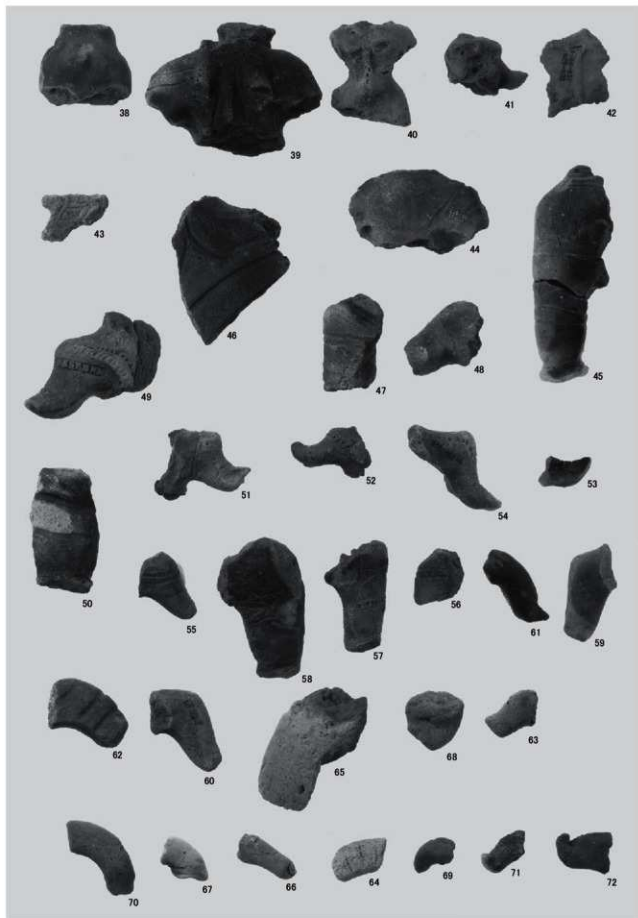
土偶 (1)



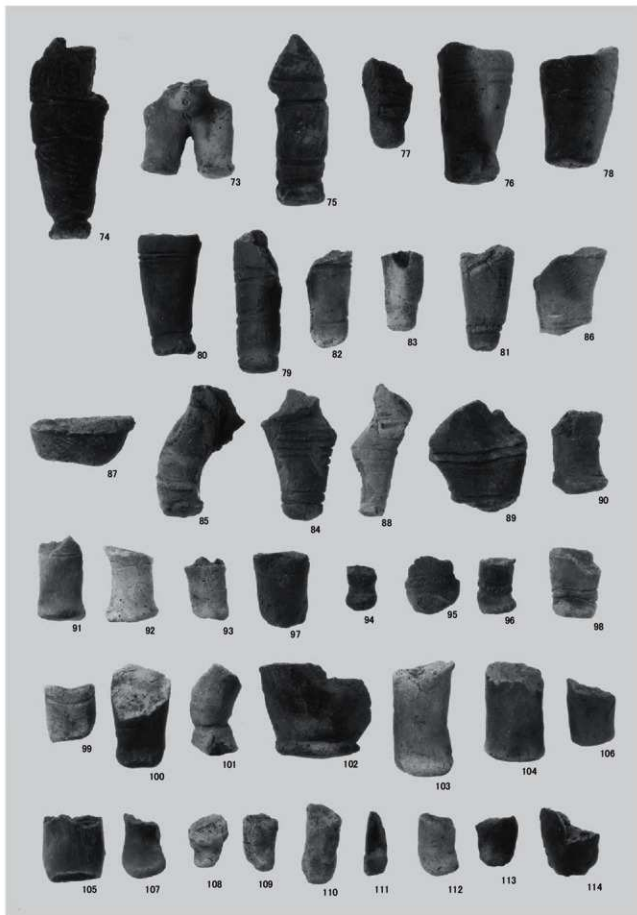
土偶 (2)



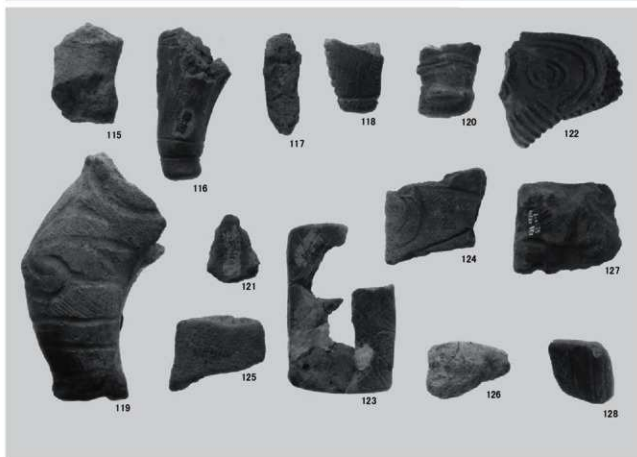
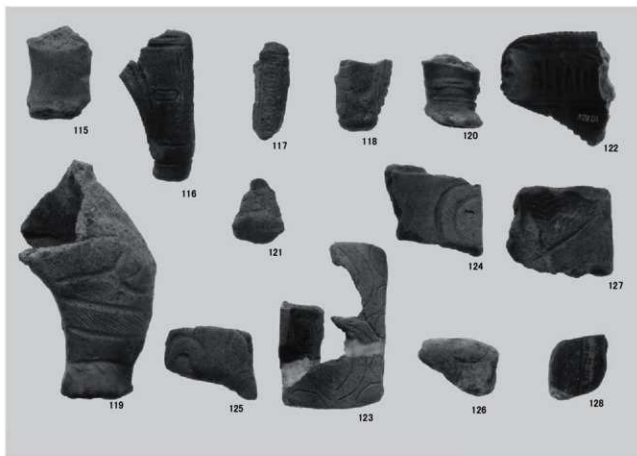
土偶 (3)



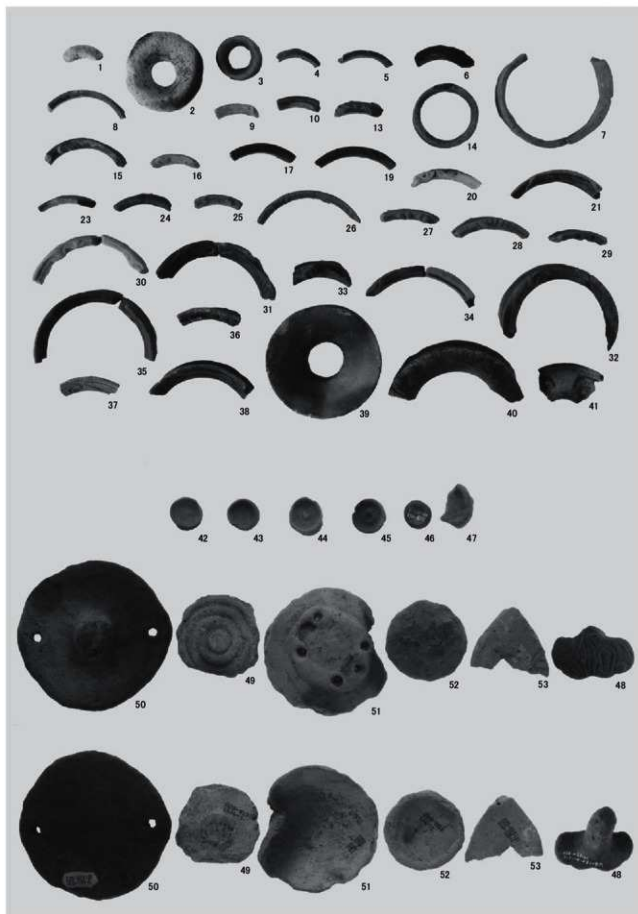
土偶 (4)



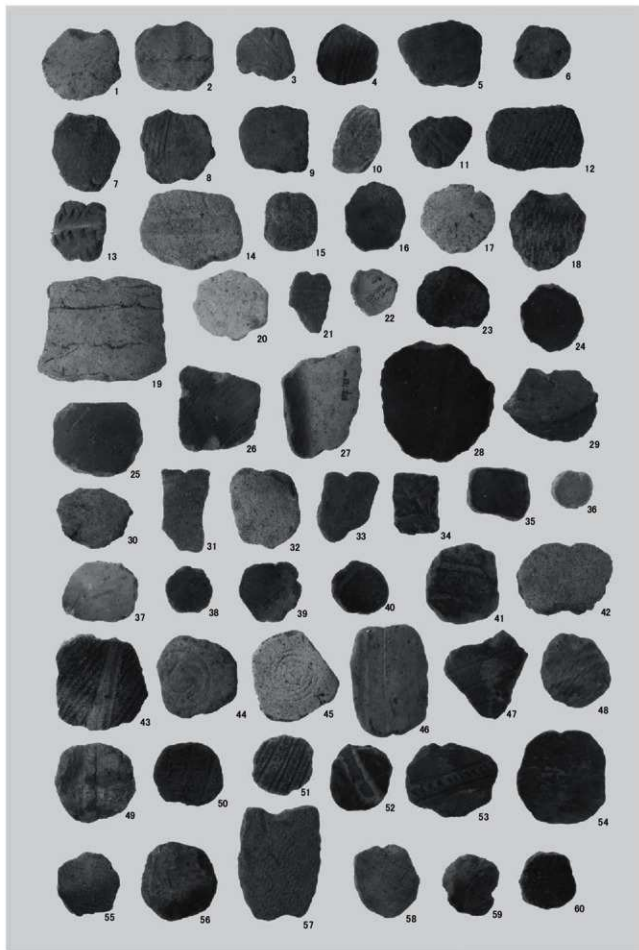
土偶 (5)



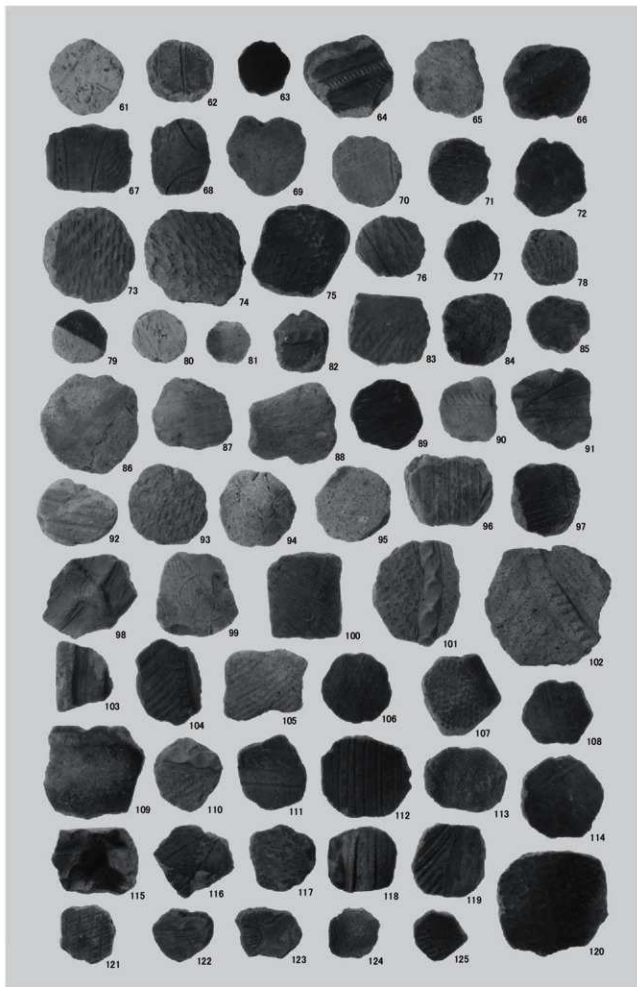
土偶(6), 土版



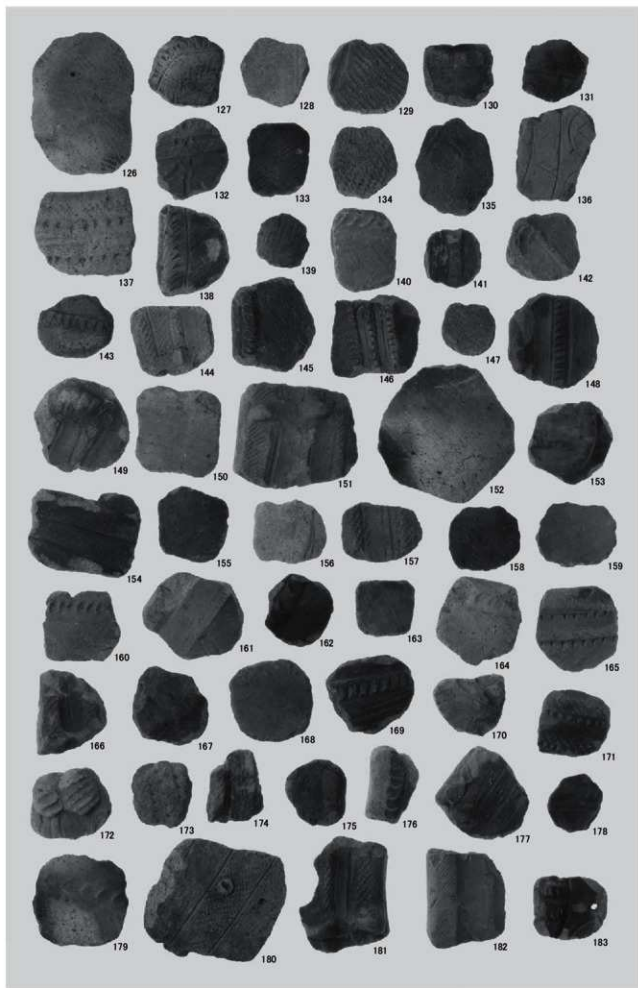
耳飾り, 耳栓, スタンプ形土製品



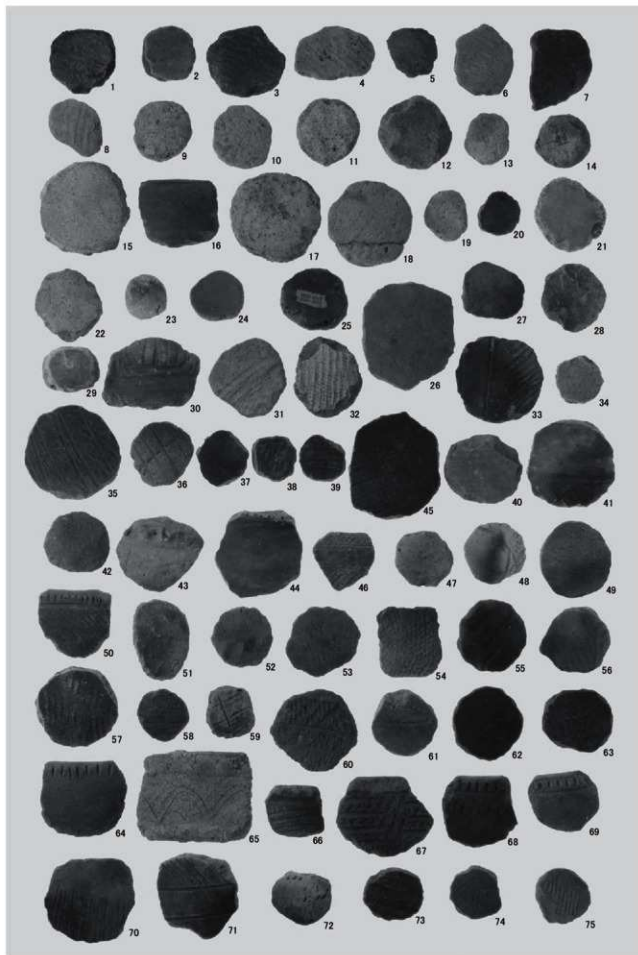
土器片錘 (1)



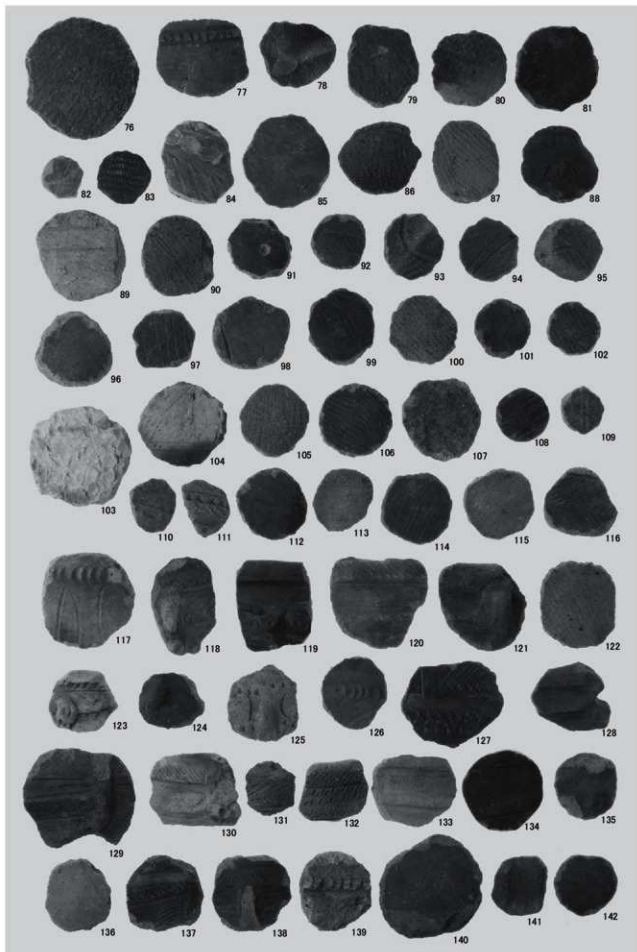
土器片錘(2)



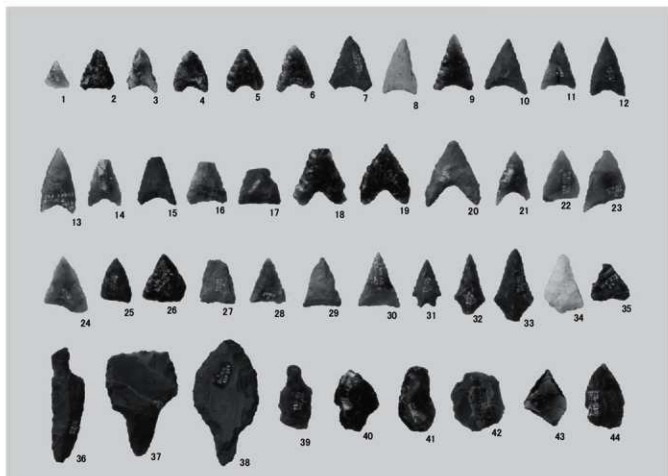
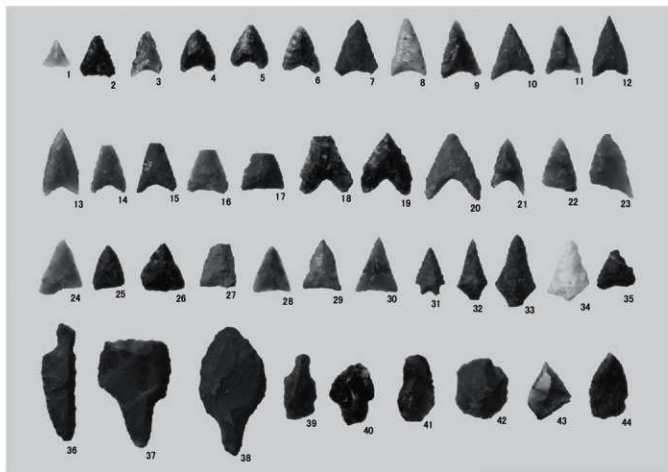
土器片錘 (3)



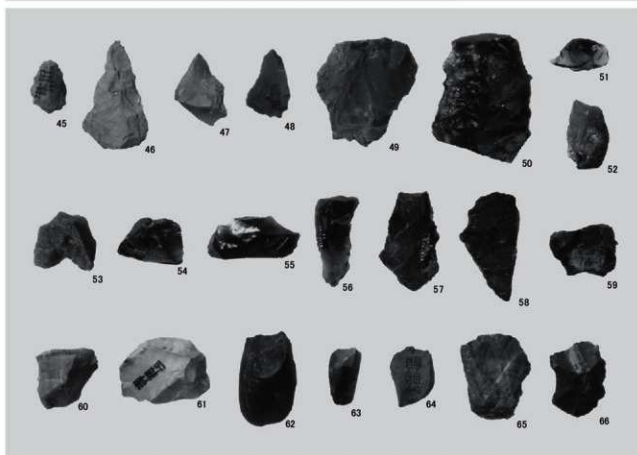
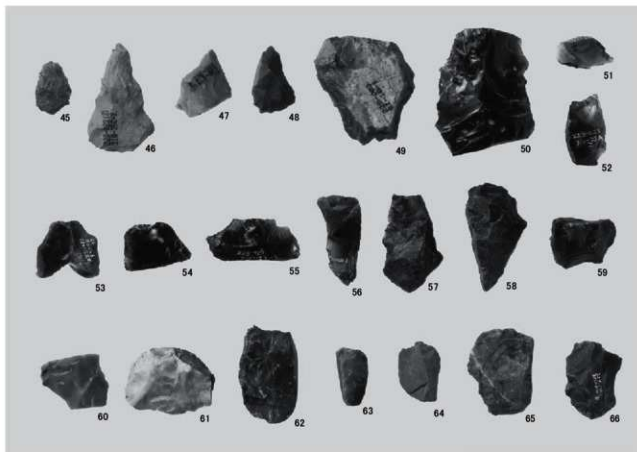
土製円板 (1)



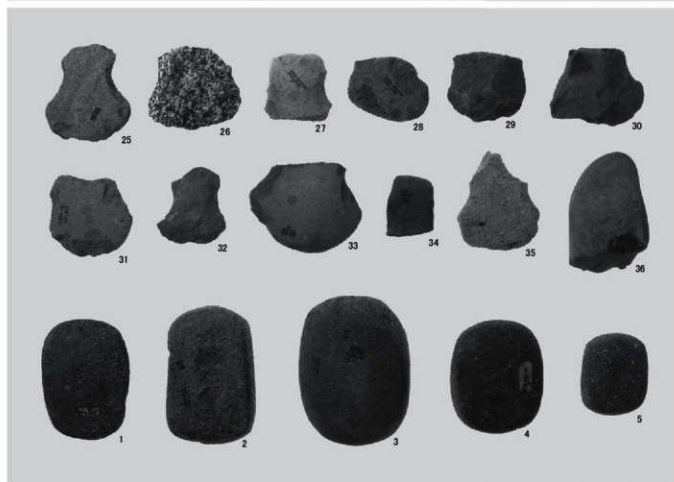
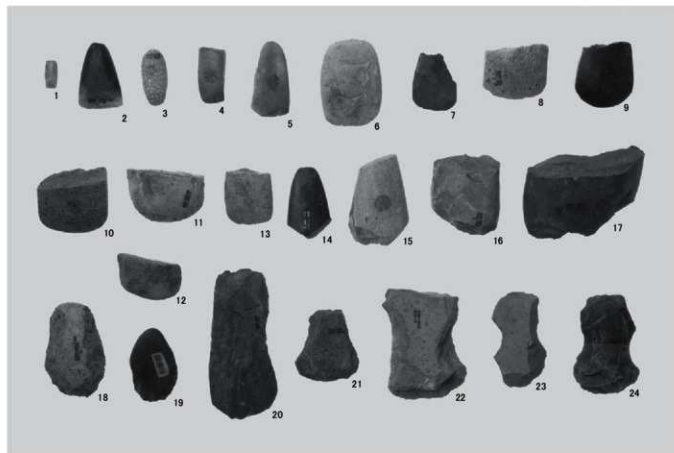
土製円板 (2)



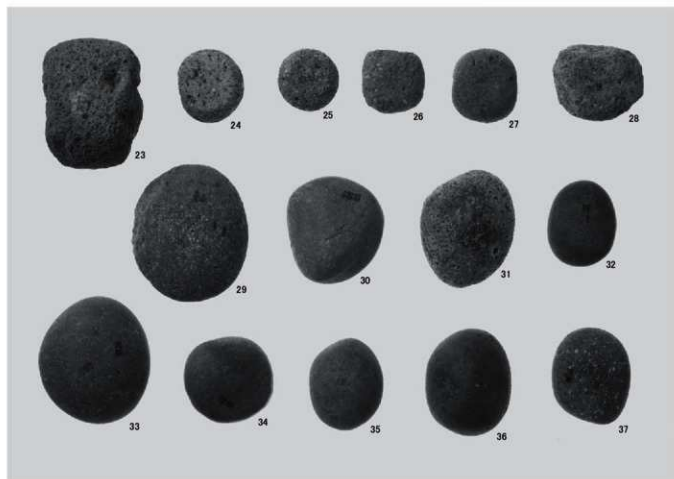
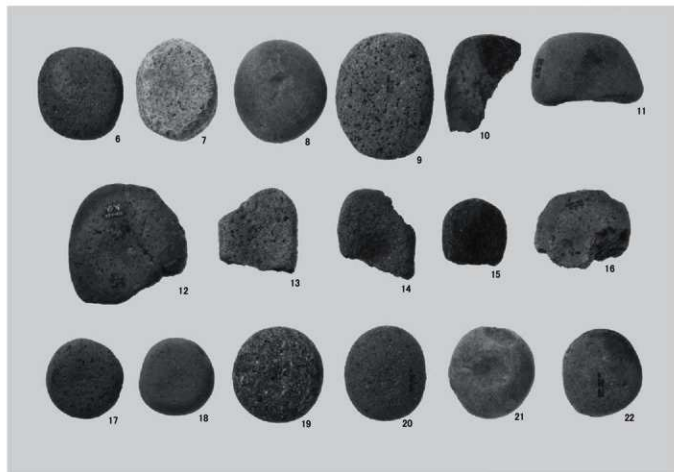
縄文時代石器 (1) 石鏃・石匙・搔器・尖頭状石器



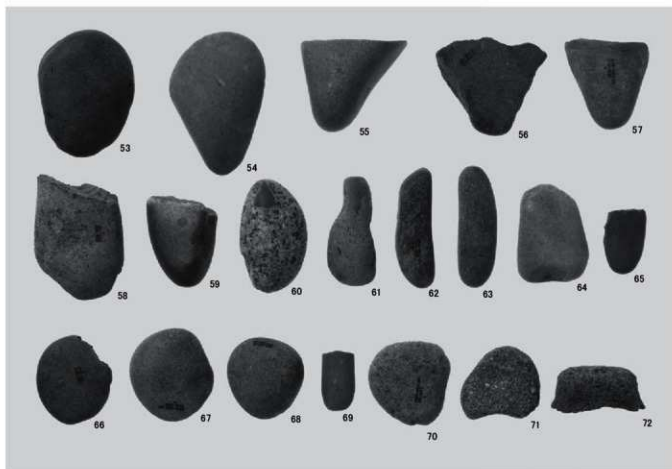
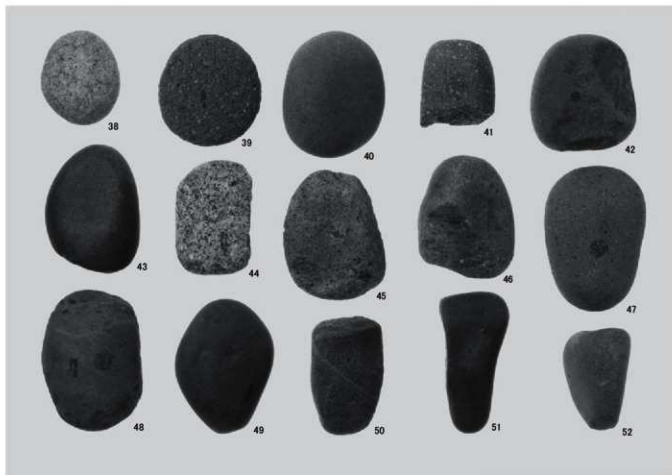
縄文時代石器 (2) 石礫未製品・剥片・石核・楔形石器



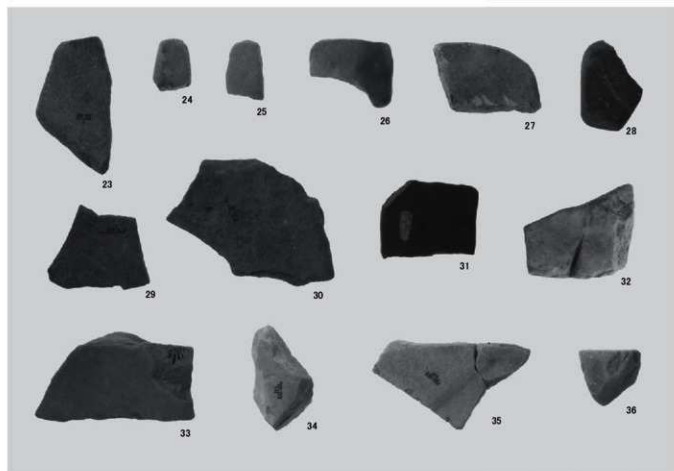
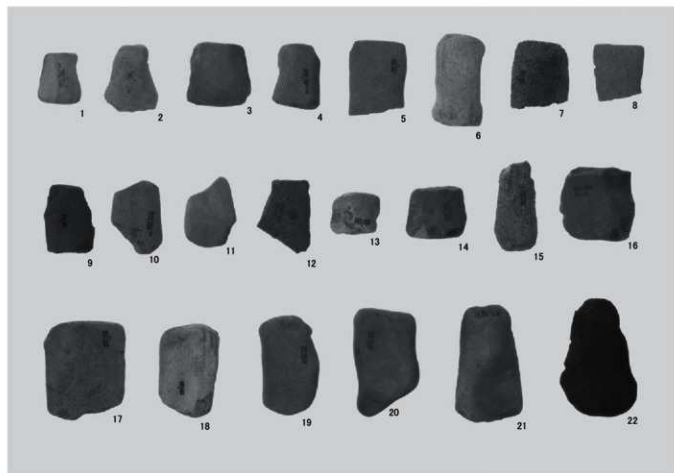
縄文時代石器(3)石斧, 磨石類



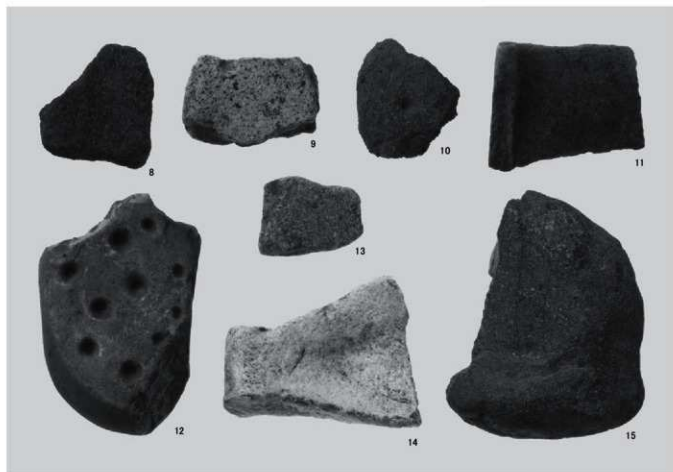
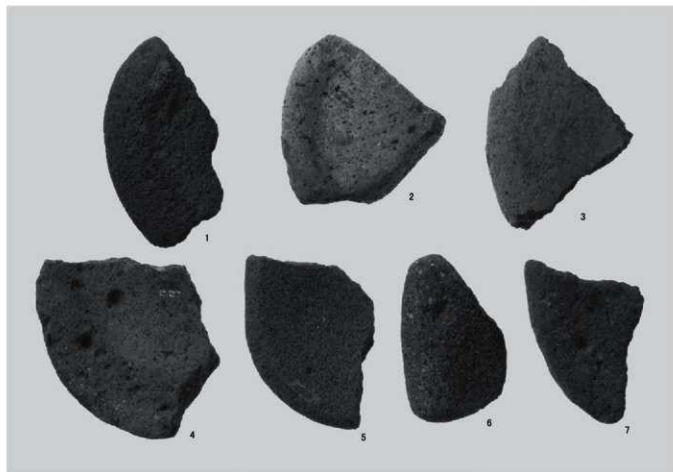
縄文時代石器（4）磨石類



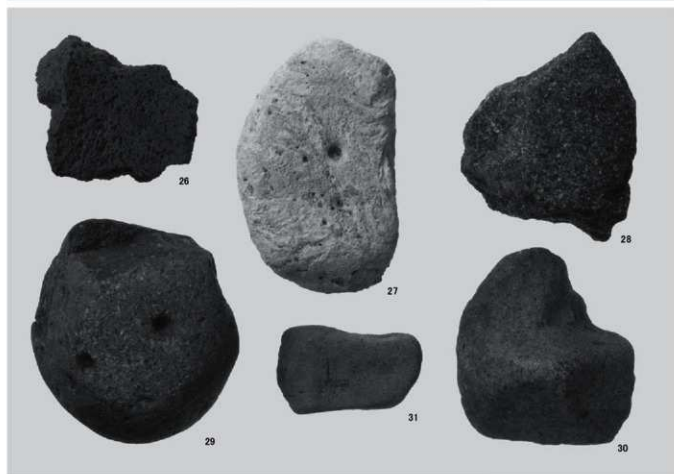
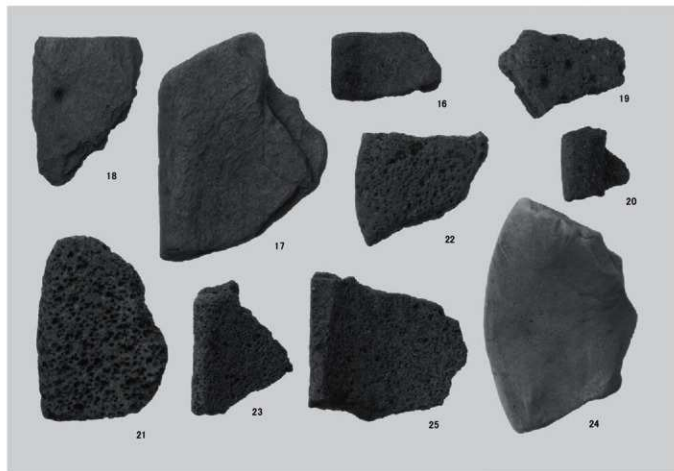
縄文時代石器（5）磨石類



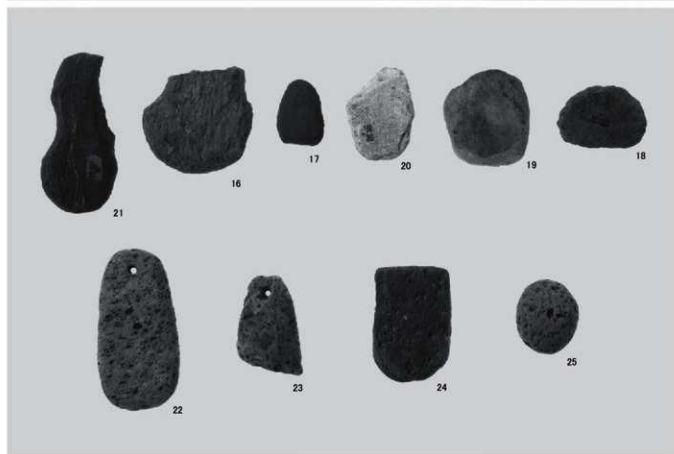
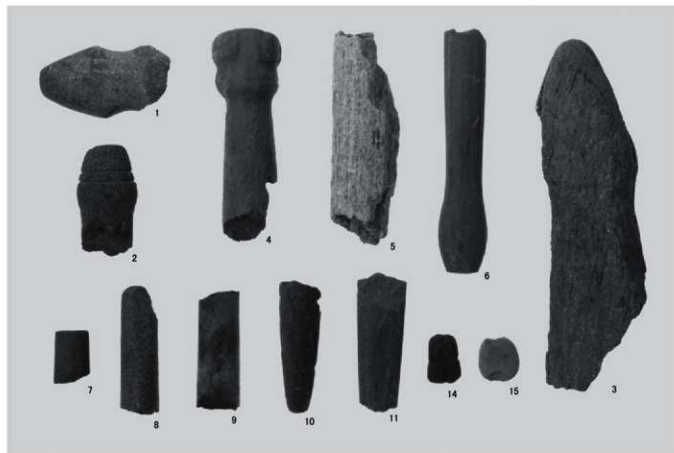
縄文時代石器（6）砥石



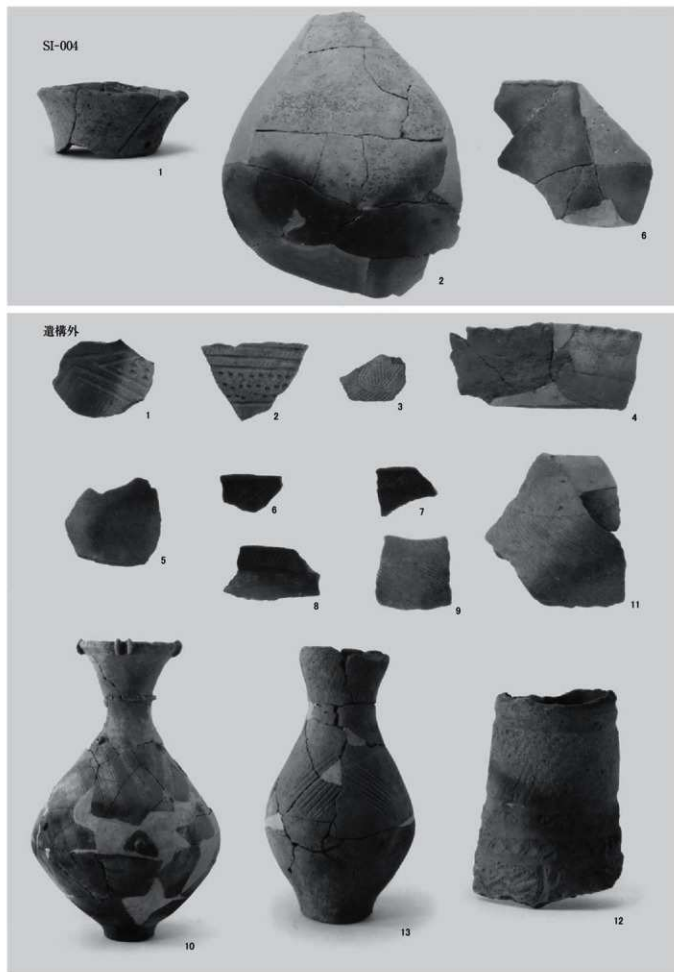
縄文時代石器（7）石皿



縄文時代石器 (8) 石皿・台石



縄文時代（9）石製品



弥生時代 SI-004. 遺構外出土遺物

報告書抄録

ふりがな	よつかいどうししまこしいせき(2) きゅうせつきじだい~やよいじだいへん								
書名	四街道市嶋越遺跡(2) 旧石器時代~弥生時代編								
副書名	物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書								
巻次	XX								
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告								
シリーズ番号	第749集								
編著者名	池田大助、宮 重行								
編集機関	公益財団法人 千葉県教育振興財団								
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡 809 番地の2 TEL 043-424-4848								
発行年月日	平成28年3月14日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
しまこしいせき 嶋越遺跡	よつかいどうししま 四街道市物井 あつしよこ 字嶋越 464 ほか	228	023	35 度 41 分 06 秒	140 度 11 分 55 秒	20090216 ~ 20090325 20090406 ~ 20090520 20090701 ~ 20100226 20100701 ~ 20100730 20100831 ~ 20101208	1,652㎡ 990㎡ 5,850㎡ 6,100㎡	土地区画整理 事業に伴う埋 蔵文化財発掘 調査	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
嶋越遺跡	包蔵地 集落跡 包蔵地	旧石器時代 縄文時代 弥生時代	竪穴住居跡 竪穴住居跡 小竪穴状遺構		1軒 1軒 1基		石器(ナイフ型石器・槍先形尖頭器・有舌尖頭器・石核・掻器・削器・楔形石器) 早期~晩期土器、土製品(土偶・土版・耳飾り・耳栓・スタンプ形土製品・土器片・土製円板)、石器(石鏃・石匙・掻器・尖頭状石器・石核・石斧・磨石・砥石・石皿・台石) 弥生土器		縄文時代後期を中心に大量の土器の出土が特徴的である。縄文時代早期後半においては出土例の少ない東海系土器、晩期においては大洞系土器の出土も見られ、遺跡の多様性が知られる。多量の土器の出土も注目される。
要 約	縄文時代早期~晩期にかけての土器が斜面部に大量に投棄された状態で出土しており、縄文時代~弥生時代中・後期にかけての集落の存在も想定されるが、古墳時代~奈良・平安時代~中世にかけての集落と共に、削平されており、その痕跡を残すのみであった。								

千葉県教育振興財団調査報告第749集

四街道市嶋越遺跡(2)

旧石器時代～弥生時代編

－物井地区埋蔵文化財発掘調査報告書XX－

平成28年3月14日発行

編 集	公益財団法人	千葉県教育振興財団
発 行	独立行政法人	都市再生機構 首都圏ニュータウン本部 東京都新宿区西新宿6-5-1
	公益財団法人	千葉県教育振興財団 四街道市鹿渡809番地の2
印 刷	株式会社	ライフ 成田市東和田595
